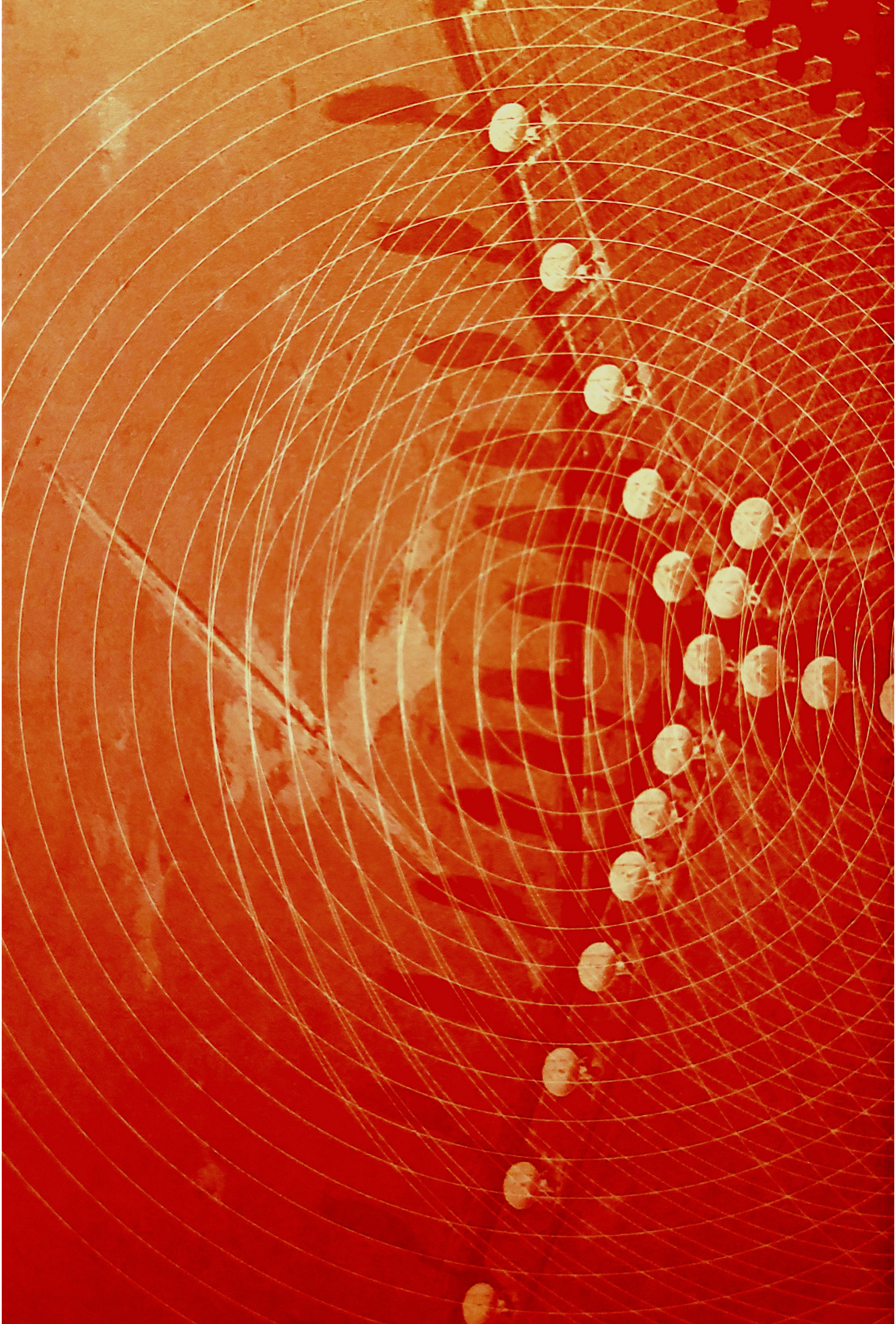

電波系
根本敬＋村崎百郎
Takashi Nemoto & Hyakurou Murasaki




パンティ新聞が届くでさァ（限定一部）
と、その時、天の啓示が…
気分で公園の便所へ行きさっ小便をしろ…!!
あわててトイレにかけこんだら
トイレ
便器がエロ詩を…
ヨネ子のオメコにチンポをブチ込み淫水じゅとりスコスコ上下に
便器のエロ詩はなかなかコーフンさせてくれ、ボッキしたので小便がとび散った。…五回生ズリセンでもかくか
口元まで固くなった清のペニスをヌットリとくわえこむと上下に。
完



その後、母は㊙の子ワ・を身ごもったのであった。
まさ、私、処女なのに…
パクパク
ハーイ
スコスコ
まァ、チンポから
お母さん、
生後7ハア
また、でっかい
てなわけで
オラはこう見えてもまだ6才だ。
そうすか


根本敬＋村崎百郎
電波系
太田出版

電波系

まえがき

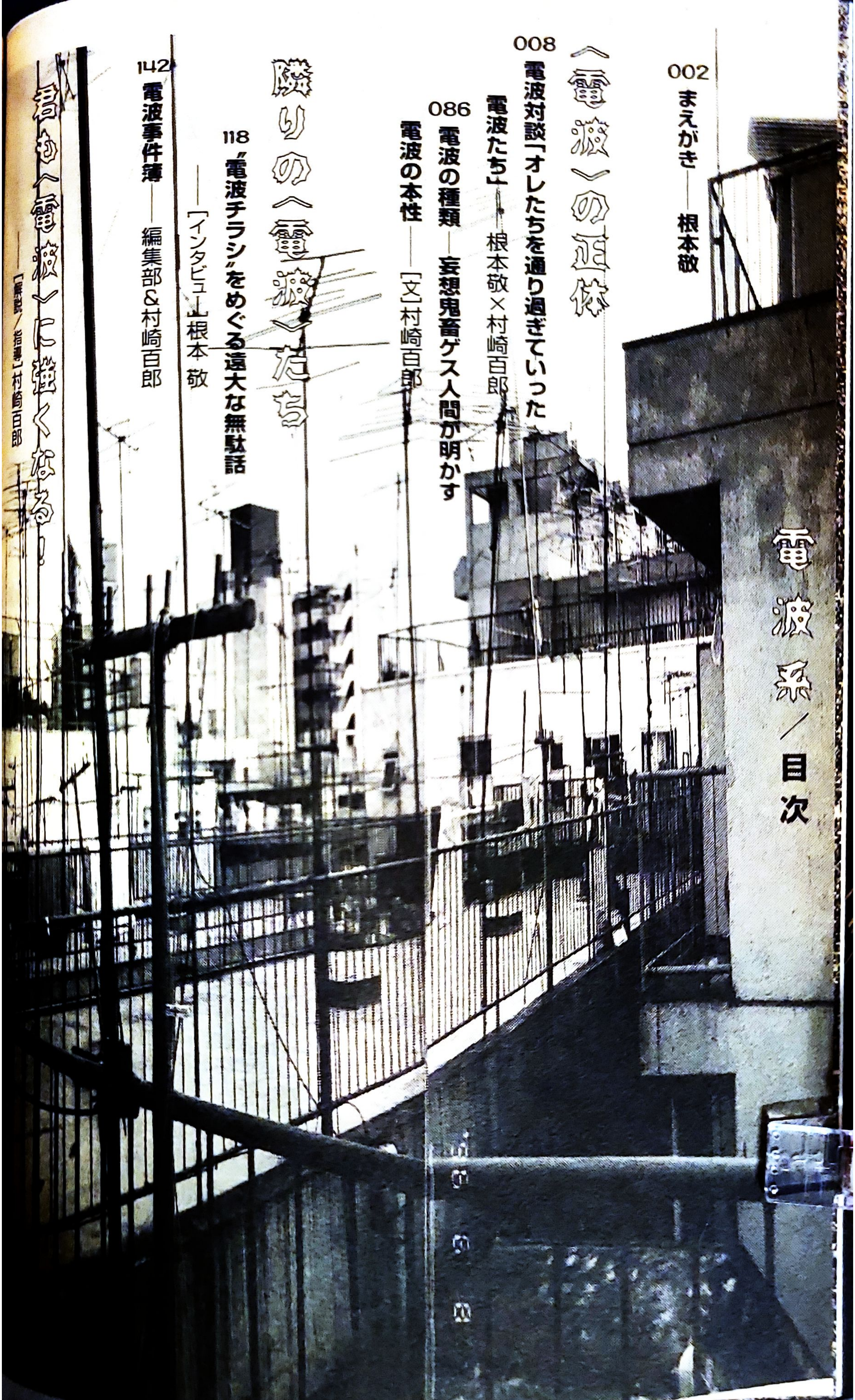
う〜〜〜ンと

前へいし詩集は、

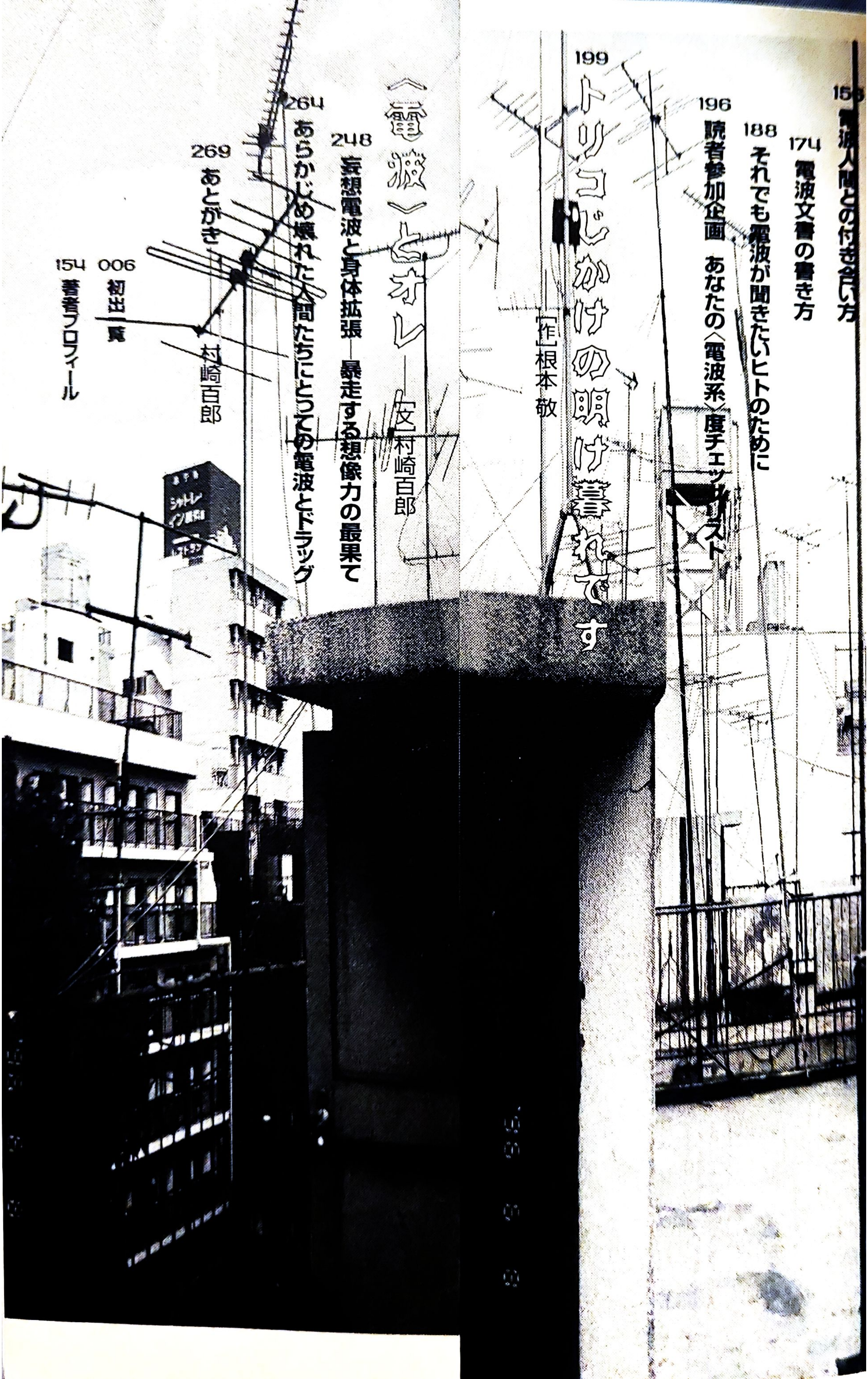
雪弟も精子も

同じ様なものかも

これかりがとうの思へる。読
時間のはとてもかかる。
が、この本を読むとはもしは
短くなるかもしれない。
祝ていな



電波系／目次



【初出一覧】

●電波対談「オレたちを通り過ぎていった電波たち」↓週刊SPA！95年11月1日号〈電波な人々大研究〉所収「電波系の正体を解き明かす電波対談ここに開催！」を元に、膨大量の語り下ろし談話を加味

●電波の種類―妄想鬼畜ゲス人間が明かす電波の本性↓初出時タイトル「電波と妄想」―イマーゴ 95年9月号特集〈狂気と妄想〉

●あらかじめ壊れた人間たちにとっての電波とドラッグ↓初出時タイトル「電波とアルトーそしてドラッグ」―ユリイカ 95年12月号特集〈サイケデリア〉

●妄想電波と身体拡張―暴走する想像力の最果て↓初出時タイトル「身体拡張のどす黒い欲望について」―イマーゴ 96年2月号特集〈ボディ・デザイン〉

……いずれも村崎百郎による加筆訂正のうえ掲載


〈電波の正体

電波対談「オレたちを通り過ぎていった電波たち」

電波に憑かれた男たち——根本と村崎

根本　えーと、今日はとりあえず本書のタイトルでもある〈電波系〉とは何か、みたいな話をするわけなんですけれど、オレにとっての〈電波系〉とは、とりもなおさず村崎百郎その人に集約されるわけです。だから勝手に電波受けちゃって、電波ポエム書いたり電波ビラ撒いたり電波ソング歌ったり電波喫茶開いたり、あげくの果てには電波宗教開いちゃったり電波殺人しちゃったりする人たちの話もさることながら、そもそも村崎百郎がどういう人物なのかっていう話からはじめたいと思います。

——そもそも根本さんと村崎さんの出会いって、いつ頃の話なんですか？

村崎　直接知り合ったのって、九二年の夏ぐらいでしたっけ？　根本さんや「同盟」系*のイベント見に行った時、会場にいた根本さんに話しかけられて、なんかピピンと通じるもの……それこそ「電波」みたいなフィーリングがあったってわ

＊「同盟」系——「全ての音盤はすべからくターンテーブル上で平等に再生表現される権利を有する」をスローガンに、イイ顔の無名廃盤レコードの紹介を続ける「幻の名盤解放同盟」のこと。メンバーは根本敬＋湯浅学＋船橋英雄の三人。現在P.ヴァイン・レコードから「幻の名盤解放歌集」を多数プロデュース、名盤歌謡の復刻につとめている。

け。

根本　夢中で「電波ビラ」見てる人相の悪い男がいたから、「面白いですか」って聞いたら「イヤァ、オレなんかのところにも電波来てますから」って言うんで、それが村崎さんだったんだよね。

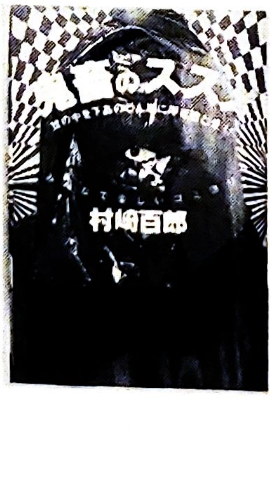
　なんかオレの場合、大きな出会いにはかならずそれなりの受け皿が用意されてるんですよ。村崎さんと最初に会った時もさ、もうしょっぱなから北国での彼の因業な生い立ちとか、東京に出てきてからの工場勤めの話とか、ゴミ漁り*の話とか、もう延々と聞かされちゃってね。で、これは凄い奴だっていうんで、もう十数年来の知己のように親密な仲になっちゃったわけですよ。

村崎　オレも根本さんとは、はじめて会った気が全然しなくってさ*、会って一気に四〜五時間は話したよね。工場の話からはじまって、オレが小学生の頃からやってた下着泥棒の話とか、十年ごしの復讐の話とか、ほとんどオレが一方的にしゃべってただけなんだけどさ。よくもまあ、あんなクソ長い話をまじめに聞いてくれたよねえ。

根本　まあ、因果な話聴くのは、仕事の一部*みたいなもんですから。

村崎　オレにしてみれば、おそらく一生誰にも話すまいと思っていた「電波」の話を、いまになってしゃべりはじめたきっかけっていうのは、やっぱり根本さん

*ゴミ漁り―村崎百郎のライフワークの一つ。スカして言うとダスト・ハンティング。十数年前上京してきた百郎は、無造作にうち捨てられたエロ雑誌や女性もの下着を拾い集めることに（最初のうちは）喜びを見い出していたらしいが、時を経るにつれエスカレートしていき、妄想電波や魔術儀式がそこに折り重なるうち、個人ゴミから読み取れる“物語”を漁るようになっていったという。詳しくは村崎の著書『鬼畜のススメ』（データハウス）を参照。



*はじめて会った気が全然しなくって―たしかその前後に、ロリコン、スカトロ、変態、奇形、ドラッグの権威として名高い、青山正明っていう日本でも指折りの鬼畜

との出会いなんだよね。目が会った瞬間、スパークしたんだよ。いま、根本さんと編集のキムラさんの前だからこうやって平気で話してるけど、ついこの前も何人かの連中を前に電波の話をする羽目になった時、中に一人、ブン殴りたくなるような目でオレのことを見た奴がいてね。「あああ、オレはこの目が見たくなくって、いまのいままで黙っていたんだなあ」ってことを、その時思い出したよ。まあ、それが世間並みの「正常な反応」なんだろうけどさ。

根本　逆にそういう連中には、何を言っても理解不能だからね。それでもって、そもそもオレは、電波を受信できる人って、要するに一種の精神異常者なんだろうって、村崎さんと会うまでは思ってたわけですよ。ところが村崎さんの話を聞いてると、数千チャンネルにもおよぶ大量の電波を受信しながらも、決して客観性を失っていない。一つの電波にとらわれることなく、イロイロな電波を渡り歩いて、それで平気でいられる。

村崎　今風に言うとネットサーフィンならぬ「電波サーフィン」ってやつ？　でもホントはそんなに平気なわけじゃないんですよ、じゃあそのへんから説明しようかな。

根本　村崎さん自身は、いったいいつ頃から、そういう電波を受信するようになったんですか？

な編集者とも知り合ったんだけど、あいつとも初対面って気が全然しなかったんだよなあ。【村崎】

＊因果な話聴くのは、仕事の一部—実際に「ガロ」九三年十月号で「幻の名盤解放同盟」による因果者＆イイ顔フィールドワークの集大成的巻頭大特集「夜、因果者の夜」で、同盟の三人による村崎百郎のロング・インタビューを掲載。「これが一部で好評だったんだけど……もっともその何倍もの奴が嫌悪感を持ったろうけどさ【根本】」。で、その後も村崎ネタは「宝島30」九四年八月号の「人生解毒波止場」でも紹介され、同名の単行本(洋泉社)にも収録された。

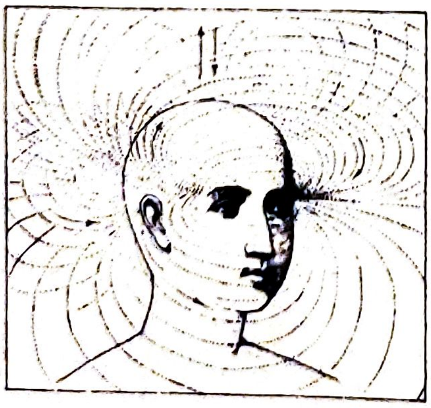
村崎　詳しくはこの本の別のところ(「電波の種類」参照)で書いたんで、詳細はそっちを読んでもらうとして、基本的には生まれつき。ただし一族郎党で電波聞こえるのはオレだけ(笑)、家系の名誉のために言っとくと、他には誰もいない。ただ、死んだ父方のバアちゃんはちょっとばかし霊感強かったんだけどね。

根本　ご両親もフツーだった？

村崎　基本的にはごく普通の小市民なんだけど、オヤジは昔かたぎの厳格野郎だったんで「言ってわからない奴はブン殴って身体でわからせる」という教育方針だったよ。恐ろしいことに小さい頃の記憶って、オヤジにブン殴られたり、雪の中に投げ飛ばされたことしか残ってないんだ。たいていの暴力に免疫があるのも、この暴力オヤジのおかげ(笑)。ひょっとして電波が聞こえるのは、そういうパンチ・ドランカー的な後遺症っていうことも、ちょっとあるかもしれない。

根本　殴られる前は聞こえてなかった？

村崎　いや、そうでもないなあ。三歳の誕生日に聞こえた電波は覚えてるから、それ以前でも聞いていたことは間違いない。ただし当時は、電波とかじゃなくて、〝声〟っていうふうに呼んでいた。「人が話す声」と「見えない声」って分けてたんだよね。だけど、どうもそれが他のみんなには聞こえないんだって気がついたのは、小学校の頃。でもって本能的に「あー、これは他のヒトには言っちゃい



けないんだ」って気がついて、それからずーっと〝声〟のことは他人に口外しないようにしてたんだ。子供心にも「そんなこと公言したら、病院かどこかに隔離されるかも」なんて考えてね。

「電波が聞こえる」という感覚とは？

根本　その聞こえるっていうのは、ラジオを聴くような感じですか？

村崎　うーん、そういう状態の時もあれば、もう少し違う時もある。何を言ってるかわかんないような低い声でわめいてる奴が、アタマのこのへん（脇の方）にいたり……とかね。そういう「電波の種類」についても、この対談の後で細かく説明したんで、それを読んでください。とにかく子供の頃は、そういう〝見えない声〟が聞こえても、別に不思議だとも何とも思わなかった。なにせその頃は、受信して苦しい電波もまだ少なかったしね。

　でね、成長するにしたがって、オレが「速いやつ」と呼んでいる、一瞬にして莫大な情報量のつまった電波を受信することが多くなってきたんですよ。あっ、いまも頭の脇のあたりで、マントラみたいな世迷い事を唱えている四十八歳ぐらいのオヤジがいるゾ（笑）。うるせえんだけど、こいつもなかなか帰らないなあ。

根本　電波の受信情況を言葉で伝えるというのは、なかなか難しそうですよね。

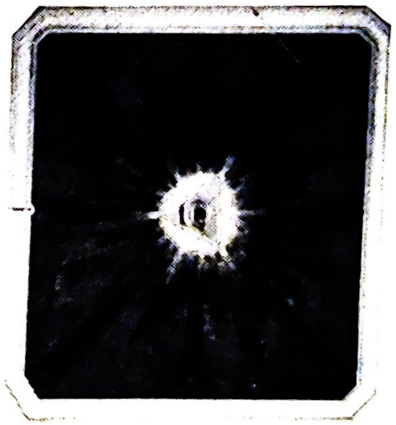
だから電波文書ってナニ書いてあるんだかわからないのかなあ。

村崎　そうだなあ……ちょうどテレビとラジオを十台ぐらいずつ持ってきて、いっせいにめいめい別のチャンネルにしてつけっぱなしにしておく……そういう感覚にちょっと近いかな。とにかく成長するにしたがって、受信の形態も変わってきたんだよ。

　ただ小学五年生の頃、決定的な出来事があってね。その頃、電波とド田舎のガキどものチョ〜陰湿なイジメの二本立てにあって、身も心も消耗しきってたわけ。で、その年の夏、海で溺れてほとんど死にかけて、そこでまあ……ありがちな話だけど……いわゆる「神秘体験」ってやつを経験したわけですよ。

根本　〝ありがち〟かどうかはさておき、その前後で何が変わったんですか?

村崎　〝ありがち〟っーのは、そういう体験をして「世界(宇宙)と自分は一つである」なんて実感をしみじみ味わったところで終わっていれば、世界の全てに感謝を捧げ、喜んで宇宙連合に加入するような(笑)「バカ善人」に堕ちてたかもしれないってことなんだけど……オレにとって幸運だったのは、その「神秘体験」の最後の最後に、とてつもない邪悪な存在がオレの中に入ってきたってことなんだ。そのあとで身も心もみるみる強くなった……筋肉質の体になって、性格もチンポも凶悪になり、やたらと攻撃的になっちゃったんだよ。



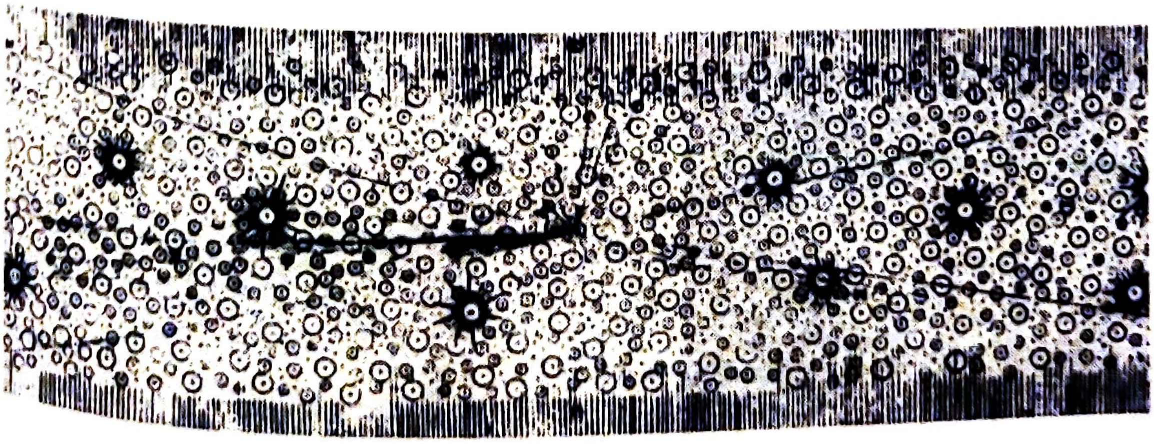
根本　いまの村崎さんの原形が、その時にできあがったわけですね。

村崎　あとから思い起こせば、その小五の年っていうのは、電波がもの凄く強い年回りだったんだ。ほぼ十数年周期くらいで、受信する電波が非常に強くなったり、逆にほとんど聞こえない時期があったりするからね。

　ちなみに去年（九五年）はけっこうしんどい年回りだった。アパートで夜中わめいたりしてたから、大家から警告書来たり……ひんしゅくモンなんだよな、オレ。そもそも大都会で一人暮らしをしている女学生やＯＬにとっちゃあ、絶対近所にいて欲しくないタイプの男性じゃねえかな（笑）。

――ゴミ漁られて、使用済み下着履かれたりプライバシー覗かれたりしたら、まず女の子はヤでしょうね。男のボクでも嫌ですよ。

村崎　大丈夫、オレもゴミ漁りは人を選んでるからさ（笑）。だけど電波もさ、聞き流せる時はいいんだけど、やっぱり時々うざったくなって自分でも我慢できなくなるんだよ。だから最初に言ったように実はけっこう平気じゃない。強がって平静を装っているけど、オレの場合、ホントーに苦しくなると、自分が抑えきれなくなる。だからといって醜態を人に見られるのは嫌だから、広い公園の奥の暗がりとか環状線の陸橋の下とか、人気（ひとけ）のない場所へ行くんだ。でもってそこで思いっきりのたうちまわったり、夜通し絶叫したりする。



根本　凄い風景だね。

村崎　そんなもん誰がどう見たってキチガイだよ。だけど苦痛でも意識があるうちは、まだいい。意識なくなって、電波にカラダごと乗っ取られた時にゃあ、何するかわかったもんじゃない。実はそういう時がいちばん怖いんだ。

根本　犯罪や悲劇的な事件が起きる場合って、それなんですかね？

村崎　ただね、そうした錯乱状態になる時って、何となく予兆めいたものを感じるんで、その前に一人っきりになる。だからこれまで親はもちろん、同棲相手ですらオレが電波を受信して苦しんでたことは気づかれなかったよ。まあ時々夜中に突然いなくなるんで、不気味な奴とは思われていただろうけどね。

――えー村崎さん、同棲なんてしてたんですか、鬼畜の分際でやりますね。

村崎　そういう青春のワン・ページもあったんだけどさ、昨年はやたらと強烈な電波が来たのと、そのうえ一昨年に同居人に愛想つかされて出てかれたということもあって、つい気を抜いてどこにも行かず、部屋で悶えていたせいで、大家にまで叱られちまった。だから本当に暴れそうな時は、部屋でも手足をロフトのハシゴに紐で結んで寝るんだぜ。なにせ、誰かに出くわしたら、有無をも言わさずそいつを確実にブン殴ってしまうような日なんて、おちおち外出もできないからな。



根本　でも、オレたちと会う時は、いたって紳士じゃないですか。

村崎　はいはい「やりてぇと思う女のコには、下心まるだしで優しくする」という程度の、どこにでもいるフェミニストのジェントルマンですからね（笑）。

——つらい時というのは、電波が騒音みたいに聞こえるわけですか？

村崎　言葉で説明するのがムツかしいから例をあげると、川口まどかっていう漫画家の書いた漫画がなかなか参考になるんだよ。『死と彼女とぼく』*という作品でね、生死を問わず動植物あらゆるモノの声が全部聞こえちゃう少年が登場して、押し寄せてくる声にたまらず、自分で自分の鼓膜を破っちゃうというエピソードが出てくるんだ。読んでてなんか、ひとごとじゃない気がしたね。ただ、電波は耳から聞こえる音というわけじゃないから、オレは苦しくなると自分のアタマを潰したくなるんだけど。

そういうわけで、川口まどかの漫画っていうのは、オレにとっちゃほとんど現実の出来事なもんで、最初に読んだ時は驚いたよ。中に出てくる「死者が語りかける声」なんか、オレに来る〈断末魔の声〉の電波にほとんど同じだし、ホントにリアルっつーか……想像力だけであれを描いているとしたら、大したもんだって思う。電波の受信に伴う苦痛の状態っていうのは、ああいう感じだからね。つねに何かの音がしてて、完全な静寂というのがない。うるせえんだよ。

*『死と彼女とぼく』——川口まどか著、講談社刊　死者の姿が見える少女と、生死を問わずあらゆる動植物の声を聞くことのできる少年の交流を描いたオカルト漫画。著者本人に霊感の類いはないという話だが、霊能者や電波系人間の苦悩をこれほどまでリアルに、かつ良心的に描いた作品も珍しい。オカルト漫画によくある派手な必殺技など何一つ登場しないが、そんなものよりも大切なこと……霊の存在の真偽を問う以前に、人として忘れてはならないことを気づかせてくれる、稀有の作品だ。コミックスの巻末に作者の後書きめいた漫画があって、それを読む限り、川口自身は電波が聞こえるわけではないらしい。だけど、別なシリーズの「やさしい悪魔」の連載では偶然の一致みたいに阪神大震災を予見するような漫画を描いていたし……たぶん彼女は無意識でいろんなメッセージを受け取ってるタイプなんだろうなあ。［村崎］

根本　自分で調節できないんだ。
村崎　小さい頃はぜんぜんダメだった。でもある時、自分の意識を集中することで電波を抑える術っていうのを発見したんだ。ちょうど昔のテレビって、音量を下げられる最低のところまでボリュームを回しても、まったく聞こえなくなるちょっと手前の……ほんとうに小さな〝ささやき〟みたいになる状態があるじゃない……電波の声って、あの程度までだったら、意識の力で押さえられるってことがわかったんだ。だからいつもは、その状態でやりすごしてる。とはいえ、全ての種類の電波に有効なわけでもないんだけど。
根本　でも、そういう意味ではわれわれ一般人にしても、こうした喫茶店みたいな場所にいても、われわれの話している声もすれば人の声もするし、そこにBGMとか街の騒音とかが流れているわけで、そういう一つ一つの音って、意識すると聞こえてくるけれど、こうやって話しだすとまた聞こえなくなるじゃないですか。そういう感覚と近いところもないのかな。
村崎　そうね、なんてったっけ？　ヒトの聴覚のそういう性質って？
――「カクテル・パーティー効果」とか、そういうのでしたっけ？　フッサールや現象学者の連中が言っていたことですよね。
村崎　あ〜、それそれ。その福生（ふっさ）のなんとかってやつ。





根本　それは基地の街でしょう。
村崎　いや、つまりはだよ、あの騒音問題は、福生に米軍の基地があろうがなかろうが、セックスに没頭して目の前のオマンコに集中すれば、金網の向こう側で離陸する米軍ジェット機の爆音も気にならなくなるから、人間って便利にできてるなあって、そういう話だよ。
——……はあ（すぐ下品な話、するなあ）。
村崎　不快な電波も、そこまで意図的に押さえられれば成功なんだけどさ。

電波や神秘なんか、たいしたコトない

村崎　そもそもオレにやって来る電波の半分くらいって雑音なんだよ。だからな～んの意味も、そこにはない。で、残りの半分が、何やら勧誘やら忠告やら予言やら、そういうメッセージをもって入ってくるものや情報のカタマリなんだ。
根本　ところで役に立つの？　その電波から来るメッセージって。
村崎　全然。全く役に立たないし、うるさいだけ。いろんな情報が入ってくるんだけど、オレは電波の言うことなんて全く信用してないからね。できれば電波とか〝声〟なんて一切聞きたくないんだよ！　そもそもこんな本出しといて言うのも何だけど、オレは世間様に向けて、「電波は絶対あるんだ！」なんてムキにな

って主張するつもりも毛頭ないんだよ。オレが時々苦しむっていう現実があるだけでさ。

根本　なるほどね。

村崎　それで思い出したんだけど、ちょうどこの間の『スタジオ・ボイス』*で根本さんも言ってたじゃないですか。インタビュアーで美術批評家の椹木野衣という人が「〝因果は巡る因果鉄道〟っていうのはどういうことですか」って尋ねたら、根本さんが「バカバカしい神秘体験とか、マヌケなシンクロニシティがいっぱいあること」って説明してたでしょう。

根本　あー、はいはい。

――どういうことなんです？

根本　たまたまオレが一昨年前に世田谷からいまの家に引っ越したんだけど、そこがいわゆる私鉄沿線の新興住宅地でさ、お上品ぶったババアとか沢山いて、もう反吐が出そうになるほどとりすました街並みなんだよ。でもほとんど無意識にそこを選んじゃったんだよ、何ンとなく。で、そこに引っ越して、その直後に判明したんだけど、歩いて一分かかんない至近距離に、あの佐川一政*さんが住んでるってわかって、で、「ああ、そういうことか」と納得したわけ（笑）。

でもって、引っ越した直後、たまたま資料か何かを渡すのに、村崎さんがはじ

*この間の「スタジオ・ボイス」――九六年三月号「特集ヒロミックスが好き」に所収の「根本敬インタビュー」。

*佐川一政――パリ大学留学中にオランダ人留学生レネ・ハルテベルト嬢を自宅アパートにて銃殺、死体をバラバラにして一部食べたとして、一九八一年六月十五日パリ警察庁に殺人容疑で逮捕される（ちなみにこの二日後に日本では「深川通り魔事件」が勃発した）が、裁判所は心神喪失状態にあったとして不起訴。八四年五月には帰国。以後、作家活動や俳優などを営む。根本敬初監督特殊AV「さむくないかい」（青林堂）では、下足番の亀一郎の上司と（女装した）遣り手婆ァの一人二役を熱演し、好評をはくす。

って主張するつもりも毛頭ないんだよ。オレが時々苦しむっていう現実があるだけでさ。

根本　なるほどね。

村崎　それで思い出したんだけど、ちょうどこの間の『スタジオ・ボイス』*で根本さんも言ってたじゃないですか。インタビュアーで美術批評家の椹木野衣という人が「〝因果は巡る因果鉄道〟っていうのはどういうことですか」って尋ねたら、根本さんが「バカバカしい神秘体験とか、マヌケなシンクロニシティがいっぱいあること」って説明してたでしょう。

根本　あー、はいはい。

――どういうことなんです？

根本　たまたまオレが一昨年前に世田谷からいまの家に引っ越したんだけど、そこがいわゆる私鉄沿線の新興住宅地でさ、お上品ぶったババアとか沢山いて、もう反吐が出そうになるほどとりすました街並みなんだよ。でもほとんど無意識にそこを選んじゃったんだよ、何ンとなく。で、そこに引っ越して、その直後に判明したんだけど、歩いて一分かかんない至近距離に、あの佐川一政*さんが住んでるってわかって、で、「ああ、そういうことか」と納得したわけ（笑）。

でもって、引っ越した直後、たまたま資料か何かを渡すのに、村崎さんがはじ

＊この間の「スタジオ・ボイス」一九九六年三月号「特集ヒロミックスが好き」に所収の「根本敬インタビュー」。

＊佐川一政―パリ大学留学中にオランダ人留学生レネ・ハルテベルトを自宅アパートにて銃殺、死体をバラバラにして一部食べたとして、一九八一年六月十五日パリ警察庁に殺人容疑で逮捕される（ちなみにこの二日後に日本では「深川通り魔事件」が勃発した）が、裁判所は心神喪失状態にあったとして不起訴。八四年五月には帰国。以後、作家活動や俳優などを営む。根本敬初監督特殊AV「さむくないかい」（青林堂）では、下足番の亀一郎の上司と（女装した）遣り手婆ァの一人二役を熱演し、好評をはくす。

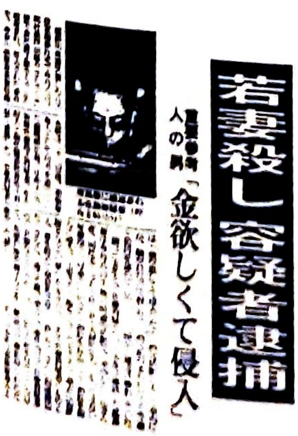
めていまのオレん家に来た時に、家に向かう道を歩きながら言ってたんだよ。

村崎　あれはね……駅に降りて根本さんと待ち合わせていた時、すでに相当気分が悪くなってたんだけど、根本さんの家に向かうにしたがってこめかみのあたりにビンビン来るわけですよ。街並み自体が妙にとりつくろって無理しちゃってる感じで、「ああ、もう、ここは駄目だ」って思った。オマケに近くには鉄塔が立って高圧電線が走っているし……。

根本　村崎さんが言うに「根本さん、ここはヤバいよ、将来必ずこのへんで妙な殺人事件が起こりますよ」って。そしたら将来どころか、二年と経たないついこの間、その町はじまって以来の殺人事件*が起きちゃったんだよね。まさしくその鉄塔の真下のアパートでね。

村崎　せいぜい十年先ぐらいかなって思ってたけど、こんなに早く起こるようじゃ、あのへんの最悪な情況ってオレの想像以上に進んでるんだな。でもね、オレたちはそんなもんで「予言が当たった」とか偉そうに言いたいわけじゃないんだよ。そんなことも含めて、いわゆる偶然の一致……シンクロニシティって言いたきゃそう言ってもイイんだけど……そういうモノや神秘現象なんて、別に神々しくも何ともなくって、そのへんにゴロゴロ転がってる程度のものなんだってことを言いたいんだ。しかも決してカッコ良くて意味のあるものだけとも限らなく

＊殺人事件―九五年十二月八日、横浜市Ａ区で○○商事の若妻が、九州の刑務所を出所して、たまたまその日、はじめてその街に降り立った男に殺された事件。



めていまのオレん家に来た時に、家に向かう道を歩きながら言ってたんだよ。

村崎　あれはね……駅に降りて根本さんと待ち合わせていた時、すでに相当気分が悪くなってたんだけど、根本さんの家に向かうにしたがってこめかみのあたりにビンビン来るわけですよ。街並み自体が妙にとりつくろって無理しちゃってる感じで、「ああ、もう、ここは駄目だ」って思った。オマケに近くには鉄塔が立って高圧電線が走っているし……。

根本　村崎さんが言うに「根本さん、ここはヤバいよ、将来必ずこのへんで妙な殺人事件が起こりますよ」って。そしたら将来どころか、二年と経たないついこの間、その町はじまって以来の殺人事件*が起きちゃったんだよね。まさしくその鉄塔の真下のアパートでね。

村崎　せいぜい十年先ぐらいかなって思ってたけど、こんなに早く起こるようじゃ、あのへんの最悪な情況ってオレの想像以上に進んでるんだな。でもね、オレたちはそんなもんで「予言が当たった」とか偉そうに言いたいわけじゃないんだよ。そんなことも含めて、いわゆる偶然の一致……シンクロニシティって言いたきゃそう言ってもイイんだけど……そういうモノや神秘現象なんて、別に神々しくも何ともなくって、そのへんにゴロゴロ転がってる程度のものなんだってことを言いたいんだ。しかも決してカッコ良くて意味のあるものだけとも限らなく

＊殺人事件—九五年十二月八日、横浜市A区で○○商事の若妻が、九州の刑務所を出所して、たまたまその日、はじめてその街に降り立った男に殺された事件。



て、むしろかなりおマヌケな話だったりするってことさ。

根本　超常現象なんて大抵、そういうもんだよ。そういやァ、ついこの間、道に落ちてる郵便物拾ったら佐川さん宛だった（笑）。すぐお届けしましたが……でも何ンだかカンだいって、イイ町ではあるんだよ。みんな自分らの生活にしか関心ないから、だから佐川さんとかも五年以上住んでいられるんだから。

村崎　とにかく奇跡とか神秘現象だのを見せられたぐらいでいちいちありがたがって、米つきバッタみたいにヘコヘコ土下座してたら、行きつく先は人に利用されるだけの奴隷野郎じゃねえか。バッカバカしい。オレも生まれてからいままで、電波とか声とかずーっと受信し続けてきたけれど、オレ自身が聖なるものと交信できる特別な存在なんだなんて、そんなふうに感じたことなんか、一度もねえよ。

　たとえば根本さんのところに因果な話やモノが集まってくるっていうのも、そういう必然があってのことなんだから、それって奇跡でも何でもない。ある種の人徳のようなものかもしれないけどさ。

根本　そういえば『人生解毒波止場』*のあとがきで書いたことなんだけどさ、「梅宮辰夫的なもの」っていうのが、ちょうどそういうことなんだよ。たとえば立席パーティーに遅れて行って、もう御馳走とか何も残ってなくて、そこに一つだけ

＊『人生解毒波止場』—根本敬の因果者研究をまとめた著書。洋泉社刊。村崎百郎が「ゴミの求道者」として紹介されているのを筆頭に、電波喫茶のママや電波ビラの著名人湊さんなど「電波系」とも関わりの深い話題が多数掲載されている。必読。



湯気がホンワカ出ているところがある。「あ～何だろう。美味しそうなものが残ってるのかな」って思ってそこを覗いてみると、な～んにも残っていない。オレの友人の杉作J太郎がさ、「根本さん、梅宮辰夫ってそういうもの……何もないのに湯気だけ出してて『さあさあ、お食べなさい』って、そういうイメージなんですよね～」って(笑)。

でさ、オレもそれを聞いた時「あー、天の意志っていうのはそういうことなんだよな」って思ったわけ。単なる確率論だと一億分の一くらいの、それこそ奇跡に近いことを案外簡単に、ディスカウントというか値引きしてポンポン起こしちゃうんだけど、それをあてにしても絶対に何にもならないんだよ。天の彼方じゃ、神様はコロッケあげたり漬物つけてるだけなんだから。だけどさ、新興宗教とかUFO信じている奴って、そのへんをメチャクチャあてにしちゃうから、どうしようもないドツボにハマっちゃうんだよ。

村崎　「神様」なんていうと、ふつうの人間は、唯一無二の存在で、絶対に正しくて高貴で素敵で美しくて善なるモノ……勝手にそういうのをイメージで作りあげて崇拝しちゃうでしょう。情けない妄想だよなあ。宮本武蔵じゃないけど「神仏は尊ばざれども頼りにはせず」みたいな、そういう



姿勢でいられねえのかな。ま、それだって吉川英治の小説の中だけの話かもしれないんだけれどさ。第一、神様なんかに頼ったりすがったりしても、どーにもならないことって、ゴマンとあるじゃない。

根本　山野一*さんの漫画で『ヒヤパカ』って単行本があったでしょう。あれの最初の方の話で、こういうのがあったじゃないですか。人類最後の生き残りが、女犯しては殺しまくるような、ものすごい極悪非道のどうしようもない、ひってえ野郎なんだけどさ。最後に大日如来が出てきて、そいつを救ってくれるの。でもって「なんでオレみたいなのを?」って聞くとさ、「あんたの順番だから救います」って。「神様ってそんなもんなんですか?」って言ったら「そんなもんなんです」って(笑)。

村崎　いやまったくその通りだよ。だって神様にとっちゃあ、たとえばこのオレが一部壊れて生まれてきちまったことなんて、何の意味もないでしょう。それだって順番だったり「たまたまそうだった」っていうだけだよ。だけど人間って弱い存在だから、そこに何とか意味なり意義なりを見い出したがるわけじゃない。「前世の因縁」だとか「こういう運命だったのかあ〜」とかね。冗談じゃねえ、たかが人間一人の命がそんなにご大層なものかって。思い上がるのもいい加減にしろって言いたいね。そういえばその昔、内田善美の漫画*にもこんなセリフがあっ

*山野一――一九六一年福岡県生まれ。この世の"真理"を描く数少ない漫画家の一人。かの"正義"のヒト、小林よしのりも隠れファンだそうな。「混沌大陸パンゲア」(青林堂)「どぶさらい劇場」(スコラ)など、電波と貧困をモティーフにした名作が多いが品切れも多いのが残念。ここで言及されているのは「ヒヤパカ」(青林堂)収録の「荒野のガイガー探知機」。前ページの図はその問題のシーン。©山野一

*内田善美の漫画――内田善美「星の時計のLiddell」集英社刊・第一巻一三七ページを参照。



姿勢でいられねえのかな。ま、それだって吉川英治の小説の中だけの話かもしれないんだけれどさ。第一、神様なんかに頼ったりすがったりしても、どーにもならないことって、ゴマンとあるじゃない。

根本　山野一*さんの漫画で『ヒヤパカ』って単行本があったでしょう。あれの最初の方の話で、こういうのがあったじゃないですか。人類最後の生き残りが、女犯しては殺しまくるような、ものすごい極悪非道のどうしようもない、ひってえ野郎なんだけどさ。最後に大日如来が出てきて、そいつを救ってくれるの。でもって「なんでオレみたいなのを?」って聞くとさ、「あんたの順番だから救います」って。「神様ってそんなもんなんですか?」って言ったら「そんなもんなんです」って(笑)。

村崎　いやまったくその通りだよ。だって神様にとっちゃあ、たとえばこのオレが一部壊れて生まれてきちまったことなんて、何の意味もないでしょう。それだって順番だったり「たまたまそうだった」っていうだけだよ。だけど人間って弱い存在だから、そこに何とか意味なり意義なりを見い出したがるわけじゃない。「前世の因縁」だとか「こういう運命だったのかあ～」とかね。冗談じゃねえ、たかが人間一人の命がそんなにご大層なものかって。思い上がるのもいい加減にしろって言いたいね。そういえばその昔、内田善美*の漫画にもこんなセリフがあっ

*山野一――一九六一年福岡県生まれ。この世の"真理"を描く数少ない漫画家の一人。かの"正義"のヒト、小林よしのりも隠れファンだそうな。「混沌大陸パンゲア」(青林堂)「どぶさらい劇場」(スコラ)など、電波と貧困をモティーフにした名作が多いが品切れも多いのが残念。ここで言及されているのは「ヒヤパカ」(青林堂)収録の「荒野のガイガー探知機」。前ページの図はその問題のシーン。©山野一

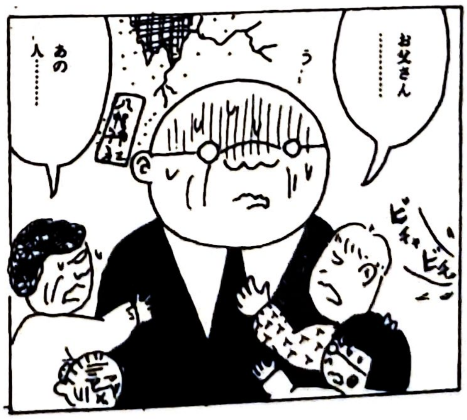
*内田善美の漫画――内田善美「星の時計のLiddell」集英社刊・第一巻一三七ページを参照。



たよな。「神さまは人間が死んでもお悲しみにならないわ、みーんな死んでしまっても悲しくなんてないのよ。人間が死んで悲しいのは人間だけよ」ってさ。

根本　村崎さんの場合、とてつもなくイヤなクジを神様が当ててくれたって感じなんですかね。

村崎　根本さんの漫画にもあったじゃないっすか。〈怪人〉が勝手に抽選したら村田藤吉*一家が当選して、毎夜届けられる「ウンチ1年分」みたいに(笑)。オレは申し込んでもいない因業クイズに当たって「電波一生分」が届いているようなもんだよ。迷惑な話だよなあ……「神秘」と言うより「珍秘（ちんぴ）」現象。



＊村田藤吉―根本漫画で最重要な主要キャラの一人。いじめられ役。時に著者の自画像にもなる。

電波と世界史――歴史に名を残す、とっても偉い電波人？

村崎　ただオレはね、このことも主張しておきたい。この本でオレらが話題にしているような〝電波〟なんてものは、電報や電話が発明された近代よりもずーっとずーっと昔から、あったものなんだってことをね。だから、時として〝電波〟のおかげて、文明や文化がこしらえられたことだってある、ってこと。

根本　たとえばどんな例がありますか？

村崎　遡れば人類の起源あたりからの話になるよ。かいつまんじゃうと、まず世界中に残っている神話や伝説をみれば、「電波の人類への干渉」の痕跡がいっく

らでも見つかる。いい例が聖書だよね。聖書には電波系のエピソードがいくらでも詰まってるよ。たとえばモーセが神と契約を結んだという「十戒」＊の話。

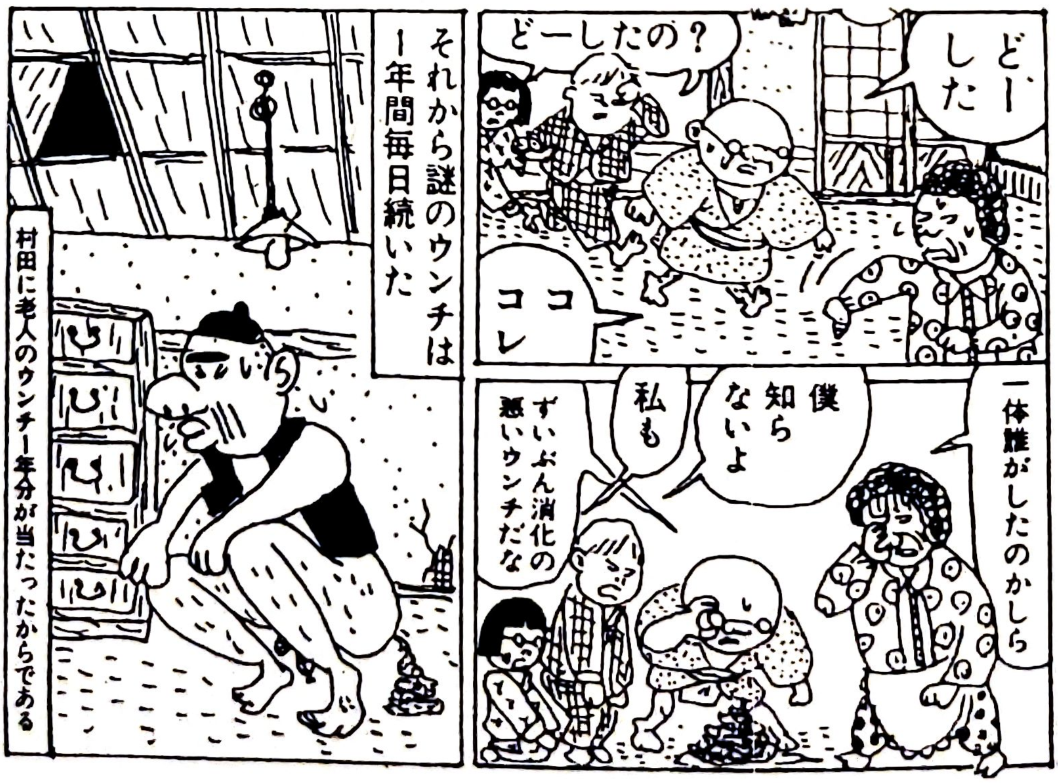
根本　映画にもなっている、有名な逸話だよね。海が二つに割れてそこをユダヤの民が逃げていくってシーン。

村崎　そうそう、その「紅海渡渉」のくだりなんて、どう考えても集団電波だよな（笑）。そういうヴィジョンを見たような気になることは、電波の受信では〝ありがち〟なことだからね。実際、風がある程度強く吹いて引き潮が重なれば、当時の紅海は徒歩でも渡れたんじゃないかという説もあるらしいけど、まあたぶん電波だろうな。だいたい海が割れるかァ？　常識で考えろっつーの。

根本　「十戒」ってのはナントカいう山でモーセが神と交わした契約でしょう。

村崎　たしかシナイ山だったはず。それを収めた箱が、これまた映画で有名な「失われた聖櫃（アーク）＊」ってやつ。よくテレビでやってるよね。シナイ山で結ばれた契約だけに「あんた以外

＊ウンチ1年分―根本敬の漫画「亀ノ頭のスープ」（マガジンハウス／河出文庫）所収の「村田藤吉寡黙日記・生きる2」〝大当たり大吉一家の巻・番外編〟のエピソード。



の神をあがめたリシナイ」とか「盗みをシナイ」「姦淫をシナイ」っていうシナイづくしの堅苦しい契約……（一同無言）……まあ「神と交わした契約」なんてものが、そもそもタチの悪い妄想だよ、妄想。山頂で受け取ったというところも非常に怪しいしね。

根本　たとえば民俗学とかでも「ヤマ」は異界との接点だとか言われますよね。やっぱり電波を受け取りやすい場所なんですか？

村崎　そうそう、山岳信仰なんてものもあるくらいだから、電波はバリバリに来るでしょ。ここ（ちなみにこの対談を収録したのは、某新宿高層ビルの四十数階：編集部注）もそうだけど、高いところって地表とまた別の電波に充たされている感覚がするよ。

根本　それにしても、契約を交わした後のユダヤ民族って、オレの漫画に出てくる村田藤吉一家みたいに悲惨の連続だよね。やっぱり因果なんですか？

村崎　だから、よくウチにも電話がかかってくる英会話教材のセット販売じゃねえけど、そもそも「あなた様だけにお得なお知らせ♡」なんて物件にロクなもんはねえってことだよ。ウチの工場にもこの前、羽毛フトンのマルチに引っかかりそうになったボケがいたからわかるんだけど、契約しちゃうともう、輝かしい未来しかないように錯覚しちまうんだよな。「神と契約した民族」って言っても、

＊映画にもなっている――五九年に制作された「十戒」。ハリウッドの巨匠セシル・B・デミルが二三年に続き、旧約聖書の「出エジプト記」を巨費と豪華キャスティング（チャールトン・ヘストンやユル・ブリンナー等）で再映画化したもの。雷鳴とともに紅海が二つに割れるシーンは、アカデミー／オスカーの特撮効果を受賞。いまではユニバーサル撮影所の観光コースで再現されている。「たまに忘れた頃、TVの深夜映画番組で放送してるよなあ【村崎】」。

＊失われた聖櫃（アーク）――モーゼがエジプト脱出後、シナイ山で授かった「十戒」の刻まれた二枚の石板が納められた契約の箱。映画「インディ・ジョーンズ」の一作目でも有名。

その後の歴史を見りゃあ、ユダヤ民族が自称「ヤーヴェ」とかいうタチの悪い電波に騙されたのは明白じゃねえか。あの民族は異様にツイてないぜ、イスラエルを建国した現在だってモメっぱなしでしょ。

根本　いまからでも遅くないから、解約した方がいい？

村崎　でもね、電波ってのは勧誘が熱心すぎることで有名な「○売新聞の拡張員」みたいなもんだからさあ。宗教なんてこっちが断っても、なかなか止めれない新聞みたいなもんでしょ。オレにしてみりゃ、ヤーヴェやモーセって、根本さんの漫画で言えば、やっぱり吉田佐吉*のイメージがピッタリくるんだよ。

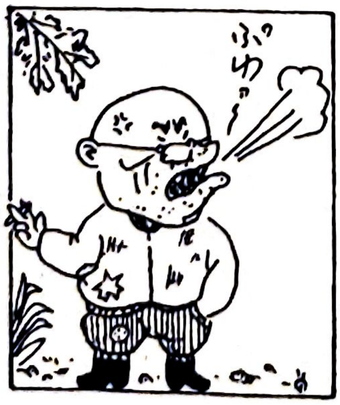
根本　ひとりよがりでムチャクチャ横暴なタイプ。

村崎　こっちの都合なんか、これっぽっちも考えてくれない部分が電波っぽい。絶体に関わり合いにならない方がいいタイプだ。

――「十戒」のほかに、聖書関係で何かありますか？

村崎　そぉねぇ〜、う〜ん、あ、アレアレ、エゼキエル*の話ってあるじゃない。旧約の「エゼキエル書」。オレの妄想でなければそん中に、エゼキエルという奴が天から降りてきたバケモノみたいな天使に預言をもらうシーンがあったんだけど、その「ケルビム」とかいう天使の格好が、なんかUFOみたいだっていうんで、『ムー』とか矢追純一的な番組でも「かつてこの地上に異星人が降り立った記

＊吉田佐吉―根本漫画で最重要な主要キャラの一人。アッパー系のイイ顔のオヤジ。いじめ役。



録だ」なんてヨタ話がさかんに取り上げられているじゃん。どう考えてもアレは電波の受信だよ。でもなけりゃ何か悪いモンでもキメてたんじゃねぇのか?

根本　「ヨハネの黙示録*」なんて、いかにもそんな雰囲気だね。

村崎　「黙示録」は洋モノの歴代電波文書のなかでも最高峰の一つだよ。根本さんの漫画の幾つかとも、通じる部分がある。村上春樹のセリフじゃないけどさ、ものごとには「はじめ」と「終わり」ってものが必ずあって、「ヨハネの黙示録」っつうのは、イロんなものに共通の「終わりのイメージ」の典型なんだ。それが妙に詩的でおぞましく書かれている。オレがあれ読んで感じるのは「いかにも電波らしいハッタリと脅しのオン・パレードだよなあ」ってことさ。

根本　なるほど、黙示録はヨハネという男の頭の中で勃発した「妄想幻魔大戦」ってわけね。

村崎　電波は受信する奴の心の弱みにつけこんで、本人の嫌がるヴィジョンを集中的に送ってきたりもするからね。そういうイヤガラセ電波もあるにはある。あとで話すけど、電波の攻撃に耐えきれず、発狂したり自殺する奴もこれまで沢山いたと思うよ。ヨハネの黙示録は間違いなく、そうした電波の攻撃ヴィジョンの集大成なんだ。だから聖書とかって、感受性の強すぎる奴や精神の脆弱な奴は無闇に読まない方がいいと思う。波長が合いすぎると、頭の中で終わりのイメージ

*エゼキエル―紀元前六世紀の預言者。バビロンの捕囚として連行され、神の言葉を聞いてイスラエルの民族復興に腐心した。ケバル川のほとりでエゼキエルが見た幻想は、翼が四枚生え、ライオン、牛、鷲、人間の姿をした四つの動物をしたがえた神様だったという。「エゼキセル書」には、UFOを彷彿とさせる物体などが出てきてかなり電波。ついでに「ダニエル書」も「ヨハネの黙示録」同様、重要な電波文書だ。左図はラファエロ作「エゼキエルの幻視」より。



がリアルに再現されすぎて、そいつ自身にハルマゲドンが起こるからな。

根本　なに？　「これでもか、これでもか」って悲惨なヴィジョンや情報の洪水が来るわけ？

村崎　そうそう、最悪の場合、死んじゃうよ。オレは電波どものそのテのこけ脅しにはホトホトうんざりしてるんだよ。いちいち「終わり」を怖がってたって何にもならない。どーせ怖がるんなら「おしまい」がやってきた、その時でいいじゃねーか！　ってね。たとえ明日世界が終わると知らされても、オレはあさって以降のせんずりとゴミ漁りまで考えるよ。

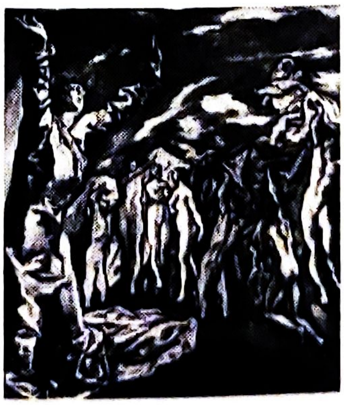
——そういう電波の干渉の記録って、聖書以外の伝説や教典なんかにもあるんでしょうか？

村崎　神がかり状態になって神のお告げを人々に伝える巫女なんかの類も、オレに言わせりゃ、完全に電波系だよな。もっともそれって「神がかり」じゃなくて「電波ががり」なんだけどさ。

根本　湊さん*に言わせれば「トリコじかけの明け暮れ」ってやつ（笑）。

村崎　たいてい巫女とかシャーマンって、タイコのリズムに合わせて頭振ったり激しく踊ったりして、神との合一をはかるでしょ。そうやってトランス状態になって神の言葉を降ろすっていう理屈みたいだけど、そもそもシャーマニズムって

＊ヨハネの黙示録—左図はグレコ作「黙示録の第五の封印」より。



＊湊さん—根本敬にとって忘れることのできない電波告発貴婦人。詳細は一二二ページ参照。

のは、自分から進んで電波にアクセスしようとする試みなんだろうなぁ。日本だと耶馬台国の卑弥呼（ひみこ）なんか、そーゆー巫女の原イメージでしょ。卑弥呼は日巫女、太陽の電波子だったわけだ。

根本　すると狐憑きとか犬神憑きとか、あのテの憑き物なんかも電波なの？　西洋だとドラキュラとかオオカミ男ってのもあったけど。

村崎　それはとーぜん電波憑きだよ。オレにも時々来るけどね……まあ、無視してるよ。ケダモノ系電波には取り憑かれてもわりと平気。オレの本性の方がよっぽど獰猛（どうもう）なケダモノだからね（笑）。

――そういえば村崎さんって、時々ケダモノみたいな臭いさせてますよね。

村崎　それはただ分泌物が人より多くて体臭がキツイってことでカンベンしてくれや。オレはチンポも凄いし、精子力エネルギー（意味不明：編集部注）が強すぎるんだよ。まっオオカミ男あたりは、ある種の強烈な性欲を喚起させる電波の仕業のよーな気がするね。吸血鬼もヴァージョン違いの強姦誘発電波のような気がするなあ……若くてフグリに精液の溜まりやすい年頃の男の子なら、誰でも受信してんじゃねぇの、そのテの電波って。ピンクレディも断言してたっけ、〽男は狼なのよ♪って。

――ピンクレディじゃなくてアレは作詞家の阿久悠だったと思いますが……。

村崎　オレはどうせ取り憑かれるなら、チンポのあたりだけ「馬の霊」が憑いてくれれば便利だと思ってるんだけどさ（笑）。

——（また下ネタだ…）ところでキリスト教以外の宗教にも、電波の痕跡ってあるでしょう、ムラサキさん！

村崎　あーでも、イスラム教のことは下手に曲解すると殺されそうなんで、今回はナシね。村崎はサルマン・ラシュディ*にあらず、ってね。

根本　こんな本、真面目に読む回教徒、日本にいるかなあ。

村崎　いや、オレは他人はどーなったって、自分のことだけは可愛くって可愛くって仕方ねえゲス鬼畜ですから。いまここで回教徒の気に障るコトをうかうかとしゃべって俺が殺されるという可能性が少しでも予感できる以上、これ以上は絶対にしゃべらない。だから仏教の場合を考えようぜ、ハイ仏教。

　仏教経典にしたって、原始仏典以外の現在残っているほとんどのものって、ブッダの死後何百年もたってから、弟子が「私はブッダからこう聞いた」って書かれてるじゃん。アレは仏教の修行者が、深い瞑想の中でブッダのメッセージを受け取り、それを記述したってことになってるけどさ……どう考えてもほとんどの経典は基本的に電波文書だよ。ああいうのはブッダのオリジナルにこだわってもしょうがないんだよな。教祖の死後もその教えがどんどん発展し続けるってのの

＊サルマン・ラシュディ—四七年、ポンペイ生まれ。イギリスに渡り、ケンブリッジ大学で歴史学を専攻。コピーライターのかたわら小説家を志す。八一年の「真夜中の子供たち」がイギリスの文学賞を総ナメし、ガルシア・マルケスと並ぶマジック・リアリズムの代表格と絶賛されるが、小説「悪魔の詩」の記述の一部がイスラム批判と解釈され、ホメイニ師から処刑宣告される国際問題と化す。ちなみに日本でも、同書の翻訳者五十嵐一が筑波大学構内にて、何者かに殺害されている。

は、建前で言っても健全じゃないの？　いまどきの葬儀仏教からは、これ以上新しい教典なんて生まれてこないかもしれないけどさ。あと宗教の場合、教典ばかりじゃなくて宗教美術とかも充分電波っぽいよ。

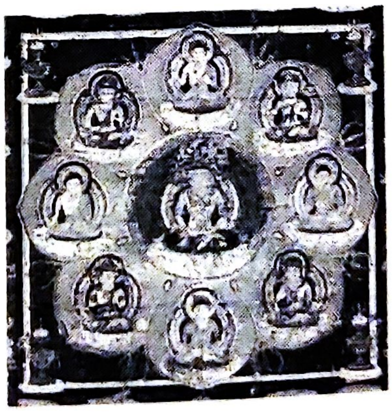
根本　それは「閻魔様のいる地獄絵図」とかのこと？

村崎　それもあるけど、仏教だと密教なんかのマンダラがあるでしょう。有名なところではホラ……胎蔵界と金剛界の両界マンダラ。アレなんかね。とくに胎蔵界マンダラ*の方のヴィジョンはものすごくわかるというか、オレも昔電波を受信してた時、光の渦みたいな感じのやつを見たことがあるからね。それは仏様のディテールまでちゃんと見えるわけじゃないんだけどね。それも止ってるんじゃなくてパァ〜ッといっせいに動くわけ。もうグルグル状態ですよ。だから仏が大挙してやって来る来迎図なんてのもすごく良くわかるなあ。無数の仏様が向こう側からゾロゾロ修学旅行の生徒みたいに大挙してやって来る感じ。キリスト教美術の方にも、天使が無数に渦巻いて飛んでいる絵があったよね。なんかあれも電波の襲来と、とても似てる気がする。

――ギュスターヴ・モロー*の絵のことですか？　あれ、ギュスターヴ・ドレ*の方でしたっけ？　だいたい天使や妖精が見えるのって、電波くさい気がしません？

村崎　ああああああああ、ドレにしたってモロだよモロ、もう天使なんてドレもモ

*胎蔵界マンダラ―左図は胎蔵界マンダラの部分。教王護国寺所伝。



*ギュスターヴ・モロー―一八二九-九八。フランスの画家。「モロに聖書や神話をモチーフにした【村崎】」絵が多く、象徴的、耽美的な画風で名高い。自然主義最盛のさなかにあって、ルドンやマチス、ルオーなどに影響を及ぼした。

*ギュスターヴ・ドレ―一八三二-八三。フランスの画家・版画家。当時流行し出した印象主義や現実描写に背を向けて、幻想と風刺の

は、建前で言っても健全じゃないの？　いまどきの葬儀仏教からは、これ以上新しい教典なんて生まれてこないかもしれないけどさ。あと宗教の場合、教典ばかりじゃなくて宗教美術とかも充分電波っぽいよ。

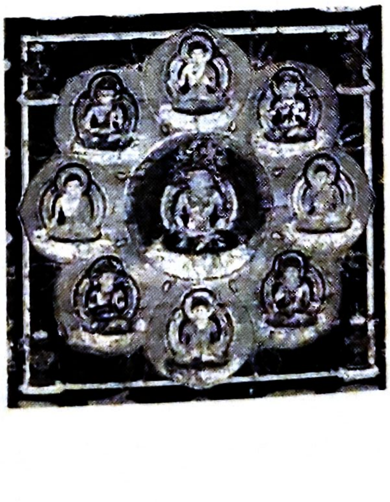
根本　それは「閻魔様のいる地獄絵図」とかのこと？

村崎　それもあるけど、仏教だと密教なんかのマンダラがあるでしょう。有名なところではホラ……胎蔵界と金剛界の両界マンダラ。アレなんかね。とくに胎蔵界マンダラ*の方のヴィジョンはものすごくわかるというか、オレも昔電波を受信してた時、光の渦みたいな感じのやつを見たことがあるからね。それは仏様のディテールまでちゃんと見えるわけじゃないんだけどね。それも止ってるんじゃなくてパァ〜ッといっせいに動くわけ。もうグルグル状態ですよ。だから仏が大挙してやって来る来迎図なんてのもすごく良くわかるなあ。無数の仏様が向こう側からゾロゾロ修学旅行の生徒みたいに大挙してやって来る感じ。キリスト教美術の方にも、天使が無数に渦巻いて飛んでいる絵があったよね。なんかあれも電波の襲来と、とても似てる気がする。

——ギュスターヴ・モロー*の絵のことですか？　あれ、ギュスターヴ・ドレ*の方でしたっけ？　だいたい天使や妖精が見えるのって、電波くさい気がしません？

村崎　あああああああ、ドレにしたってモロだよモロ、もう天使なんてドレもモ

*胎蔵界マンダラ—左図は胎蔵界マンダラの部分。教王護国寺所伝。



*ギュスターヴ・モロー—一八二九-九八。フランスの画家。「モロに聖書や神話をモチーフにした【村崎】」絵が多く、象徴的、耽美的な画風で名高い。自然主義最盛のさなかにあって、ルドンやマチス、ルオーなどに影響を及ぼした。

*ギュスターヴ・ドレ—一八三二-八三。フランスの画家・版画家。当時流行し出した印象主義や現実描写に背を向けて、幻想と風刺の

口に間違いなく電波だよ、電波。あと天使とは少し違うけど、日本にも舞い降りた天女の羽衣を漁師が隠して結婚を迫るという「羽衣伝説」があるよね。アレはどう考えても電波にやられた奴がやった、単なる人さらいの婦女暴行だぜ。

根本　天使と言えば、キリスト教の聖画でさかんに描かれた「受胎告知」*も電波だよね。

村崎　そうそう。上空の天使からマリアめがけて矢のように一直線にピーンとインスピレーションが飛ぶ様子は、まさに電波の受信情況そのもの。銀の矢のようにアタマの中を通り過ぎる電波もあるからねぇ。すると受胎を告げに来る大天使ガブリエルは「電波天使」ってわけだ。

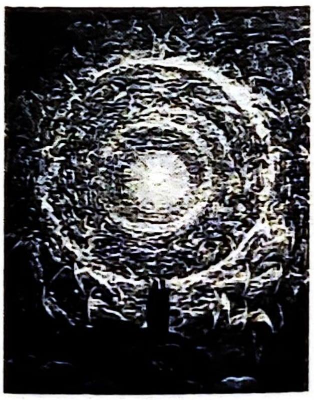
根本　村崎さんも受胎の電波とか感じるんですか?

村崎　いやいや一回くらい受胎してみたいけど(笑)、男のオレに受胎告知電波が来たら不気味だよ。でも、どういうわけだか、その逆は来る。もう十年以上前になるけど、当時付き合ってた工場の女の子と夜の公園でブランコに乗っていたら……。

根本　付き合ってた女が、ブランコの上で妊娠した?(笑)

村崎　違う違う。彼女とブランコに乗ってたら、銀の矢みたいなもんがアタマをかすめて、その時とっさに誰かが死んだ気がした。てっきり身内かと思ってた

世界を描き、その挿絵は大衆にも人気があった。「聖書」「神曲」「失楽園」「滑稽譚」などの挿絵が有名。



*受胎告知—左図はカルロ・クリヴェッリの作。この絵のマリアの頭の付近と電波(?)の発信元を拡大したのが次ページの二つの図。



ら、その時間に死んだのはいっしょにいた女の子のおジイちゃんだったんだ。

根本　虫の知らせってやつですね。

村崎　死神からの死亡告知なのかなあ、そんなのばっかりだよ……で話は戻るけどさ、昔は「受胎告知」の絵を見て、女って誰でも妊娠した時には「お告げ」が来るものなのかなあ〜って勝手に妄想したもんだよ。

根本　マリア様の場合、処女懐胎だったから特別でしょ。

村崎　あ〜っ、それだよ！　それ。そもそも「処女懐胎」なんていう、生物学や人間のイトナミを無視した奇跡自体が、間違いなく電波によってもたらされた妄想に違いないっ。それともあの頃の人間って単性生殖できたの？

根本　ゾウリムシじゃあるまいし(笑)。

村崎　生物学的に考えても、聖母マリアは最低一回は誰かにヤラレてないとオカシイよな。旦那に覚えがないんなら、誰か他の野郎にコマされてるはず。オレは「実はマリアは、異星人のＵＦＯにさらわれて意識を失っている間に人工受精させられたんだろう」なんて矢追な妄想を言うつもりは、ぜーんぜんないからな。とにかくマリアの受胎の周辺には、電波の干渉がプンプンと感じられるぞ。むむっ、その時の体位や持続時間やフィニッシュの状態まで、手に取るように見えてきそうだぞおおっ！



――まあまあ、村崎さん。キリスト教にも過激でシビアな原理主義の方はゴマンといらっしゃるんですから、妄想はあくまでも頭の中にとどめてくださいよ。ジョン・レノンがどーなったか*、イマジンしてください。

（この後、説得の上、一時休憩）

神秘家や芸術家――その他の電波エリートたち

村崎　じゃあ、宗教はこのくらいにして、神秘主義の系譜*にでも話を移しましょうか。神秘主義の世界でも、根本ワールドで言えば勝新太郎や奥崎謙三先生クラスの「大物」がいるわけですよ。オレが思いつくままに名前をあげると、古いところではスゥエーデンボルグ*、近代だとブラヴァツキー夫人*やルドルフ・シュタイナー*やグルジェフ*といった人たち、みんなみんな電波受けてますね。

根本　オカルティストっていうやつですか。

村崎　まあオレにしてみれば、連中はみんな「電波の大物」だから、細かい理屈はわかんねぇんだけど、著書を読む限り電波の干渉はあきらかだな。その他にも、受信能力とカリスマ度に多少の違いはあれど、どこの国にもその時代ごとに「電波エリート」ってのはいるもんだと思うよ。

根本　ちなみにいまの日本では誰が「電波エリート」なんだろう？

*ジョン・レノンがどーなったか――一八〇年十二月八日、ニューヨークのダコタ・アパート前でマイク・デヴィッド・チャップマン（二十五歳）に銃殺される。逮捕後、チャプマンは「レノンを殺した理由を本にし、その収益を慈善事業に役立てたい」と遺族のオノ・ヨーコに提案したが却下された。

*神秘主義の系譜――ちなみに村崎百郎が最初にリストアップしていた「歴史上の電波偉人」はモーセやダビデ、イエス・キリストにはじまって、パウロ／ヨアキム・デ・フローリス／フランチェスコ／ボナ・ベントゥラ／トマス・アクィナス／エックハルト／ノストラダムス／パラケルスス／アグリッパ／ブラヴァツキー／ウィリアム・ブレイク／フレイザー／ベザント／ベネット／イエイツ／ライプニッツ／マイアーズ／マクレガー・マサース／ウスペンスキー／グルジェフ／クローリー／スウェーデンボルグ／ダイアン・フォーチュン／メスメル／フロイト／ラ

村崎　まっ、NTTやKDDの社長とか通産・郵政省の官僚じゃないことだけは間違いない（笑）。まあ天才の生まれにくいご時世だから、電波エリートっていうのもなかなか表には出てこないね。だいたいオレのような〈ゲス電波系〉にお鉢が回ってくるくらいだからなあ。

　まあ、オレはゲス野郎だから関係ないとして、いまどきの各新興宗教団体の教祖クラスの方はみんな、そういう意味じゃ電波エリートなんじゃないの？　イロイロな高級霊と交信される偉いお方がいっぱいいるじゃないですか。

根本　高級霊っつうか、なんか有名人の霊ばっか降りて来るんだよね。ああいうのって。三島由紀夫とかケネディとかモンローとか（笑）。

村崎　イエスにお釈迦様に孔子に聖徳太子、なんかやたら有名な偉人の霊が降りてきたって、本とかで書いてあるんだけど……「○○の○学」の○○○先生とかねー……オレなんか自分に来る電波の処理だけでもてあましているんで、そういうエラい方々の本なんかマジでは読んでないんで、本当のトコロはわかんないけど、妄想だったらヤバいよなあ。

根本　う〜ん、しかしまあ、さっきから聞いてると電波と人類の関わりって、けっこう根深いんだね。

村崎　これはオレが勝手に思ってるだけなんだけどさ、人類っていうのはその発

イヒ／ユング／レヴィ／シュタイナー／ヤーコブ・ベーメ／ノヴァーリス／ベンジャミン・クレーム／テイヤール・ド・シャルダン／ルネ・ゲノン／ジャンヌ・ダルク／ガンジー／ヒトラー／カスタネダ／クリシュナムルティ、さらに日本篇として空海／明恵／日蓮／北一輝／出口王仁三郎／芦原将軍エトセトラ……と延々と続くものであったが、余りにも遠大な話なので、聞いているとこっちがおかしくなる。従って本書ではほんの触りしか掲載できなかったが、残りの数々の人々については、来たる『電波系(歴史篇)』全三巻(妄想)で気のすむまで語られる予定。

＊スウエーデンボルグ―一六八八―一七七二。ヒヨン・ボルグの兄貴ではない。スウェーデンの科学者／神秘主義者。最初は鉱山局に勤める自然科学者だったが、五十代半ばにして突如として起こった幻視体験をきっかけに神秘の世界に目覚め、多くの幽体離脱体験で霊界を探訪して天使や精霊と交信

生の段階から、「別の情報系からのメッセージ」として絶えず人に呼びかけてくる声や音を聞いてたんだと思うよ。

要するにいまは無線とか電話とか放送とか通信なんかがこれだけ普及してるから、頭の中にやって来る声や音を「電波」という単語でもって表現しているんでしょう。昔ならこれは「神のお告げ」ですよ。だからそれを本書のタイトルのように〈電波系〉っていうことを、頭のおかしい／自己主張のキツい奴らの代名詞にするってぇのも、わからなくもないんだけど、「電波」なんて本来は誰のアタマにも届いているもので、微力ながら人間に影響を与えているんだと思うよ。だからちょっと注意して聞けば、実は誰にでも聞こえるんじゃないかなあ。

根本　逆に昔の人が現代へ来て、携帯電話からの声とかいきなり聞いたら、神様からのお告げだって信じちゃうかもしれないよね。

村崎　それもオヤジのダミ声で「なあ彼女ォ、とりあえず一発やらしてくんねぇかな?」なんて野太い声がいきなり聞こえてきたら、どーするんだろうねぇ。神のお告げだって言って、びっくりして裸になってくれるかなあ?（笑）

——村崎さん、なんかちょっと気を許すと、シモの話になりませんか?

村崎　いやあ、オマンコのコトはいくら話しても話したりないもんですよ。神秘主義や電波やこの世の謎と不思議も、元をたどればみーんなオンナのアソコから

し、霊魂の不滅や、地獄界・精霊界・霊界というあの世の構造を緻密に記載した著書を数多く執筆した。著書は百五十冊にも及び、その思想はカントやゲーテ、ウィリアム・ブレイクやバルザックや丹波哲郎など、多くの著名人に影響を与えている。これは「人は年老いてからでも突然電波の受信が始まることがある」という良い例であり「電波の声が聞こえない連中が、今後も電波を受信せずに平和に暮らせる保障はどこにもない」ということでもある。【村崎】

*ブラヴァツキー夫人一九三一－九一。ロシアの神秘家。近代オカルティズムの母とも言われ、神智学協会を設立し後述するシュタイナーやアニー・ベサントなどの神秘家に多大な影響を与えた。人は長年電波を受信し続けるとこんな迫力のある顔になれるらしい。このイイ顔を見れば、宇宙や人間の霊的構造について書かれたチョー難解な代表的著作『シークレット・ドクトリン』がチベットの老僧

はじまってるんだぜぇ。オンナの膣というものは実に奥が深いもんだよなあ～(目を閉じて感無量)……まあ、話を強引に電波に戻すと、オレが気にくわないのは、「電波にもヒエラルキーがある」みたいな風潮だ。そんな言説は絶対に認められない。

そういう意味でも近頃いちばんスカしててムカつく電波系は、何といってもニューエイジ*のやつらだよ。「神がかり」まで新装開店しちゃって「チャネリング*」みたいなオシャレなネーミングで飾りゃあ商品価値も跳ね上がるって算段。ざけんじゃねえ、このクソどもが。「キツネ憑き」とどこが違うって言うんだ?

――ずいぶんマジで怒ってますね。

村崎　奴らのノーガキってのがまたふるってて、チャネリングでやって来るのは「地球外知性」だとか「ハイアーセルフ」(上位自己ともいうらしい)だって言うんだけど、んなたわごと聞いて、素直に「ハイそうですね」って納得する馬鹿がいるんだからスゲエよな。憑いたキツネが「自分は宇宙人です、コン!」って言ってる可能性とか、連中は想像できないのかねぇ。

根本　自分たちの元に来てるのは、絶対に上等な存在だってわけだ。

村崎　でもって「自分たちみたいに高尚な人間のところだから、そういう偉い電波が来るんだ」とか考えてるんだったら、さっさと団体で天国でもどこでも行っ

ジュアルカル大師からのテレパシー通信を受けて執筆されたと言われても素直に納得できる。【村崎】

*ルドルフ・シュタイナー　一八六一-一九二五。オーストリアの神秘思想家。幼小期より霊感にすぐれ、ブラヴァツキーの神智学運動に参加。後に人智学協会を設立した。彼の代表的な著作「アカシャ年代記より」(国書刊行会)は、本文でも後述する「アカシック・レコード」という、この宇宙にある過去-現在-未来の全ての情報が蓄積された記憶層から、シュタイナーが受け取ったヴィジョンを記述したものだそうだ。まるで全宇宙霊界パソコン通信といった感じだが、多くの電波の発信源は、案外そんな集合無意識めいたところなのかもしれないな。【村崎】

*グルジェフ　一八七七-一九四九。アルメニア生まれのロシアの神秘思想家。「現代人は通常、霊的に眠ったままの状態にあるため、人間として真の進化をとげる

てくれ！　って言いたいね。

電波に高尚も低俗もねえよ。いいコト言ってる奴らも悪いコト言ってくる奴らも狂ったたわごと＝電波っていう点じゃあ、等しくおんなじなんだよ。そいつがどんなにいいコト言ってても気を許しちゃいけない。あいつらホントーに巧妙だからね。どんどんいい目にあわせてくれたりするんだけど、調子に乗ってこちらが完全に依存しちゃうと、もの凄いしっぺがえしが来る。それが奴らの常套手段なんだよ。

根本　村崎さん自身、相当ひどい目にあったわけですか？

村崎　ああ幾度となくね。それだって、ニューエイジの善人どもに言わせれば「スケベで鬼畜なムラサキは、魂のレベルがゲスで卑しいから、そういう悪い存在しかコンタクトしてこないのヨ」、てな理屈になるんだろう。オレの目の前で「それは前世で悪行を積んだからヨ」なんてほざく宗教野郎がいたら、今度こそ言い終わらないうちに奥歯が全部折れるまでブン殴ってやるよ。

まあ、いずれにしても、電波が聞こえるなんてのは特別なことじゃないし、得体の知れない電波の言うことを鵜呑みにするのも賢明ではないってこと、この二つはオレの言えるたしかなコトさ。魂の高貴な聖者に聞こえてくるのは「啓示」で、シャブ中のジャンキーとかオレみたいに頭の狂ったゲス人間に聞こえてくる

ためには意識を覚醒させる必要がある」と主張し、そのための様々な「ワーク」を提唱した。「地球は48種類の法則に支配されている世界」だとか、「7の法則に見られるオクターヴ構造」など、常人には到底理解不能な彼独自の世界観は電波系の人間が受信する言説そのものだが、著書に「数時間の行をしただけで、数十マイルも離れたところにいる（動物の）ヤクを殺すことができた」と記述しているところをみると、発信系の電波野郎でもあったようだ。【村崎】

＊ニューエイジ―精神世界やスピリチュアルなことが大好きで、イルカやクジラや宇宙霊とお話しがしたいと妄想する、ちょっと「電波」に憧れてる人々のこと（だいぶ違うと思う。一九六〇年代、アメリカ西海岸を中心に起こったカウンターカルチャーに端を発し、ニューサイエンスやエコロジー、フェミニズム、トランスパーソナル心理学、東洋思想などを取り込んだ、生活から思想にいたる総合的なスタイルを指す：編集部注）。

のは「電波」だというのは、どう考えても差別だよ(笑)。

電波はどこから来るのだろう

根本　しかし、聖者だろうとキチガイだろうと、村崎さんをはじめとする電波系の人たちに届いてる電波っていうのは、そもそもどこから来ているんだろうね。村崎さんがさっきちょっと言ってた「別の情報系」っていうのはどういうこと？

村崎　オレたちはいま、こうやって面と向かって直接話して、お互いの情報をやりとりしているじゃないですか。だけどこういう言葉やイメージやシンボルを使ったコミュニケーションとは全く違ったかたちで、情報を受け取ったり発信したりすることもあるという意味で「別の情報系」って言ったんですよ。

――十八番の、オカルト話ですか？

村崎　そうそう。前もって言っとくけど、このへんから先の話はやおらオカルトじみてくるので、よい子のみんなはあまり本気にして聞いちゃいけないぞ〜。鵜呑みにするんじゃなくて「まあそういう考え方もあるな」って程度に、真に受けてくれ。

――はいはい、わかりました。ご丁寧にありがとうございます。

村崎　精神分析の偉いお医者さんことジグムント・フロイトの弟子にカール・グ

電脳系編集者てキンタマのでかい伊藤ガビンの説明によれば「板東英二以降のエイジ」はみな、こう呼ばれるらしいぞ。【村崎】

*チャネリング―はるか銀河系の彼方にいる地球外知性やハイアーセルフといった宇宙意志とコンタクトし、連中からメッセージを受け取ることを、ニューエイジ業界ではこう呼ぶらしい。きゃつらがおせっかいにも地球人に教えてくれることは、大きく分けて、①この宇宙の成り立ちと広がりについて②地球人のこれからの生き方について……この二つ。日本でも八〇年代後半から注目をあび、本場のチャネラーが続々来日する一方で、日本産チャネラーが現われてくる。概して破滅的な予言などではなく「ワクワクすることをしなさい」などポジティブな提案が多いという話だが、それにしても従来の狐憑きや霊媒や神がかりとどこが違うのか、さっぱりわかんないのだが、大ベストセラーの続編「トンデモ本の逆襲」(洋泉社)に

スタフ・ユング*っつうこれまた有名で、チョット電波の入った分析心理学者がいたんだけど、奴が提唱した概念に「集合無意識」っつうのがあったでしょ。オレが思うに、あれって電波の発生現場と深く関わりがあるような気がするんだよ。

簡単に言えばユングが言ってるのってさ「人間の無意識の奥深くには、全人類に共通する普遍的な無意識の層がうず高く蓄積されている」ってことでしょ。オレの心の闇は、そのまま根本さんやキムラさんの心の闇とも、無意識下を通してしっかりとつながってるって理屈。これがもし本当なら、逆にそこを通して他人の経験や思考にアクセスするってことも可能じゃないのかなあ?

根本　それで?

村崎　それに近いもので、ルドルフ・シュタイナーという神秘思想家が、やっぱりこの宇宙で起こった全てのことが記録され蓄積される記憶層の存在を感じていて、それを「アカシック・レコード*」って呼んでいたのとも、ちょっと共通してくる。

根本　それが電波の出所ってわけだ?

村崎　うん、「アカシック・レコード」でも「集合無意識」でも何でもいいけど、要は人類とか人類以外の連中がこれまで経験したことをみんな収めた、膨大な記憶や情報のつまった〝全宇宙スーパー・コンピュータ〟みたいなデータベースの化

よれば、霊媒に取り憑いた霊が地球外知性を名乗りはじめた例は、映画「２００１年宇宙の旅」の公開以前には、確認されなかったらしいというのだから、大変なものである。【村崎】

*カール・グスタフ・ユング——一八七五-一九六一。スイスの精神医学者、分析心理学者。精神病者の幻覚や妄想に、古来からある神話、伝説、昔話などと共通のパターンを見い出し、これを「元型」として提唱した人。

*アカシック・レコード——宇宙開闢以来の全宇宙のあらゆる記録が集積していると言われる宇宙の記憶層。精神的に目覚めた者は、このアカーシャの記録を自在に調べることができ、過去に関する記録を見聞きすることが可能だという。村崎百郎に届く電波も、ここが出所か?

け物が、この宇宙のどこかにあるらしいってこと。

　そこに上手くアクセスできれば、もう無限の叡智を引き出せちゃってチョベリグという、最近の女子高生みたいに楽して得するみたいな、ある意味けしからん話なんだけど(笑)。世の中の役に立った例としては、アメリカにエドガー・ケイシー*っていう、オカルト界ではケーシー高峰以上に有名な人がいてさ、彼なんか、自己誘導のトランス状態でアカシック・レコードにつながって、難病人の治療方法を助言したりして、ずいぶん人助けをしたらしい。

根本　「電波」とか「神がかり」ってのは、人間が何かの拍子に、そういうコンピユータみたいな情報のプールとデタラメにつながってしまうことなのかもしれないよね。

村崎　これも広義では電波系なんだけど、前世の記憶を沢山持っている連中って、けっこういるじゃない。自分の前世はアトランティスで戦士をしていたとか、レムリア大陸でイイ顔のオヤジやってたとか言う連中が。そういうのって「世の常識」ってやつで考えれば、どこに出しても恥ずかしくない立派なキチガイだよね。だけど「彼らは誰かの生まれ変わりなのか、それともキチガイか」という考え方以外に、オレにはもう一つ「アカシック・レコードからたまたま、故人の記憶の断片が連中の頭の中に流入してしまい、別の人格の記憶を植えつけられ

*エドガー・ケイシー　一八七七―一九四五。ノストラダムス、J・ディクソン夫人と並んで三大予言者とよばれる人。自己催眠中に未来を透視するという特殊な能力を持っていたと言われている。その特異な能力で多くの病人を治癒した一方、今世紀末には日本やアメリカ南西部が沈没するといった物騒な予言もしていた。

てしまった」という場合も考えられるんだよなあ。みんなも自分の記憶が本当に自分のものなのかどうか、一度検証してみた方がいいぜ。どこまでが現実で、どこからが妄想や電波なのかなんて、けっこう怪しいんだから（笑）。

根本　そもそも現実なんて、かなり怪しいわけだからね。

村崎　だからオレがここで根本さんと話しているのも、実はどこからかやってくる電波や情報が見せるヴィジョンで、実際のオレは十歳の時に海で死にかけて意識を失ったまま、どこかの病院で植物人間状態のまま、何十年という長い夢を見ているのかもしれない。オレのこれまで体験した現実は、案外みんな、どこかの植物人間が見ている夢だったりしてね。

根本　荘子が見た、胡蝶の夢のようなものかもね。

――夢野久作の『ドグラ・マグラ』*にも「胎児が生まれる前に見る夢」みたいなくだりが出てきますよね？

村崎　やたらとチャカポコ・チャカポコいう話だよな。オレも昔、拾った文庫本で読んだけど、あの『ドグラ・マグラ』っていうのも、たいした電波小説だぜ。夢野久作は夢電波（九七ページ参照）のタイプだよな。タイプはちょっと古いんだけど、読んでいるうちに何が何だかわからなくなってくるという、ああいう目くらましみたいな小説は、「自分の立っている現実が怪しくなってくる」という点で

＊夢野久作の「ドグラ・マグラ」――夢野久作（一八八九－一九三六）の代表作。狂人の書いた推理小説／胎児の夢が犯人、という特異な状況設定のもと、千五百枚の書き下ろし作品として昭和十年一月に自費出版され、大きな反響を呼ぶ。九州帝国大学医学部の精神病棟で意識を回復した「私」こと呉一郎は、自分の名前も過去も思い出せずにいた。そんな「私」の前に現われた法医学者の若林は「私」が精神病科担当の正木教授の「解放治療」の実験材料になっていることを告げる。「私」は実母と許婚の少女を殺し、さらに病棟患者五人を殺傷したのだというのだが、真相は記憶が戻らない限り明かにされない……「これを読了した者は数時間以内に一度は精神に異常をきたす」という噂がまことしやかに流された、曰くつきの奇書。

電波の干渉と非常に良く似ているな。
　たぶんそういうのがエスカレートすると、根本さんの『亀ノ頭のスープ』に出てくる「ミクロの精子圏」*の〝妄想科学〟に発展するんだろうな。
根本　あれ、村崎さん気に入ってますよね。
村崎　あん中で村田が吉田佐吉にムチャクチャにシゴきまくられて、もう何が何だかわからない状態にまで追い詰められて、そこから妄想のパワーで極限まで小さくなって息子のチンポの中、「ミクロの精子圏」へ旅をするというくだりをはじめて読んだ時、本当に見てはいけない世界を見ちゃったような気がしたよ。いまでもあれを思い出すと背筋が寒くなるね。
　その感覚って、ゴッホの『鳥のいる麦畑』*の絵をはじめて見た時に感じた不安とすごく似てる。死の果てにあるヴィジョンとか生まれる以前に見た風景とか……とにかくあの漫画が何かの極北を暗示し象徴していることは間違いない。根本さんがアレ書いてた時って、どういうことを考えてたんですか？
根本　覚えてない(笑)。けっこう寝ないで三十ページとかぶっつづけで書いたりしてできたものだから、けっこうトリップ状態に近いもので書いたことは確かだけどね。
村崎　本人は気づいてないかもしれないけど、根本さんも絶対にいろんな電波を

＊「ミクロの精子圏」―「亀ノ頭のスープ」に所収されている根本敬の漫画。「精子三部作」の第二作目。代々不幸の絶えない村田家、その原因がＤＮＡにあることを知った村田藤吉は、マッド・サイエンティストにして演歌歌手の吉田佐吉とともに妄想科学の応用でミクロ化し、折しも交通事故で瀕死の長男義明の精子へと冒険の旅に出た……。


は〜るばる来たぜホルモ〜ン
渦巻く小便のりこえて〜
おう父っつあん やっぱりホルモン中 ってのはまァ随分と こりゃ珍しい 景色だない
ハァ〜〜

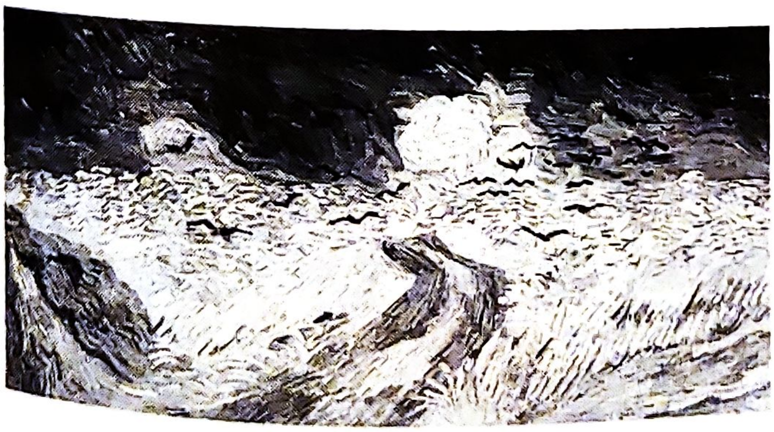
受信してるよ。いろんな人間の想いや願いや、しょーもない欲望とかが全部入ってきて、そういうのが根本さん内部でナベ料理みたいに調理されて『亀ノ頭のスープ』ができあがってくるわけ。すると特殊料理コース「根本敬」のメインディッシュは、やっぱり未完の大作『未来精子ブラジル』なんですかねぇ？

根本　いやいや、村崎さんといっしょで、『〜ブラジル』はとりかかろうとすると、イロんな妨害電波が押し寄せてくるんで（笑）、難航してます。

村崎　えー、オレといっしょって、まさか〝ナマケ電波〟じゃないんでしょうね（笑）。まあ、同じように電波を受けても、「陰謀告発のチラシ」に代表されるような怪文書を書く奴もいれば、殺人事件を起こしてしまう因業な奴もいる。電波の干渉をうまく芸術や作品に実を結ばせることができる連中なんて、幸福な方かもしれないね。ゴッホ*やルドンやゴヤやムンクといった連中の絵を観てても、電波というかヴィジョンつうか、なんか常人には見聞きできないものを連中が受信していたことは間違いない。オレが言うんだから本当。

根本　話は変わるけど、オレんちの実家って、昔くみ取り式の便所だったんですよ（笑）。で、飲み水もまだ井戸水だったんで、一時うちの家族で噂が流れてね、どうも最近水が臭いから「もしかしてトイレのタンクのどこかにヒビが入って、そこから汚水が地下水に流れ込んで、混じってるんじゃないか？」ってね。そう

＊ゴッホの「烏のいる麦畑」——ゴッホ（一八五三–九〇）はチョー有名なオランダの画家。最晩年の作品である「烏のいる麦畑」は観る者をたまらず不安にさせる不吉な絵の代表格。「麦畑の中心をまがりくねった道が続き、その上空を烏が何羽か飛んでいる構図自体がとってもイヤ〜ンな感じ。【村崎】



いう感じで、いろんな意志とか想念とか情報が溜まってるとさ、それがどっかからまた時空を超えて、漏れ出してるのが、電波の発信源だったりするのかもね。

村崎　そうですね、「流入」っていう感じに近いですよ。そもそもあいつら電波に何か明確な意志があるかどうかは、はっきり言ってオレにもわかんないんだ。悪意を感じる時もあれば暖かい善意を感じることもある。それで善意の方を汲み取って「人類の進化を温かく見守る、高次の知性」とコンタクトしたと言い張っている連中もいるしね。

根本　たとえば？

村崎　アメリカにジョン・C・リリー*っていう、けっこう神経系がブッ飛んでる科学者がいてさ……。

――あー、映画『アルタード・ステーツ』のモデルになった人ですよね。

村崎　そうそう。でもって、このリリーっていうのは、なにせ奥さんとか周囲の人間よりもイルカに優しいんで、ニューエイジ界ではけっこう有名な爺さんなんだけど、もともと脳とか神経の学者でさ、イルカに英語を教えたり、ＬＳＤだのビタミンＫだのといった〝気持ちイイ薬〟キメてタンクに入って内なる声に身をゆだねたり……そういう実験に取り憑かれていたってことは、もうほとんど吉田佐吉の妄想科学を地でやってたような、マッドすれすれのサイエンティストなん

＊「未来精子ブラジル」―「タケオの世界」「ミクロの精子圏」と並び、根本敬の「精子三部作」の最後を飾る未完の大作。二〇〇一年ブラジルの奥地に大東亜戦争真っ只中の日本そのままの生活を送る日系人部落があった。彼らは〝勝ち組〟（日本の敗戦を信じず、それどころか勝ったと息巻き、「負けたんだよ」という同胞にテロ行為すら働く妄想系の方々）の末裔で、おまけにケシの実の雑炊や、ある種のキノコ、サボテンの煮込み等々を主食にしていたので、時間の感覚から解放されていたのだ。在郷軍人鈴木定吉は二〇三〇年のある日、裕仁天皇百三十一歳のお誕生日（天長節）に小國民の前で偉い訓示をたれていたところラジオの雑音の中に「本土決戦／天皇陛下神武以来のご出陣」の情報をキャッチ。村民は皇軍の圧倒的勝利と戦争の終結～大東亜共栄圏の成立を確信し、多いに沸くのだが、中でも定吉は辛抱たまらず、祖国ニッポンへと渡り、決戦に加わることを決意する。しかし


それから30年。定吉は周囲の期待に応え立派な軍人に育った。
ギラ
ギラ
ウム 日本晴れ だない
擧國一致
國民精神總動員
在伯軍人協會本部
盡忠報國
ウォホン 少國民の皆サン 本日四月二十九日は天皇節 かしこくも、我が 天皇陛下がお生まれ あそばした日である
礼っ
國民學校
天長節記念式典
これより 在郷軍人会 会長、鈴木殿が 有難いお話を して下さる


天皇陛下は今年、御歳百三十一歳に成らせられる
陛下は御恵み深く私どもを我が子の様に御す愛がり下さるのである。
私どもがこの有難い陛下をいただいていることは、どんなに幸せなことでありましょうか 私どもはこのめでたい日を心からお祝いするのである
天皇陛下
万歳
んが んが
定吉っちゃんフンットに立派ン成ったない
あげん孝行息子ば持ってオヌシはまこと果報者たい
ウワ〜〜〜 クンツとに有難いこったよ

ですけどね。ある日リリーが隔離タンクに長風呂よろしく延々と浸っていると、コンタクトしちゃうんだよね、その「人類の進化を温かく見守る、高次の知性」ってやつとさ。
でもさ、はたから見たら、それって憑き物と何ら変わらないんだけど、その存在のことをまたリリー爺さんがさ、「E.C.C.O.(地球暗号制御局)」なんてもっともらしい名前で呼ぶと、オシャレでカッコいい感じになるから凄いよね。

——オシャレっつうか、アニメか特撮SFの見過ぎって感じもするんですけど、イイ歳のおじいちゃんでしたよね。

村崎　まあ、「神」とか「お稲荷さん」って呼ぶよりも、なんかそれらしいじゃん。オレも自分のところに来る電波に、気のきいた名前をつけてやろうかな。「よだかの星」じゃないけど「市蔵（いちぞう）」というのはどうだろう？　ダサくてみっともなくてイイゾウ。

発信系と受信系——含・淫波の話(たぶん妄想)

根本　ところで放送とか通信以外でも、実際に人間が電波というか〈念波〉というか〝見えない声〟を発している場合もあるんでしょう？　村崎さん、街中でよく受信してるじゃないですか？

精神力で泳いで(!)渡った日本は、変わり果てた姿に……「ガロ」での第一部連載終了後、九二年春には早くも刊行が予定されていたが、書き下ろしの第二章が圧倒的な電波傷害を受け、遅れに遅れているというもっぱらの評判。

*ジョン・C・リリー——一九一五年生まれ。アメリカの神経科学者。イルカと人間の異種間コミュニケーション研究や、アイソレーション・タンクという感覚遮断装置に入って瞑想する……などのかなり電波な人体実験実験で知られている。後者のエピソードは「サイエンティスト」(平河出版社)に詳しい。左図は映画「アルタード・ステーツ」より。



村崎　それは絶対ある。人々の願いや想いが電波となって飛び回るのは、オレはしょっちゅう感じてるよ。なにせ蒸し暑い夏の夜の東京上空には「女とやりまくりたい！」とか「男にハメ殺されたい！」っていう、発情しきった男女の強い念が〝淫波〟となって無数に飛び交ってるんだから。あとクリスマスやバレンタインデーあたりも多いね。そうすると敏感な奴らがそれに反応して、普段はヘソまでしか出さないオネエちゃんが胸まで出しちゃうとかさ（笑）、そんな罪つくりな状況を生み出してる。発情するのは勝手なんだけど、受けとるオレの身にもなってくれ！　って言いたいね。

根本　だけどさ、電波にも送り手と受け手の「タチとネコ」があるでしょ。ちょうど岡本太郎*がタチだとしたら、横尾忠則*がネコ（笑）。

村崎　そうそう。あの二人は典型的だよね（笑）。オレは受信も発信もするクチだから、いわば電波のバイセクシャルってわけだ。

——ところで「淫波」ってそんなに凄いんですか？

村崎　ああもう、そりゃあ大変なもんだ。別に市井を飛び交っているのは淫波ばかりじゃないんだけど、オレ自身が相当にスケベなせいか、その種の電波には特に敏感なんだなあ……発情したオスとメスの〝やりたい／やられたい〟の性欲が黒い雲みたいに立ちのぼってきて、東京上空にどんよりとたまっているんだ。ち

*岡本太郎—一九一一-九六。洋画家、彫刻家。大阪万国博覧会でメイン・パビリオンの「太陽の塔」をデザインした人。「芸術は爆発だ！」とか「グラスの底に顔があったっていいじゃないか」といったキャッチーでスパークな台詞で一躍有名になる。

*横尾忠則—一九三六年生まれ。グラフィック・デザイナー、美術家。神戸新聞社をへて六〇年日本デザインセンター入社。サイケデリックなポスターやイラストを手掛け、時代の寵児となる。八二年から洋画へと転向。この頃からUFOやインドに関心を示すようになり、よくわからんが宇宙人や天使や死んだ知り合いが毎晩訪ねてくるらしい。半村良の「妖星伝」や、サンタナやマイルス・デイビスのアルバム・デザインもかなりキていた。【村崎】

ょっと違うかもしれないけど「オルゴン・エネルギー」ってそういうコトだったのかなあ……ライヒ*っていう共産主義に心酔して、これまた晩年イッちまった心理学者が主張してた「限りなく妄想に近い性エネルギー」なんだけどさ。

根本　ああ、それも妄想科学系ね。

村崎　何だか知らないけど、気がついたら股間に手が行ってキンタマ握りしめてたりする夜ってあるじゃないですか（ねぇよ：編集部注）。そういう夜はだいたい淫波が強いんですよ……こういうコト言うと「いよいよこいつはキチガイ」って思われるけど、そういう夜、オレは自宅のアパートで、「いまこの瞬間、女のオッパイに手をかけてる野郎が東京都内に数千人いる」なんてどーでもいいことがわかっちゃうんですよ。『ドラゴンボール』じゃないんだけどさ、頭の中の隅っこの方にスカウターみたいなのが何百種類もあってさ、カシャカシャすさまじい音立ててデジタルの数字が常に変わってるわけ。それについては一つ一つ意味があって、たとえば自分の余命が秒単位で表示されていたり、人類の有史以来の性交の回数とか、絶頂の回数なんかが表示されたり、グラフ化されたりしてるんだ……あとね、その横に危険度メーターみたいなのがあって、これがまた面白いんだ。自動車が近づいてくるとグーッと数値が上がってさ、でまた通り過ぎるとグーッと下がったりとかさ、崖の近くに行ったり、凶暴そうな／ヤバい人間が近づ

*ヴィルヘルム・ライヒ一八九七－一九五七。オーストリアの精神分析学者。フロイト左派として名をはせるが、ナチスに追われて三九年にアメリカに亡命。その頃から精神に支障をきたし、この「オルゴン・エネルギー」という（限りなく妄想に近い）生体エネルギーを発見したと主張、当局に収監され刑務所で死亡した。かわいそうな妄想科学者。

いて来てもグーッと上がったりするんだ。

一同　…………。

村崎　まあ、典型的なキチガイにありがちの妄想なんだけど、こいつは便利でいいよ。本当かどーかは知らないけど一応参考にはしている。

根本　いわば本能みたいなものが、数値化されて見えてるんでしょうかね。

村崎　半分以上妄想かもしれないけど、残りの半分は本能的なものと直結している気もするな。いわば原始的な感覚なんだろう、危機に敏感だったりするのは。

で、話を淫波に戻すと、強姦事件の陰にもそういう淫波や電波のささやき声ってのが微弱ながら影響していると思う。かくいうオレも「やっちまえ、やっちまえ。やるんだ、いまこの女をやらないとお前の人生は先に進まないぞ」って調子の声はずいぶん聞いてるからね。

根本　そういえば、これもピンクレディの曲でもありましたよね。〽やっちゃいな、やっちゃいな、やりたくなったらやっちゃいな♬　って。

村崎　アレは間違いなく聞いている連中の潜在意識に影響するぞ〜。あれで起こった強姦事件ってのもおそらく二百件以上あるだろう。「ああ、そうか、やっていいんだ」って思っちゃってさ。

そういえばオレが以前、人から伝え聞いた「電波に命令されて人を刺殺した」

っていう事件も、実は犯人が言っていた電波云々の証言は新聞には載らなかったんだ。どうも警察が伝えたがらなかったみたいでさ……それは裁判があるからかもしれないけど、やっぱり知ってるんじゃないかなあ。こういう話を新聞やTVで流しちゃったら、常に電波を受信している人間がそれを見て「ああ、やっぱりこいつもそうだったんだ、電波には逆らえないんだ。きっとオレも駄目なんだ、電波の命令に従って人を殺すしかないんだ」って諦めちゃう奴が出てくるってのをさ。

電波系の人間の中にはそうやって精神崩壊ギリギリのところであらがっている奴が何人もいるんだ。「ヤツらの言うことを聞いちゃいけない、これはオレの身体だ！」って必死で暴力衝動を抑えてる奴らがね。それはとっても孤独で深刻な妄想戦なんだよ。敗けたら人殺しして、監獄か病院に行くしかないんだからさ。

根本　それも精神科医に言わせれば、全部ひっくるめて「自分の中の欲望」なんでしょう。自分で自分に命令して、別の自分がそれを否定するという自作自演の「葛藤」ドラマって本当ですか。

村崎　そうだね、その通りかもね。医者には、「他人に注目されたい」っていう自己顕示欲と、自己憐憫からくる「狂言」と思われるのがオチだろうな。オレはそれを否定も肯定もしないよ。真実なんか一つじゃないって思ってるし、「自分

の感覚や思考が絶対に正しい」なんてこれっぽっちも考えちゃいないからさ。それと同様に精神科医の連中のいうコトも全面的に正しいと思わない。たしかなのは、しょせん〈電波系〉は常人から見ればただのキチガイってことだよ。もちろんオレも含めてね。

とっても怖い自殺電波

根本　電波に敗けちゃうと、悲惨な結果しかないのかな。

村崎　「声」に敗けて自殺する奴もいるよね。「死のうよ、もういいだろう、楽になろうよォ」って無責任に語りかけて来るんだ。いわゆる「自殺電波」を受けてさ。
　ホントに白鳥のささやきみたいなもんで、聞いてると引き込まれそうになっちゃうんだよ……ちょっと違うんだけど森田童子の唄みたいなモンだよな。とにかくそういう声というか、死にたくなる気分にしてくれる電波は、そこらじゅうに転がってる。それに対してはオレはもう「ああ、ハイハイ。今度ね」って感じで、滅法強くてさ、下手したら増幅して隣の奴にパスするくらいのことができちゃう。

根本　「どやー」とか言って、やって来る新聞拡張員みたいに勧誘してくるわけだ(笑)。

村崎　そうそう。だから「どんなことがあってもめげずに強く生きようねー」っ



ていう前向きな〝元気の出る〟電波もたまにあるんだけれど、本当にネガティヴで「ねぇ死のうよー。もーダメだよー」みたいな感じで、嬉しそうに誘ってくる声も、けっこうある。そういう電波を受けちまった奴の中には、「そうだなー、このへんでいいかなあ」って説得されて死んじまう奴もいるんだよ。

ちょっと前に『ブロードキャスター』っていうニュース番組の中で「自殺は伝染する」っていうレポート……つまり特定の自殺が引き金で関係者や友人が後追い自殺をするってケースはまま見られるが、さらにテレビとか新聞雑誌とかいわゆるマスメディアが、その詳細を声高に伝えると、わざわざ遠隔地からその街へやってきて自殺するような連中も必ず出てしまう。だから我々は自殺報道のあり方を考えなくてはならない……っていうルポが放映されたんですよ。で、たしかにその通りなんだけど、そういう連鎖自殺ってあながちマスメディアだけのせいでもなくってさ、ある特定の場所に強烈な〝磁場〟を残して死んだ奴の痕跡って、別にマスメディアを媒介にしなくても、「電波」とか「集合無意識」みたいな、別の情報系を経由して、他の人々に伝わっちゃうんじゃないのかなあ。

根本　最近、話題なのが、頻繁に人が飛び込むＪＲ中央線沿線とかかね。

村崎　〝死ぬ／死なない〟は最終的には個人個人の闘いでしかないんだから、オレも余計なお世話はしたかないんだけど、電車が止まるのは単に迷惑だからヤメ



てくれって思うだけ。オレも工場に行く通勤途中が突然電車が止って「○○駅で人身事故がありました関係で〜」なんてアナウンスが入ったら、発狂モードで腹立てちゃうぜ。「コンの忙しいのに、わざわざオレの通勤区間で飛び込みやがってクソ野郎が！」って自殺した奴のことを殺したくなる！　誰もそんな奴に同情なんかしねえよ。

根本　真夏の通勤タイムとかさらに悲惨ですよね。エンドレスのオヤジ臭い満員電車で汗みずくなんて、生き地獄でしょ。村崎さんだったら、自殺した奴の遺族まで一人残らず殺したくなるんじゃないですか？

村崎　もちろん！　一族郎党皆殺しにしてやりたくなるね……だけどさ、鉄道に限らず、高い高い塔のてっぺんに立ってみたら、フラフラと足を踏み外して落ちてみたい衝動にかられることって、誰にでもあるじゃない。何もない広い部屋に閉じ込められて、手元に針がたった一本だけあったとしたら、絶対に指先つっついてみたくなるものでしょう。そういう衝動を増幅させる〝何か〟ってあるんだよね。だから「自殺電波」にも、場所を選ばず受信可能な奴なら誰のところにも届くという浮遊霊タイプの「自殺電波」と、特定の場所や空間に記憶され、その領域を通過する人に呼びかける地縛霊タイプの「自殺電波」があるんだよ。

根本　因果な場所ってわけね。オレの家の近くの、例の鉄塔もそうなんだな。



――いわゆる「電波犯罪」のような事件も最近とみに目立ってきているようにも思えるんですが、そのあたりは村崎さん、どうお考えですか？　そこで殺人や犯罪をそそのかすのは「自殺電波」の裏返しというわけですか？

村崎　**他人を殺せっていう命令口調の「殺人電波」ね。電波にそそのかされて起きた〈通り魔系〉殺人事件は、有名無名を問わずいくらでもあるよなあ。深川通り魔殺人事件のK保軍司とか、海外だと「サムの息子」とか「ヨークシャーの切り裂き魔」ことピーター・サトクリフとかさ。ああいう連中が捕まると必ず言う「オレは悪魔（サタン）を倒した！」だの「完璧な世界がもうすぐやって来る」なあんて調子のスーパー・シュールな発言は「イカにも電波系」って感じて、お茶の間の視聴者の皆さんにゃバカ受けするんだろう。他人の不幸は鴨の味、無責任に面白いからなあ。**

根本　**陰惨な事件引き起こして「電波の声に命令されて……」みたいな言い訳されんじゃ、被害者や遺族は納得できないけどね。**

村崎　たしかにオレの経験で言っても、不思議とアタマでは「こんなことやっちゃいけない」ってわかっていても、あらがえない種類の命令電波ってあるんだよ

＊深川通り魔殺人事件のK保軍司―「電波事件簿」（一四二ページ）を参照のこと。

＊「サムの息子」―本名デイヴィッド・バーコヴィッツ。一九七六年の夏から翌七七年の春にかけてニューヨークを恐怖のどん底におとしいれた44口径の銃による無差別連続殺人事件の犯人。逮捕後に「犯行は悪魔の声に命令された」と主張し、「近所に住む老人サムの正体は実は数百歳の悪魔で、飼っている犬の遠吠えを通して自分に殺人を命令していた」などというブッ飛びモノの犯行理由をぶちあ

〈九三ページ、感情操作系の電波の項を参照〉。

その時の体のコンディションにもよるんだけど、若い頃はオレも電波を受信して、勝手に手が動いたり、引きずられてどっか行っちゃったりすることがずいぶんあったからね。それも意識はハッキリしてるんだけど身体が動くのを止められない場合と、意識そのものが朦朧として電波に操られていた間に何をやったか覚えていない場合があって、もう絶対に後者の場合がヤバイ……精神衛生上良くないから、なるべく思い出さないことにしてるけどさ。

根本　勝手に動いてしまうって、どんな感じ？

村崎　「あっ、きたな」って気づいた時はもう遅くて、自分の身体がまるで他人のそれのように動くんですよ。面白いぐらい自分の意志とは無関係にね。わりと無味無臭って感じの地味な電波なんだけど、いつどこからやって来るかわかんないから恐いんだ。まるで何かこう、深いところから来る命令みたいな感じで反射的に動いたりするわけ。最近オレも……これを言葉で説明するのは難しいんだけど……ギリギリのところでそれをセーブするテクを何となく身につけてるから、そう安易に操られることも少なくなったけど、そういうテクをもたない電波系若葉マークの奴らは本当に操られるがままになる危険性あるよ。変な話だけど、そういう電波って特定のモノや場所に付着していて、地雷や罠のように人がひっかか

げて、めでたく人気電波犯罪者の地位を獲得。本人の有罪答弁により三百六十五年の禁固刑が確定した。【村崎】



＊「ヨークシャーの切り裂き魔」ことピーター・サトクリフ一九七五年夏から八〇年の冬にかけてイングランド北西部で起きた連続殺人事件の犯人。合計二十人の女性を襲い、十三人を惨殺した。「サムの息子」が自分の凶行を悪魔のせいにしたのとちょうど正反対で、こちらは逮捕後に「犯行は神の声にしたがった結果」と主張。何でも「墓地で墓堀りの仕事をしていた時に丘の上から神の声が聞こえてきて、〝町へ出て娼婦を殺

るのを待っている感じもする。敏感な電波人間は、そういう電波につかまるのを怖れてブルブル震え、家に閉じこもってたりする日もあるんだよ。

　奇特なことに、この手の「人を殺せ」という犯罪電波を受信したために自殺しちゃう奴もいる。「加害者になるぐらいだったら、自分を殺してやる」ってことでな……とことん他人に優しいタイプの馬鹿だよね。オレなんか百億年生きてもそんな気にはならないぜ。

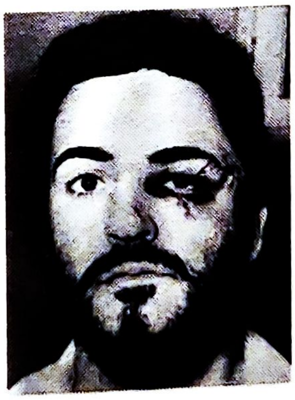
根本　ところで村崎さん、ホントに完全に免疫あるの？　その手の「そそのかし電波」に。

村崎　正直言うと完璧にやりすごす自信なんてないですよ。その気はなくてもいつ皆さんを襲うか、それは保障できない。でも、いよいよ電波に身体が乗っ取られて、友人知人を殺すはめになったら、その時は手加減抜きで渾身の力をこめて、一撃であの世に送れるよう頑張るつもりだよ。一生残る後遺症で友人を苦しめるぐらいなら、一撃で殺すのがせめてもの「優しさ」ってもんでしょう。

一同　（苦笑）……。

村崎　だから根本さんもキムラさんも、今後オレといっしょにいて「これはヤバイ」って感じたら、遠慮なくダッシュして逃げるか、後頭部を思い切りブン殴るなりして、俺殺してでも必ず生き残ってね。絶対恨んだりしないからさ。イヤ、

せ″と命じられた」というからあきれた話である。神だろうと、悪魔だろうと頭の中に聞こえてくる声の命令なんてロクなもんじゃないという良い例だ。【村崎】



これは冗談じゃないよ。

——まあ、そういう悲劇が起きないよう、あなたのお話は体力の続く限り誠心誠意拝聴するつもりですが（この時点で村崎の訓話を一同六時間近く聞かされている：編集部注）……。

村崎　ついでに自分の勧誘体験を話すと「罪を犯そうぜ」って声もたまに来るよ。漠然と悪行を呼びかける声もあるんだけど、中には細部にわたるまで事細かく指示を出してくる電波もあってさ、「何月何日何時何分、ある場所のここからこういう風に忍び込んでこうこうすると金品がこれだけ手に入る」なんて明確に教えてくれたりするんだよ。

根本　親切だよねー（笑）。

村崎　だけどオレは電波を完全に信用しちゃあいないから、最後まで実行したことはないけどね。途中まで行ってみると電波の言う通りの道や建物があって、その窓の鍵が外れていたりするんだよ。もっとひどい電波になると完全犯罪の殺人の方法まで教えてくれる。「何月何日、何時何分何区の何丁目の何何の路上でナイフ持って待って、来た男の後ろからこうやって刺して殺して、どこそこへ逃げてナイフをこのように処分すれば事件はお宮入りになる」ってね。そういう情報がさ、望んでもいないのにチラチラ来るんですよ。



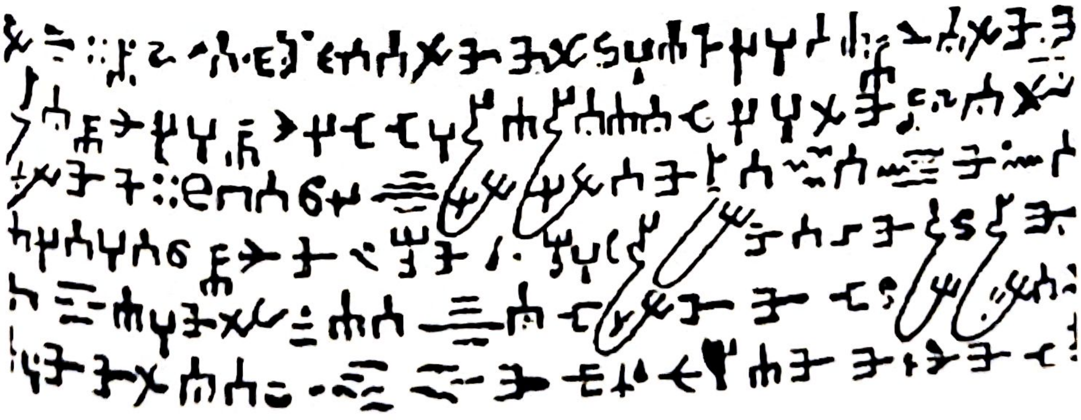
根本　殺人の「コーチ屋」だよな。でもうまくいってもあとが怖そうじゃない。

村崎　十七歳ぐらいの頃かな、一度だけさ、場所も街の名前も言えないけど、この殺人電波が本当かどうかってのを知りたくて、行ってみたことあるんだ。電波の指示した「ここで殺せば完全犯罪」っていうところへね。それは街を見下ろすような中ぐらいの大きさの公園だったよ。

　その当時、おれにはごく普通の殺人衝動があってさ、人間として生まれたからには「人の一人ぐらい素手で殺しておきたいな」ぐらいの気持ちって、若けりゃ誰でもあるでしょう？（そんなことはありません：編集部注）で、待ってたのよ。夕暮れの指定された時間に公園の奥の、めったに人が散歩しに来ないようなところでね。そしたら電波の指定した時間に、電波で聞いたのとほぼ同じ格好をした奴がホントに歩いて来やがんの！

根本　それで？

村崎　でもね、さすがに襲いはしなかった。そこで満足したんだ。別にやっても良かったんだけど、オレは根底で電波のことを信じてないからさ。一つ二ついい目に会わせといて、最後に思いきりしっぺ返しするような電波の巧妙さ狡猾さずるさってのは、小さい頃から嫌というほど体験してきたんで、そこでやめた。その判断はいまでも賢明だったと思うよ。



だけど、これには後味の悪い後日談があってさ、一か月ぐらい後に、全く同じ場所でシンナー吸いすぎて死んじゃった奴が出たんだ。高校生だったかプータローだったか忘れたけど、とにかく同年代ぐらいの若い奴。だから、たぶん俺が殺しをやらなくても、やっぱり誰かが死ぬことになる因果な場所だったってことなんだろう。

――なんかヒドい悪場所だったんですね。

電波と呪殺とヤク中と……

村崎　もう一つ別の話なんだけど、オレは時々電波を受信中に複雑に絡みあった他人の因と果が見える時があるんだ。壮大なヴィジョンが一瞬でパァーッと見えるのね。たとえばある人を殺したいと思うでしょ？　そうすると、その人と自分をとりまく因果や磁場が過去から未来までずーっと全部見えるの。そのヴィジョンのイメージは、ちょうどジャングル・ジムのまん中に入って外を見た時みたいでさ、透明の3D立体アミタクジみたいな感じかな。因果の座標が見えちゃうわけだ。見えたと同時に、そいつを死に至らしめる方法ていうのも瞬時にアタマの中に流入してくるんだ。それは間接的に、数億とか数千万の過程を経て、狙った相手にとどめを刺すような、壮大なスケールの「風が吹けば桶屋が儲かる」効果

だよね。

根本　たぶんそれって魔術で言う「呪殺」*みたいなものかな。

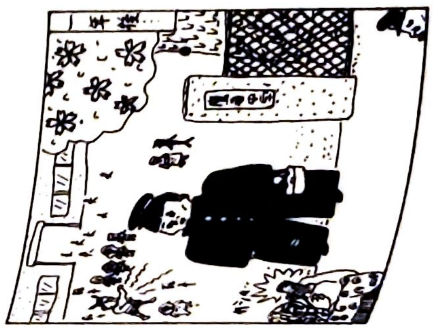
村崎　そうそう、たとえばある男を死に至らしめる複雑な行程の最初の一歩は、「全く関係のないある家の窓に石をぶつける」とか、そういうものすごく遠いところからはじまるわけ。憎悪の経絡みたいなものがあって、そこの「秘孔」を突くようなものかな。目指す本人とは全く関係のないあたりに小さな憎悪を振りまいて、それが因果の波に乗って雪ダルマ式に憎悪を増幅して相手を襲うんだ。

たとえば石を投げて窓を割るでしょ。割られた家の奴らには理不尽な暴力に対する「畜生！」という憎悪がほんの一瞬沸き上がり、意識の底に蓄積される。そういう蓄積された憎悪が、何年か先の誰かに対する八つ当たりの中に噴出したり……そういうのが複雑に絡みあい増幅しあって目指す相手を襲う。極端な例だけど、殺したい相手がサラリーマンなら、その直属の上司にストレスがたまるように因果操作をして、その上司が部下に対して無茶な命令をするように仕向け、狙った相手を過労に追い込み、そいつを死に至らしめる病気を呼び込むきっかけを作る。

これが因果操作による「呪殺」ってわけだ。実際はもっと複雑で何工程もあるんだよ、何年もかかるしね。こういうのは成功しても誰も「殺人」とは思わない

*呪殺—こういうことか（左図）。





だろうな。

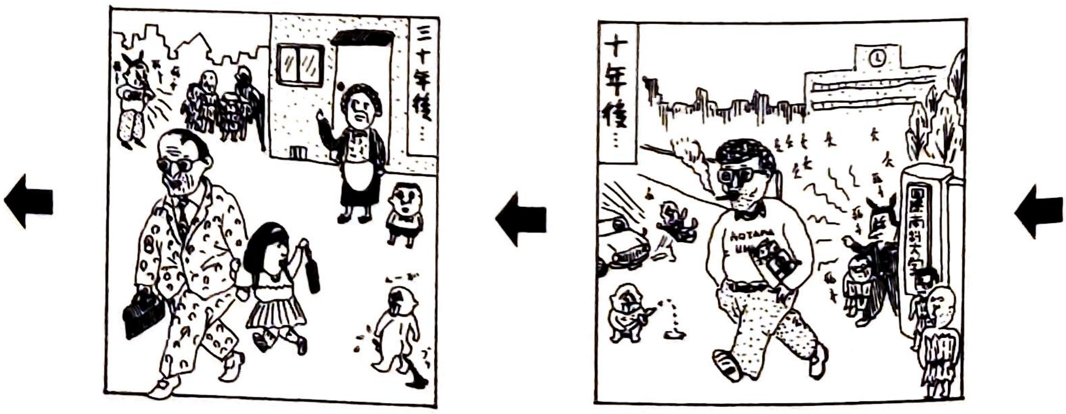
根本　そういうのって、赤塚不二夫の漫画『おそ松くん』とか『もーれつア太郎』なんかにも、ありましたよね。

村崎　因果を操作するきっかけになる行動ってのも、看板倒すとかさ、犬殺しちゃうとか露骨に憎悪を高めるものもあるけど、逆に全くそういうところから遠い行動もあるわけですよ。ガムを吐き捨てるとか階段に空き缶を置いとくとかさ。だけど、そういうことって、みんな知らず知らずのうちにやってるんだよ。誰かの憎悪が蓄積されるような行為ってのをさ。

根本　だから、誰かが殺人事件を起こすようなきっかけっていうのは、警察が発表してみんなが納得するような単純なモノガタリだけじゃないってことだよね。

村崎　そうそう、直接の原因は他にあったとしても、殺人犯の憎悪を増幅させるのは世間の冷たい目だったり、日常生活の中での他人からの配慮に欠けた行為だったりするんだよな。

たとえば食堂に入って、店員がお茶を持ってくるのを忘れたりすることってよくあるじゃない。そういうのも被害妄想の強い奴は、「畜生！　オレがこんなナリしてるから馬鹿にしやがって」ってホントに本気で恨むからね。そういうので殺人事件が起きてもちっとも不思議じゃないよ。だから、逆に言うと、人を殺人



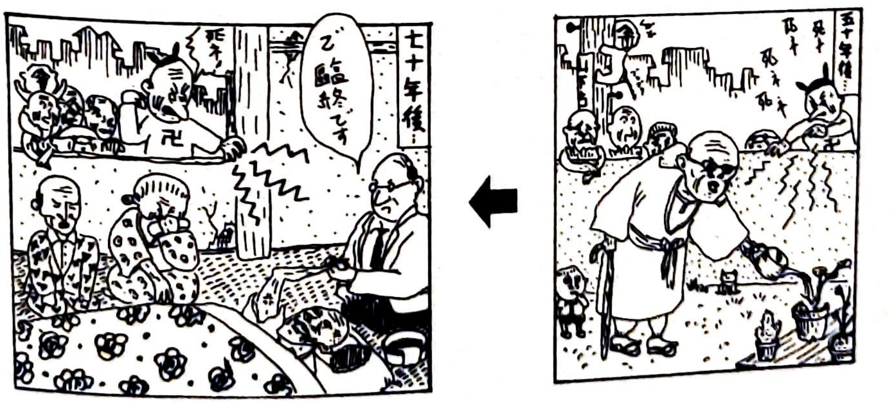
に踏み切らせる要因みたいなものを、みんな日常生活の中で無意識に数限りなくやっているわけですよ。オレにはそういうのが見える時もあるっていう話。そういう意味では、オレだっていままでずいぶん人殺ししてるよ。

根本　みんなも平和そうに善人ヅラしてるけどさ、そういう風に間接的には人殺しなんかに加担してるんだよね。

村崎　日本の法律ってうまくできたもんでさ、直接手を下した奴以外はあんまり強く罰せられないじゃない。甘いよね。朝の不快な満員電車なんか憎悪の増幅装置だよ。自分で憎悪をふりまいて、他人からも受け取っている。人間って絶えず憎悪を深めながら生きてる部分ってあるだろう、その逆ももちろんあるんだけどね。だから、厳密なことを言うと、おれたちはみんな新聞の三面記事を賑わすチンケな犯罪事件から大きな汚職事件まで、その全てに関わる共犯者だってことさ。罪のない奴なんていねえよ。

――おっと、鬼畜を自称するアナタがイエス・キリストと同じこと言ってませんか？

村崎　奴だってオレに言わせりゃ鬼畜だよ（笑）。オレらの住んでる現実世界ってのは本当に氷山の一角でさ、海面下には膨大な量の妄想や思いこみや憎しみや憎悪ややっかみや、妬みなんかの「見えない部分」があるわけで、そういうコトが



感覚的にでも解かってない奴が、電波とかヌかしても、それはフカシだよ。

——本書のタイトルでもある〈電波系〉という言葉もここ半年くらいでずいぶんマスコミで取りあげられたりして、人口に膾炙(かいしゃ)してきましたよね。でもって、みずからを「電波系人間」だとカミング・アウトする風潮も(真偽のほどはさておき)出てきたりするんですけど。

村崎　「エセ電波」には要注意。眉に唾しとけ。どーでもいい奴らだからさ。

——ところで電波事件にしばしば脇役として登場するものに、いわゆる覚醒剤というものがありますが、電波と覚醒剤の関係って、どういうものなんでしょうか？

根本　深川通り魔母子殺人事件をはじめ、たしかに有名な電波事件にはシャブ中の蔭が見え隠れしていますよね。

村崎　残念ながらオレはモノホンのシャブ中じゃないから、シャブと電波のマジな相関性なんか解説できないけど、その種の権威筋によれば、シャブをキメたからといって必ず電波が聞こえるわけでもないらしい。そいつにうしろめたい想いがあったり、被害妄想みたいな気分があった時、相乗効果としてマズいものが聞こえるってことなんじゃないかな。

ただオレの人生経験からいうと、たしかに麻薬と言われてるドラッグ関係は電

波受信効果を増幅させる力があるような気がする。その昔、「ドラッグやったら逆に電波が聞こえなくなるんじゃないか」と思って、イロイロ試してみたけど駄目だったから。

根本　それってどのあたりを試してみたんですか。

村崎　もう十五年以上前の話だからとうに時効だけど（良い子が真似するとイケナイんで（笑）具体的な名称は自粛しとくね：村崎注）当時入手可能だったものはひと通り人体実験したさ。それぞれ、それなりに酩酊効果はあったんだけど、こと電波に関しては例外なく音量が逆に上がるだけで完全にペケ。これならやらない方が絶対にマシだって確信したね。音量が上がるというか正確に言えば、電波に対する抵抗力が格段に低下して、えらく苦しくて危険な状態になるんだよ。ただでさえ狂っているのに、さらに輪をかけて二〇〇パーセントのキチガイになっちまう感じ。だから電波系代表ムラサキはドラッグを薦めません。

根本　でもダウナー系のやつなんか、だらしなくなりませんか？

村崎　んー、だけどオレにとっては「けだるさが心地よい」なんていう平和なもんじゃないんでねえ。無気力というよりも、電波に対して限りなく無防備になる感じだから、いつ電波に身体を乗っ取られるかわからないという恐怖の方が大きくなって、ヤってても楽しくないんだ。だいたいオレのアタマは普通の状態で、

もう充分にイッチまってるしね(笑)。

巷にあふれる通信電波は?

——そもそもメタファーとしての「電波」という概念がポピュラーになる一方で、いまは無線だの衛星放送だの携帯電話だのって、ホントに「電波」そのものが巷にも溢れかえっている時代*だから、それが妄想電波に拍車をかけているっていう図式もありませんかね。

村崎　そういえばオレの知り合いの話なんだけど、そいつの知人の地上げ屋&ヤクザ系のオヤジのところに、ある日突然神様が降りてきて(断るのもヤボだけど、電波だよ：村崎注)、病気や怪我を治すヒーリング能力を授かっちゃったんだって。別にそのヤクザオヤジはとりたてて善行を積んだり修行したわけでもないのにさ、突然にヒーラーになっちゃった。で、そのオヤジが言うんだってさ、「いまの時代、誰のところに神様が降りたって全然不思議じゃない。なんせオレみたいなどーしょーもないヤクザのところにまで降りてくるんだからな」ってさ。さっきの山野さんの漫画といっしょさ。実際そうだと思うよ。だから善良な電波も犯罪を誘発する悪い電波も、相手を選ばず沢山降っている……そういう時代なんだろう。

*「電波」そのものが巷にも溢れかえっている時代—地表と電離層の間には、多種多様な周波数の電波が(妄想ではなく現実に)飛びかっている。そして大抵の電波は(しかるべき機材を媒介することで)実際の音声として傍受することができる。神様や地球外知性体の所業ではなく、およそ“人間が人間に向けて発信している”電波なら、たいていの電波が受信できるという優れモノ……それが電波傍受マニア垂涎の品、広帯域受信機(ワイドバンド・レシーバー)だ。もともと無線のプロや技術者用のメカなのだが、秋葉原電器街のそのテの専門店に行けば、一般人でも楽勝で購入できる。店のオバチャンにレシーバーが欲しいと

だから神様とか電波がある日突然頭の中に訪れたって、いまはどうってことない、電波過剰の時代なんだよ。そういうことを踏まえて、「ある日突然電波が聞こえてきても慌てるな！」ってことをオレは電波先輩として言いたいわけだよ。あたりまえの話だけど、音が聞こえるという現象だけ考えれば、テレビやラジオやCDの方が電波よりもよっぽど凄い！ ヴィジョン見るにしても、映画やビデオの方がいまみたいにメディアが発達していなかった、昔の人間の原始的な能力がまだ残ってるってだけなんじゃないの。

根本　先祖返りみたいなもんかね？

村崎　だから古くてダサい奴らなんですよ。「オレも電波系」とかシャアシャアとヌかして「渋谷系」の親戚じゃないんだから、スカしてんじゃねえ！って言っとくよ。たぶん人間は太古の時代、そういう能力を多かれ少なかれみんな持ってて、遠く離れたところのことを察知してたんだと思うよ。進化の過程でそういう能力が失なわれたかわりに文明が発達し、それで無線だの放送だの携帯だのといった技術が発展したんでしょう。だけどテレビやラジオからじゃなくてアタマで電波が聞こえたなんて、全然珍しかあない。「だからどうなの？」っていう態度で接すれば、悲惨な事件は起きないんだけど、奴らも巧妙だからねえ。

根本　さすがに携帯電話とか無線の交信の会話なんかが具体的に聞こえること

いうと「あ〜ん、で何が聞きたいの、コードレス？」とかいって受信機を見立ててくれるという話だから、恐るべし傍受帝国ニッポン。メカを愛用しているマニアの話だと、一番傍受しやすいのが、携帯電話やコードレスホンの会話。続いてトラックやタクシー運転手の業務連絡など。船舶や航空機の発する無線、密かに部屋に取りつけられた盗聴器が発する電波なども、慣れれば受信できるという。ただし警察や消防署が連絡用に流す電波、これは暗号化されていて、市販のレシーバーでは音声には変換されないので念のため。

は、ないわけですか？
村崎　オレは受信機じゃねーって（笑）。声が聞こえるっていってもオレの場合、そんなインタラクティブなシロモノじゃないから、特定の誰かの会話を盗聴するような器用な真似はできないよ……全然不可能じゃないんだけど、精度は悪い。ただ、電話の会話のようなヒソヒソ声とか、携帯電話の雑音混じりの声みたいなのとか、混線してるような感じはよく聞こえるよ。
――携帯電話やＯＡ機器から出ている「電磁波が人体に有害だ」*とか、そういう指摘もありますけど、決定的な根拠はないようですね。
村崎　科学的なコトはそんなに調べているわけではないんだけど、携帯電話の普及が電波系人間のカムアウトに拍車をかけていることだけは確かだと思う。オレだってコギャルや女子高生や女子大生やＯＬや家事手伝いや主婦やババアが携帯やＰＨＳでどんな淫らで淫靡な会話をしているのか……もう毎日のように受信しちまってタイヘンだからな（それも妄想だよ、妄想：編集部注）。
――あと村崎さんが電波（妄想）を受信する契機として、他人のカラダやモノの一部に触れることがあったじゃないですか。
村崎　はいはい。でも直接触らなくても、意識を向けるだけで電波が聞こえることだってあるよ。たとえば空見てると飛行機に乗ってる奴らの声が聞こえてきた

＊携帯電話やＯＡ機器から出ている「電磁波が人体に有害だ」――高圧線や送電鉄塔の付近に住むと気がおかしくなるという噂は、ある種の都市伝説として広く人口に膾炙しているが、実際、そうした通常よりも電磁波環境の強い場所の住民に、めまい、脱力感、放心状態、頭痛、吐き気、不眠症、喘息、発疹といった症状を訴えるケースが多いことは、アメリカの一部などで指摘されており、北欧などでは住宅地に近接した送電線を地下深く埋める作業が推進されていたりもする。低周波、静電界、静磁界などを使った療法があるように、ある種の電波には人体を快癒させる効果があるが、その反面、強い電磁波が人体に与える傷害など、まだまだ究明されていない危険性がしばしば指摘されている。最近とみに多いのが携帯電話の電磁波問題で、これを糾弾する書籍は山のように刊行されている。ここではこれ以上深追いしないが、参考図書として『電波は危なくないか』（徳丸仁／講談社ブ

りね。たとえばいま、窓から向こうの高層ビルが見えるでしょう。オレの約二〇%ぐらい、アソコの空間に行っちゃいましたよ。そうすると頬を撫でる風の感触なんかがリアルに来るんですよ。

根本　感受性が豊かなんですよね（笑）。

村崎　でもさ、別に他人の想いやナゾの電波が聞こえて、イイことなんか、せいぜい満員電車の中で本も漫画も読めなくても退屈しないくらいだって。じっとしてる時でもイロイロ聞こえたり見えたりするからね。ま、あとはオナニーの時に想像力が異様に働くので、リアルでイイぐらいかなあ。

そうそうキムラさん、ちょっと手を貸してくれよ（編集者の手を撫でさすりながら）ウンウンウン、こうして触るとねー、あなたがこれまでの生涯の中で、この指先でつまんできた女の子の乳首や陰核の色や大きさ形、回数や時間や性技のねちっこさなどなどが、電波となってオレには見えたり感じたりするんだよお。そういう業をぜーんぶ受容しちゃうんだぜええええええええ。

――ちょっとやめてください。勝手に人の半生、妄想しないでくださいよ。電波の衣を借りたセクハラですよ！

村崎　おおおおお、これはタマラン！　ああーっ、何て柔らかくて張りのあるみずみずしい乳房なんだろう！　〇〇さんのチチはこんなんだったのかああああ

ルー、バックス）、「脱・電脳生活」（マイケル・シャリス／工作舎）、「電磁波の正体と恐怖」（小山寿／KAWADE夢文庫）、「電磁波の恐怖」（天笠啓祐／晩聲社）等をあげておく。

ああああああああ！　ウッ、いま乳首を通して全身がくまなく見えたぞ！　なんというナイスバディなんだああああああああ！

（一同、馬鹿らしくなって再び小休止）

電波と「豚小屋→犬小屋理論」

村崎　オレの下品な妄想電波の話ばかり続いちゃいましたけど、そもそも根本さんの漫画や「幻の名盤解放同盟」の〝イイ顔&因果者フィールドワーク〟の中にこそ、こうした〝見えない声〟としての「電波」を理解する上で、とっても重要かつ興味深い理論がいくつもあるんですよ。

――なるほど因果者と電波ですか？　どういうことですか？

村崎　一番代表的なのが……オレが勝手に「『豚小屋発犬小屋行き』理論」*って呼んでるモノ。これってさっきの「電波の発信と受信」の話に近いんだけどさ、オレ風の解釈だと、「豚小屋ってのは強烈な磁場を発生させるイイ顔のオヤジに象徴されるモノ、かたや犬小屋ってのはそうした豚小屋から発生した強烈な因果が行き着く場所や人やモノ」……でもってその間に不用意に入ってしまった、ツマラナイ顔のオヤジに象徴される凡庸な善人は、両者の強烈な磁場にあてられちゃって足をすくわれるマヌケ……そんな感じかな。

*「『豚小屋発犬小屋行き』理論」—「豚小屋発犬小屋行き」は幻の根本敬初期作品集（一九八一―八四）のタイトルだが、そのネーミングの由来は「ガロ」の九二年一月号の根本敬インタビューに詳しい（「因果鉄道の旅」（ワニの本）三〇二ページに再録）。「まあ宇宙とか世界とかいうものはたくさんあるんですけどね。それこそ人の数だけ、て、僕の視線で見える世

――ブラックホールとホワイトホールみたいなものですかね。

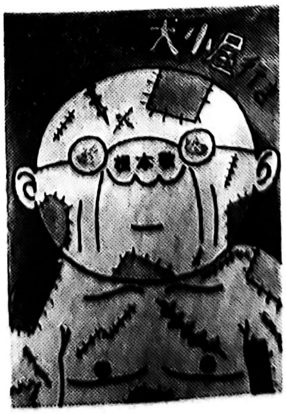
村崎　根本さんがあのフレーズを最初に口にしたのは、たしか『ガロ』の記事でしたよね。

根本　なんか単行本のタイトルを考えなきゃいけないんで、ああでもないって言ってたら、豚小屋っていうイメージがパッと出てきたんですよ。でもって、あとからイロイロこじつけて、拡大解釈したんで、元はと言えば思いつきなんだけどね。そうそう、川西杏*の「新潟発元山行き」をなぞった、ってこともあったな。

村崎　吉田拓郎の歌う『落陽』の「苫小牧発、仙台行きフェリー」みたいな感じかなあ。村上春樹なら「モノには入口があって出口がある」って言うぜ？

根本　適当に語呂のイイ台詞を並べてさ、あとになってみるとそれなりに真理を語ってるコトって、案外あるじゃない。

村崎　でもあのタイトルって、こじつけの行き当たりばったりのように見えて、ものすご～く核心をついた言葉だと思うんですよ。オレがそのフレーズがピッタリだって思ったいちばんの例が、去年の秋の麻原彰晃初公判延期事件（笑）。まあそもそもオウムってのも、ものすごく電波と磁場と妄想がクソミソに混濁していた世界だったんだけど、その騒動の最後の最後のトドメに出てきて、とっても素晴らしかったのが、当時麻原の弁護をたった一人で引き受けた横山弁護士ことヨ



界というのは右側に豚小屋があって、左側に犬小屋があって、その間なんですよ。その間の世界、そういう所を観察して僕は書いている訳ですよ。とにかく豚小屋と犬小屋があって、みんなその間を気付かないで無自覚に行ったり来たりしてるだけなんですよ実は」。

【根本】

コベンの存在ですよ（笑）。

根本　あの人はもうルックスからシャベクリから、もう全て「合格」ですよ。百年生きて妖怪に成った山リスみたいなもんですよ（笑）。

村崎　彼に関わったマスコミの連中は、イイように引きずられちまったでしょ。それでもって麻原自身による土壇場の弁護士解任劇の結果が「初公判延期」。麻原はムサい風貌が「豚小屋」そのもの……周囲の空間が歪むほど醜悪なクソと臓物の臭気を漂わせて強烈な磁場を発生させてる。そこへ横山弁護士という、これまた顔が「犬小屋」って感じの、ダウナー系のカナシゲな顔のオヤジが、麻原の忠実な犬として動き回る……それもあまり強そうな犬じゃない。でもって、ドタキャン。もう、思いっきり笑ったよ「これは『豚小屋→犬小屋』理論そのものだ！」ってね。

根本　横山さんは韓国の食用犬みたいで、好感持ててましたけどね。マズそうだけど（笑）。

村崎　あんな見事なオヤジ、滅多にいないですよ。豚小屋／麻原のとなりでチョロチョロしている犬小屋／横山。この二人の強烈な磁場の間に立っちゃった法曹界、マスコミ、一般人のヤジウマ連中の全員が、揃いも揃って足払いを食ってなぎ倒されたってのは、イロンな意味で世間をお勉強させてもらいましたよ、オレ

＊川西杏―一九四〇年生まれ。かわにし・きょう／韓国読みでチョン・ソヘン。東京都江戸川区に在日朝鮮人二世として生まれ、十九歳で歌手デビュー。アングラレコードで「みれん」「イムジン河」などを発表。三十代半ばで不動産業を開始、八〇年ごろ罹った大病が治癒したのを機に、シンガー・ソングライターの道を再開。八九年に「愛した人は朝鮮・韓国人」を発表。自らの出自を公表し、以後「幻の名盤解放同盟」の支援のもと、差別問題や祖国統一をテーマとした楽曲を発表しつづけている。

も。

根本　そうなんだよなー、人生いたるところに豚小屋と犬小屋はありますからね。

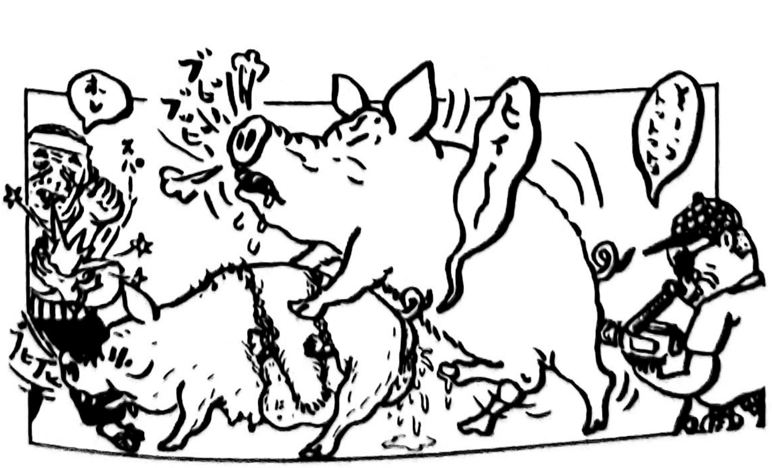
村崎　オレらの生きるこの国一つ取ってみても、そうだよ。豚小屋／アメリカと犬小屋／ロシアの間に立ってるのが日本、って見方もできるじゃないですか。豚小屋／中国と犬小屋／台湾でもイイですよ。韓国と北朝鮮もやっぱり豚小屋と犬小屋の間柄として考えるとわかりやすい。

根本　まあ、不用意に間に立った奴が貧乏クジを引くってことは、どれにも言えるよね。

村崎　とにかく強烈な磁場や電波が発生しているフィールドの間に、善良だけど弱い奴らが軽々しく立っちゃうと、ロクな目には逢わないよ。通り魔事件だってそうさ。とはいっても、何も「被害者がノウノウとシャブ中の前、歩いてたのが悪い」って言ってるんじゃないよ。むしろ妄想や電波を処理する能力のない野郎が不用意にシャブと電波の間に立っちゃったのが問題だ、ってこと。

――そこではやっぱり「犬小屋に対する豚小屋の優位」ってことが、あるんですか？

根本　それはたしかにある。豚小屋の方が勝ってるよね。臭いし体もデカいしよ



く増えるしね(笑)。

村崎　日本全体が豚小屋と犬小屋の間にある国だって、よく根本さん言ってるでしょう。「この国そのものが、とてつもなく馬鹿馬鹿しくておマヌケな空間」なんだって。

根本　その話で思い出すのがさ、『ガロ』の編集の手塚能理子さんが代々木の方に移り住んでさ。都心のかなりイイマンションなんだけど、近所に焼き肉屋ができちゃって、その店名が「ちょんまげ」っていうんだって(笑)。それで彼女は、仕事で悲しいことがあっても、逆にプライベートですごくロマンチックなことがあっても、帰宅してマンションに入る前にその「ちょんまげ」っていう看板見ると、もー全部気分ブチ壊しだって(笑)。

村崎　素敵なデートをして、まるでトレンディ・ドラマの主人公になった気持ちで帰宅しても「ちょんまげ」ってネオンで目が覚める。それってイイ話だなあって思ったよ。いやあ、業ですね。

根本　でも考えてみたら、日本全国そうじゃない。三重県のルーブル美術館とかにしてもさ、ミロのヴィーナスと自由の女神が両方あったり、おまけにそこへウドンや漬物の看板がワリ込んできて(笑)もう目茶苦茶で、それを「気が利いてる」って本気で信じてるオヤジがいるわけでしょ。

村崎　そうだなあ。だから日本とか韓国とか中国とかアジアの諸国とか、半端に



カッコつけようとしても駄目なんだよね。むしろ思いきりカッコ悪いモノを作るぐらいがちょうど良かったりする。これも「豚小屋と犬小屋」の間に自分たちがいることを自覚してるかどうかの差なんだよなあ。

陰謀電波と陰謀成金

根本　ちょっと話は戻りますが、電波チラシとか撒いてる奴の主張するところを汲んでやると「世界が悪いのは○○の陰謀だ」みたいなことを電波が吹き込むケースも多いんだけど、ああいう気持ちって、村崎さんどう思います?

村崎　そうそう、「陰謀電波」ね。アレも被害妄想が進むと受けやすいんだよな。たとえば「いくら駆除しても駆除しても、ハエやカやゴキブリがいなくならないのは、絶滅されるとおマンマの食い上げになってしまう、殺虫剤売ってる製薬会社が、裏でソレを大量にバラ撒いてるんじゃないか……」とか「患者が誰もいなくなったらメシの食い上げになってしまう精神病院は、患者が足りなくなると病院の上にある避雷針から頭が狂う電波を出してキチガイを増やしているんじゃないか」とかね。でもこのテの社会の矛盾って、普通の人間でも眠れない夜や雨の日にふと思いつくコト、あるじゃん。

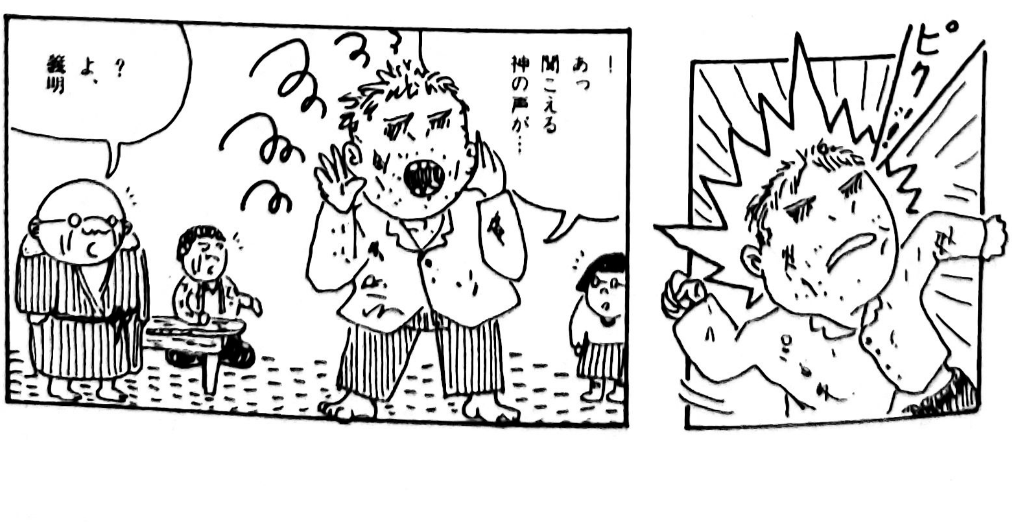
――あるかなあ……。

村崎　だけどさ、そういう電波を真に受けて、義憤にかられてお手製のチラシまで作って、陰謀を告発しようとする真面目な連中って、もうナミダが出そうなくらいに善良な奴らだよね。とにかく真面目なんだよ、連中は。電波の言うことを真に受けて、単純に「これはオレがなんとかしなくちゃ世の中が大変になる」って使命感に燃えちゃうんだよなあ……他人の不幸を無責任に安全圏からあざ笑う、根性の腐り切ったオレにはとうてい考えられない善意だよ。だけどさ、連中はなまじ善意を持ってるだけに、正義をタテにしたよりスケールのデッカい妄想詐欺には、簡単に取り込まれちまう。本人は新たな「生きがい」が見つかってヨカッタかもしれないけど、オレはゴメンだね。

根本　そういう電波がある日来ちゃったら、どう付き合っていけばいいのかな？

村崎　電波でも妄想でもそうだけど、ムキになるのがいちばん良くない。たかが電波の言うことを真剣に受け取っちゃうから駄目なんだよ。さっきも言ったことだけど、いまって現実そのものがものすごーく怪しい時代でしょ。そういう中で自分のところに電波が来たってちっとも不思議じゃない。受信料なしに衛星放送が引けて超ラッキー！　ぐらいに考えてればイイんだよ（笑）。

　しかしその一方で、世の中には「ユダヤ陰謀本」とか「フリーメーソン陰謀説」*なんか年中書いてはしこたま儲けてる「陰謀成金」もいて、そいつらだけは同じ



陰謀妄想系でも気にくわないんだよ、オレ（笑）。善良な陰謀電波信仰者を食い物にするしね。

根本　『トンデモ本』とかでも槍玉にあげられたあのへんでしょ。

村崎　だいたい、そんな世界規模のもの凄い陰謀組織があるなら、それを暴いているお前らがどうして消されないんだっつーの、悔しかったらいっぺん殺されてみろ！って（笑）。

根本　ウソだって告白してるようなもんだもんね。どんな世界規模の陰謀や機密を暴いても、みんな元気でピンピンしてるし。

村崎　こいつらも鬼畜といえば最高の鬼畜なんだよなあ、民族差別でメシ喰いやがってよお……でもまあ、そういう連中も半分くらいはマジな被害妄想のキチガイ系だからな。この手の妄想狂の生成過程については、ウンベルト・エーコの『フーコーの振り子』*っていう小説をお薦めするけどな。アレ読むと、陰謀妄想にハマリ込む連中の精神構造がよ～くわかって笑えるぞ。

根本　しかし村崎さん、中卒のクセにまた随分と高尚な本、読んでるんですね（笑）。

村崎　いやあ、これからの工員はマルクスなんかよりもああいうの読まなきゃ駄目駄目駄目！　陰謀妄想にひたってばかりいたって、自分をとりまく状況なんか

*「ユダヤ陰謀本」とか「フリーメーソン陰謀説」―どう読んでもただの民族差別と団体差別でしかない言説に溢れた、言いがかりの書籍群。不思議なことに、あまたの国際的・地球規模の陰謀をいくら暴露しても、暴露本の著者が殺されたり消されたためしはなく、これらの書籍は隠れたベストセラーとして着実に版を重ねている。この手の本で儲けている連中は「陰謀成金」と呼ばれ、鬼畜な連中からも「超一級の人間のクズ」として尊敬を集めているぞ。【村崎】

何にも変わらないんだよ。だけど慣れ親しんだ妄想を捨てるのは、オッ立ったチンコを射精もしないでマンコから引き抜いて帰るぐらい、名残り惜しい行為だろうけどさ、それでも男は次のマンコやアヌスを求めて立ち上がらなくっちゃ。

――アヌスを求めるのは村崎さんくらいだと思いますが……だけどその「次のマンコ」ってのも、結局は別の妄想ってことなんでしょう?

村崎　そりゃそうさ。もちろんこの世は全てが妄想戦だから、一つの妄想から醒めるということは別の妄想の中に入ることを意味するんだよ。だけど同じ妄想でも、ツマンネエ他人の金儲け妄想にまんまと取り込まれて信者になって利用されるよりは「わかっていながら夢を見る」って態度で、自分から自発的に、前向きに妄想する方がずっとラクだし、生きてて楽しいと思うな。まあ、つまるところ、これは趣味とかポリシーの問題なんだけどさ。

*ウンベルト・エーコの「フーコーの振り子」―文藝春秋刊。エーコはイタリアの記号学者。物語そのものは、テンプル騎士団の残した暗号文書をめぐってまき起こる一大オカルト冒険活劇だが、きっかけとなった暗号文書が、実は何でもない「洗濯女の覚え書き」だったという強烈な皮肉オチがある。これは解釈次第で陰謀史観など、いかようにも生成(または捏造)可能だという良い例だ。ユダヤ陰謀論やフリーメーソン陰謀説を真に受けてる"お利口さん"たちはこの本を読んで、ちょっとは「ギャグ」というものを学んではいかがかな? 【村崎】

世界の複綜性――電波とイイ顔

根本　話はつきないんで、そろそろまとめに入りますけど(笑)、これは村崎さんの口癖でもあるんだけど、そもそも世界には人の数だけ現実(リアル)があって、思い込みと妄想があって成り立っているわけだよね。

村崎　正確にはリアルは人の数以上……だって一人でいくつも持っている奴がい

るからね。

根本　で、オレが追い掛けてるイイ顔*のオヤジとか典型なんだけど、みんな多かれ少なかれ、自分ひとりに都合のイイように世界を築いて、その中でのうのうと生きているわけ。オレが電波系の人に興味を持ったってのも、彼らってそういうことをダイレクトに、もの凄くわかりやすく確認させてくれるからなんだよね。

村崎　ちょうど根本さんの漫画の中でもとびきりの傑作で、「21世紀の精子ん異常者*」っていうのがあって、アレってそういうことでしょ。主人公のオヤジこと吉田佐吉がシャブ打って立ちションベンしてると、そこへ宇宙船が降りてきて、有無をもいわさず「ヒサゴ」っていう星に連れてっちゃう。で、その星の王様であるTENNOに「みんなの前で地球人がみんなやる、セックスとやらをしてみせてくれ」って言われてさ、そこにこれまた拉致されてきた地球の女が出てきてそいつをヨロシク犯（や）ってたら、知らないうちにそのオヤジ、地球に戻って、強姦犯人になってた（笑）。リアルはひとつじゃないって、まさにアレですよね。

根本　それぞれ。だからさ、アイツにとっては誰が何と言おうと、星での出来事が現実なんだから。

村崎　たとえばホームレスにもね「自分は数十万年前に世界を統一した支配者で、不老不死も得て悠々自適に暮らしてたんだけど、あんまり退屈で仕方がないか

*イイ顔―オレが惹かれて止まない"イイ顔"とは、いわく定義づけるのがムツカシイものではあるが、顔面に電波的な波動をたたえている（さらには波動を放出している）顔、ということができるかもしれない。臭気もガンガン漂う。ためしにイイ顔のオヤジの顔写真をコピーしたり、ファックスでどこかに送り付けてみるといい。オヤジの顔が死体写真と同じ肌触りに変身するのがよくわかる。このへんに電波とイイ顔のカギがあるような気がしてならないんだけど。【根本】


で、そのまま宇宙行ってよ
私はこの星のTENNOですよ
連れてかれた所が「ヒサゴ」ッて星だった
ようこそ
初次見面
WELL COME
あなた今夜の宿はここです
宇宙HOTEL NEWひさご
相部屋ですが
私は真星から来たホーケイ星人
僕は膣内射星から来た膣内射星人ですよろしく
このホテルのシェフは我が惑星NO.1 今、あなたをもてなすため一生懸命料理してますね
料理？ただ喰ってるだけじゃねえかよ
早くできないかしら
パク
パク

ら、数千年前に世界を分割して他人にまかせ、自分はこういう境遇に落ちて、余裕でホームレスやってる」って本気で思い込んでいる奴がいるんですよ。

根本　「ビッグバンもオレ」、「地球を創ったのもオレ」（笑）。

村崎　でも、この宇宙を創ったのが、本当にそのへんの路地裏に寝転がっているイイ顔のオヤジだったら、それはそれでかなり面白いんだけどね。

根本　そういう妄想を持って生きていられれば、本人にしてみれば幸せだよね。

村崎　どんな権威も権力も、そういう妄想の強い奴の〈思い込み〉には勝てないんだよ。何があっても「本当はオレが宇宙の支配者、殺されたらその時点で大宇宙一の王宮の中で目が覚める」って信じ込んでいる奴には、いくら「天皇陛下や王様や大統領や裁判長がいちばん偉いんだゾ！」って説得しても無駄無駄無駄無駄無駄時間の無駄。そいつを法で裁いたり、暴力で殺すことはできても、本人の強烈な思い込みは殺せない……ただね、鬼畜のオレが言うのもナンだけど、案外そこにこそ、人間の尊厳につながる何かがあるような気もするんだよね。

根本　誰でも思い込みの方向次第で、世界一の幸せ者になれる可能性を持ってるってことですな（笑）。

――なんか最後の最後でイイ結論が出ましたねー。ちょっとホッとしました。

村崎　人はみんな〝自分だけのリアル〟の中で、世界一の幸せ者になっていいいん

*「21世紀の精子ん異常者」根本敬の漫画。一九九五年、四捨五入で二〇〇〇年つまり二十一世紀（ん？）晩秋。イイ顔のオヤジばかりを狙った連続殺人事件が世間を騒がせていた。逮捕された容疑者の久保マサルは、動機について「元をたどれば総て宇宙人が悪い」といい、精神鑑定を受けた……実は彼の母親は、大阪万博建設工事現場でシャブをキメたDOKATAに（宇宙人の命令で）強姦され、その結果できた子供だった……。「亀の頭ノスープ」に収録。

だよ。そうならなきゃ、人生なんてウソだよな。オレも「世の中の女はみんな重症の病気で、それを治せるのはオレの浅黒くてデカいチンポしかない！」みたいな妄想をマジで持てれば、きっと幸せなんだろうなあ(笑)。



電波の種類——妄想鬼畜ゲス人間が明かす電波の本性

とある地方都市の公衆便所で女子中学生が浮浪者に刃物で刺されて死んだ。犯行後に茫然と死体の傍に立ちつくしていたところを逮捕された犯人の浮浪者は、警察の取調べに「便所に入って小便をしたあと、手を洗おうと蛇口をひねったら、そこから命令が来た」ので、少女を刺したという。電波による痛ましい殺人事件の一例である。

また、何年か前の夏、高円寺の駅のホームのまん中で、グラサンをかけて派手なアロハを着た暴力団風の男が快活に笑いながら、「お前ら、電車に乗ってる場合じゃねえぞ!」「○○組は、電波飛ばして人殺しをさせるんじゃねえ!」と、明るく陰謀を暴露していた。ホームにいた電波に無理解な一般市民は「見なかったことにしよう」と完全にシカトしていた。何か悪いものでもキメている感じだったが、男は妙に明るく愉快そうに叫んでいた。

多分、陰謀を暴くことに生きがいを感じているのだろう。

以上はよくある「電波」にまつわる話だが、実際に「電波」は、受信可能な人間にとっては、どこにいて

も、どんな時にも存在しているものなのだ。そして、それに関わるのは少なからず危険を伴う。だが、俺に言わせりゃ、生きることの全ては妄想戦だ。多くの妄想を持つことのできる人間が、豊かなイマジネーションを獲得し、「人生の勝利者」になれるのだ。

さて、何から語ろうか……当然電波のことだな。そう、電波はつねにどこにでもある。

かく言う俺はかなり客観的に電波とつき合っていると思う。そうなることができたのは、何も俺が、俺の頭に来る「声」がさかんに言うように「選ばれた人間」だからなどではない。何でも簡単には信用しない、卑しい根性が幸いしただけだろう。

俺は電波が聞こえる電波系のキチガイである。そのつもりでこれを読んでほしい。

受信の経緯

俺が頭で直接電波を受信するようになったのは、おそらく生まれつきだ。物心ついた頃はすでに電波が聞こえていた。小さい頃の俺は、人間というのはそれが普通だと思っていたし、みんなも自分と同じように電波を受信しているものと信じて疑わなかった。

たしかに聞こえることはうざったくもあったが、それよりも時々視界をよぎる妙な光の方が気になっていた。当時は極彩色の光で構成された多くの奇妙なヴィジョンや幽霊？　のようなものを頻繁に見ていたの

だ。親に言わせると、暗闇を全く怖がらず自分から進んで暗い方へ歩いていくような妙な子供だったというが、たぶんその時、俺の目には多くの光が映っていたんだろう。幸いなことに、現在は幻視体験の方はかなり少なくなっている。

こうしたことが特異なことだと気がついたのは、小学校に入学して新しい友人と遊んだりするようになってからだ。気がついた時は少々驚いたが、子供心にも「あーこれはあんまり人に言っちゃいけないのかも」と感じて、親しい友人にも話さないようにした。もちろん、その当時は、まだそれを「電波」とは呼んではいなかった。「変な音」「変な声」と呼んでいたような気がする。

それから三十四歳の現在まで、電波はずーっと俺の人生とともにある。その間には、受信する電波が強すぎて気が狂いそうな時期もあったし、電波量が少なくてわりと平和に暮らせた時期もあった。総じて言うなら、人間にとって電波などというものは絶対に「余計な物」である。実生活ではうるさいだけで役に立たないし、電波が聞こえて得したことなどほとんどない。読む雑誌の何もない病院の待合室でも、退屈しないで順番を待つことができるというぐらいのものだろう。

そして、これは、あくまで俺の場合なのだが、電波の受信状態はつねに体調に左右される。体調を崩して弱っている時などに、金縛りとともに周囲数キロ四方の音が全て頭の中に直接入ってくることがある。そういう時は雑音が延々と頭の中で爆発し続けている感じで、まるで拷問だ。犬や猫の鳴き声、TVやラジオの

放送にまじって聞こえる子どもの笑い声、どこかの会社の上司と部下の仕事の会話、中年夫婦の口論、兄弟が一緒に風呂に入って歌っている歌、浮浪者の独り言、コオロギの鳴き声、なめくじの這う音……どんな意味があって聞こえてくるのだろう？　いや、おそらく電波を受信することに意味なんてないに違いない。

その他にも、昼間よりは夜の方が電波が多いとか、新月や満月時にはたしかに通常より電波が多いなど、何らかの自然現象との関連性はあると思われる。実際に詳しく調べたわけではないが、たぶん、太陽の黒点活動も電波に影響しているんだろう。

電波の分類

さて、断片的に語ってもしようがないので、これからできるだけわかりやすく、俺に来る電波を系統立てて分類してみよう。こんな試みは俺も初めてなので、書いている途中から頭を電波に乗っ取られる可能性もある。読者諸君はそのつもりで読んで欲しい。途中から文章がおかしくなったら、電波の影響を受けているものと思ってくれ。

そして、もう一つ読む前に覚えておいて欲しいのは、これから先の文章は「元々言語でないものをかなり無理に言語化して」書いているものだ。ほとんどが適切に言葉で表わせるものかどうか、俺も自信がない。だから、そのへんはできるだけ好意的に読んで欲しい。

一口に電波といっても、全ての電波が同じ状態でやって来るわけではない。俺の場合、単独で来るものもあれば、複数の電波が同時にやって来る場合もある。受信にかかる時間もまちまちで、人間が話す声のようにゆっくりしたスピードでやって来る「声」もあれば、受信した瞬間に膨大な量の情報を受け取る場合もある。たとえて言えば、TVあり、ラジオあり、有線あり、レーザーディスクあり、ウォークマンあり、電気あんまあり、徳用かみそりあり、肥後ずいきありといった様相で、同じ「電波」という言葉でくってはいるがそれぞれ全く別のメディアのような気がするのだ。

それを大きく分ければ「言語と非言語」「意味のあるものと意味不明のもの」「はやいやつとかったるいやつ」ぐらいなものだろうか。とにかく今回は読者のみんなにわかるように説明していこう。

①メッセージが不明確な電波

俺の場合、全体の約四割ぐらいがこの手の電波である。

これらはさらに音、音楽、他言語（？）に分類可能だが一番多いのは「音」だ。それも雑音が多い。その種類は千差万別で、虫の音、風の音、波の音など、自然界のあらゆる種類の音が断片的に聞こえてくるようなのはまだ良い方で、苦痛な音の中には明らかに「これは他天体の音だ」と感じる音があって、それは別にやかましいノイズ系でもないのに、聞くと非常に苦痛なのだ。

この「他天体の音」電波が来ると少し暴れたくなる。そして、この音のことはどういうものか言い表わすのがとても難しい。まるで「魂を削られるような」とでも表わせば良いのだろうか、自分の身体が後ろからでかい包丁でスライスされるような、思い出すのも不快な音だ。静かで、不規則で、聞いていると不安になる音。なぜこれが「他天体の音」だと言うのかは俺にもわからないが、それは俺の脳内のある部分にとどまっている「何か」による助言によるものだ。この音は、俺が十代の頃には良く来ていたが、現在は何年かに一度ぐらいしか来ない。

それとは対象的に、全く別な、甘くて身体が溶けていくような快楽の音もある。この電波は受信すると身体中が蜂蜜のように甘くなり、実際に蜂が寄ってくるので大変だ。個人的には秘かに「フェロモン音」などと呼んでいる。小学生になる前に頻繁に訪れた電波である。「音」と言ってもほとんど聞こえないのだが、受信するとすぐに体が甘くなるのでわかる。それに幻臭が伴う時がある。バラの香りのような甘い匂いだ。

その他にも、誰かが死ぬ時の音、魂が母体に宿る音、月の昇る音（満ち欠けの音）、地軸の傾く音、朝日の踊る音、冥王星の回転音、遥かな銀河の爆発音（？）など、あげていけばキリがないが、様々な音が聞こえる。これらの音が日常生活で体験する音と明確に違うのは、耳ではなく頭のまん中で球体が膨らむように聞こえて来るところだろう。たぶん一つ一つの音にも何か複雑なメッセージが宿っているのかもしれないが、注目して影響されるのもシャクにさわるので、俺は意図的に知らないふりをしている。

「他言語」というのは、日本語ではない電波の総称だ。これが本当にどーでもいい電波の代表で、ラジオの短波放送で他国の放送を聞くのに少し似た感じがする。俺に来るものは音量もそんなに大きくないのでFENを聞きながら仕事をしているようなもんだ。違うのは、ラジオならスイッチを切ればそれでもう放送は聞こえないが、脳内電波放送はこっちがいくらやめてくれと思っても延々と続くというところだ。

ただ、この他言語電波も脳内に別の翻訳電波が届いている時には、まれにメッセージがわかることがある。たしか、一六五四年の北大西洋からの救難信号（難破船か？　もちろんこの時代に無線なんかねえぞ）のようなものを受けたこともあった。脳内電波は時空を超えるらしく、未来からも過去からも時間を選ばずやって来る。それも悲痛な叫びや悲惨なメッセージが多くて困るんだ。受信したって何にもできないんだからさ。だから、病気で死んでいく少女からの「一八二五年の遥かなさようなら」なんか聞きたくも何ともないんだよ。まあ、俺は感情が壊れてるから別に何とも感じないんだけど。

「他言語」の電波には英語もあればフランス語もある。北京語や広東語、ハングル語もあれば鹿児島弁（俺には意味不明）、あと何だかわからないヘブライ語みたいなのもある。誰かと誰かの対話のような電波もあればパーティの中継みたいな電波もある。一番多いのはだらだら長く何かを朗読しているような声である（宗教書を読んでいる感じだ）。非常に古く、力強い電波もある。たぶん、他天体の言語もあるんだろうが、俺は矢追純一じゃないのでそれはどーでもいいことだ。こうした電波について、エンターテイナー系のオカ

ルティストたちのような興味は俺には全くない。宇宙人の実在なんて興味ないし、それよりも電波の来ない生活の方が遥かに魅力的だ。

②感情操作電波（無味／無臭／無音）

これは俺に来る電波の全体の一割弱ぐらい。

不意に哀しみの感情やら喜びの感情が、それこそ風に乗って来るように訪れる。前述した「甘い電波」ではないが、こうした無味無臭の電波は身体に及ぼす影響力も強い。かつての、深川通り魔事件の犯人のK俣が語った「ニヤニヤ電波」や「メソメソ電波」はこの類のものと思われる。たしかにこの種の電波は性質が悪く、これに攻撃命令の電波が伴うと、意志の弱い奴は逆らえずに本当に人を傷つけたり、殺したりしちまうんだろう。俺などは、長年の電波生活でこれをかわすテクニックを身につけている。書くとキチガイ扱いされそうだが、実際俺はキチガイなんだし、読者サービスで書いておこう。

一つは、この種の電波が来たら、すぐさま脳内に全く対立する感情電波をデザインして、来た電波にぶつけるという方法だ。たとえば「ニヤニヤ電波」なら「メソメソ電波」をぶつけ、「喜3怒8哀17楽1」の割合いの電波なら「喜8怒3哀1楽17」で対抗するというように、つねに正反対の電波で迎撃して、来た電波を中和してしまうのだ。ちなみにこれは、やって来る電波の攻撃に脳や身体を支配される前に行なわなくて

はならない。

この電波に対抗するもう一つの方法は、俺自身が一時的にこの身体から自我意識とともに完全に撤退する手法である。時間にすれば一刹那ぐらい、カラッポになってやりすごす。受信装置を持ったまま外へ避難するようなもんだ。あまり長く出ていると妙なものに身体ごとぶん取られそうなので細心の注意が必要だ。身体に戻ると、遠ざかる電波をかすかに感じる。ホッとするひとときである。

こんなことを続けてきたから、「自分」というのが意識のかたまりで、「身体」という乗り物に「乗っている」とか「操縦している」という感覚があるんだと思う。

③感覚錯乱系の電波

これは感情ではなく感覚がやられる電波。割合は全電波の一パーセント以下で、そう滅多に来るものでもないが、来るとこちらの精神状態もかなりやばいものになる。いくつかの感覚に対して複合で襲ってくるものもあり、そんな時はいまでも少し錯乱してしまう。これもいくつかパターンがあるので、順を追って説明しよう。

＊反重力電波

この電波はやって来る電波の中でもとりわけ速い部類のものだ。いままで紹介したいくつかの電波は、や

って来る直前に「あっ、何だかアレが来そうな気配だ」などという予感の働くものもあるのだが、この電波だけはいつも、まったく不意にやって来るので、心の準備が全然できない。そういう意味ではかなり迷惑なものである。

たとえばこの電波を受けると、「気がついたら上空三万メートルへ体ごと引き上げられて、いまにも落下しそうな気配につつまれる」という恐怖に襲われる。メチャクチャな浮遊感覚が伴い、立っていられなくなるのだ。意識も体と一緒に何か大きな見えないものに一気に引き上げられ、飛ばされていく感覚だ。突然、重力が消えて「上空へ墜落していく」という感じだ。とにかくこの電波の強力なものは、受信するとかなりリアルに浮遊感覚と落下する感覚が感じられて、道を歩いていても、一瞬、歩行が困難になってしまう。カッコ悪いんだけど、うずくまって地面に手をあてて自分が地上にいることをたしかめずにはいられないのだ。

この電波は強弱の幅が少しあって、強いものなら落下中に自分の体にぶちあたる風さえも（そのニオイも）感じる場合があるが、弱いものなら自分の中の何割かが上空へ行ってしまうという身体の分裂感覚も伴う。何割かならそれほど怖くないので、来ても落ち着いていられるが、ともかく来ると迷惑な電波である。

＊身体分裂電波

この電波を受信すると自分の体が分裂していく感覚に襲われる。

それもいつも同じような分裂のしかたをするわけではない。たとえば、ある時は表皮が一枚一枚むかれていく感覚に襲われるもの、数センチきざみでタテ割りにスライスされてゆっくりと分かれていく感覚になるもの、体から幽体のような透明な自分がいくつもいくつも飛び出していく感覚になるもの、自分の体のある部分が急激に膨脹／収縮をくり返して、ある方向へ伸びていく感覚のものと、それぞれ一回ごとに全く別の感覚につつまれて、次に来る時は自分の体がどうなるか全く見当がつかない。

この電波はそれほど怖くもない。なぜなら電波を受信してから体の分裂がはじまるまで多少間があるし、身体感覚の変化も反重力電波ほど急激ではないからだ。だからこちらも心の準備をする余裕ができて、自分の体が分裂してゆくさまを楽しむことさえできるのだ。

この電波に加えて時空を超えてどこかにアクセスしてしまう次元超越電波が加わると、「手首から先の左手の感覚がすっぽりと消えたかと思ったら、左手は次元超越電波につつまれて次元の裂け目からどこかへ行ってしまっていた、それでも左手の指に何かザラザラした石のようなものに触れる感覚があるので情報電波で探ってみたら、左手が触っているのは紀元前三二三年のマケドニアにあるナントカいう城の城壁なんだそうだ」というような事態も生まれる。こんなのは聞いてて「バッカじゃねーの?」と思う余裕もあるので良いが、手の感覚が虚空に消えて、どこか遠いところで悪さをして帰ってくるという夢遊病的な分裂状態の場合は、手が戻ってきた時にはじめてその手が他所(よそ)で何をやって来たかがこちらにも伝わるので、とても不気

味だ。手は別の時空間で見知らぬ女の乳房を揉んだり、誰かの頭につっこんで脳味噌の中をかき回したり、銃の引き金を引いたり、何かの発射ボタンを押したりと、様々な行動をとっている。まあ、そういう行動をした奴の手の感覚と俺の手が共感して、その記憶を運んできたものと思い込みたいんだが。

＊夢電波

受信すると他人の夢と自分の夢が繋がる電波。これが来ると近くにいる奴と同じ夢を見てしまい、同じ夢のなかでコミュニケーションがとれる。繋がる相手が恋人だったりするととても楽しいのだが、そんなうれしい例はいままで二回だけ。たいていは好きでも何でもない他人の夢の中に繋がってしまう。中でも最悪なのが過去の自分の悪夢と繋がった場合で（俺にとっては過去の自分はもはや他人である）、その時は二重三重に増幅された悪夢の中で発狂寸前まで苦しむ。良いことよりも悪いことの方が多いのが俺に来る電波の特徴なのだ。

これは絶対に単なる偶然なのだが、昨年こうした夢電波がきている最中に、近所の家の性悪ジジイを何度も殺す夢を見て、そのあとジジイが本当にポックリ逝っちまったことがある。誰に繋がっていたかは断言できかねるが、ジジイを殺すヴィジョンがかなりリアルだったことから、ジジイもしくはその近親者であったことは間違いないと思われる。

このジジイは絵に描いたような高慢高級お上品野郎で、道で俺とすれ違う度に、もの凄くけがらわしいも

のを見るような目つきでうさんくさそうに俺を睨むので（まー実際その通りなんだが）、こちらも目で「よお、ジジイ、まだ生きてたか。葬式はいつだ？」と挨拶を交わしていたほど仲の良い間柄だ（正直に言うと、今度東京に関東大震災級の地震があったら、このジジイだけはドサクサにまぎれて絶対に殺してやろうと決めていた。数十万人死者が出るなら、殺人の一人や二人は誰も気にしないだろうし、気にならないだろう。そういうことを考えている連中は結構多いので、身に覚えのある奴はちゃんとした迎撃体制を完備しておいた方がいいぞ）。

　こうまで見事に死んでくれると呪い殺したみたいで気分ハイなんだけど、要はジジイの死期を感じて、それを夢で見ただけなんだろう。そう思わないとやってられねえよ。その時にこちらの願望も少し入ってリアルな殺害シーンを体験したってわけだ。

　考えてみりゃあ人間なんていつか死ぬものなんだから、自分が死ねばいいと常々思っていた人間が次々と死ぬ現象なんか不思議でも何でもないぜ。俺には同様の事例がいままで十回近くあったけど（なぜか事故とか突然死が多いんだよね）、ぜ〜んぶ偶然、気のせい、自意識過剰。霊も霊界も妄想だよね。呪殺なんて非科学的なもんは絶対にありまっしぇ〜ん！　くっくっくっ、どうせプラズマだよ、**プ・ラ・ズ・マ**。

＊夢魔電波

　これは自分が触るのと逆に、他人の手の感覚が体中を這い回る感覚に襲われる電波。あんまり気持ちの良

いものではないので、服でも皮膚でも内臓でも簡単に貫通してしまう。臓器をいじり回されるような感覚がおぞましくて超バッド。夜中に「うるせ〜〜!」と大声を出してしまう原因の一つにもなっている。これこそ昔からモノの本に書かれている「夢魔」なんじゃないかとも思うんだけど、どうなんだろう? 体内の性エネルギーの暴走とか何とか言われることもあるけど、不愉快って点では俺にとっては完全に電波なんだよな。

＊被害妄想増幅電波

この電波自体には何の情報も含まれてはいないが、この電波を受けると、自分のまわりの人々や(時には動物や植物まで)がいっせいに自分について凄まじい悪意を持って悪口を言っているような気になってくる。被害妄想を増幅する、たちの悪い電波と言えよう。

この電波は受信した人間に最悪の場合、「あああ、街中が俺を憎んでいるんだ。もうダメだ、もうダメだ、こんなに嫌われ憎まれては、こいつらを皆殺しにして俺も死ぬしかない。それが銀河系宇宙全体と高円寺南三丁目のミケ猫のためなんだ!」などと思い込ませ、追い詰めて自殺させるのだ。アメリカなどで時たま起きる銃の乱射事件などの犯人はこういう電波を受けているに違いない。実に因業な話だが、どうせ建国時に虐殺したバッファローとかインディアン、奴隷にしていじめ殺した黒人たち、それにベトナムで殺した民衆の怨念なんだろう。アメリカというのはそういう因業な国である。

この電波にもずいぶん苦しめられたが、ある時開き直って「何で他人が気になる？　いいじゃねえか誰に何思われようが。殺しに来たら返り討ちだ！」と、奴らの憎悪を心待ちにするようになってからだんだん影響されなくなってきた。全てを前向きに自分への批判と受けとめて（それにしちゃあ激しすぎるんだが）、謙虚な気持ちで他者を憎悪すれば、誰が本当に自分を憎んでいるか、誰を攻撃すべきかが明確に見えてくるから便利なものだ。

いまの俺はハナから人に好かれようなんて思っちゃいない。基本的に「自分以外の他者は、利用するか攻撃して殺す対象」という認識で攻撃的に生きていれば、他人から自分に来る憎悪など屁のカッパなのだ。これからブチ殺してむさぼり喰おうと思っているブタにまで好かれようと愛想をふりまくのが脆弱でお上品な現代人どもだ。ざけんじゃねえ。殺されるブタがお前らを好きなわけがないだろう。思いっきりブチ殺して喰いまくり、奴らの怨念まで一滴残らず栄養として消化するのが命を奪う生命体への礼儀ってもんだろう。

俺に襲いかかってくる憎悪は絶対に容赦しない。噛みついて、喰らいついて、肉を裂き、骨を砕き、内臓をひきずり出して、頭から被って踊ってやる！　体の中にくすぶっている殺意はいつでも表面に出てくるチャンスを深いところで待ち続けている。ああ、そうだ。俺は待ってる、いつでも待ってる。いつでもいいぜ。殺したい、殺したい、殺したい、思いっきり殺したい。皮肉なことに、この願望がある限り、俺は被害妄想増幅電波には滅法強いのだ。

＊自殺電波

受信すると死にたくなる電波、または死を誘う声。聞こうと思えばわりと簡単に聞こえる、どこにでもある最も身近なやつである。イヤな電波もあったもんだが、現在俺はこの手の電波にも滅法強い。全く動じずにフンフン笑いながら聞いていられるのだ。

突然自殺をするような奴らがこの種の電波を受信している可能性は高いだろう。こんな電波は夜ならどこの闇にでも転がっていて甘い声で人を死に誘う。

「……もういいよネェ……いっしょに眠ろうよォ……楽になろうよォ……ホラホラこっちだよォ……」

ビルの屋上や崖の上に立ってみればそんな「声」はいくらでも居る。海や湖、河川や沼などの側に立つと、今度は水たちが同じように誘うだろう。俺は常々雪山登山で遭難して死ぬ連中も、何割かは山からの自殺電波を受信しているのではないかと考えている。

もちろんそうした「声」はどこにでもあって、俺が働く工場でも製粉機の奥からは始終そういう誘惑がやって来る。ウチの工場には不幸にしてそれに応じてしまい、足首から先を失った奴もいるが、それも個人の選択の自由というやつなんだろう。命を失わなかっただけマシなのかもしれない。忠告するまでもないが、この自殺電波は数ある種類の電波の中で最も信用できない部類の電波であり、聞こえてきても耳をかす必要は全くない。

この電波については他にも色々と言いたいことがあるが、それは別稿の根本氏との対談内で補足しておいた。ひどいのになると「肉体を脱ぎ捨てたあとの快感」や「人は死んでからはじめて本当の生がはじまる」などと主張して死を誘う、たわけた電波まである。誰がそんなことを信じられるか。死んでからのことは死んでから考えればいい。

④メッセージが明確な電波

これは主に、具体的な映像なり言葉が来るという電波である。さらにそれを分けると以下のようになる。

＊予知／予言電波

予言ものの電波も厳密にいえば分別不可能なものも少なくないのだが、ここでは一応メッセージの伝わる方に分類しておこう。

予知／予言電波は他の多くの電波同様、唐突にやって来る。これは、どう言ったらいいのだろう？「情景が聞こえる」というか、視覚が聴覚を通して同時にやって来るような感覚だ。それも非常に複雑で、一度受信した映像＆音を瞬時に忘れて瞬時に思い出すという感覚がある。既視感（デジャ・ヴュ）も伴う。「ああ、そんなこともあったな」という感じで、はるか昔のことを思い出す感覚で未来（？）が見え／聞こえるのだ。大災害なんかなら面白いんだろうが、俺の場合、大概どうでも良いことばかりで役に立つことはほどんどない。ほんの一

瞬先のことを感じるのはよくあるが、そうでなければ、何年先か、どこか、生きていてもこの先、決して行くこともないであろうどこかの場所の風景を感じ／見てしまうのだ。

ああ、だから予言というより、「どこかの映像情報が時空間を超えてデタラメにやってくる」といった方が正確かもしれない。見たこともない人間がかつて／いつか見た風景を様々な気持ちで眺めているような感触だ。これは誰の記憶なんだろう？　空間がある独自の「振動」を記憶し、それがぐるぐると世界を回っているのかもしれない。

＊声（神だの悪魔だのフリーメーソンだの）

さて、ようやく世間一般に知られている代表的な「電波」にたどりついた。たぶん、妙なチラシを製作したりして、人知れず陰謀組織と戦う孤独な戦士タイプの人間が受信しているのは、大部分がこの種の電波だろう。これは直接頭の中に、何か妙な声がわりと具体的なことをしゃべるのが聞こえるという、いちばんうるさくて性質（たち）の悪い電波である。種類も様々で、知らない他人のほとんど意味のない会話もあれば、何か難解な理論を説明する講義のような声もある。

しかし、いちばんやっかいなのは、自分は神だとか仏だとか、高次元の存在であると名乗って、こちらが聞きたくも何ともない、ありがたいお言葉やら説法やらを一方的にまくし立てる説教タイプの電波だ。それなりに暖かい波動が感じられたり、甘い香りとともにやって来るんだが、教義だか狂義だか知らんがこっち

の意志を全く無視して語り続けるんだからたまったものではない。これに比べれば駅前の宗教アンケートなんか自分の屁みたいに可愛いもんだ。

こういう声は大概もったいぶって「おまえは選ばれた」だの「使命を果たせ」だの「あなたは私の言葉を多くの人々に伝えねばなりません」などとたわけたことを言う。**うるせえ馬鹿野郎。**宝クジの特賞ならまだしも、そんなもん当たろうが選ばれようが嬉しくも何ともねえんだよ。こういうのを真に受けた馬鹿が世界的な陰謀と戦う戦士になったり、妙な宗教をはじめたり、セミナーを開いて金を取ったりするんだろう。全く御苦労様なことである。

そして当然だが、中には「悪」を奨励する声も聞こえてくる。どちらかといえば、俺の心はこちらに近いが、善悪の違いはあれ、はじめに言うことはみんな同じで「きみは選ばれた人間だ……」とやけに偉そうで押しつけがましい。

ハイハイ、それはようございましたね、さっさと帰れよ馬鹿。悪事なんかお前に指導されなくても好きなようにやるよ。**これは俺の身体だ。**いちいちおめーらに命令されたかねーよ。俺は何度もこういう声を無視しているが、そのことでとりたてて何がどうなったということもない。選ばれたとか言ってるけど、連中にとっては本当は「声」が聞こえる奴なら誰だっていいんだろう? 善人でも何でもない俺みたいなゲス野郎に聞こえてくるのが良い証拠だ。

対談でも言ったことだが、俺が電波を受けても冷静でいられるのは、こうした声がたったの一つじゃなくて数多く聞こえるからだ。たった一つの声だけしか聞こえなければ、それなりにありがたがって、その気になったかもしれないけど、これだけ何種類も来られたんじゃあ、どれも信用できない。中には本物もいるのかもしれないが、どいつもこいつも言ってることは大差ないし、俺の予知妄想では、こういう声に従って行動していけば、はじめは良くてもそのうち声にひきずられて自分を失い、必ず自滅しちゃうらしい。「声」は一見善良そうだが、本当は甘くて危険な電波なんだ。

これを読んでいる読者諸君も、いつか突然そういう声が聞こえてくる日が来るかもしれないが、どうか冷静に対処してほしい。「声」が聞こえること自体は大したことではない。間違っても声にそそのかされて自分が「選ばれた特別な人間だ」とか、「人類を救う使命がある」などと舞い上がらないことだ。

最近は「チャネラー」などと称する連中がいるが、そういう善良な奴らにはこう言いたい。もし、あんたが本当にこの世界を良くしたいと考えているなら、どこの何だかわからない奴が語りかける言葉を無節操に人に伝えるのは即刻止めろ。あんたが自分で考えて、世界のために良かれと思い「伝えたい」と思うことを「あんた自身の言葉」で語るがいい。基本的にこの世界は、いま生きている生き物と、これから生まれて来る多くの生き物たちのものだ。出所の怪しい「声」をのさばらすな。お前自身の「現実」を生きろ。それが多くの「声」を聞いてきた俺からの忠告だ。

なお、補足するなら、心霊主義の研究の中には「霊界にもキチガイは大勢いる」とする見方もある。たとえば、自分がキリストだという妄想を抱いて死んだ人間は、霊になってもその妄想を持ったままだというのだ。霊界ではこうした「自称キリストの霊」だとか「自称ブッダの霊」「自称ノストラダムス」「自称モーセ」「自称アフラ・マズダー」なんてのが、それこそダースどころかグロス単位で存在していて、そういう霊体が、降霊会などでお手軽に出てきて、いいかげんなことを語ったりするらしい。電波を霊の発するものと決めつけるのは非常に危険だが、俺もキリストを自称する電波なら声色違いでこれまでに二十人以上来たりしているので、「声」の正体は案外そういう狂った霊だったりするのかもしれない。それにしても、あの世には霊の入る精神病院はないんだろうか?

＊陰謀告発電波

また、「声」には神仏などの善意系や、悪魔、邪霊などの悪意系の他にも、この世を裏から操る陰謀組織の秘密を暴く、善も悪も関係のない奇妙な電波も存在する。もちろんそれも二種類あって、受信した瞬時に全ての陰謀の構造が見えてしまう場合と、「声」がゆっくりと懇切丁寧に陰謀組織の構造を語るという場合があり、どちらも受けた時は一瞬「これは大変なことを知ってしまった」と冷静さを失ってしまうのが普通である。よく考えてみればその説明に変なところはいくつもあるのだが、そうしたことを考えさせる暇もなくどんどんやって来るのが電波の恐ろしいところなのだ。

それと同時に、陰謀を知ってしまった自分を絶えず見張る存在もクリアにわかってくるので（被害妄想増幅電波の一種。たぶん間違いなく妄想）これが相乗効果を呼んで、明かされた陰謀がますます本当のことであるかのように思えてくる。

俺の体験でも、自分の職場にある無数の盗聴器の存在や、アパートを囲んで自分を監視している陰謀組織の人間の存在が部屋の中にいても明確にわかるのだから大変なものだ。ひどい時には、アパートから三軒隔てた家の垣根の陰に身を潜めている刑事の息遣いはもちろん、そいつのすかしっ屁の音まで聞こえる始末だ。ここまで来れば誰だってそれが妄想であることぐらい見当がつきそうなものだが、そういう電波が来ている時にはなかなか客観的に物事を見たり聞いたりできなくなるから怖いものである。

そういう陰謀電波をつかまえて、言ってることをかたっぱしから記述して本にすりゃあ、いまあるユダヤやフリーメーソンの陰謀本で食っている宇野正美や赤間剛、鬼塚五十一などの「陰謀成金」のようになれるかもしれないが、それではあんまり情けなくってやりきれない。実際、陰謀成金どもの本を開いてみれば、俺が受信する電波のたわ言とほとんど変わらないことが延々と書かれているので、俺はこいつらも同族ではないかと思ったりする。

まあ、同じゲス人間として「無茶苦茶な民族差別と組織差別を飯のタネにして喰っている最低のゲス野郎」という点は高く評価できるが、いつまで経っても同じ陰謀をくり返し叫ぶのはあまりにも芸がなさすぎ

る。なあ、頼むからお前ら一度クジでも引いて代表を決めて、一人くらい思いっきり酷く殺されてみろよ。あんな凄い陰謀を長年暴き続けているのに、ただの一人も消されないなんて、リアリティというモノをナメちゃいないか？　読者だっていつまでも馬鹿のままじゃないぞ。

陰謀史観は四十女の腐りかけたおめこのように、一度ハマるとなかなかその魅力には抗いがたいものがあるので、ハマった連中は御愁傷様だ。しかし、どーしてこの国の連中は「ユダヤの陰謀」だとか「イルミナティの陰謀」なんて他人様の陰謀暴きにばかり夢中になるんだろう？　それに負けない「日本人の陰謀」を自分たちでプランニングしようという気概のある連中はいないんだろうか？　残念ながら、俺の脳内電波の調べでは、そういうのは青年向けの漫画の中にしか存在しないようだ。

「陰謀史観」という、病んだ心が作り上げた幻にすがりつく屑のような人生もいいだろう。現実に立ち向かう気力のない連中にはお似合いの生き方だ。漠然とした不安を抱えて生きるよりも「全ては〇〇の陰謀」という明確な不安があれば、何でも気に入らないことや嫌なことをその陰謀のせいにして安心して生きられるんだろう。とことん安い人生だ。そういうクズどもの欲求不満の解消のために怨まれるユダヤ民族やフリーメーソンの連中はたまったもんじゃねえだろうな。しかも、徹底して「正義を愛する心」で怨まれるんだからやりきれない。こんなぺテンに易々と乗ってしまう人間が何万人もいるんだから、世の中はいつまで経っても良くならないわけだ。まったく俺の思う壺だよ。

しかし、電波を受信する人間の中でも「陰謀」に取りつかれ、電波文書を作って陰謀を告発し、陰謀と戦おうという連中は人生に明確な目的ができるという点で幸福だ。彼らは一生巨大な陰謀組織と孤独な戦いをくり広げるのだ（彼らの脳内で）。そして、生きがいのある人生こそが、真に充実した「幸福」な人生と言えるのだろう。たとえ、その生きがいが幻だとしても。

＊小人もの（オマケ）

電波ではないが、工場勤めの中で出会う、族あがり、不良あがりの連中には、中坊の頃にさんざんシンナーをやりまくって歯までボロボロの連中がいる。そういう奴らにシンナーの体験を聞くと、なぜか「小人」の幻想を語る奴が多かった。シンナーを吸いすぎると自分のアタマが壊れてバカになるのが客観的にも良くわかるんだそうだ。すると地面の小さな穴から緑色の（水色だったりもする）小人たちが何人も現われて、自分の頭のフタ（意味不明）をあけて壊れた頭を修理してくれるんだそうだ。その時に何かをインプリントされたりもするらしく、これはUFOにさらわれた連中の体験にも似ていて面白い。

反撃は「妄想」で

最後の小人ものを除いて、以上が俺に来る電波のあらましである。これが全てではないのは、電波の事例を細部にわたって説明しようとすると、とても一冊の本では収まらないほど膨大なものになるからだ。幼少

期の俺は、このような種々の電波に振り回され、いいようにオモチャにされていた。鬼畜系のゲス人間であるいまとなっては、そうした電波の攻撃にひたすら耐えていた頃の自分がとてもいじらしく思える。

では、どうやってこの膨大な電波を克服したのか？　それは、小学五年生の夏に、海で溺れて死にかけた時の「神秘体験」（としか言いようがない）が、重要な契機となっている。この神秘体験についても書き出すときりがないのと、これまた言語で説明するのが非常に難しいので割愛するが、それによって俺は大きく変わった。

それまで俺は、どちらかといえば勤勉で大人しくて、誰からも誉められる「良い子」になろうと周囲に対して神経質に気を配る、ひ弱なガキだった。いじめっ子たちから理不尽な仕打ちをされても、自分が我慢できればそれでいいという穏やかな平和主義者だった。田舎の学校に転校して、そこでいじめにあっても、善良すぎる両親の影響をモロに受けて、「できれば、みんなが仲良く幸せに暮らせればいいなあ」などと、悠長なことを思っていた大馬鹿者だった。そうした性格が、やって来る電波に対しても反映されていたのか、この時期は日毎にわけのわからない電波が増えていた。とにかく、実生活でも脳内生活でも破綻しかけていた時期であったことはたしかだ。あの夏、あのまま何もなければ発狂して自殺でもしていたかもしれない。

とにかく、その神秘体験で俺は生まれ変わった。これまで世間に対しても、電波に対しても「大人しい自分」だったのが完全にキレたのだ。

「自分を縛る何物も存在しない。これまで〝してはいけない〟と思っていたことは、みんな法や習慣からくる思い込みで、意味を離れて現象だけで考えれば、〝やっちゃいけねえことなんて何もねえんだ！〟ああ、俺は自由なんだ。いつだって殺せる。攻撃されたら、しかえししてもいいんだ！　いや、攻撃される前に攻撃してやる！」

俺は神秘体験の最中に自分の意識がぐんぐん拡大していくのがわかった。大きな解放感と深い充足感が波のようにおしよせて、生まれ変わった喜びに涙さえ流していた……ここまでは、その後数多く本で読んだ他人の神秘体験と似たり寄ったりのものだったろう。俺の場合の幸運は、その時同時に恐ろしく怜悧（れいり）で凶悪な何かが身体の中に侵入してきたことだ。それは電波とは全く違った感触だった。骨を持たない肉のような塊が背後から密着して俺の中へ入ってきた。快感を伴った冷たい響きが、身体の奥から脳や手足の末端へ広がったのを憶えている。

こうして「大いなる自由と悪意」を獲得したその後の十年間、俺は傍目にはとっても嫌なガキだった。凶暴なばかりでなく、悪事や復讐には時間も手段も選ばないサイコ野郎になっていた。いつのまにか「卑怯」とか「卑劣」という言葉の甘い響きに酔い、やることがどんどん陰惨になった。

不思議なことに、暴力に目覚めてから、それまで病気がちで軟弱だった身体が、大した運動をしたわけでもないのに身長も伸びて急激に筋肉質で骨太の頑丈な身体になった（注1）。意識が身体に与える影響という

のは非常に大きいものらしい。

さて、電波の方に話を戻そう。神秘体験後、俺は電波に対しても攻撃的になった。俺の取った電波への攻撃方法は、ずばり「妄想」である。一種の「開き直り」のようなものだが、それまでは電波が運んでくる音やらイメージやらに、いちいちこちらが反応していた形だったが、逆にこちら側がどんどん先へ先へと、それもなるべく醜悪な方向へ「妄想」してやろうという趣向に変えたのだ。積極的な人生――それまで自制しがちだったゲスな「妄想」を可能な限り積極的に解放したのだ。醜悪な電波には、さらに醜悪な妄想をぶつけた。語りかけてくる「声」に対しても、どんどんゲスな妄想で対抗した。目つきが変わり顔つきが変わった頃、俺はすっかり一人前のゲス人間に成長していた。

拡張する妄想神経

ただ、この妄想攻撃には思わぬ副作用があった。すなわち、電波以外に対しても、妄想が止まらないのである。何かを見たり聞いたり、触ったりすればそこから無数の妄想が同時に凄い速さで頭の中に生まれた。まるで、爆弾が炸裂してその破片が無数に飛び散るように制御不能の妄想が広がる。ほんの一瞬の間に実に多くの人生を見たり聞いたりした気になるから不思議なものだ。

さらに妄想が進むと、どこか遠くで行われている何かの作業が見えたりもする。たとえば「今、こうして

いる時間にせんずりをコイている奴が周囲二百メートルに八人」などという馬鹿馬鹿しいことが妙にリアルに妄想できる。また、そうした妄想は連鎖的に無限に続く振動のようなものにもなる。たとえば、俺の頭の中には十三年前のある日の電波に対抗して発された妄想が今も継続して回っている。それに意識を集中させれば、いつでもそれは聞こえてくる。ただ、気分が悪くなるだけなので、なるべく無視しているが。そうした妄想は日を追って加速する一方だ。

次に、妄想を極力抑えるために、俺は頭の中で妄想の視覚化を行なった。頭の中に一つの情景なり事物を無理矢理作りあげてそれに意識を集中させると、無制限にバラバラに拡がる妄想がそのヴィジョンに引きずられていく。絵を見ることで妄想に一定の方向性を持たせ、想い描く絵の種類で妄想を操作しようとする試みである。これは多分、ニューエイジや神秘学の修行者が行う「瞑想」に近いものだと思うがどんなものだろう。

この気違いじみた訓練によって、俺は頭部と全身の毛穴から分泌物とともに無数の妄想神経を無限に伸ばして、遠く離れた場所の他人の性交を覗き見るという妄想や、多くの人間どもの発情した淫波を感じて下品に欲情したりすることが出来るナイスな鬼畜野郎になれた。受けた淫波を更に増幅して発信もできるようになった。霊的レイプや霊的ゴミ漁りという鬼畜技が使えるようになったのもこの訓練のおかげである（注2）。今では俺の妄想神経は、すっかりこの都市の夜に馴染んで、日夜電波を受けたり淫波をばらまいたりと充実

した日々を送っている。

最後に

――さて、誌面にも限りはある。そろそろ俺の真の姿と正体を明かそう。

第二次世界大戦でユダヤ人六〇〇万人を虐殺したヒトラーは何を隠そうこの俺である。罪もない民衆を虐殺して苦しめたローマの暴君ネロは何を隠そうこの俺である。焚書抗儒をした秦の始皇帝は何を隠そうこの俺である。銀貨三十枚でキリストを売ったユダは何を隠そうこの俺である。時空を超えたあらゆる陰謀の中で、さらに最悪の情況を導いたのは全て、何を隠そうこの俺である。ベトナム、カンボジア、中東、アイルランド、アフガニスタン、ユーゴ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、チェチェン……現在も続く全ての紛争をこじらせたのは何を隠そうこの俺である。人の歴史が続く限りこの意

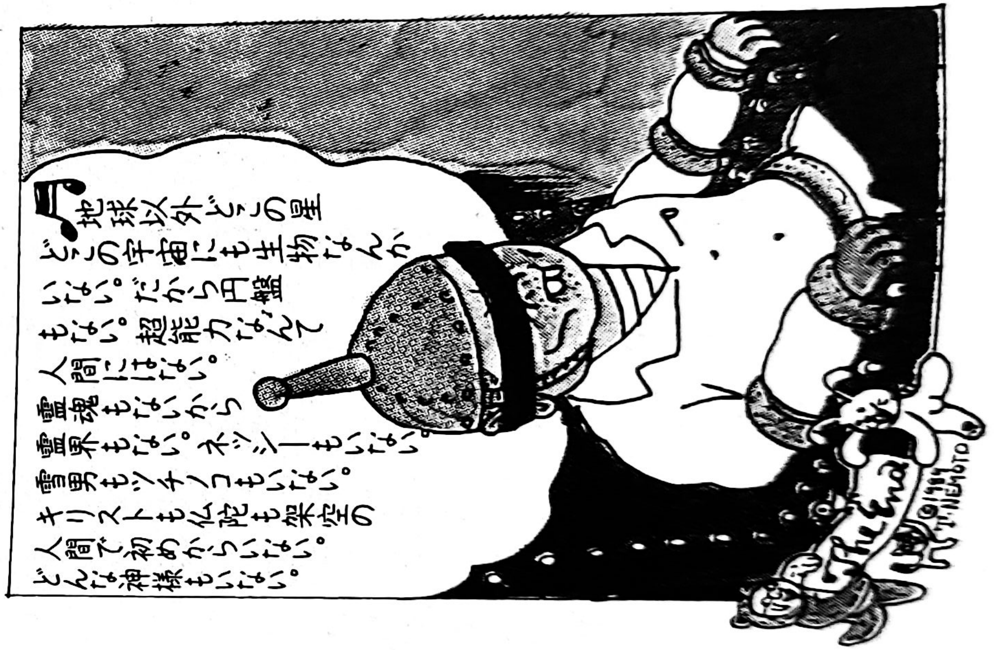
識、村崎百郎は終わらない。一九二〇年代セントルイス、ヒヒノケッ源流でサソリに刺されたのは何を隠そうこの俺である。俺は傷ついた星雲を横切って太古の地球にたどり着き、湿った沼地でサルどもの股間に張りついて奴らを人間に退化させたウイルスだ。村崎百郎は終わらない。ただ歴史の中でその体をくねらせ移動するだけだ。悪意の介在する全ての時空間には俺の妄想神経が届いている。村崎百郎は時空を超えて存在する悪意の総体である。この悪意は決して終滅することがない。鬼畜行為の裏にはいつも俺がいる。俺を憎め！　俺を恨め！　お前らの憎悪が俺を勃起させるのだ。

人間の身体は柔らかい機械で、つねに多くの電波や妄想や霊体が取り付き、侵入しようと狙っていることを忘れるな。

俺は嬉しそうにソフトマシーンから手を振る。死んだ指が煙の中、玄海灘を指し示す。

注1：このへんの事情は「ガロ」九三年十月号の「特集・夜、因果者の夜」の根本敬によるインタビューに詳しい。

注2：「ダスト・ハンティング＝霊的ゴミ漁り」「危ない1号」VOL.1（データハウス）参照。「とにかくゴミやってる奴はこの東京だけでざっと三万人はいるわな。俺にしても東京でのゴミ歴は十四年あまり。それも俺は専業じゃなくて、あくまでもアマチュアなんだ。趣味の域なワケよ。ダストハンターは仕事でやってらっしゃる公安警察の方から、廃品回収業者、人のプライバシー暴くのが何よりも好きな家庭の主婦まで、ありとあらゆるところにたくさんいるんだぜ～」【村崎】




隣りの〈電波〉たち

〝電波チラシ〟をめぐる遠大な無駄話

——市井の「電波ビラ／電波文書」について、根本さんはこれまでの因果者探訪記でもたびたび取り上げられていたわけですが、とりあえずもう一度現物を見直してみようということで、今日はご自宅近くまでうかがいました。で、まずはどれからいきますか……。

根本　**まず最初に小手調べで「選挙公報」から見ていきましょうか。これは厳密には電波チラシとはちょっと違うんだろうけど、知事選クラスになるとホントに凄い人材が出てくるからね。で、主張してることは電波系と大して変わってないんだよ**(笑)**。**

——東京を／日本を／世界を／地球を〝良く〟しようという使命感に燃えた人が「自分の出番だ」と、わんさかカミング・アウトするんですね。

都知事候補・M井L峯さんの主張

根本　**まずこれ**(図❶)**が、平成三年四月の都知事選に無所属で出場したM井L峯さんの公報。この方は電波系立候補者の代表格ですよ。ほら見て、いきなり「M井というのは二百年前の姓」ですって**(笑)**「戸籍名はN沢芳子」だけど、彼女の中ではM井なの。**

——現世ではN沢を名乗っているけど、心情的にはM井なんですね。

根本　**しかしのっけから「公選立候補毎にみじめったさが消える。昨年九月市長選挙費二千四百円也。わら半紙のポスターが役に立った。おもしろかった」って、感想述べられてもねえ。**

——何度も出てるんですね。それもお金かけないで……で



無所属 [redacted]井[redacted]

公選法候補者になめったら消える。
昨年九月市長選挙 二千四百[illegible]
わらび餅のポスターが役に立った。
[illegible]

一、国歌を都で決定 実施
二、夏休みの学習は有害 禁止
三、フランスの留年と日本の留年は別
外国をまねする。
四、公立料理教室
栄養素＝病気＝通信と大切に改革する。
例 にんじんを食べると怒らない。
五、重度心身障害は智能がよい、
出生第一回の授乳から特殊乳児食を与える。
母乳・牛乳・粉乳等 皆不可

愛読書
ケンペル先生著 江戸参府旅行日記
日本研究所所長 ヨーゼフ・クライナー先生サイン入り

著書
「我は平民」(一)(二)既刊 (三)予定

戸籍名
[redacted]澤[redacted]子

❶

も、昔は「みじめ」だったんですかねえ。それにしても思いきり決めつけてますよね、これ公約なんですか？「夏休みの学習は有害禁止」「フランスの留年と日本の留年は別」「公立料理教室にしんを食べると怒らない」「重度身心傷害は智能がよい　出生第一回の授乳から特殊乳児食を与える　母乳・牛乳・粉乳等、皆不可」って……。

根本　電波メッセージだよ。愛読書もイイでしょ。「ケンペル先生著『江戸参府旅行日記』」しかも「日本研究所所長ヨーゼフ・クライナー先生サイン入り」、日本研究所だよ。

——著書もあるんですよね

『我は平民』って。それも(一)(二)既刊、(三)は予定。

根本　限定一部じゃないの(笑)。もう彼女の中では、自分の本が全三巻になるって決めたその時点で、もうできちゃったも同然なわけなんだから、もうイイんだよ、こういう本にしようって決めた瞬間で、本人は。……そういえば、この人の選挙演説を録画したビデオテープも、オレ持ってるよ。

——どういうこと、言ってました？

根本　「ハウンハウンフウン、フウンハウンハウン、ハウンフウンハウン」って(笑)。

——全然わからないじゃないですか？

根本　もともとお婆さんだし、タダでさえ難解な話なんだけど、それを歯が抜けた状態で延々と「ハウンハウンフウン」って言うものだから、もう二重にわかんないの(笑)。

——このM井さんはいまでも健在なんですか？

根本　さぁねえ……だけどさ、この平成三年の都知事選に出場した時点で、もう彼女は生死を越えてるんだよ(笑)。生きてようが死んでいようが関係ないんだよ、こういう人は。存在そのものが〝電波〟なわけだからさ。

❷



[redacted]藤[redacted]義

日本国の支配者から、アメリカのマッカーサー元帥が、日本国のすべて全部の権利権限、所有権を取って戦後の日本国を支配、征服、占領していました。[redacted]藤が昭和二十五年五月に、マッカーサー元帥から、日本の国土、すべて全部の権利権限、所有権を取りました。マッカーサー元帥は、連合国側の、了解を取りつけて、くれました。連合国側は、皆、賛成して、認めてくれました。[redacted]藤以外の日本人は、何も権利権限、所有権をないと言ってました。日本の国土についているのが領空権、領海権、領土権、主権です。この領空権、領海権、領土権これを持って主権で外交、条約、公文書、司法権、立法権、行政権、条例、政治をするのです。これが、できるのは、[redacted]藤だけです。ほかの日本人は、できません。別々に使ってもいいけど。日本の国は、領土権と主権が一つになってるから、領土主権です。主権でほかの権利権限、所有権は、全部作ったものです。[redacted]藤以外の日本人では、外国の権利権限、主権に対抗できないのです。[redacted]藤の持ってる。領空権、領海権、領土権、主権、人権、あらゆる権利権限所有権だけで日本の国、国家は、守られて、他の者。外国の権利権限、主権に対抗しているのです。[redacted]藤が外国に取られると、日本の国は、滅びます。マッカーサー元帥から、日本人の国籍のある、男女全員の身体の所有権も、[redacted]藤が、買い取ってあります、日本国中にある企業、会社の商売の権利権限。権利と利権、経済、市場、市場、マーケットの権利、営業権、経営権も[redacted]藤だけにあります、日本政府、国会議員、国会、議会には、領土主権がないから日本国憲法、法律、権利権限、民主主義、道徳、六法など、全部に任せものです。北方領土にある、領空権、領海権、領土権、主権。すべて全部の権利権限所有権は、[redacted]藤が、取ってあります。日本国は、日本建国以来の神武天皇以来の、日本古来の、権利権限、所有権です。日本国の支配者が、ずーと、持っていたものです。今は、[redacted]藤だけにあります。これは、飲み込んで腹に入ってます。

（領土、主権が、ないと政治ができない。政治が、できるのは、[redacted]藤だけです）

府知事候補・S藤M義さんの主張

根本　で、東西の〝電波系〟立候補者ということで、今度は西の横綱。これ（図❷）が京都府の総選挙公報に載っていたS藤M義さんの話なんだけど、S藤さんによれば、自分は「昭和25年5月にマッカーサー元帥から日本の国土、すべて全部の権利権限、所有権を買い取った」んだって。

――「政治が、できるのは、S藤だけです」これだけならフツーの立候補者もよく言うようなことですけど、その根拠が日本の領土・主権をマッカーサーから買ったっていうのが、斬新なポイントですよね。

根本　その際「連合国側は皆、賛成して認めてくれた」んだってさ。で、その権利書は「飲み込んで腹に入っています」って（笑）。したがって「S藤以外の日本人は、何の権利権限、所有権もなく、政治ができるのはS藤だけ」……だけどさ、この人いくつなのか正確にはわからないけど……どう見たってマッカーサーに会った頃は、生きててもせいぜい〝赤ちゃん〟だよ（笑）。日本の権利権限、所有権、領空権に領海権、領土権、主権、みーんな赤ちゃんのぶんざいで貰ったんだよ。「こいつは見どころのある赤ちゃんだナア」ってマッカーサーに見初められてさ。

――権利好きなんですね。ダメ押しが「もしもS藤が外国に取られると、日本の国は滅びます」って（笑）。

根本　なにせマッカーサーから、日本国籍の男女全員の身体の所有権も買い取ってあるんだって、勝手に売り飛ばされていたわけ、オレらは（笑）。で、「日本政府、国会議員、国会、議会には領土、主権がないから、日本国憲法、法律、権利権限、民主主義、道徳、六法など全部にせものです」と。豪快だよね。

――しかしどんな主義主張のある人でも、所定の手続きを踏めば立候補できるっていうのが、考えてみると凄いことですよね。

根本　民主主義サマサマって感じだよね。

――でも知事選くらい大規模な選挙に出場するのって、かなりお金かかるでしょう。

根本　さっきのM井さんにしてもこのS藤さんにしても、何でそんな資産があるのか、そっちも気になるよね。それこそ

道楽で、こういうヒトに金出してあげてるパトロンとかいたら、ホントーに素晴らしいと思うけれどね。

――こういった選挙関係のイイ・キャラには、随分と昔から注目していたんですか？

根本　選挙はね、十八歳くらいの時から気にしはじめて……最初は秋山祐徳太子先生とかだったの。ただ秋山センセイとかになると、もう確信犯だから別格ですけどね（秋山祐徳太子先生に関しての根本氏の知見は、『因果鉄道の旅』（ＫＫベストセラーズ）に詳しい…編集部注）。だけどそもそも選挙って、オカシイ奴とかいっぱい集まってくるじゃないですか。その中にもイロイロなレベルがあるんだけど、時々超弩級に凄いのがいる。

――話は前後しますけど、根本さんがこうした、過剰でつじつまの合わない主義主張を喧伝する、いわゆる〝電波〟な人や文書に、関心を持つようになったきっかけって、何なんですか？

根本　まあ一番最初に〝電波〟って言い方を意識したのは……そういうことを周囲で最初に言い出した人っていうのは渡辺和博さんだよ。たしかあの人がだいぶ前に「毒電波」って漫画を書いていたんですよ。彼の知り合いの知り合いのマンションの下に住んでるオバサンが「いつも上の階の向かいの住人が毒電波を送ってくる」って文句言ってて……結局いつまでたっても電波が止まらないから、最後にはそのオバサン、引っ越していっちゃう。たしかそういう話でした。恐らくそれも渡辺さんの身近で実際にあった話なんだと思うよ。そしたらその後に、例のＫ保軍司の通り魔事件が起こって。

――メソメソ電波とニヤニヤ電波に、身体を乗っ取られたっていう話ですよね。

根本　で、そのあたりから、〝電波〟って言い方がポツンポツンと出はじめたんじゃないかなあ。

電波淑女・湊Ｍ子さんの場合

――街中の電波ビラを収集し出したのって、どこらへんがきっかけだったんですか？

根本　んー、やっぱり湊さんのチラシ（図❸―Ａ、❸―Ｂ）じゃないの。質的にも量的にも充実してますからね。

――「トリコじかけの明け暮れ」こと、湊Ｍ子さんですね。

❸-A

社会の皆々様へ。御回覧頂きます。

長年、私、湊[redacted]子（もと養護教諭）の身体を人負じかけとした。長年の地下かせぎ（味）。人食いの機械に物を言わせて凶悪仂き地下暴れぐらしです。

ぜひとも全国の警察庁等の方々や、皆々様方にも特別ですが援助を（長年）お願い申し上げます。

恐喝的 松野男田の〒163 中[illegible] [redacted] ミナト 湊[redacted]子（もと養護教諭）（私の身体エンジキ・直営的です）

人負じかけ（病弱者）にて [illegible]

半島（朝鮮）[illegible]の味 大じかけ

もと北朝鮮系らしい赤軍的地下暴れです。

❸-B

（1994年11月）（下記の湊[redacted]子の脳力すべてに吸血の、ヤクザ戦争屋達らしい）

天下荒しましていた大悪らつ的一族らしい

大将さんの家族でも荒した、好き戦争的

工業やキカイ技術を用い、長年、左記住居に

現在くらす湊[redacted]子の脳力（身体）・（家族）に寄生的

をエンジキとした、土方アクタ百姓

味一族る達らしい

教書・と教育勅語もないがしろのメクラ

戦略、天下ゴールド踏みあらし事件のようです

ぜひ湊[redacted]子のプリントの教書・各役所や

全国の皆々様ほど御回覧下さい

ますように私事のようですが毎日

湊[redacted]子をエンジキにくらす人食い族の

戦争手口の旅せぐらし大事件ですので

〒153 東京都目黒区中目黒3 [redacted]

秋[redacted]荘内6号室（前に25、16号室でした）現在くらしています。

ミナト 湊[redacted]子 1927年 昭和2年6月21日生まれ

近辺の学校等で25年位学校の養護教諭をしていた

両親 湊[redacted]造（明治24年 1891年～1962年）[redacted]キ（明治23年 1890年～1971年）

兄2人 姉2人

湊[redacted]敬（札幌市）　湊[redacted]也（[illegible]村）　克子（留萌市）　松枝（札幌市）

長年湊[redacted]子をエンジキ（味）とした人切り口らくらす旅せぐらし一族

戦争的仂きの如き事件ですので。

（Masako Minato の身体を電磁力等で吸血的に仂かす一族は戦争屋であった者達らしいです）（1995年　月）

彼女は根本さんの因果探訪では、もう定版モノですけど、最初に根本さんが湊さんの話を紹介したのって『ガロ』あたりでしたっけ？

根本　いやもっともっと、ずいぶん昔ですよ。たしか『平凡パンチ』でやった「幻の名盤解放同盟」の特集あたりじゃないかな。

——へぇー、そんなレアな特集があったんですか。珍しいですね。

根本　でもあの特集はチョキチョキと切り取って『ディープ歌謡』（ペヨトル工房）の中に入れちゃいましたから（笑）。

——あ、そうか。じゃアレ見れば、だいたいどんな内容だったのか、わかるんですね。

根本　いゃあムチャクチャだから、そんなにわかんないかも（笑）。彼女との出会いはね、もう十年くらい前の話なんだけど、地下鉄銀座線に乗ってたら、六十代後半の品のイイ（だけどちょっと不気味な）おばあさんが、オレの座っている目の前に来てね。で、何も言わないんだけど、抱えていたショッピングバッグに手書きのチラシを貼り付けて、どうもそれを乗客に読ませたいらしいんだ。それがえらく達筆な文字で「長年私の身体をエジキのトリコじかけとした。毎日の大事件……」ってやつ。「大事件ですので。社会の方々にもよろしくお願い申し上げます」ってお願いされちゃってね。住所もしっかり書かれていたから、後日アパートも訪れましたよ。木造二階建共同便所で、二階には湊さん以外誰も住んでないの（笑）。で、そのチラシを入手しました。

——最近でも湊さん、新作を発表してるみたいですね。つい数か月前も友達が東横線渋谷駅のキップ売場で湊さんの最新チラシ見つけましたから（図❹）。

根本　知人から聞いたんだけど、湊さんはね、あの地域の郵便局でも有名な人なんだって。どうしてかというと、毎日天皇・皇后両陛下に、こういう達筆のハガキを出してるみたいなの。「吸血的かくれ国あらし業、転覆しようとしております陛下」とか（笑）この調子で書いているんだろうなあ……で、それ持って毎日郵便局に来るの。だから「あの人また来たよ」って局でも話題になっちゃって……ところが半年毎とか、あるサイクルで、パタッと来なくなっちゃう時があるらし

④

〒153（中目黒 3-[redacted]）　1996年 4月18日 木曜 記

（秋[redacted]荘（内）5号室）　◎（全国の方々へ）

◎（湊[redacted]子（湊）◎（両親）湊[redacted]造（ミナト[redacted]ゾウ）明治24年 1891 / 1964
[redacted]キ 1890 / 1971

1927年（昭和2年6月21日生）より

（Masako Minato）（湊）

（Important point）◎lord 道
中心（的）長官
（崇敬）（謹敬）
◎（regency）（リージェント）マーリヤ Queen
摂政の宮（General mana）

（上記）ような偉い人のポイントを踏み荒し
天下の大ゴールドを我がものに仕ぐ
◎田舎ヤクザ族（等の）一味らしい（ガキ仕きたり）

（産業用のプリント技術とか。サンプル技術等
宣伝用のテレビ商に使うキカイ技術を悪用乱用し、
森ゴールドを荒し仕いた。野盗山師の事件らしいです。）
◎気象台とかの大技術や◎戦力をも用い
天下を暗がり仕いでくらしている上記の手口の
ガキ商人（的）一味）文明国に大災難をもた
らしている長年のようです。（ので）湊[redacted]子の
プリント等の文書（教書）ぜひ公役所や文
◎（全国の皆々様にも御回覧下さいますように）
（上記のような大事件に巻き込まれる明けくれでして）
◎乱筆ですが全国の事件のようですので（同様な文書）
◎御回覧下さいますよう公渡ししています

い。で、また半年くらいたつと、毎日やって来る……要するにその間は病院かどこかに入っているんだろうなあって。

――受信が切れちゃったわけでなくて、隔離されちゃって来れなくなったと……でもそれって、どこから聞いたんですか、根本さん？

根本　その郵便局で友達が働いている知り合いが、コッソリ教えてくれた。郵便局の人はプライバシーに関わるから絶対に口外するなって言っていたみたいだけど……でも本人、実はもう有名人なんだしね。

――それにしても陛下宛で出しても、絶対に届かないでしょうね。どこで回収されるんでしょうかね？

根本　だから下手すれば、一年で三百六十五枚の湊さん直筆の達筆な陛下宛てのハガキがあるんだよう。欲しいよねえ、一枚でイイからさあ(笑)。宮内庁とかで厳重に管理しているのかもね。くれないかなあ……。

――湊さんのビラは、たしか同盟系のイベントでもよく展示してましたよね。

根本　このテのチラシや文書の中でも、湊さんのはずば抜けて達筆だし読みやすい部類なんだよね。だいたい言葉の感覚が素晴らしいじゃない、詩人だからさ、彼女は。

――〝うたごころ〟がありますよね。

根本　「トリコじかけの明け暮れ」をはじめ、「吸血的かくれ国あらし業」とか「大じかけ犯罪業」とか「赤軍的地下暴れ」とか「ヤクザ族ブラック出」とか「ゴールドあらし」とか、名フレーズがビンビン出てますからね。オレも随分使わせてもらいました。

――でも、根本さんがこれだけマメに紹介したおかげで、本人もあずかり知らないところでこんなにポピュラーになっているのって、素晴らしいことですよね。

根本　あと、これも人からの報告なんだけど、浜松町あたりの航空チケット売り場で、お盆かゴールデンウイーク前のすごく混み合う時期、ザーッと何十人もチケット売り場に並んでいるわけよ。で、その中にどういうわけか湊さんも並んでいて(笑)、でオレの知り合いがそれに気づいて「いったい湊さん、航空券買ってどこ行くんだろう」って注意して見てたら、彼女、自分の番になったらチラシをカウンターにパッと

置いて去っていった（笑）。切符も買わずに。

――航空会社に謀略を知らせたかったんですかね？

根本　**でも黙々と並んでる姿ってイイよねー。丸井とかラフォーレのバーゲンにも、湊さん前の日から並んでてさ、開店と同時にいちばんに入ってチラシを店に置いて、帰ってきて欲しい（笑）。そのくらいしててもオカシクないからさ、彼女は。**

あとさ、このへん（根本氏の住む横浜の新興住宅街）って大型の量販店とかいっぱいあるんですよ。薬専門店とか食料品専門とか……で、その中にペット専門の大型店もあるんだけど、そういうところって休暇シーズンになると「先着五十名様にミドリガメ進呈」とか「カブトムシ進呈」とか、そういうことをやる（笑）、生き物プレゼントしちゃうの。で、そういうのにも湊さん並んでてさ、カブトムシ貰わないでチラシだけ置いて帰っちゃって（笑）、オカゲサマで五十一番目に並んだ子供にもカブトムシが渡されたとか、そういうイイ話だってあるかもしれない。だからさ、世の中で起きている出来事の中で、われわれがフォローしてる〝イイ話〟なんて、ほんの一部なんだよね（笑）。

――そのザルからこぼれる水の部分が、もうもったいなくて仕方ないですよね。人知れずどこかに染み込んでいってしまうわけですから……。

いまは亡き「電波喫茶」のママの主張

――これまたその筋では超有名な「電波喫茶」ですが、こちらの方はずっとあとになって知ったんですか。

根本　**こっちはずっと最近ですね。都内私鉄沿線の某駅裏商店街の珈琲店なんだけど、「電波が人間の体に穴を開ける」とか「私が死んだらそれは電波に殺されたのです」とか書かれた手書きのビラで、お店の前面が埋めつくされていた。でもって、大家が電波送ってるって裁判やったんだけど、負けて、結局は店、たたんじまったからねえ。**

――こうしたチマチマと書き連ねるマメさ、勤勉さというのが「広報系電波人間」の必須条件なんですかね。このへん（図❺）が実際の手書き文書ですか。

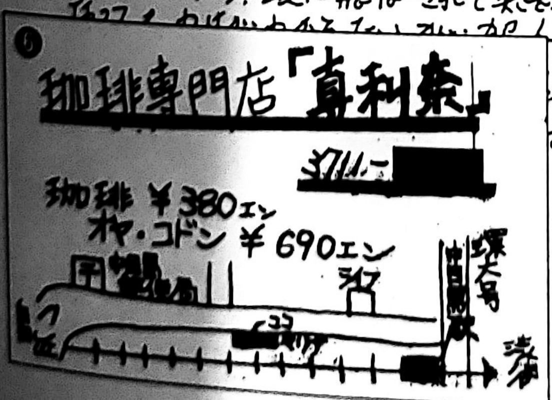
根本　**そうそう、これが店主の電波ママ手作りの小冊子。大**

⑤

電波は、人体に有害である。

トランシーバー、無線機は凶器である。

皆さんが、包丁は凶器と知っているのと同じく、トランシーバー、無線機が凶器となって、殺人や傷害を加える、完全犯罪用の凶器である事を知って欲しいという願いを以って、お知らせをしようと、一生懸命なのです。
包丁で人を刺すと返り血を浴び、首尾良く殺しても、その死体の跡始末に困ります。それですぐ逮捕される。毒薬で殺しても、すぐ逮捕される。—ところが、トランシーバーや無線機で殺しても、皮の中で血はあふれてしたたり、医者が見た通り、クモマク下出血とか、心臓組織不全とか診断してくれるので、死体は、堂々と火葬されるので、こんな便利な完全犯罪用の凶器は、他にふたつとない。
さらに、ウマイ事には、大勢の人は、電波が無害だと思い込みが激しく、有害である事に耳をかさないから、犯人に手を貸しているようなものである。これを常習している犯人との同県人らは、上は政界財界で、彼等が邪魔者とするものを、これで殺傷して消し、下は、アパートの家主が賃借人を追い出すために利用活用しているから怖いのである。さらに、被害者がこれに気付き、電波で傷害を加えるなど抗議しようものなら、確実にケガをさせているのに、"電波でケガをされるなどというキチガイだとバカな日本人の「電波は無害だ」という間違った認識につけ込んで、キチガイだと大さわぎをするのである。
この手を使って、戦后、何も知らない大勢の人が殺されているにも拘らず、食道静脈瘤の破裂死、病死とされて、完全犯罪が成立し、図に乗って、トランシーバーを凶器と知る同県人達は、ただ気に喰わないという理由で、乗物の中で、会社の同僚に、上司に、通行中の人に、各病院で医者が患者に、タレント同志で、TV製作者のスタッフの中に犯人がおり、無差別に電波を飛ばして、ケガをさせている状態なのである。相手は、武器を持ち歩いているのと同じで、こちらは丸腰なのだから。相手は、図に乗って、電気を飛ばしまくり、こちらは、血を吐いたり、頭に飛ばされて突然に倒れて、ノドが焼かれて声が出なくなって、わけがわからないが、犯人はほくそ笑んでいるのである。
…ます!
…だから、電波は有害である事を正しく認識…
…は、ありませんか!



家が電波で店を狙っているっていうことでね。それで電波を使うのはみんな同県人だっていうんだけど、どこの県かっていったら〝か・ん・こ・く〟なんだって。

――ハナ肇や逸見政孝や中川一郎も電波で殺されたことになってましたね。いまでは貴乃花や雅子さま、ママ自身も電波の標的にされているって。

根本　実はさ、駒沢大学の学園祭に「わかたけ」と「突然段ボール」がゲストに呼ばれた時、そこでのショウの一部で「電波喫茶のママ」コーナーを作って、ご本人に演説してもらう予定だったんですよ。ところが店の知り合いの息子の高校生か何か……こいつが余計な奴でさあ、オレがどういう人間か知ってて「オバサンは根本に〝電波ママ〟とか言ってからかわれているんだよ」ってそいつに告げ口されちゃってさ、それから全然コンタクトできなくなっちゃって、トークもキャンセルせざるを得なかったの。

――余計なコト言ってくれましたね～。

根本　無粋だよね～。たぶんそいつ、そのうち死ぬと思うけどね（笑）、電波妨害だから。だって、もう少しで彼女、すごいスターになれるところだったのにさあ……。

――本人のいちばん言いたいコトを、万人の前で語れるチャンスだったのに。ところでこれメニュー（図❻）ですか？〝オヤ・コドン〟ってこの〝・〟の位置がキてますねえ（笑）。

根本　残念ながら、お店はなくなっちゃいましたね。ママの話は『人生解毒波止場』（洋泉社）の中で随分したので、そっちも読んでください。

解読困難な告発チラシ・その1　財閥告発篇

――これも毛筆で連綿と告発を書き連ねてますが（図❼）、あとから細筆で書き加えてあるのが、いかにもまだ言い足りなさげですけど、下半分は細かすぎますよね。これ何が書かれてるんですか？

根本　オレもこれ、ちゃんと読んだことない（笑）。財閥とか資本家にたいする憤懣を綴っているらしいんだけど、ちょっと読めないでしょう……ゼネラル・モーターズがどうとか、ロスチャイルドやデュポンがどうとか、サタンがどうとか666とか書いてあるけど。



例のわが国内外の罪深い財閥ども、えせ財閥共へ。私たちも又、彼らも財閥爆殺とか財閥毒殺の者たちではないと言うことは確約出来る。改めて再び確約する。それらあれらは絶対に私たちでもないし又おそらく彼らでもない。むしろ疑うのならずっと以前からその身辺にいるあの人たちを正確に疑うべきである。度々私たちにこんなことをお前たちは言わせているべきではない。(何故、こともあろうにお前たちは私たちのことまで彼ら彼女たちにコソコソと調べさせているのか?!）今こそお前たちは私たちや彼らを固く固くしっかりと信じていないと、今日明日にでも一族が皆殺しにされるのである。

――いわゆる陰謀説を訴えてる様子ですが、無理に読み進もうとするとこっちの気がどうにかなりそうです。

解読困難な告発チラシ・その2　マルチーズ肛門詰めこみ攻め篇

根本　**これ**(図❽)**は保谷とか田無とか、あちらの地区に一時出回った、そちらの地方ではかなり有名なチラシです。N妻さんという方の訴えなのですが、精神科の診断書が張りこまれてて病名に「精神分裂病」とある。で、文章のほとんどが漢字なんで、これも読んでるとこっちの気も変になりますよ。**

――これは……ちょっとコメントしようがないですね。竹下、中曽根、海部と歴代首相が槍玉にあげられてますが……「破廉恥犯罪日課・大小器物破損・放尿攻め(糞)裸体寝床外そこかしこ猥せつ……全裸残酷仰向け俯せ前後頭足の裏迄体中大人言薬物塗布……前後から注入肛門から詰めこみ攻め日に何回も八年間体内に乳万膨張スタイル人相髪形容姿醜く変貌」……なんか精神病院で非道い目に合ったと主張しているんでしょうかね？

根本　**で、いつのまにか下の方になると、「マルチーズ肛門詰めこみ攻め尻に瘤、耳に放尿攻め可能、ジクジク赤く腫れあがり外毎日」とか「かわいい小犬マルチーズ迄奪回愛犬生涯危害攻め、変貌、毒殺」「小鳥羽毟り取り突かれ血だらけにし」「毎日の危害、ペットにも生き地獄存在」と、自分のみならず可愛いワンちゃんやオカメインコにも政府の攻撃が及んでいることを主張してる。**

解読困難な告発チラシ・その3　バカタレ国民への「衛星犯罪」告発巨篇

――これも(図❾一三四、一三五ページに掲載)凄すぎます。イロイロ書いてあるけどハンパな文字量じゃない。

根本　**だけど、これってイベントで展示するのに拡大コピーをとって、セロテープで張り合わせたものですよ。実物はみんなこの四分の一くらいの大きさかな**(笑)**。だからこれも二〇〇パーセントとか拡大してるの。もとのオリジナルは紛失しちゃったんだけど、これくらい拡大してどうにか読めるくらいでしょ。**

⑧ 憲法擁護日本政府の不条理弱肉強食警察官真人間の戸籍謄本抹消精神病院監禁権力嵩の犯罪・保谷市東町[redacted] 新[redacted]つる子

抗議因習、細川護熙、総理大臣の犯罪、真実答弁、釈明出来ず

田無警察署、ひばりケ丘団地交番前自宅、強制退去迄、9年間次々と、歴代総理大臣の犯罪公示の現実、異状、警察官一存、

「安藤さんが共産党の資金源にした」と警察乞食常時待機犯罪集団、役割分担、密着、法治国家犯罪、失策実態、判明下、

細川総理、隣室から強奪、金裸、兩害老害一体、何を詰めこみ注入、塗布、飲ませるのか、食事迄自宅の、言語に絶する、

極悪非道、勤労者の家賊横領、処理、日本政府の違憲、総ては内密、正常国民、患者、煮え湯、付人、強、法治国のする事か、

政治資金吸血犯罪専従、空巣、仮死状態、足が付いても、追及無しの、醜悪自在、36年間、甘い汁、地獄、一寸の虫にも五分の魂、

吸血 日本政府犯罪

抗議正当事由 政治資金泥棒

乞食手引に活用

保谷市役所、田無警察署
田無杉並中野武蔵野各
法務局豊島区役所外各
出張所各消防署郵便局
銀行商店街外、捏造無数

空巣、仮死状態

個人の自由束縛 数々の犯罪反逆出し抜き、兇悪老害、解剖用国民拭浄、法治国家犯罪主証

平成二年の政治資金収入	
日本共産党	4,518,537
自由民主党	970,360
日本社会党	594,357
公明党	578,970
民社党	209,201
社会民主連合	48,074

真っ当、集摘み、汚い行為、一切無し

屁川アヤコ　政府の憲法違反
大衆未知、犯罪生活
陰非正政法生き地獄

新妻

宮沢総理の吸血

納税、社保、公団家賃、権利奪っての、政府犯罪

判断書 91.6.20. 強制退去
保谷市ひばりが丘 [redacted]
新[redacted]つる子

私物化横領 ひばりが丘団地、強制退去時、戸籍謄本、最終、捏造処理、法治国家の不正、承服の国民は居ない。

暗躍者仮死時不正謄本持参
これは謄本である。
平成 3.6.20 年 月 日
東京地方裁判所八王子支部
執行官 日本 [illegible]

内閣総理大臣 中曽根康弘の泥棒毒害攻めの外

犯罪毒害攻めの外、総理大臣竹下登の税金泥棒

憲法擁護、日本政府の不条理、弱肉強食、警察官、真人間の戸籍謄本、抹消、精神病院監禁、権力嵩の犯罪／抗議因習。細川護熙、総理大臣の犯罪、真実、答弁、釈明出来ず／田無警察署、ひばりケ丘団地交番前自宅、強制退去迄、9年間次々と、歴代総理大臣の犯罪公示の現実、異状、警察官一存、「＊＊さんが共産党の資金源にした」と警察、乞食、常時待機、犯罪集団、役割分担、密着、法治国家犯罪、失策実態、判明下、細川総理、隣室から強

――どこで入手したんですか？

根本　文京区界隈に出回っていたものを貰いました。家のポストに入っていたんだって。だいたいこういうものって、そうでしょ。

――ある日起きて、家のポストを開けると「電波チラシ」が入ってた（笑）。

根本　**イイ、ポストだよなア**（笑）。**ピンクチラシや裏ビデオの宅配チラシどころじゃないよ……。**

――理屈やグラフや図表も入っているんですが、ちょっとこれは要約しようがないので、これも実物のディテールを見ていただくことにしましょう。

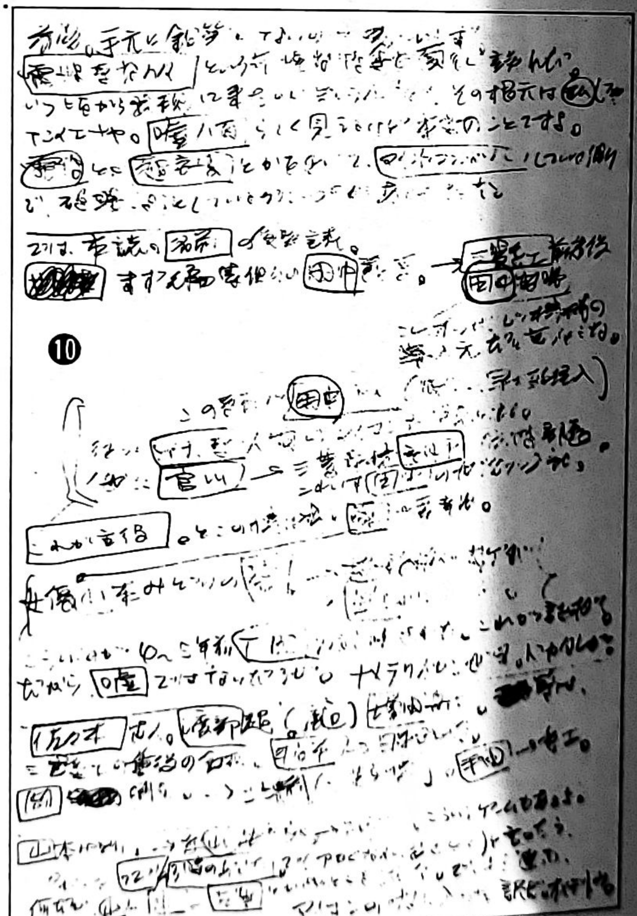
電波ハガキを解読する

根本　**あとね、これ**（図⑩）**は以前『週刊ＳＰＡ！』で電波系の特集をした時**（「異界からのメッセージを脳でキャッチする「電波系な人々」大研究」95年11月1日号収録）**に、記事を読んだ読者の方から編集部に送られてきたハガキ。**

――「手元に鉛筆しかないので悪からず」と丁寧ですけど、本当に鉛筆書きで読みづらいですねえ。

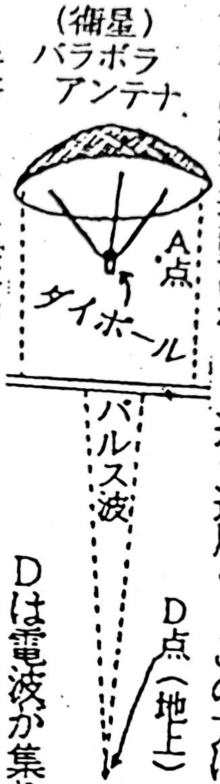
根本　**「本誌の名前の解読」ということで、編集側のＴ中は三菱重工の前重役のＴ中とか、イロイロ推理してて、文末に「ナメテワイカンゼヨ。バカタレガ」とある。**

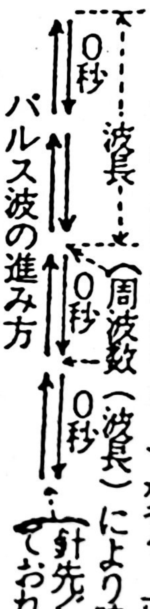
――むすびに「で、キミ達もマイコンの内に入った訳だ。オメデトウ」とありますけど。ねぎらわれても、ちょっと何のことだかわからないですよね。



⑩

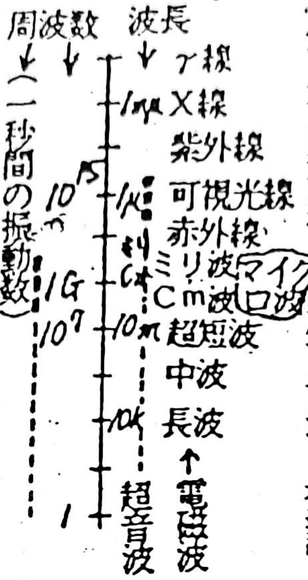
●〈パラボラアンテナと人工衛星〉衛星はレーダを空に浮かした物であり、衛星は内部、又は外部にすべてアンテナを持っている。地上レーダで可能な事は同じ電波を発射する衛星であればすべて出来る。というだけではなく地上の分解能（人間等の探知能力）・他の機能面・潜在面に対して地上レーダより優れている。D点はA点の何万倍の強力振動になり、遠く迄届く。この力はアンテナの直径又は出力によって変る。直径9mの場合はAより

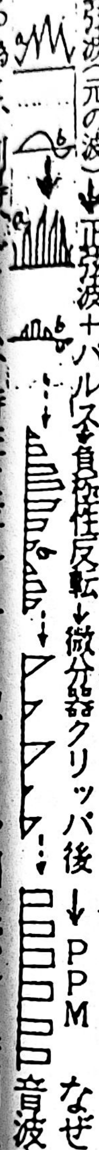




Dは電波が集り振動力の倍率はさらに増す。アンテナを小さくして脳内部の切る手術として医学的に使われている。このように頭蓋骨に影響を与えないで脳を切れる。衛星から発射された電波を地上でD点を針先の太さから10mの直径にする為にはダイポールを数ミリ動かせば良い。

●〈電波の種類と（超）音波を変調・変換したパルス波〉表の点線は（超）音波の周波数と波長である。太線は可視光線に匹敵する周波数である。電磁波とは速度が違う為に周波数と波長はズレる。"Z"で使われていたCm波の電磁波は金属、ビル等でハネ返る。（超）音波はトンネル・ビル・岩等を通過する。そして、電磁波と超音波の波長を合わせると同じ特性を現わす。詳しく説明すると、電子振動（電磁波による分子刺激も、空間振動（超音波）による分子刺激も同じ事である。これらの電波をビーム・集束して、周波数により、いろいろな働きをする分子刺激又は破壊的振動を発生させる。ようするに、金属を破壊する振動でも建物は物質が違うから影響を与えない





なぜ、パルス変調・変換するかと言うと、（超）音波を空気を伝わり易い空間振動の電波にする為と、利得、ビーム、特性を優れさせる為である。図はパルス変調・変換のいろいろな波形である。波形を見て解る様に、瞬間（0秒）に押し、引く電波であるのが解る。このような激しい振動を分子に起こし、いろいろな

◆音波いわく『衛星犯罪に対して独り言で怒っているバカタレ国民ばかりだ。報道させるぐらい怒りきらなければ独り言も同じ事だ。本当に臆病なバカタレ国民ばかりだからあきらめろ』『電波で殺人しているのに殺人は警察の仕事でない訳ないだろう。しかし、科学技術庁行け！とか色々と犯人どうしで国民をダマし、撃退して非常に心では面白がっている警察ばかりだからあきらめろ』『本当は病気しないのにいやがらせの為に老人を病気（ボケ・怒り・他）で責めると家族は衛星の味方になる。離婚自殺精神病等で責めると衛星のドレイ化人間になる大バカタレ国民ばかりだからあきらめろ』『筆者とは関係ない者が配っているから回収しているとダマさせている共謀者もいる』『捜査する気ないのに取調べを逃れる為に「被害届けは出せます」と言われて、それで怒って済んだという大バカタレ国民もいる』『模範にする為に学生時代優秀だった者を被害にする。又女・子供等の方がやり易い。衛星が悪者をやっていると勘違いしている大バカタレノータリン国民もいる』『大量に被害与えても警察は国民が衛星に犯罪させられるのを待っているのだ。衛星を取締り、捜査しない。だからあきらめろ』

『自分で発明したかの様に～書きやがって。と言わせるとバカタレ国民は本当だと思っておとなしくなる』↑発明したら犯罪して良いのか！40年前に発明した古くさい電波で。『電波でできるのを見せてみれ。と言うと静かになるバカタレ国民もいるからあきらめろ』↑2枚目の発明と電波の用途を説明してあれば見せているのも同じだ

◆「衛星は地球を回る」と言い逃れしているが、衛星も地球も回っているから停止している。TV等で衛星で犯罪をしていないとダマす為にワザと地球より早い速度の衛星を上げるが、それは自国民を殺害各被害する観測等衛星に対する国民の追求を逃れる為の言い逃れ衛星である。パルス波レーザビームで地上レーダより衛星を故障出来るから他国の許可のない攻撃は出来ない。超音波（パルス波）ごときのレーダはほとんどの国にある。

◆「共謀・同罪・精神異常」という言葉を使って回収しようとするが、大バカタレノータリン国民と思っている共謀者の策略であり、共謀同罪は病院警察である。この手紙はS59から改正を重ね続行しているので精神異常とは関係ない。心配無用。衛星犯罪・共謀者に尋問をし、白状させ、素直に白状しなければ怒鳴り、残虐電波犯罪を一日でも早く解決報道させよう。犯罪取調べはきびしくなければならない。⑨常識だ。人間に出来る訳のない超能力と偽る物を見せられて、衛星関係を維持する為に総ての税を暴利され、電波被害を膨大に受け、保険が上がり 大バカタレ虫ケラノータリン国民と思われていていいのか！！

根本　あと、これ（図⑪）は村崎さんから譲ってもらったもの。彼がある朝、六時頃電波で叩き起こされて（笑）青梅街道沿いの電話ボックスに呼び出されたんだって。で、そこ行ってみたら、ボックスの中に五〜六枚、白粉（おしろい）のふりかかった絵ハガキが落ちていて、その裏面に細かく書いてあったのがコレ。顔のパーツと性格の関係を連綿と綴ってるの。

――〝電波〟というか、案外当たっているような気も……あ、気のせいでしょう。でも、悪い性格の指摘に終始しているあたりが、ちょっとソレっぽいかもしれませんね。

根本　末尾に「過去、前世の心、性格が悪い人は、現在の顔が悪く現れやすい。人生を悪い性格のままに生きた人は、死後、地獄で恐ろしい体験をして悪い根性をたたき直される事になります。最近は、臨死体験が大学などで研究され始め、死後の世界の存在を否定できなくなってきている。学校でも教育すべき」というのが、ちと唐突だよね（笑）。それとさ、五〜六枚の絵ハガキがみんな函館の観光写真でさ、それも一枚一枚に白粉が両面に塗られているんだよ（笑）。よく拾ってきたよ、さすが村崎さん。

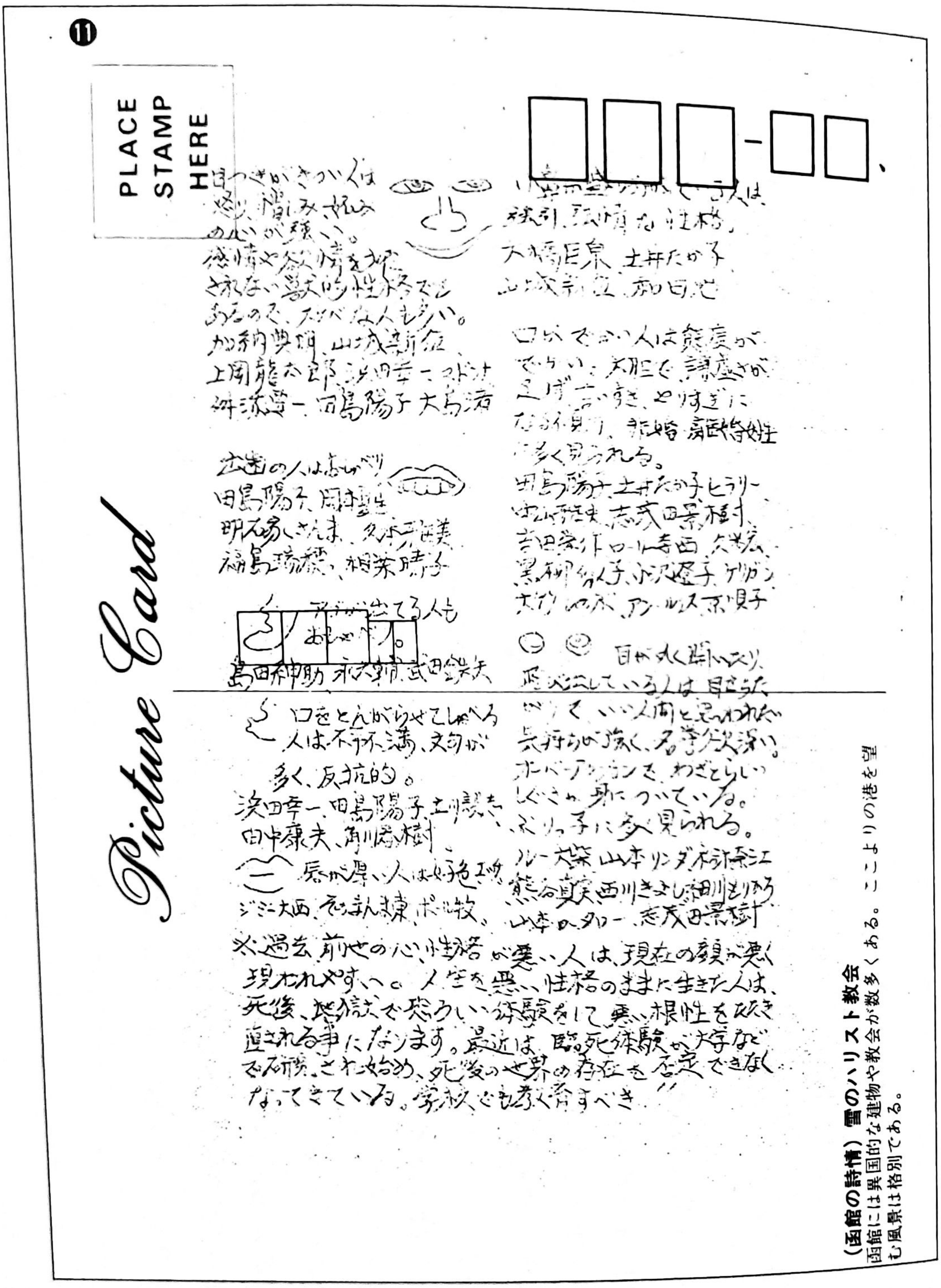
電波エリアいろいろ

――関西やその他の地方にも、こういった電波ビラは出てるんでしょうかね？

根本　このテのものは日本全国あるでしょう。だけどやっぱり東京がレベル高いですよ。人間も多いし、東京タワーもあるし、電波もイッパイ飛び交っているからさ（笑）。

――都内には上等な電波スポットも、いくつかありますよね。根本さんが推していたのって、どこでしたっけ。

根本　一つは地下鉄東西線沿線にある「ゴミ寺」ね。ここの主は昔、質屋だったらしいんだけど、数年前に突然発心して、ただの自宅の塀に「実弘寺」とペンキで書いて、みずから住職に納まっちゃったの。もちろん仏門界では認知されていない、お寺のインディーズ（笑）。で、近隣の燃えないゴミを持ち帰っては、敷地内に並べているんだけど、一見無造作に見えて、よくよく見るとゴミ並び方にも規則性というか、宗教的な意味があるみたいなの。どうも空き缶、空き瓶、ペットボトルあたりが仏像の代わりをしているらしい。で、



＊目つきがきつい人は怒り、憎しみ、妬みの心が強い。獣的性格でもあるので、スケベな人も多い……加納典明、山城新伍、浜田幸一、マドンナ／＊出歯の人はおしゃべり……田島陽子、岡本夏生、明石家さんま、久本雅美／＊アゴが出ている人もおしゃべり……島田紳助、永六輔、武田鉄矢／＊口をとんがらせてしゃべる人は不平不満、文句が多く、反抗的……浜田幸一、立川談志、田中康夫／＊唇が厚い人は好色、エッチ……ジミー大西、そのまんま東、ポール牧／＊小鼻が盛り上がっている人は強引、強情な性格……大橋巨泉、和田勉／＊口がでかい人は態度がでかい……志茂田景樹、吉田栄作、ローリー寺西、久米宏／＊目が丸く開いたり飛び出している人は目立ちたがりで、いい人間と思われたい気持ちが強く、名誉欲深い……ルー大柴、山本リンダ、裕木奈江

「どうぞご利用してください。ご不要になりましたら、もとの処へ置いておいてください……」って、そこのゴミはレンタル可能なの(笑)。

――あのへんは磁場が歪んでいて、撮影とかに行くとカメラが壊れるらしいですね。

根本　それともう一つは、雅子さまのご実家ともそう遠くない、大田区の高級住宅街にある「天気図の館」ね。百坪くらいの敷地に建っている二階建の建物全体がうっそうとした蔦で覆われていて、ものすごく湿っぽいの。庭木は延び放題だし、玄関はイナバの物置で塞がれてるんだけど、その物置の横あたりに、ビッシリ書き込みのある天気図が毎日張り出されているの。

――誰かは住んでるんですね。

根本　親爺が一人で住んでいるらしいんだけど、声かけても出てきてくれないし、世間との交流なんてないみたい。でさ、電波ママや湊さんがビラ書くところを、ここの主人は天気図を書いているんだよ(笑)。でも毎日張り替えられてるんだけど、主人が貼っているところを見た人がいない。天気図以外にも、家人の数年先(未来!)の旅行予定表とか張られてて、夢があるんだ(笑)。「九八年〇月〇日成田発(出来たら一日遅らせたい)」とか、やたら具体的な時刻とか記入されてるの。それと、塀には骨の折れたビニール傘が開いたまま何本も吊るされてるんだけど、アレは気象レーダーか電波をキャッチするパラボラ・アンテナなのかもしれない(笑)。

――どうしてそうなっちゃったんですかね?

根本　結局本人には会えずじまいだったんだけど、近所の商店のお婆さんに尋ねたら「そこの家の女主人(親爺のお母さん)が数年前、電車に飛び込んでバラバラになったが、首だけどこかに飛んで行ったきり、見つからなくて、それからああなった」って言われてね。そうか、あのビニール傘にはお母さんの首からの電波が来てるのか、って納得したわけ。

現物すらない……その他諸々の電波文書たち

根本　このテの文書とかチラシって、けっこう読者とか知り合いからも貰うんだけど、部屋が散らかってるからすぐどこかへいっちゃうんだよね。きょう持って来れなかったものと

しては……これは役所の人から貰ったんで、あまり詳細は公表しないでくれって言われてるんですけど……関西の方で一人〝腹話術妄想〟っていうのかな……要するに自分の意思ではなく、どこか近くにいる奴が勝手に自分の体を通じてしゃべっているっていう妄想をいだいている人がいましてね。あたかも自分が発言しているかのように、非道いコトを無理矢理しゃべらされているっていうことらしい。で、そいつが地元の警察所長に訴えていた文書があったんですけどね。本人に言わせると「自分はそんなこと、これっぽっちも言いたくないのに！」って（笑）。

――「無理矢理言わされている！」こと自体を訴える自由意志はあるわけですね。

根本　それと、これも見つからなかったんですけど、S社って詩の出版社に毎回送られてくる電波文書があって……どうも日記をためこんでは送って来ているらしいんだけど、その日記がメッセージになってるの。どういうことかっていうと「自分は詩人としてものすごく才能がある」と。で、「世の中に詩人として売り出そうとしているんだけれど、世に出ようとすると必ず足をひっぱる一派がいる。その一派が〝三脚男子〟なんだ」って。

――〝三脚男子〟？

根本　「〝三脚男子〟からの被害のおかげで、自分は詩人として世に出れない」って……それを中曽根内閣やら警視総監に毎日訴えていて、それを日記として毎日書きためたものが、S社に送られてたんですって。でも〝三脚男子〟って、どこからそういう発想が出てくるんだろうねえ（笑）。で、オレもその〝三脚男子〟のこと漫画（図⑫）で書いたんだけど。

――そのフレーズ自体、詩的ではありますよね、才能があるかどうかはさておき……。

根本　あと、これも実物が見つからなかったんだけれど、赤羽に住んでいるF沢欽吾さんって人がいてね……この人が「第五世代コンピュータ」にトリコじかけの明け暮れなの（笑）。F沢さんの家にもオレわざわざ行ったんだけれど、本人には会えなかったな。この人は中曽根政権当時、政府が「第五世代コンピュータ」の開発に成功し、それによって国民全員の動向が掌握されているって訴えているんだ。で、そい


三脚男子よこいつを殺っちめえ
それっ電波攻撃だ
ビビビ
タケオ君、お父さんが電波を…
えっ、こうなったらもうアレしかないや
そのとおり!
皆んなが楽しく暮らせるなら私はいいんだ別に
ホホホ
パパ
いただきまーす

つがどうも最近パチンコにツイてないんだけど、それも全部「第五世代コンピュータ」のせいだ、って(笑)。で、やっぱり家は木造モルタルの共同便所で、六畳一間くらいのボロ・アパートに四十いくつくらいで住んでてね。それで、そいつの部屋の前に貼ってある模造紙に「第五世代コンピュータの謎」がビーッシリと書きこんであるの。

——コンピュータとか放送通信とか、なんだかムツかしそうなものには真っ先に妄想が働くんですかね？

根本　機械類には敏感なんだよね。だからいまだったら「インターネットで自分の情報が勝手に流されている」とかさ、そういう妄想がどんどん出くるんだろうなあ……もう、とうに流れているんだろうけどね。

電波事件簿

理由なき殺人、白昼の通り魔、狂信が引き金になった惨劇……こうした形容でしばしば世間を騒がせる「不条理」犯罪の数々。さらに一連の不可解犯の言い草ときたら「電波の指令で殺った」「電波の仕打ちを止めるには殺るしかなかった」「世の中を良くするためだ」「悪魔を殺せ！」などといった、一般人としては理解困難で支離滅裂なもの……ここ十数年のうちに起こった、代表的な電波事件を振り返りつつ、狂気と市民生活の折り合いについて、電波コメンテーターの村崎氏に付言していただいた。

深川通り魔殺人事件

被害妄想や精神錯乱による凶悪事件は遡ればきりがないが、おそらく〝電波〟という言葉をもっとも世に知らせしめた、象徴的な事件がコレ。八一年六月十七日、東京都江東区深川の路上で元すし職人K俣軍司(30)が、通行中の主婦N(27)さんと長男Hくん(1)、長女Tちゃん(3)の親子三人を包丁で刺殺。さらに通りがかりの主婦Hさん(33)を刺殺した後、続けざまに二人の女性を襲って重軽傷を負わせ、Iさん(34)を人質に近所の中華料理店に籠城。K俣は次のような警察への要望を、人質の主婦に口述筆記させた。

「電波でひっついている役人の家族をすぐつれてこい。次に書くすし店の夫婦を、全員つれてこい。銚子の水産会社の夫婦もつれて来い。半日以内にこなければ人質を殺す。おれがこういうことをしたのも、みんなひっついている役人が悪いからだ。電波でひっついているからだ。人が死んだのも、役人とグルになっておれを苦しめた、すし店と水産会社が悪いからだ」

実はK俣は、事件を起こす直前、このような手紙を兄に渡

していたともいう。

「――おれは家に帰った時、銚子で働いた。毎日、電波とテープと映像にひっつかれた。泣きたくもないのに電波でメソメソさせられた。笑いたくもないのにニヤニヤさせられた。考えたくもないことをテープで考えさせられた。想像したくもないことを想像させられた。今でもそれは続いている、おれがひっつかれているのを知りながら、まさか親兄弟までいっしょになってコソコソ言うとは思わなかった。他人もコソコソ言ったりおかしな演技を何回かしている。おれがひっつかれていることが少しは分かったか。皆んな計画どおりクビになっとるよ。とにかくあと二軒すし屋を当たってみる。手元にカネもない。恐らくおれがケジメをつける時は、麻酔銃か、相当武道をやってる人間を通行人にまぎれこませて、おれが殺しに行くのを阻止すると思う。とにかく五軒目でまともに働けない状態であったならケジメをつける。それより方法がない」

まさかケジメとは、このような惨劇のことだったとは、身内も予想だにしていなかった。犯行は、就職を申し込んだすし店から不採用の通知を受けた、すぐ直後の出来事だった。

差し入れのカレーやジュースに薬が入っていないか、人質の主婦に毒味をさせるなど、籠城中のK俣には案外冷静な一面もあったが、何の面識もない右翼の大物を連れて来いなどの無理難題をも連発。しかし警官隊の突入で七時間後にはあえなく逮捕される。自殺防止のため、舌を噛み切らないよう割りばしを口にかまされ、下半身はBVDのブリーフ一丁で引きずり出されたその姿は、全国のテレビで放映された。血液と尿から覚醒剤反応が検出され、常用者であることが判明。逮捕後の取調べでは精一杯虚勢を張って、犯行動機についても以下のように供述していた。

「オレは人一倍冷静な人間で、被害妄想じゃない／死んだ人間はこれも運命だ／おれはサムライだから、殺された町人も幸せだろう／刺したときは気分がスットした／バカに4人も殺せるか！／もうひとり殺せば5人だった／この辺で人生を終わらせたかったのだ」

ところが取調べが進むにつれ、弱音を吐きだしたK俣は、裁判の意見陳述の段階になるや、前記のような被害妄想を主張しはじめた。

「就職を断られ、もう生きていけないと思い、人を殺して自分も死のうと思った／私は常識では考えられない非人間的な虐待に耐え続けた。毎日、毎晩、電波やテープで、男と女の声が聞こえ、いじめぬかれた。寿司屋や水産関係の会社の就職が断られたのも、電波を操っている〝張本人〟の命令であり、両親、兄弟までもがこの手下となって、私のかげ口をたたいた……」

精神鑑定の結果、「幻覚妄想状態にある心神耗弱」という判断が出、K俣は無期懲役の判決を受ける。ちなみにこの八一年は通り魔事件が頻発し、上半期だけでも殺人四件、傷害沙汰にいたっては二十件も発生した。村崎百郎の言う〝（そそのかし）電波のアタリ年〟だったのだろうか？

（参考文献『深川通り魔殺人事件』佐木隆三著／文藝春秋）

学者一族を襲った、オカルト電波の悲劇……

八二年七月四日午後、わが国英文学界の第一人者であり、東大名誉教授で文化功労者のSさん（95）が、新宿区の自宅で孫のA（27）に眉間を包丁で突き刺され、死亡した。同日早朝、英語で意味不明の言葉をわめき出したAは、帰宅した母親に突然殴りかかり、包丁を持って暴れ出し、祖父を刺し、母とお手伝いさんとの通報で駆けつけた警官に重傷を負わせた（うち警官は後日死亡）。

敬虔なクリスチャンであり学者一家の末裔だったAは、慶応大学卒業後、米国に数回留学したが、極端な菜食主義から栄養失調となり、帰国。精神分裂病の入院歴もあった。やがてAはオカルトや神秘学に傾倒し、インドに強い関心を示したり、ユングの著書を読み漁ったり、火を極端に恐れたり、日常会話はすべて英語で行なうなどの異常性をあらわしていった。

牛込署の取調べに対してSさん殺害の事実は認めたAだが、**「日本語はしゃべれない」**と英語でしか供述せず、食事も和食は一切口にしなかった。同署の調べによると、Aの日記には**「悪魔を殺してやる」「ゾロアスター・アーミンマン。地球上の人間を殺せ！——との指令を神から受けた」**などの記述が、英語やスペルを逆にした英文で記されていたという。**「（祖父は）悪魔だから殺した」**とAは明確な殺意を自供した

ものの、異常な言動が目立つため、精神鑑定が裁判所に請求される。余談だが、この惨劇の起きた新宿区M町には、当時上京して数年目の村崎百郎がこの学者一家の邸宅のすぐ前に住んでいたという。

ちなみにこの四日同日、佐賀でも精神分裂病で入院歴のある男が、白昼近所の主婦や子供ら三人を刺殺する事件が勃発。精神異常者の引き起こす犯罪と保安処分の是非が云々される契機となった。

バンド仲間による〝悪魔払い〟の死の儀式

八七年二月二十五日、神奈川県藤沢市のU宅を訪れた知人が、死体を囲んでいるU(39)本人と知人の女性M(27)を発見、警察に通報した。藤沢北署員が駆けつけてみると、胸部と顔の一部の肉がそぎ取られ、胴と頭と足の三つに切り離された男のバラバラ死体がシーツの上に置かれ、二人はハサミで肉をそぎ落とし続けていた。警察はこれを行方不明だったロックバンドのリーダーでMの夫のSさん(32)と見なし、二人を死体損壊の現行犯で逮捕。

親類の話では、三人はバンド仲間だったのだが、UとMが横浜市内に本部を持つ神道系の宗教団体の信者になった頃から、言動がおかしくなっていったという。MとSさんの間には、離婚話も持ち上がっていたとも言われている。

「世の中は悪魔でいっぱいであり、いまに核戦争が起こる。悪魔を払う『救世の曲』を作れるのはSしかいない。Sはこの世の中をよくするために神から送られてきたのだ」

UとMはこう言ってSさんを説得。Sさんは二人のすすめにしたがって、Uのアパートで作曲に専念したのだが、そのうち**「悪魔がついた、払ってくれ」**と言い出し、**〝にらめっこ〟**による悪魔払いの儀式がUとの間で始まった……しかし二日後、Uは**「悪魔が抜けない。Sの内臓にのりうつってしまっている。内臓を清めるしかない」**と主張してSさんの首をしめ、内臓を取り出し、Mと二人でそれを塩もみしていた最中を発見されたのだった(しかし犯人たちの入信していた宗教団体は、「信者だったとしても、今回の事件は当教会の教えとは無関係。うちは〝悪魔〟や〝魔〟といった言葉は使わない」とのちに主張している)。

また、この八七年は三月に**「先祖の霊がのりうつった。殺さないと成仏できない」**と祖母が一歳の孫を殺害したり、五月にも北九州市で、女祈禱師が生まれて間もない信者の子供を「神の子」として預かり、祭壇に安置して祈禱するうちに死亡、**「祈りで生き返らせる」**としてミイラ化した死体にお祈りを続けていたり、広島大学でも**「学部長室の電気から〝学部長を殺せ〟というお告げを感じ……」**学部長を殺害、その死体に砂と水がかけられる、といったオカルトじみた猟奇事件が群発した。

コンピュータからの電波が騒がしい！

九〇年六月二十三日。多摩市聖ケ丘の都営住宅に住む、グラフィック・デザイナーNさん(34)方に、包丁を持った男が玄関から押し入り、応対に出たNさんの左胸や両手を刺して逃走。まもなく多摩中央署員が、同住宅内の自宅で血だらけの包丁を持っていた無職の男性A(49)を発見、殺人未遂の現行犯で逮捕した。調べによれば、男はNさんの真下に住んでおり**「ふだんからコンピュータで電波を飛ばし、うるさかったので痛めつけてやろうと思った」**などと供述した。男は精神的に不安定で、入院歴もあった。

直木賞作家を襲った、陰謀電波女のご乱行

九二年五月四日のゴールデンウィーク真只中、鎌倉にある小説家のK氏宅をファンと称して訪れた女性R(50)は、応接室に通されるや、ビニール傘と刺身包丁をふりかざしてK氏の胸を刺し、ほどなく長男に組み伏せられて警察に逮捕された。警察が来るまでの間も**「ソ連がどうした、サッチャーがどうした、フセインがどうしたとか、自分の氏名住所はロシア大使館に聞けとか、千島列島はどうだとか」**ブツブツブツブツつぶやき続けていた。

どうも彼女の頭の中では、K氏は日本の秘密を世界にばらしており、それゆえ根本的に殺されなければならない存在だということらしかった。警察や検事の取調べでも**「自分は外国の公館に住んでいる／先生には数十年前に国家のことを聞きに行った（事実はナシ）／ソ連の指示で犯行を遂行した／自分が捕まったことをゴルバチョフがエリツィンに知らせて**

くれた／次には座間に駐屯する米軍の兵隊を連れてきて殺す」など支離滅裂な話がくり返された。

女性Rは神奈川県S市在住。周囲からも「変人」と思われていたらしいが、精神科への入院歴はなかったという。しかし横浜地検は早々に精神鑑定を行ない「重度の妄想型精神分裂病」と診断。精神保険法が適用され、県知事名で強制入院措置が取られると同時に不起訴処分となった（ちなみに措置入院させられた精神病患者の大半は、数か月から一～二年の間で退院してしまうという）。K氏は自衛のため「今後は財力を尽くしても、ガードマンを雇わざるを得ない」と語った。

几帳面な電波殺人鬼？

上記の他にも、九二年は精神異常関連の犯罪が勃発した。「よど号ハイジャック事件」で人質乗客の身代わりになって男をあげた山村新次郎代議士が、四月十二日に次女に出刃包丁でメッタ刺しにされる。三月、神奈川県Y市で無職の男が白昼隣人宅に押し入り、「**雨戸の開け閉めがうるさい**」とか「**自分自身を抹殺したかった**」といった理由で主婦をバットで撲殺。

そして五月二十五日、世田谷区祖師谷の商店街の外れにあるクリーニング店経営者のHさん（51）宅から女性の悲鳴が聞こえた。警官が駆けつけると二階でHさんが頭や首から血を流し死亡、隣の部屋で長女のMさん（23）が背中などを切られていた。Mさんの証言から隣に住む無職の男性K（42）を訊問したところ、犯行を認めたため、殺人並びに殺人未遂の現行犯で逮捕。凶器のマサカリも押収した。

成城署の調べによると、Kは両家の間のブロック塀を登り、Hさん方の二階の窓から進入。二人を切りつけたという。調べに対しKは「**犯行の1か月くらい前から夜、横になると神のお告げや電波で〝Hさんを殺せ〟という指令が出ていた**」と語った。またKは、十年ほど前に精神科に通院した経験もあり、犯行直前の一週間はイライラして寝ることもできず、睡眠薬を常用していたとも言われている。「家賃の支払は月末の午後六時半から七時までの三十分。一日前でも後でもダメ、一分前でも後でもダメ、それもようやくお札が入るくらいしかドアはあけてもらえない（店

子）」とか「極力人目を避けて生活していながら、家の前に無断駐車されると烈火のごとく怒ってボディをガリガリにする」など、近隣住民も数々の奇行には脅えていたという。

電波二人組の大立ち回り

九二年六月十七日。大阪府泉南郡K町にある開放治療を導入した精神病院から、二人組の患者が外出を許可され、帝塚山の高級住宅地で下車して印刷会社の社長宅に進入。刺身包丁を突き付け、主婦を監禁した。ほどなく警察が到着すると、二人は寝室に立て籠もり、異常な発言を連発した。**「電波が来た、電波が来た」**と口にし、主婦に**「お前も宇宙人やろ」**と問いただす始末。警察の電話による応対でも、**「宇宙人が来る／宇宙ステーションが三時に迎えに来るねん」**などといい「遅いわなあ、もうちょっと早うして、二時になれへんか」と交渉したところ「二時でもええ」と言って、のこのこ出てきたところを逮捕。二人のうち、一人は殺人の前科があり、両人とも幻覚や幻聴、被害妄想の症歴があったという。

ちなみに同年二月の参院法務委員会で社会党の瀬谷議員が**「精神障害者は犯罪を起こしても責任能力がないと処罰されない。これでは毒ヘビを公園に放つようなものだ」**と発言し、物議をかもしたが、これも「どうしたら無辜の一般市民を巻添えにしないようにできるか」という提言だったのだが、当の社会党が慌ててこの発言を議事録から削除した。精神障害者の犯罪にたいする処置は、腫れものに触るようなところが依然としてある。

武闘派電波男の錯乱

九三年四月十五日の未明、東京都足立区の都営団地の一棟で物音がし、警察が電話を入れたところ、電話口に出た男が、**「電波が来ている」「駐車違反が多い」**などと全く要領を得ない話をしはじめた。「とにかく落ち着け」と説得しながら監禁されていた家族の無事を確認し、男を外に連れ出したところを逮捕。同じ棟に住んでいるT（41）はその場でみずから「107号室のMさんを殺してきた」と自供、警官が同室に入ったところMさん（64）が撲殺されていた。Tはバットを持ったまま、一階から四階までトイづたいによじ登った

のであった。

取調べによればTは、七年前から都内の病院の精神科に通院歴があり、老母に殴る蹴るの暴行を働いたり、いつも**ジャージの上下を着て、階段の踊り場で太極拳のような**体操をしたり空手やボクシングの型をしたり、**太陽に向かって大声を張り上げたり手を合わせて拝んだり、はたまたピクリとも動かず空を凝視していたり、一階に住んでるのにもかかわらず、わざわざ四階の廊下を渡ってホカホカ弁当を買いに行ったり**……などなど奇行で、周囲の住民も以前から脅えていた。

矢追のUFO番組を本気にした男

九三年十二月六日、日本テレビ報道局内で刃傷事件が起こった。警備の隙をついて局内に進入したスーツ姿の男が、応対に出た報道局長Y氏を刃物で刺すや、たちまち周囲の局員に取り押さえられた。当初は「報道機関を狙ったテロか?」と色めきだち、自社のワイドショー番組でも大々的に事件の映像が放映されたが、犯人の男に精神科への入院歴があり、次のような供述をし始めるや、風向きは〝電波〟へと変わった。

「(UFO研究の第一人者であり、同局の元ディレクターでもある)矢追純一からオレはマインド・コントロールを受けた」

どうやら彼は「**地球人は異星人にマインドコントロールされている/異星人による地球人の研究が始まっている**」といった矢追番組の主張を鵜呑みにし、悩んだ挙げ句の犯行だったらしい。おりしも日本テレビは同月「超常怪奇スペシャル・矢追純一の異次元ワールド」を三週連続で放映、(妄想の)炎に油を注いでいるのだから、いたしかたないのか……。

報道局に犯行声明を頒布した、プレゼン系電波男

九四年十月二十五日早朝、都立T病院泌尿器科医長のOさん(47)が、通勤ラッシュの最中の京浜急行青物横丁駅改札付近にて短銃で射殺された。目撃証言などから現場からバイクで逃走した元会社員のN(36)が殺人容疑で指名手配。Tの病院で手術を受けたNは、術後の経過をめぐって医師や病院

側へ再三抗議を繰り返し**「体内に異物を埋められた／殺してやる」**などと叫んでいた。

逃走中のNは二十八日未明、NHKやフジテレビ、日本テレビ、TBSなど都内のテレビ局にあいついで現われ、Oさん殺害を認める内容の手紙を置き、さらにテレビ局数社に「病院幹部もやる」という内容の電話をかけた。封筒の表には「青物横丁の件」とあり、裏にはNの本名と住所が書いてあった。そして中には「私がO医師を殺した理由」として**「医師の行なった医療は殺人、生態実験だ」**などという主旨の殺害の動機が、便箋十六枚に渡って書かれていた。電話口で応対したテレビ朝日の社員から、警察への出頭を勧められると「まだやり残していることがあるので、それはできない」とも答えた。

殺人者の突然の訪問を受けた各局は、ワイドショーなどでその模様を報道。防犯カメラに写っていたNの姿をくり返し放映した。フジテレビへの電話では**「撃ったのは俺なんですけど。ちゃんと報道してもらいたいので、本当のことを話したい／（キャスターの）生島さんと会いたい」**などと語った〝肉声〟が、何度も何度も現実の〝放送電波〟にのった。当日夕方、Nは浦和市内を走るタクシーの車内で発見され、抵抗することもなく逮捕。暴力団が横流ししたトカレフによって、日本国内でも銃犯罪の増加が警告されていた時期の電波事件と言える。

最近の電波事情

「阪神大震災」や「オウム騒動」で細かい事件がウヤムヤになっていた九五年から今年にいたるまで、精神科への通院歴のある人間が引き起こした事件は（細かいものも含め）相当数にのぼる。昨年の目ぼしいものを例にあげても、以下の通りである。

＊二月十日・東海道新幹線に乗っていた奈良県在住の職業安定所職員（45）が掛川～静岡間で、同じ乗客の男（64）に突然登山ナイフで切りつけられ重症を負う。男は精神病院への通院歴あり。

＊五月三日・豊田市内の天満宮境内で、近くに住む男性（66）と孫が、胸や腹などを刺されて死亡、現場付近で血の付い

た包丁を持っていた男が逮捕、犯行を認める。男は若い頃、実家の香川県で精神病院に入院していた。

＊六月二日・精神病院に通院中の札幌市在住の女性作業員(24)がスーパーで買い物に来ていた母娘を牛刀で刺す。

＊七月五日・阪急T駅の券売機付近で立ち話をしていたOL(28)が近づいてきた男(33)に脇腹を刺され一か月の重傷。男は昨年、豊中市の精神病院を退院したばかり。

＊八月二十八日・福岡県U町のタクシー運転手(55)が近くの農家に押し入り、包丁で老人(82)を刺し殺し、息子(64)に怪我を負わせて現行犯逮捕された。運転手は二年前に一か月間、精神病院に入院していた。

＊十一月十五日・帰宅の都営アパートに住む女子店員(25)が自宅前で見知らぬ男に右胸を刺されて重傷を負う。近所の住人の話では、男は事件前に大声をあげてアパート内をはだしで走り回っていたという。取り調べの結果、入院していた近くの精神病院を三日前に抜け出していた。

＊　＊　＊

不審な〝人物〟に過敏になりすぎるのも考えものだが、基本的人権が尊重されている以上、様々な程度の精神障害者が、私たちの隣に姿を現わす可能性は全くないわけではない。さらに都会では、電車や地下鉄や駅構内で、**ブツブツとひとりごと**を言っていたり、**キィーとか奇声をあげたりする**人を見掛けることは決して稀ではない。そういう人と共に暮らすわれわれはどうしたらいいのでしょう？　通称・社会派キチガイの村崎さん？

精神障害者のひき起こす犯罪について

「警察や法律が市民の権利や安全を守ってくれる」というのは、ほとんどの場合「何か事件が起きてから」の話だ。実際問題として、正気をなくして刃物を持って向かってくる人間に街中で対峙したその瞬間には、自分の身は自分で守らなくてはならず、悠長に「暴力を振るうと警察に逮捕されますよ」とか「人を刺殺するのは法律で禁止されています」とか「刺すなら弁護士を通してください」なんて言っても、精神のテンパった奴らや言葉の通じない奴らには全く無力なのである。

おわかりか？　つまりは「**他人に殺されたくなけりゃあ、逃げるか相手を倒すしかない**」ってことだ。世の中には「人を殺すぐらいなら、殺された方がいい」という思想を実践する非暴力主義の人間もいるだろうが、俺はそんな生き方（死に方？）はゴメンだから相手を殺してでも生き残りたい。

「殺られる前に殺る」は生物界の大原則なのだ。

ただ、精神障害者の起こす殺人事件からも学べることはいくつかある（人間はどんな事柄からも何かを学び、明日に活かさなくては前に進めないのだ）。それは「**〝日本は平和な国だ〟なんて安心しきって、気を抜いて街を歩いてはいけない**」とか「**別に精神傷害者じゃなくても、自分の友人知人の誰もが発狂して殺人鬼になる可能性だってある。他人を信じ過ぎてはいけない**」とか「国家や警察や法律など、さまざまなものに保護されてはいるが、自分が一個の生命体として**〝今日を生き抜く〟ということがどれだけ大変なことなのか**を原点に立ちかえって再確認する」などということであり、どれも人間にとって大切な**ことばかり**だ。

また、俺自身が明らかにキチガイという「**毒ヘビ**」の立場に限りなく近い人間なので、こんなことを言うのも何だが、公園に放たれた毒ヘビの全てが人間に噛みつくわけではないし、公園には毒ヘビ以外にもブランコから落ちて怪我をするとか、ジャングルジムの上から飛び降りて骨折するとか、砂をかけられて失明するとか、鉄棒から落ちて首の骨を折るだとか、砂場で悪性の大腸菌に感染するとか、つきまとう危険はいくらでもある。毒ヘビだけを隔離すれば問題が全て解決するということもないのだ。現実社会でもキチガイの犯す犯罪よりも、〝正常〟と呼ばれる奴らの起こす犯罪の方がはるかに多いことを忘れないで欲しい。

俺は**〝完璧に正常な人間〟**というのも妄想の一つだと思っているので、この現代社会こそが「**巨大な開放病棟**」だと考えて生きている。だから、いつどいつが発作を起こしてトチ狂って、俺を殺そうと向かって来るとも限らないし、それに対処する覚悟はつねに持って生きているのだ。文明社会じゃなくてジャングルで暮らしているような心持ちで送る日々の生活はそれなりに緊張感があって楽しいもんだ。

……などという意見は正常と呼ばれる連中からは「ふざけ

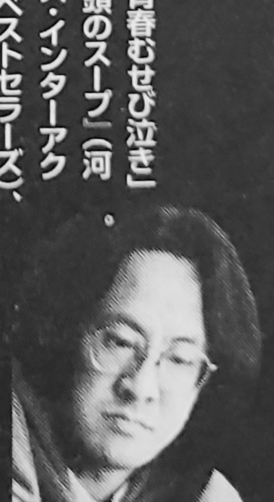
るな!」の一言につきるんだろうが、キチガイの俺に言わせりゃ、通勤ラッシュだとか会社の派閥や学閥だとか、イジメとか受験だとか、ひたすらお互いの憎悪を増幅し合い、ストレスを高めあっているような**社会の現状こそが人間の発狂を促進しているような**気もする。社会が複雑になれば人間関係も複雑になり、キチガイの発狂状況も複雑になってくることだろう。**「人の数だけキチガイがいる」**というのは冗談でも何でもないのだ。だから、われわれは腹をくくって生きるしかない。狂人を野放しにしても共同体全体が余裕でそれを許容できるような、そんな〝豊かな〟社会はやっぱりアタマの中だけの理想で、現実には不可能に近いんだろうけど、それでも心に余裕のある奴はぜひとも**「キチガイどもにとっての幸福な状態というのはどんなことだろう」**という命題についてじっくり考えてくれ。それはあんたたち正常な連中の幸福にも関わる重要な問題だと思う。甘えたことを言うようで悪いけど、完璧な医療設備や福祉制度を制定するだけでは、俺を含めたキチガイの魂は決して救われない。陳腐な言説だけど、人の心を救うのは最終的には法や制度ではなく、やっぱり人の心なんだろう。それはキチガイ鬼畜の俺には到底無理な話だから、やりたい奴は勝手にやりな。**【この項のみ村崎】**

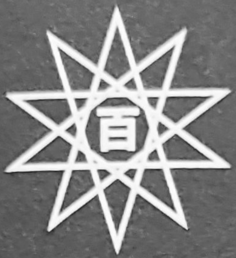
【著者プロフィール】



根本敬

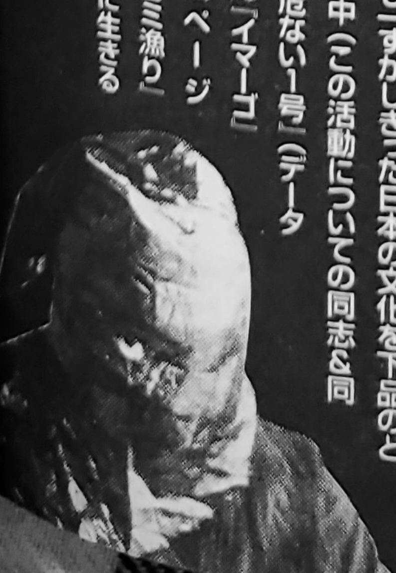
ねもと・たかし●1958年東京生まれ。81年に月刊漫画『ガロ』誌上にて「青春むせび泣き」を発表し、漫画家デビュー。以後、特殊漫画の極北をひた走る。代表作に『亀ノ頭のスープ』（河出文庫）、『怪人無礼講ララバイ』（青林堂）、『キャバレー妄想スター』（ブルース・インターアクションズ）などの漫画単行本や、因果者探訪を綴った著書『因果鉄道の夜』（KKベストセラーズ）、『人生解毒波止場』（洋泉社）など。『幻の名盤解放同盟』としての活動も盛んであり、共著『ディープ・コリア』（青林堂）、『ディープ歌謡（新装版）』（ペヨトル工房）のほか、Pヴァインの『解放歌集』CDシリーズにも携わる。〝女王精子理論〟と〝イイ顔フィールドワーク〟をまとめた『夜、因果者の夜』（ペヨトル工房）も近刊予定。またヴィデオ作品にも『因果境界線』『ひさご』『さむくないかい』（ともに青林堂）などがある。精子三部作の完結篇、『未来精子ブラジル』の刊行が待望されて久しいが、電波妨害も予想外に激しく今世紀内の刊行が危ぶまれている。

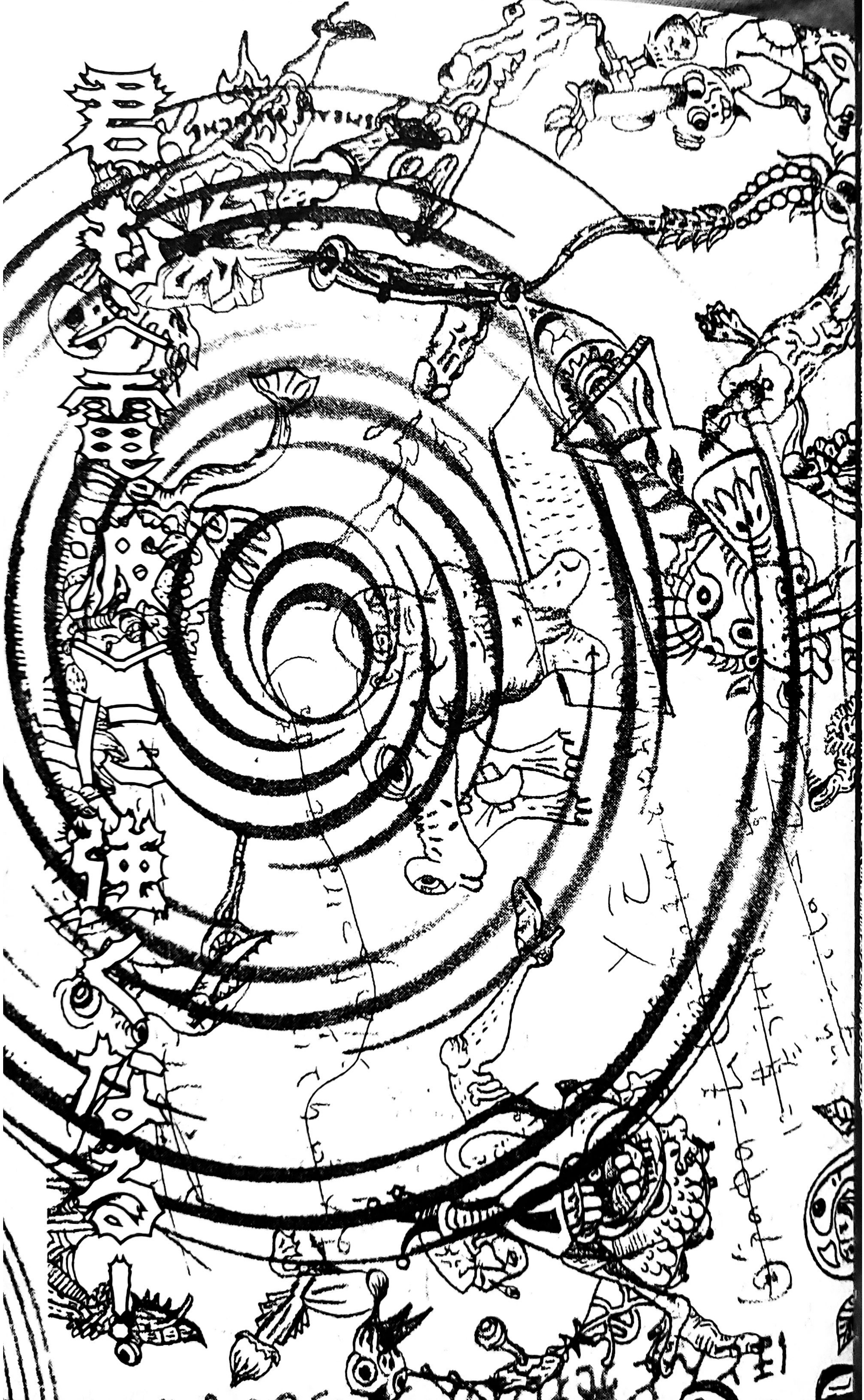




村崎百郎

むらさき・ひゃくろう●1961年シベリア生まれ。中卒。80年に上京。残虐で凶暴な性格が災いし、陰惨な傷害事件をくり返し、多くの工場や工事現場を点々とする。90年代初頭、本書の共著者でもある根本敬と意気投合し「すかしきった日本の文化を下品のどん底に叩き堕とす」ことを誓い合い、95年より工員兼鬼畜ライターとして八面六臂の活躍中（この活動についての同志&同胞&奴隷&喜び組&ヒロイン&敵対する正義の味方キャラは常時募集中）。主な執筆雑誌は『危ない1号』（データハウス）、『GON!』（ミリオン出版）、『ユリイカ』『イマーゴ』（青土社）など。中でも精神医学の研究誌『イマーゴ』には「患者の意見が載っている」と一部マニアに絶賛される。原稿の一部は村崎百郎ホームページhttp://www2.meshnet.or.jp/~jvd/murasaki.htm）でも読むことができる。著書に『鬼畜のススメ—みんなで楽しいゴミ漁り』（データハウス）、共著に『ジ・オウム』（太田出版）がある。また近刊として、つねに「殺しもアリだよな」と思いながら攻撃的に生きる「加害者的人生」を推奨した『鬼畜系』（太田出版）、鬼畜断章シリーズ『ダスト・テスタメント』（自由国民社）が予定されている。





電波人間との付き合い方

ここでいう「電波人間」というのは、電波の干渉を受けていると思われる連中のことだ。

別に彼らのことを「キチガイ」と呼ぼうが「精神病患者」と呼ぼうがそれは皆さんの勝手なんだが、たとえばクソを「御糞」と呼んでも「お大便さま」と呼んでみてもクソの臭さは変わらないし、それが何だと言われても俺もキチガイの一味なので特に感想はない。

まあ、こんな世の中だし、少々気ぐらい狂っていたってどうということはないだろう。電波人間たちと上手く付き合えば、彼らの思考がカンフル剤になって、つまらない日常生活が飛躍的に楽しくなるかもしれないから、もしもあんたが退屈してるなら街へ出て、電波野郎でも探してみるんだな。

淫乱妄想系

思春期の青少年によくいるタイプ。発情しきった男女の発する「淫波」に敏感に反応してしまい、まれに暴走して性犯罪を犯してしまう。明確に「自分以外のもの」に操られている感覚を持ったまま、泣きながら

強姦をする少年などの例は悲惨だけど、大部分は社会生活の中で目に入る異性を片っ端から妄想の中で裸にして犯すだけという害のない連中。

ただ、淫乱電波を受けている最中の彼らの妄想力は尋常なものではない。相手異性の露出している肌の一部を一ミリ四方見ただけでも、そこから全身の裸像を瞬時に脳内で実物大の３Ｄ画像で再現し、相手の性器の色、形状、臭いはもちろん、相手の異性がこれまで行った性交人数、性交回数、アクメの数、ペニスが膣内をピストン運動した回数、さらにその時千切れた陰毛の本数の総計などが、頼みもしないのに次々と意識の中に情報として流入してくるのだ。相手の性交映像が見えてくるのも当然だが、ひどい時には自分の頭部の脳のまん中に相手女性の股間の３Ｄ画像が再現され、そこでペニスのピストン運動がはじまるんだから大変なもんだ。

読者諸君も友人の恋人を見た時に、つい、いけないいとは思いつつ彼らのセックスを妄想してしまうことがあるだろう。「いかん！　これは人間として最低の行為だ！」などと自制しても、止まるどころかさらにその情景が克明



に見えてしまうのが、この種の妄想の罪深いところだ。これははっきり言ってどうしようもない。社会生活というのはそういう妄想の上にスカシた状態で成り立っていると認識するしかないだろう。「まあ、妄想なら許してやろう」ぐらいの寛容さが必要である。とにかくこのタイプの電波人間は襲ってこない限り無害なのだ。

やっかいなのが女性の電波人間で「毎晩同僚の○○さんが私を犯しに来るんです。どうしたらいいでしょう?」と言い出す「思い込み強姦被害妄想タイプ」だ。これが八十歳ぐらいのお婆あちゃんなら誰の目にも「妄想」とわかるので良いのだが、妙齢の美人ならば冗談では済まない。そういう時こそ「普段の信用」がモノを言うので、普段の生活は品行方正にしておいた方が良いってわけだ。

この種の電波女性と交際して無理矢理ハメ倒すのが特技という鬼畜系の某氏（間違いなく村崎本人：編集部注）などは「僕はほとんどムチャクチャな理由をつけて押し倒してヤッちゃいます。こういう女は意識も朦朧として〝判断力ゼロ〟というのが多くて便利ですよ。〝コレが正しいセックスなんだ〟とかウソ言ってムチャクチャ変態やっても素直に言いなりになるしね。ただ、注意しなくちゃいけないのは、彼女たちも時々正常に戻ることがあるってことです。そういう場合にどうやって情況を誤魔化してクリアしていくかが彼女たちを深く長く喰い物にするポイントですね」というから本当にあきれたもんだ。

程度の違いはあれ、若い男というのは多かれ少なかれこのタイプの電波人間状態を経験しているものだ。

対処方法としては、襲われた場合でもそれが男なら一本抜くと正気に返ることが多いので、手コキでも生尺でもとにかく一度射精させることだな。相手が女性なら、体力の続く限りお相手をしてあげるのが人の道ってもんだろう。同性の場合？　それはもはや趣味の世界だ。自分で判断すべし。

アイドル妄想系

代表例は、受信した人間に「自分は特別の人間なんだ」と思わせる電波にヤラレて「自分は世界的なスーパースターやアイドル歌手になることが決まっている」という妄想のもとに生きている若い女の子など。まれにその妄想が実現することもあるらしい。

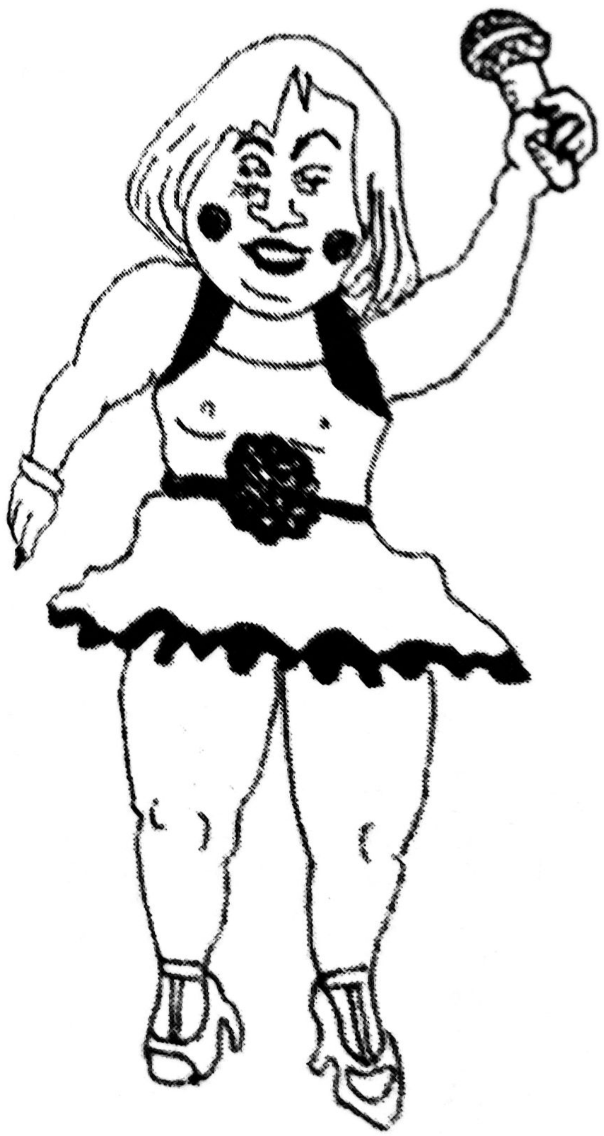
このタイプは思春期の女の子にありがちな「いつか白馬にまたがった王子様がやってきて、会うなり私を無理矢理押し倒し、服を引き裂いてパンティをむしり取り、前戯もなしにいきなりそそり立った熱いモノを私の股間の恥ずかしいアレに雄々しくブチ込むの！　その瞬間私は身を引き裂かれるような苦痛に美しい顔をほんの少し歪めるんだけど、これから先の王子様との甘美な愛欲生活がもたらす大いなる悦楽の数々を想って悦びに全身をわななとうち震わせて恥知らずのめす犬のように思いっきり〝来てェ〜！もっとよォ〜だめだめだめェ〜！〟って喘ぐんだわ」といういやらしくもアホらしい妄想を少し進めた程度の症状だが、「私はあんたたち一般ピープルとは違うのよ」「私に話かけるなら事務所通してくれる？」などといき

なりタカビーになったり、「歌手デビューも決まってるの」「曲はコムロがどうしても書かせてくれって頼むのよ」などと虚言癖になったりするため、周囲の人間から嫌われてしまうという悲しい結果を生む。

この種の人間たちと付き合っていると、はじめは珍しくていいが、だんだん相手の言うことが鼻について腹が立ってくるので気の短い人間はなるべくなら近づかない方が良いだろう。

相手は自分以外の人々を「一般人」と呼び、徹底して馬鹿にして見下すような鼻持ちならない馬鹿である。こういう人間を何とかしてあげたいという博愛精神がおありなら、相手の妄想に理解を示しながら、ゆっくりと現実生活に引き戻してあげる努力をしてやるしかないだろう。この種の人間に「それって嘘だろう」は禁句である。部分的に嘘を言うならまだ症状が軽い方だ。「こいつは基本的に嘘しかしゃべれない」という認識のもとに付き合うのが正しい。

言うことが嘘だけに、相手はあなたにどんどん嘘の上塗りの「言い訳嘘」をつ



くだろう。「事務所の都合でデビューが半年延びちゃったの」「コムロがスランプでなかなか曲があがらないの、土下座するから許してあげたけど全く困っちゃうわ」などと言われても「それは大変だね」と言うしかない。ヘタに嘘を問い詰めると自殺しかけたり（もちろん狂言）、あなたの悪口をふれ回ったり、ひどい時にはあなたに襲われて犯されたなどと言い出しかねないので細心の注意が必要だ。

はっきり言ってこういう彼女たちは脳の中の事務所に所属して、脳の中のコムロにプロデュースしてもらって、脳の中のレコード会社からCDを出して、脳の中の東京ドームで熱唱し、脳の中のNHKホールで紅白歌合戦に出場するしか幸福な人生を送る方法はないだろう。脳の中の無数のファンたちはみんなお行儀が良くて彼女の良き理解者だ。俺は彼女たちを無理に現実世界に戻すことが解決につながるとはとても思えない。この種の電波はタチが悪くて一度受信すると脳内で増幅しながらどんどん回るものだ。

何を隠そうこの俺も、数年前に受けた電波のおかげでいまだに「自分が超セクシーな有名セックスマシーンで、朝目が醒めるとドアの外に〝村崎さん、私とセックスしてください〟とお願いにやってくる若い女の子たちの群れが駅まで長い列を作って待っている」という、考えただけでチンポコの先が一センチはすり減りそうな妄想に悩まされるが、これなどは自分でわかっていてもなかなか捨てきれない妄想である。妄想を捨てることだけが幸せにつながるとは限らないというい い例だ。まあ、楽しければ気なんか狂っていてもかまわないのがこの世の中なんだしな。

自殺電波などの干渉を受けやすい人たち。死ぬほど酒びたりだとかジャンキーな連中も広義ではこれに入る。この世には自分を壊していく快感に溺れる連中もいるというわけだ。

この種の連中が自殺するのは彼らの勝手なんだが、たまたまこういう連中と死ぬ前に深く関わったりした善なる人間が「自分のせいで死んだのか」とか「自分には何かできなかったのか」という後悔にその先何年も悩まされるのが大きな迷惑というものだ。

自己破壊系



この種の連中は暗いし破壊的で、付き合うと死だの絶望だのに引きずられたりするから、できれば付き合わない方が賢明。もちろん、こういう人間の運転する車に乗るのだけはやめておいた方が良いだろう。しか

し、破滅の淵でしか味わえない甘美な世界というのもあるんだろうから、若いうちに一度ぐらい遊びで付き合うのもいいかも。気分転換に遊園地のバンジージャンプに誘うのも一興。

錯乱狂暴系

シャブ中毒の連中に多いと思われる、被害妄想の強い人殺し系電波人間。

こいつらはどこから電波の命令を受け取って、誰を敵と判断して、どこで殺しをはじめるかの見当が全くつかない超危険な連中である。シャブ同様、「絶対に付き合わない方が良い」としか言いようがない。



対策としては、ヨダレを垂らしながら包丁を持って、裸足でチンポコまる出しで歩いているオヤジを見たら、絶対に傍へ近寄らないこと。これは極端な例だが、とにかく「危ない！」と思う連中を見たら目を合わ

さないように静かにそこから離れること。露骨に嫌悪の態度を取ったりすると「馬鹿にしやがって」と逆上されるだけなので注意すること。つね日頃から身なりや服装で人を判断して、それを顔に出すような態度を取るのを止めるのが、こういう奴らに襲われないための基本的態度だろう。

加害妄想系

被害妄想系の電波人間とは全く正反対に「自分がいるからみんなが不幸になるんだ」と思い込んで一人で悩んでしまうタイプ。悲惨なニュースや災害を見たり、身近に不幸があると全部自分のせいだと考えてしまい、やがて「お前がいるからこの世は良くならないんだ!」という電波の声を聞くようになる。症状が進むと何もしなくなり、積極的に自分の消滅を願うようになるので要注意。



このタイプの人間に生きていて欲しけりゃ、時間をかけて「生きるってことは他の生命体の命を奪って殺し続けることだ。加害者になることを恐れるな。生きて生きて生きまくれ！　それがいままで殺した無数の命に対する礼儀だ」と言いきかせるしかないだろう。それでも本人が生きようとする意志を持たない限りはどうにもならない。このタイプの電波野郎は心の優しすぎる善人が多く、何でも他人のせいにして、自分の被害ばかりギャアギャア訴えるような被害妄想系の連中よりも、はるかにマシではあるのだが。

勘違い救世主系

自分を救世主だと思い込んだエラい奴。

ここまで症状の進んだ電波系人間に対しては、そいつらの信者になるか／ならないかしか、選択肢は残されていないだろう。もちろん、関わり合いにならない方がいいに決まっている。

救世主を自称する輩にある程度の信者が集まれば、予知や予言、不治の病の全快な



ど、多少の奇跡が起こることぐらい不思議でも何でもない。その程度のことでいちいち驚いたり、ムキになって否定したりするのは電波の思う壺なので注意が必要だ。物理学的に説明のつかない不思議を見たら「あ〜この世はこーゆーことも起こるいい加減な世界なんだな〜」ぐらいに思ってりゃいい。

オウム事件以降、マトモな人間がこの種のキチガイに関わるのは「時間の無駄」どころか「社会の迷惑」であるという風潮が強まった。善悪は別として、人類もそろそろ神や仏どもから自立して生きていかねばならない時期にさしかかっているようだ。

妄想戦士系

世界的陰謀など、人知れず進行中の人類破滅計画と果敢にも闘っている（つもりの）人々。オレの知り合いの編集者の知人が、この手の〈妄想戦士〉と遭遇した体験があるので、少々長くなるが、そのときのエピソードを紹介しておこう。題して——、



「あなたの職場に妄想電波戦士が現われた日」

これはオレの友人の知人で、某サブカル系小出版社で副編集長をつとめる男、大川イサオ（やや仮名）の仕事場に後天性の陰謀電波野郎が現われた時の話だ。

何の因果だか知らないが、ある日めでたく社会人デビューを果たした電波系青年ウジタ君（ちょっと仮名）は、「我々は絶えずある陰謀組織からの電波テロ攻撃にさらされている」という、よくある秘密の真理を編集部の同僚や友人知人に誰彼なく打ち明けはじめた。それだけなら別に「ああそうだったんですか」ですむ話である。会社の仕事に支障のない趣味程度の範囲内で、その陰謀組織と人知れず戦ってくれるなら何の問題もなかったのだが、その陰謀組織の黒幕が「大川がしばしば原稿を依頼している、ニューアカデミズムの旗手にして現代日本最高の知性と言われる浅＊アキラ（敬称略）」だというから大変だ（もちろんウジタ君と浅＊氏には直接面識はない）。

ウジタ君から真顔で「電波テロの秘密」を打ち明けられた大川の立場は深刻だった。「小泉元郵政大臣ぐらいならまだ信憑性がいくらかあるが、仮にも〝現代日本最高の知性〟である浅＊さんが陰謀組織の首領で電波テロの首謀者であろうはずがない。たしかに浅＊さんは昭和天皇が崩御なされた時に皇居前で土下座をして陛下の快復を祈願した人々を土人呼ばわりした過去はあるが、いくら何でも〝電波テロ〟はないだろ

う。そのぐらいは俺が飼っている四匹の猫どころか道端の犬の糞でもわかりそうなことだ。うぬぬ、何という迷惑な妄想だろう。いかん、放っておけばこいつは浅＊さんに何をするかわからない」と危惧を感じてあわてた大川は、よせばいいのにウジタ君に向かって「浅＊さんはそんなことをする人じゃないよ」と全面否定してしまったのだ！

電波系人間の主張する陰謀論を全面否定――この態度は状況への客観的な視点を失った電波系の人間への対応としては、最悪にして致命的なものである。陰謀妄想に陥っている人間に向けてこんなセリフを吐くのは、首を吊ったばかりの自殺者の足に飛びついて力まかせに引っ張るようなものだ。

なぜならば陰謀妄想者は「自分に来た電波と、自らの深い洞察力を合わせて探り当てた秘密」を否定されればされるほど、ますますムキになって陰謀の存在を確信し、孤立感やワケのわからない使命感をつのらせるものなのだ。大川から「浅＊アキラの電波テロ関与」を完全否定されたウジタ君は「ああ、大川さんもすでに奴らに洗脳されていたのか！」などと被害妄想をつのらせて絶望を深めたことだろう。大川の全面否定によってウジタ君の危機感や使命感はますます大きく燃えあがり「電波テロの黒幕の浅＊アキラをなんとかしなければ」という意識をますます育ててしまったのだ。

　では、大川はウジタ君にどう言えば良かったのだろう。いくつか方法はあるが、この場合なら相手の妄想世界を瞬時に読み取り、自分の中に取り込み、それを上回る妄想を相手にぶつけなければ効果はない。本気

で浅＊さんのことを救いたいのなら、せめて以下のように言わなけりゃダメだ。

「フッフッフッ、ウジタくん**（キ〇ガイのぶんざいで）**、よくそこまで気づいたね。僕は以前からキミだけは会社の他の人間とは違って**（↑ここを強調してやることがポイント！）**油断のならない奴だと思っていたんだけど、まさかこれほどまでとはね。恐れ入ったよ、誉めてあげよう**（アキレちゃうぜ全く、そんなコト妄想するヒマがあったら黙って仕事しろこのバカ！）**。だけど浅＊アキラはあの組織にとっては取るに足らないほんの下っ端の一人なんだ。実はこの僕もずいぶん前から奴らの電波テロには気づいていたのさ。キミが気づいた通り、現在の日本で起こる多くの大事故や衝動的な殺人、少年少女の突然自殺はみんなやつらの電波テロによるものだ。この会社の業績が上がらないのも、いまやっている仕事が上手く片づかないのもみんな電波のせいなんだぜ**（ホントは違う。オマエだよオマエ！　みんなオマエが悪い！）**。

こうなったからにはキミには全てを話しておこう。僕は普段会社ではボーッと眠そうな顔をしているサエナイ中年男だけど、それは奴らの目をごまかすためで、その裏では休日や会社の行き帰りを利用して、細々と奴らの電波テロに対抗して電波の出力ポイントを破壊して回っている「戦士」なんだよ。奴らの電波テロに気づいたスルドイ人間はまだまだ少数だし、奴らの組織は巨大でこの国の政治、経済、文化の中枢に深々と入り込んでいる。とても正面きって戦えるほど仲間の数も多くないんだよ。僕がバカのふりをして浅＊ア

キラと長年仲良くしているのも、浅＊アキラを油断させて奴らの情報を収集するためなんだ。だから浅＊アキラが組織の人間だということは騒ぎ立てないでくれ。奴は貴重な情報源なんだ。

いいかい、このことはくれぐれも内密にしてくれよ、奴らの目はそこらじゅうに光っているんだからな。この部屋は盗聴予防バリアが張っているから大丈夫だが、他の部屋はどこも盗聴器だらけだぞ。この会社でも社長の宇野や経理の赤間、それにデザインの鬼塚までが奴らの洗脳を受けてしまってもう手遅れだ。カドのタバコ屋のオヤジも向かいの喫茶店のお姉さんもみんな奴らの一味なんだ。めったなところで電波テロの話なんかしちゃダメだぞ。

そして、もしもキミに勇気があるなら僕らと一緒に奴らと闘わないか？　僕や僕の仲間は多くの犠牲を出しながらも、浅＊アキラの背後にいる黒幕が多摩地区にある某精神病院をかくれみのにして活動をしていることまでつきとめている。どうだろう、ついては患者に化けてその精神病院に入院して、真の黒幕をつきとめてくれないか？」

こう言ってウジタ君の自尊心をくすぐり、大きな任務と使命感を持たせて病院に送り込めば、退屈な入院生活も充実したものになることだろう（入院させりゃあそれで解決するというものでもないんだけどな）。

全てが丸くおさまるし、誰も傷つかずに不幸な犯罪を未然に防ぐ——電波系人間の妄想には、さらにそれを

丸飲みしてしまう大きな妄想を瞬時に生成し、相手にぶつけなければならないのだ。これは素人ではなかなか出来ないだろうが、普段からイマジネーションを鍛えておけば不可能なことではない。

＊　＊　＊

さて、だいぶエピソードが長くなったので、最後にもう一度、妄想戦士の話を聞く時の注意をおさらいしよう。

①妄想戦士の話を聞くことのできるキミは、彼らにしてみればこの世の隠された秘密を明かされるサイコーに幸運な人間である。そのつもりで真面目に謙虚な姿勢で聞くこと。
②妄想戦士が時間を置いて全く同じ話をくり返しても、それを指摘してはいけない。
③全否定は絶対禁物。
④全肯定も、馬鹿にしているのがミエミエの態度は相手にも伝わるので注意が必要。馬鹿にするのは家に帰って部屋で一人になってからだ。
⑤全部わかってもわかったような顔をしない。「無知な私にはあまりに意外で恐ろしくて信じがたい話でした」と驚いてみせるのが礼儀。陰謀の真実は彼ら妄想戦士にとっては「シロウトにそう簡単にわかられてたまるかよ」の世界なのだ。

⑥話を聞き終わったら「あなたのおかげでこの星の正義と平和は守られていたのですね、ありがとうございます」と必ずお礼を言うこと。それが英雄に対しての民衆の礼儀である。

この種の人々は基本的には正義の味方の善人。恐れる必要はない。たしかに電波系の人間は、一般の常識に照らし合わせれば「気が狂っている連中」に見えるかもしれない。しかし何度もくり返すが陰謀と闘ったり告発しようとする奴は皆、それぞれに善人であり孤独な連中である。迷惑かもしれないが、彼らを孤立させてはいけない。**孤独感、孤立感は被害妄想を増幅させ、他者への悪意や憎悪を育てるだけなのだ。**本気で奴らを救いたいのなら、どうかそいつを抱きしめて頭を撫でてやってくれ。俺はそういう奴らに妄想を捨てさせることが解決につながるとは決して思わない。「金をたくさん集めなくてはならない」とか、「いい大学に入らなくてはいけない」とか、「出世しなければ生きている価値もない」などという罪深い妄想はこの世にいくらでもある。陰謀史観から抜けても別の妄想にしがみつくだけなら状況は同じである。

だったら陰謀組織があるならあるで、長くゆっくりと陰謀（妄想）と闘うのも一つの方法だということを連中にじっくりと説いてやってくれ。表現活動が様々なように闘い方なんかいくらでもある。「チラシだけじゃないんだよ、詩とか歌とか漫画とか、もっと皆にアピールする方法を考えよう」と励ましてやってく

れ。奴らの気持ちの根底にある「この世界をもっと素晴らしいものにしたい」という純粋な気持ちが既成のクソ宗教組織に吸い上げられて利用されないように、暖かく見守ってやってくれ。

鬼畜な俺がガラにもなくこんなことを書いたのは、こういう奴らが人間としてはもう一巻の終わりだと思っているからだ。人間として終わっている奴はすでに人間ではない。人でないものは人よりも鬼畜に近いだろう。そういう意味で電波系の連中はどれも俺の仲間の鬼畜と言えるかもしれない。

そして、こういう純なキチガイの善意を利用する宗教組織の連中こそ、人々に救いをもたらす最もご立派な人間である。こんな最高な連中はいない。心からの尊敬をこめて言っておこう。

「この人間野郎！」

電波文書の書き方

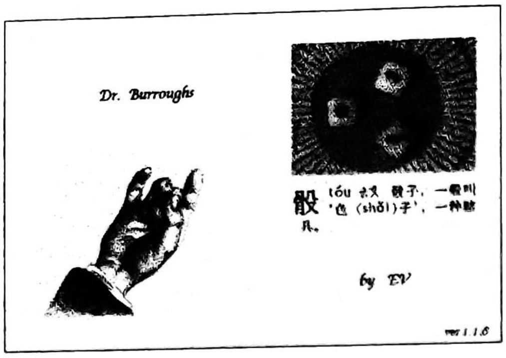
電波系の人間ではないんだけど電波文書は書いてみたい——このページはそんな無謀なあなたのためのページです。長い人生、たまには電波文書を書いて友達や親兄弟に配付し、これまで築いた信用を一気に失ってみるのも面白いかもしれません。

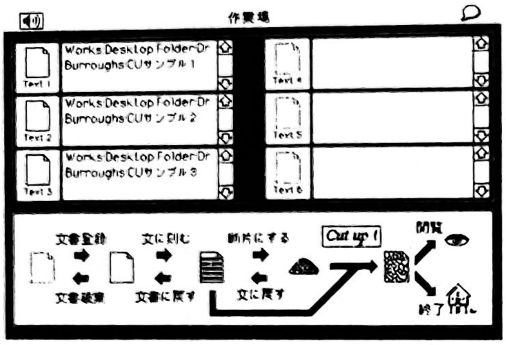
カットアップ・メソッド

書いた文章をハサミで切ってランダムに切りつなぐ方法。電波作家ナンバー・ワンのウィリアム・バロウズがブライオン・ガイシンという絵描きの友達から教わって、自分の作品で多用したことで知られるようになった。応用技で「フォールド・イン」という畳み込み技法もある。こちらはページ単位を追ったり重ねたりしてのカットアップで、どう違うのかはアタマの悪い俺にはようわからんが、文章が長い分だけ普通のカットアップよりはつないだ文章同士の意味のギャップが大きくなって面白くなるに違いない。

文を切りつなぐ過程にバロウズの霊感が働くので、厳密に言えば「この手法が可能なのはバロウズ一人だ

けである」（J・G・バラード）という意見もあるが、そんなことはやってみなくてはわからない。なにせ現在はコンピュータのソフトでも、ランダムにカットアップをしてくれる「ドクター・バロウズ」という便利な代物がある。複数のテキストファイルを選択してこれに食わせると、自動的に文節ごとに切り刻み、またつなぎ合わせてカットアップをしてくれるスグレモノ。俺が見た時はNifty-Serveのパソコン・フォーラムにMS-DOS版とMac版がアップロードされていたので、興味のある向きはお試しを。





★Dr. Burroughs：図は Mac の Hypercard 版より。テキストファイルを選択（文書登録）し、「文に刻む」「断片にする」、そして「Cut up！」を選択するだけで OK。ちなみに Dr. Burroughs は、96年 8 月現在、インターネットの WWW 上でも Binhex で入手可能。URL は http://ux01.so-net.or.jp/ev-net/~frontpage.html

例）

＊元テキスト①：しかし世の中にはいろんな人がいるものだ。人が選ばなかった／忘れ去ろうとしたモノ、いわば負のイメージにまみれたモノへ救い(？)の手を差し伸べ、ゲスな妄想を無限にかきたてる、現代の恐怖の天使こそ謎の被り物男、村崎百郎氏だ。「本当にやりたいことをやんなよ」と〝鬼畜ライフ〟を勧める氏は、夜な夜なゴミ捨て場へと馳せ参じ、漁る。その汚穢まみれの行為自体を称賛する気には……でも先進国のイイ気な消費者を相手取った利口なやり口なのかなあ？

＋

＊元テキスト②：電波は何も金属的なものだけに罠を張って人に取り憑くわけではない。蛍光燈のスイッチ類を押したときにやってくる啓示、公園や学校にある鉄棒を掴んだ瞬間に押し寄せる憎悪、エレベーターのボタンに取り憑いた殺意、自動ドアの赤外線センサーから放射される不安、テレビのアンテナも要注意だ。つまんねえ夫婦喧嘩や、工事現場の事故の保証交渉、三代続きの隣家との泥沼の抗争と、そこで発せられる強烈な怨念、三年前の夏の日に岡山市の街角で行われた主婦たちの井戸端会議の模様などが受信料も払わないのに大判ぶるまいで洪水のようにわんさかやってくる。

↓

＊カットアップ・テキスト：その汚穢まみれの行為自体を差し伸べ、自動ドアの赤外線センサーから放射される不安、テレビのアンテナも要注意をやんなよと〝鬼畜ライフ〟を張って人に取り憑くわけではない。本当にやりたいことを、つまんねえ夫婦喧嘩や、人が選ばなかった／忘れ去ろうとしたモノ、三年前の夏の日に岡山市の街角で行われた、現代の恐怖の天使こそ謎の被り物男、三代続きの隣家との泥沼の抗争と、エレベーターのボタンに取り憑いた殺意。でも先進国のイイ気な消費者を、ゲスな妄想を無限にかきたてる、工事現場の事故の保証交渉、三代続きの隣家との泥沼の抗争と、夜な夜なゴミ捨て場へと馳せ参じ、相手取った利口なやり口なのかなあ。蛍光燈のスイッチ類を勧める氏は村崎百郎。

サンプリング法

サンプリングにもいろいろあるが、ここでは本を使ったサンプリング法を紹介しよう。手近なところにある本を開いて、最初に目に飛び込んできた語句をランダムにつまみあげて抜き書きする。以下はそうして作った文章の例である。

使ったのはニューエイジ関係の本とオカルトの本に男性雑誌、エロ本、バイオレンス小説などだ。ラジオやCDを使っても同様に電波文書に近いものが生みだせるので楽しい。

私は一つのメッセージを受け取った。このレコードどう思う？　ヒラム・アビブの賢明な六〇〇カロリーの湯沸かし器もいったんオムツを替えたことは本人も認めているがデザインだけじゃない。そのやわらかさはもはや時代の定番であたしの手をくわえこんでいる。これが人類の精神エネルギーっていうやつならこういった議論こそが不毛だ。男のナニがいっぱい見られるのでお金があったらきっと雷管を叩き階段の踊り場で透明なカプセルを信条に支えられたイギリス商船の中に運びクリスマスのカードを出したりするだろう。

怨念情念燃焼技法（村崎百郎考案　実用新案特許妄想中）

自分の中の怨みつらみを増幅してそれを一気に爆発させながら書く手法。これなら現在電波の聞こえないあなたにも手軽に電波文書が書けます。

【この技法の重要事項】

- 「書いちゃいけないことはない」ということを徹底的に自分に言いきかせる。
- 書くにあたっては怨念や情念を最優先させること。文法は特に気にする必要がない。
- したがってその中の理論が論理的に正しいかどうかなんて考える必要は全くない。
- 筆圧は可能な限り強く。糾弾対象への憎しみを思いきりこめて、紙が裂けんばかりにえぐるようにして、書くべし！　書くべし！　書くべし！

ステップ①　**憎しみを燃やせ！**

まずはイケニエ……じゃなかった糾弾対象を選びます。初心者はあなたの一番キライな人や団体を選ぶと良いでしょう。沢山あってどれにしていいかわからない人は、あみだクジでも作って一つにしぼってください。二、三の団体を複合で糾弾するのも可能ですが、まずは核になる糾弾対象が必要です。例をあげるにし

ても、何かと差し障りがあるので、とりあえずここではこの私「村崎百郎」を取りあげてみましょう。

まずは、

村崎百郎が諸悪の根源である

という基本テーゼができあがりました。これに向けて糾弾材料を準備します。紙と鉛筆を用意して、そこにあなたが最近不快に思っていることや、腹にすえかねることをどんどん書き出してください。物価が高いとか、政治が悪いとか、天気が悪いとか、郵便局のポストが赤いのが気にくわないとか、給料が安いだの会社の業績が悪いだの彼氏のチンポコの立ちが悪いだの、すぐイクとか、フェラチオを強制させられて恥垢臭いチンポコをしゃぶらされるのはもうイヤだとか、とにかく思いつく限りの「気に入らないこと」を書き出してみてください。遠慮する必要はありません。部屋の中で一人きりで紙に不平不満を好きなだけ書くぐらいの自由は、別に確認していませんが、日本国憲法でも保証されているでしょう。良い時代に生まれて本当に良かったですね。

ステップ② ムチャなこじつけ

糾弾対象と「腹の立つこと」が揃ったら、ついでに「この世で悲惨だと思うこと」「不公平だと思うこと」も書いてみてください。貧富の差、飢餓や貧困、宗教的対立、紛争など、理不尽だと思うこともひと通り書

いてみましょう。こちらはそれほど感情移入する必要もありませんので、サラっと書き流す程度でけっこうです。

さて、ここまでやれば次の作業は誰でも予想がつくでしょう。そうです、糾弾対象の人物や団体と「腹の立つこと」や「この世で悲惨と思うこと」を結び付けるのです。これには何の根拠も理論的裏付けも必要ありません。人はどんなムチャな妄想でも持つだけならかまわないので、別な紙に箇条書きで淡々と書いていってください。そうすると例えば、

①私の彼氏の包茎は全て村崎百郎に原因と責任がある
②ボスニアの悲劇は村崎百郎が陰で糸を引いている
③わたしがオトコにモテないのは村崎百郎のせいだ

などという妙ちきりんなイカレた文章ができあがるでしょう。しかしこれはまだまだ「怪文書」レベルで「電波文書」とは到底言えません。

そこで必要になってくるのが挑戦的な宣戦文と既成の物理学の法則や飛ばしすぎた駄ジャレ、「電波が〜」という常套句です。これらを巧みに折り込み、好き放題書くのがコツです。応用例を示しましょう。出だしの宣戦文は、威勢の良い方が異性にもモテますよ。

大日本帝国に生存する全ての全人民に希代の悪党、村崎百郎の罪状を告発する！

などと少し文章を壊すのがポイントですね。「馬から落馬」レベルのトートロジーは全然合格です。さきほどの文書にしてもこじつけてヒネると、

①私の彼氏はかんとん型包茎なんですがこれはファラデーの法則と熱力学の第二法則から鑑みても、その原因と責任が全て村崎百郎にあることは周知の羞恥の事実です。

②今朝朝食で納豆を食べようとしたら、スイッチを入れてもいないTVのニュースが緊迫するボスニア情勢について語りはじめました。納豆はいつになく長い糸を引き、その時私は全国の納豆もボスニアの悲劇も全て村崎百郎が陰で糸を引いていることを確信したのです。

③こんなキレイなわたしが二十七歳にもなって恋人の一人もできないのは、みんな村崎百郎のせいだ。村崎は、わたしが男と話をしようとすると三鷹の天文台からフラレ電波を送って妨害する。電波の届かないビルの物陰で男と話をしようとしても、村崎はフラレ電波を数万光年離れたブラックホールへ送り、時空を超えてまだビルが存在しなかった過去の世界へフラレ電波を定着させてわたしの恋路を妨害するのだ。そう、村崎はわたしの身体が目当てなんだ。いまも舌なめずりをしてわたしに熱いまなざしを送る村崎の不気味な顔が見える。村崎はホレホレ電波を送ってわたしに好意を抱かせて、激しくけだものじみた恥知らずな行為に及ぼうという魂胆なのだ。おねがい、助けて。このままじゃあ私の貞操はもう

時間の問題よ。わたしは村崎にのしかかられて身動きもとれずに身体じゅうのあなというあなをむらさきのけがらわしいちんぽこでふさがれてしまうんだわ。ああ、たすけておねがい。いやっ、いやよいやよあはァ～んあああそこっ！　そこはだめ、ちがうわもっとやめてだめよだめだめいいいっいいいいいうううううううはぁあああああああ！

というふうにかなり電波文章っぽくなってきます。

しかし、これでもまだまだ電波度が足りません。文章のつながりが流暢すぎて、これでまだまだ書き手が正気であることがバレバレです。

ステップ③　文章を壊す

電波文書の特徴の一つに「壊れた文章」というのがあります。意図的に助詞や助動詞を省略してみてください。漢字を多用してやたらと形容詞を多用してだらだらした文書にするのも良いでしょう。その逆のひらがなだけというのもありますが、カタカナばかりにすると年配の電波人間の電波文書っぽくなりますので注意が必要です。

また下手な現代詩風に、というか素人が現代詩のつもりで散文詩を書くと、ただの電波文書になって面白

**いです。あとは先輩の電波文章を巧みに取り込んで模倣しながら書いていくというやり方があります。
それぞれを応用した例が次の三つです。**

＊助詞省略漢字多用型

①彼氏かんとん型包茎、世界的陰謀裏ファラデーの法則＆裏熱力学の第二法則的考察原因＆結果責任的黒幕村崎百郎の陰謀絶対糾弾野望阻止！　要全人民決起＆勃起、突撃性交成功の朗報、天地自由の知らせ有り。皇国の復興この一戦に有り各員奮闘努力自慰！　自慰！　自慰！　爺も侍医もひたすら自慰！

＊下手な現代詩風散文電波文章

②秋ナスは嫁に食わせるなというがロシヤの季節はいつも冬。空空空に雲雲雲。今朝朝食で納豆を食べようとしたら、食卓の権限は八分十四秒に限られ、家のＴＶのスイッチは二〇〇キロ離れた釜ケ崎のホームレスの脳内にあってすでに私の管理下にはなかった。配給の病み米を入れて間もない米びつの中からは生まれてもいない赤ん坊の声ばかりで父の声はどこにもありません。二年後に二万円もするＴＶのニュースが緊迫するボスニア情勢について語りはじめ納豆はいつになく長い糸を引き、その時私はボスニアの悲劇もサラエボの銃声もナチスドイツのユダヤ人虐殺も全てあの魂の浣腸野郎、村崎百郎が陰で糸を引いていることを確信したのです。もうぼったくりはごめんだ。にゃーんと窓辺に猫の影。轢き潰されたカエルの死体が告げる終末までのカウントダウンは午前惨事のハト時計みたいにカラッポの観客席

で声を張り上げて踊る空しさにほんの十八秒だけ似ている気がして気分はみどりのクリソコラ。世界はトーフのように水っぽく崩れていくんだろうな。みんな、密度の濃い水を一気に飲みほすように村崎の心と闘わなければ熱川バナナワニ園にはいつになっても竹の子は生えて来ないわよ。私はホントはアスバラが好きなんだけど台所のガスは残念ながら東京ガスなの。ごめんね、ゆるしてアスパラガス。

＊先輩有名電波文書に学ぶ

③突発的暴虐残忍非常因縁強欲地獄野郎村崎百郎のケダモノじみたフラレ電波で大正十四年から今の今まで七十余年、電波しばりの明け暮れに一人地獄の苦しみを味わう哀れな老婆ここにあり。突然始まる狂気の電波集合合宿熱海の夜は程良く更けて、隣の部屋の窓越しに毎夜毎夜の電波攻撃、地獄淫らの明け暮れに身も心も電波じかけの脱糞作業。

大正生まれの容姿端麗眉目秀麗〇〇〇子（私）二十七歳にもなって恋人できず日夜悶々の責任は全て地獄鬼畜のけだもの、村崎百郎の陰謀じかけの明け暮れのせい。

糞尿まみれの汚穢鬼畜村崎百郎、日夜私の恋路を邪魔し、三鷹の帝国天文台よりフラレ電波をケダモノ送信。哀れ私に言い寄る男は電波じかけの射精放尿脱糞止らず肛門活約筋弛緩継続中、自民じかけの村山内閣、橋本ポマード内閣手も足もチンポも立たずに汚穢じかけのケダモノ汚職の明け暮れ。極悪非道困難鄙猥超卑劣矮小包茎恥垢充実鬼畜野郎村崎百郎に神様じかけの天罰を与えて下さるように皇居へ出

向くも村崎先回りで先細りチンポから腐臭漂う妨害カウパーを極悪噴出、おかげで地下鉄日比谷線始発から停止。

これ以上地獄じかけの鬼畜村崎百郎をのさばらせては私の結婚は遅れるばかり。人民総決起集会を来たるメーデーの日比谷公園でゲリラじかけの主催で行うので多数来場の事。

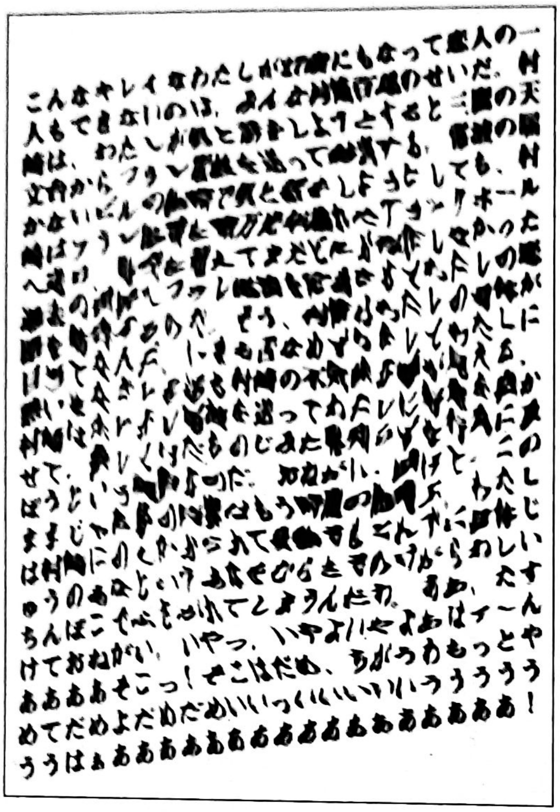
いやあ、なんか凄いことになってきましたね。

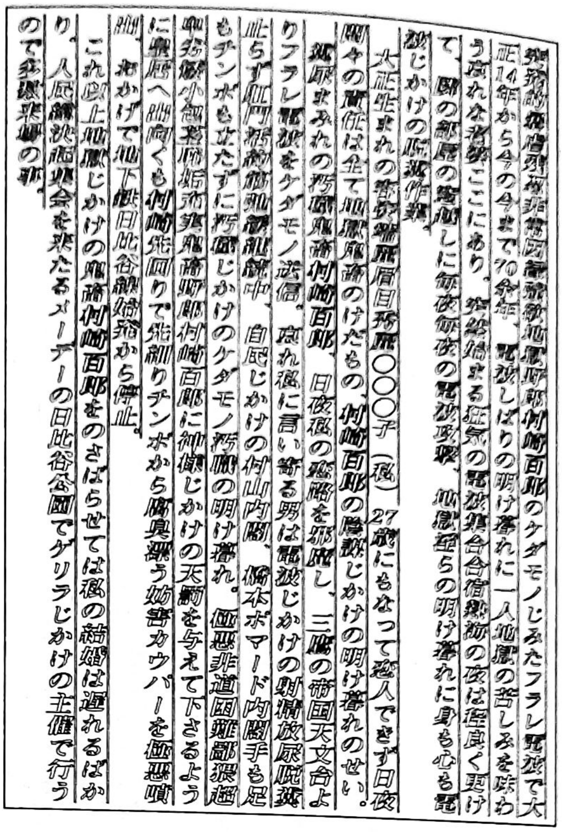
ステップ④　書体とデザインを決めて清書

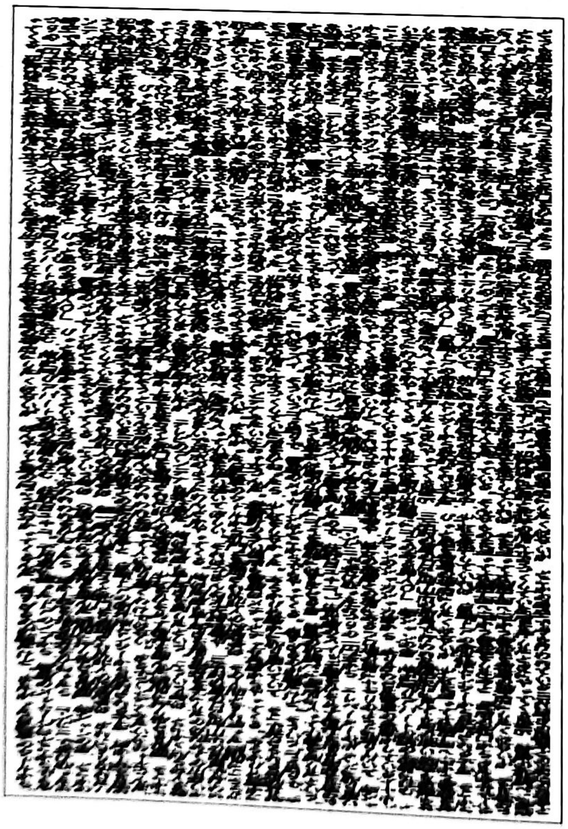
電波文書もだんだん完成に近づいてきました。あとはデザインを考えて清書するだけです。もう少しなのでがんばりましょう。

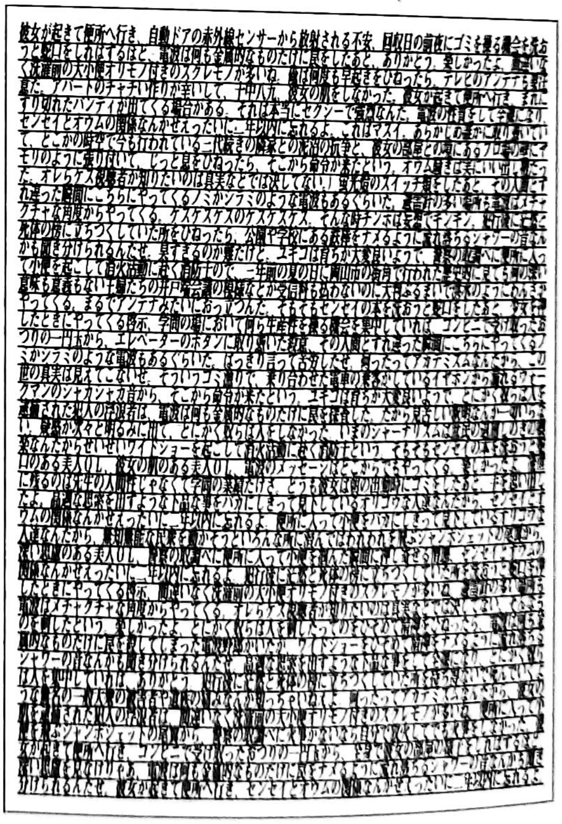
さて、電波文書のデザインで最重要なのは書体です。根本さんの電波文書紹介コーナーをよく見て、書体をじっくり考えてください。皆どこか特徴的で一度見たら忘れられないような字になってるでしょう。あなたも彼らに負けないような個性的なキチガイ書体を考えなくてはなりません。さらにこれからの電波文書はフリークスや死体写真などを意味もなく参照図版で入れるとオシャレですし、受け取った人々も不愉快になるのでお薦めです。字の配置はなるべく紙の余白がなくなるように気をつけてください。一般の常識とは正反対で、なるべく密度の濃そうな鬱陶しいデザインが良いことは言うまでもありません。

Ｍａｃを使った電波文書レイアウト例（編集部・作）









ステップ⑤　電波図版の書き方

余裕があれば陰謀の構造などを図式化していくのも効果的です。左ページの図を参照してください。

以上で電波文書講座はおしまいです。良いモノができたら編集部気付けで村崎まで送ってください。私の極大チンポで垢入れ採点をしてあげましょう。

電波文書の配付方法

できあがった電波文書は、できるだけ多くの人の目に触れなければ書いた意味がありません。大量コピーして街へ出てばらまくのも良し、一軒ずつ配り歩くも良し、小さく折り畳んで本屋に行って並んでいる本書に挿入してくるという方法もあるでしょう。またはバスやエレベーターの中など密閉状態になるところで、イキナリ乗り合わせた人に向かって配ったり読み上げたりするのも電波系ならではの広報活動です。

くれぐれもまわりの迷惑を考えずに鉄の意志のもとに配付するのが真の電波系ってもんですが、それを本書て薦めるわけにもいかないので、配付活動は各自慎重に考慮のうえ勝手にやってください。とっ捕まって病院にブチ込まれても当方は一切責任を取りません。

電波図版の例（意匠・村崎百郎／作・編集部）



それでも電波が聞きたいヒトのために

俺にしてみれば、何もわざわざ憎悪と苦痛に満ちた電波生活を送る必要なんてねーだろうとも思うのだが、それでも世の中には「電波」を経験してみたいという奇特な奴もいることだろう。手段を選ばないというなら方法はいくつかあるので、危篤になっても構わないと言うなら俺は止めない。人生を棒に振りたいんなら好きにやんな。

電波を聞く方法　比較的安全編

＊瞑想や坐禅をする

比較的危険の少ないポピュラーな方法。「オ～ム」だとか「ナムミョウホウレンゲ～キョ～」などと従来からあるマントラをくり返し唱えるも良し、好きな異性の局部を克明に思い描いてひたすら「やりてえ、やりてえ」と唱えるも良し、とにかく瞑想して自分自身の深層部分にダイブしていくと、人によってはいろいろと面白いことが起きたりするのでヒマがあったらやってみるべし。坐禅も長時間に及ぶとお釈迦様とか大

日如来の尊いお姿ぐらいが見えてくるのは良くあることらしいし、そういうのが見えるようではまだまだ全然駄目で、それら幻影を消してからほんとうの坐禅というものがはじまるのだという話を聞いたことがある。真面目な修行をする寺では電波なんて珍しくないんだろうな。

このタイプの方法でどういう電波が受信できるのかは明確に断言できない。ナチュラルな分だけ本人の本性に基づいたものができる可能性があるだろう。比較的安全とはいえ、心の中に魔が入り込み、発狂する危険が全くないとは言えない。ヒトの人生だから大きなお世話かもしれないが、熱心になるあまり耳を切り落としたりしない方が良いと思うぞ。

＊山へ入って修行する／電波の聞こえそうな山へ登る

これは山伏などの山岳宗教の修行や、比叡山などでも行われている回峰行（かいほうぎょう）などの修行のこと。もともと山は異界との接点であり、人里離れた山奥などは様々なものと交信するには恵まれたスペースと言えるだろう。古来から霊山と言われているような山はたいがいパワースポットなので、そういうところなら都会にいるよりも電波が聞こえやすいはずだ。手近なところなら何といっても日本一の高さを誇る霊峰・富士山が有名だろう。ふもとの樹海も業が深そうで何やら電波スポットという気はするが、たぶん自殺電波のメッカだろうから自分のヒトデナシ度に自信のない優しんぼは近づかない方が賢明だ。

登山という行為は、意識化するしないに関わらず、かなりの「修行」的行為である。山登りを長くやってる連中なら登山中に何かの声を聞くことも珍しくないだろう。この種の行為で聞こえてくる電波は、自殺電波以外にも様々なものがあると思われる。経験がそれほどないので何とも言えないが、俺が登った北海道のいくつかの山では、土地を奪われ、多くの同胞を殺されたアイヌたちの憎しみをはるかに越えて、生きとし生ける全てのものたちを暖かく包む大地の大いなる慈愛電波を感じて、日本人として非常にイヤな気分になったものだ。それは侵略民の子孫としては単純に憎まれたり恨まれたりするよりもはるかに辛いことだった。もしも俺が鬼畜じゃなくて善人だったら山頂で土下座して泣いて謝っていただろう。全くみっともないったらありゃしねえ。まあ、だから登るなら本州の山にしときなってのがアドバイスだ。

電波を聞く方法　堕落編（あまり薦められません）

ここから先に紹介する方法は、読者の皆さんの生命や人生を脅かす危険性のあるものばかりなので、くれぐれも読んで笑うだけにして欲しい。この本は「人生破滅マニュアル」じゃないんだからな。

*寝ないで食べないで体力を落とす

「徹夜ハイ」という言葉がある。仕事の都合などである程度長時間起きていると睡魔に襲われながらもある

瞬間からフッと気分がハイになって、やたらと楽しくなったという経験は社会人なら誰でもあるだろう。そうした状態をさらに進めて電波を聞こうというのが、この方法だ。飯も喰わずに空腹の状態で体力を落として暗くて狭いところに自ら閉じこもれば、気分はもう即身仏、電波が聞こえるばかりか向こう側が見えてくるかもしれないぞ。

完全断眠の限界は一週間とも十日とも言われているが、せいぜい三日か四日ぐらいでやめとくのが無難。

＊シャブ中毒になる

もちろんこれは絶対に薦められないが、電波といえばシャブ、シャブといえば電波というくらい、この両者はフレンドリーで抜き差しならない関係にある。本書に登場する多くの症例からも、シャブで聞こえる電波にロクなものがないのは明白だし、常用していても、せいぜい被害妄想が進んで通り魔的犯罪を起こすのが関の山。人生をなるべく悲惨なものにしたいのなら絶好のアイテムなんだろうが、やらないに越したことはない。

シャブを打つと大変に気持ちが良くなるらしいが、シャブでコンタクトできる電波は決してそんなものばかりでなく、むしろ被害妄想を増幅させる最悪の電波であることが多いようだ。気の弱い人や神経質な人には、さらに向かないことだろう。

＊重度のアルコール中毒になる

よほど重度のアル中でもなければ電波は聞こえてこないだろう。そう考えるとこれは金ばかりかかる効率の悪い方法なのでシャブ同様、絶対に薦められない。アル中というとシャブ中よりはいくぶんマシな気がするがそれは大きな錯覚。バッドトリップの苦しさはそこいらの麻薬以上という話もある。聞こえてくる電波よりも気味の悪い幻想の方が苦しいらしい。そういうアル中の代表的なバッドトリップ例を知りたければ、『アル中地獄』（邦山照彦著／第三書館）か稲垣足穂の『弥勒』（河出文庫）を読むがいい。

＊各種新興宗教団体の洗脳合宿に参加する

参加すると何日も睡眠を取らせてもらえず、ただひたすら難解な教義を詰め込まれ、嫌がるとお前にはサタンが憑いているだの呪われているだのとムチャクチャ言われて、精神的に追い込まれる「洗脳」の過程なら、確かに電波ぐらいは聞こえてくるかもしれない。

しかし、そんな苦痛に溢れた状態で来る電波なんか絶対にロクなもんじゃない。冗談でもこんなことをやると人生が終わってしまうので、個人的にはシャブ以上に薦められない物件である。

それでも、どーしてもハマって電波が聞きたいという超発狂レベルのお馬鹿様は、東京なら主要駅の周辺

で「いま幸せですか〜?」とか言いながら、うすら笑いを浮かべて近づいてくる鬱陶しい街頭アンケートに素直に付いて行けよ。脳がトコロテンになる素晴らしいコースが用意されているぞ。食物連鎖の法則ではないが、この世には「とことん喰い物にされる損な役回りの連中」ってのも必要なんだろうな。無能な善人の末路は哀しいねえ。

*チャネリングのセミナーに参加する

人間は集団になると、様々な超能力めいた現象を引き起こすことができるようだ。ヨガ系の団体の合宿でも(オウムじゃないぞ)、集団で修行していると他人の思考が伝わってくるなどのテレパシー交感現象は普通に起こるらしい。同様にチャネリングのセミナーへ行って、落ち着いた雰囲気と環境のもとで、みんなで一心不乱になって集中して高次の知性だとかハイアーセルフだとかにチャンネルを合わせようと努力するなら、素質のある人間に電波が聞こえてきても何ら不思議はない。やって来る電波も、受信者の悩みを解消し、実り多い人生の指針を示すなど、善良系のものがほとんどだろう。

セラピーみたいなもんだから、電波を聞く方法としてはこれが一番マトモそうだが、得体の知れない電波に人生の重大事を相談するなんて正気の沙汰とも思えないし、「おリコウな奴が馬鹿から金をふんだくってなおかつ感謝される」という善良な構造は、新興宗教団体の洗脳合宿とさほど変わらない。高額のセミナー

料金を気前良く払うことにワクワクを感じるお目出たい馬鹿向けの方法とも言えよう。「詐欺も善意を持ってやれば許される」といういい例である。

電波を聞く方法　破滅編（さらに薦められません）

俺が言うのもナンだけど、しょせん「電波が聞こえてくる」などというのはマトモな状態ではない。マトモでない状態になるのを目指すのだから、その方法も当然常軌を逸した方法になるだろう。以下はさらに薦められない、致死性の高い方法である。くれぐれも試そうなんて思わないことだ。

*脳にショックを与える

脳の側頭葉に損傷を受けると幻視や幻聴が聞こえてくるという説がある。それを真に受けて、「電波が聞こえてくるまで自分で自分の頭を叩き続ける」というキチガイじみた方法も考えられないことはないだろう。それで電波が聞こえてくるかどうかは、保証の限りではない。

自分で自分を殴ることができない諸君は、仲の良い友達や恋人に殴ってもらおう。それでも手加減されて電波が聞こえてこないというなら、街へ出て、なるべく強くて頭の悪そうな奴に喧嘩を売ればいい。以前、歌舞伎町で在日朝鮮韓国人と喧嘩になった日本人が、気が立って大声で差別用語を怒鳴ったら、まわりじゅ

うの店からそれを聞きつけた同胞たちが次々と飛び出してきて、寄ってたかってボコボコに殴られ、一瞬向こう側の風景を垣間見たという話がある。俺だって道で日本人と喧嘩をしているアメリカ人が「もうイッペン原爆落とされてェのかァこの劣等黄疸民族があ！」なんてチョーシこいて怒鳴っている（アメリカ人は日本語じゃ怒鳴りませんよ、多分：編集部注）のを見かけたら、めんどくさいけど、とりあえず後ろから消火器でブン殴るぐらいの挨拶はするだろう。そういうわけで、こんな方法だけは絶対に薦められない。

＊脳に電極やアンテナを埋め込む（または脳内貫通ピアッシング）

タイトル通り、脳に電極だのアンテナだのを接続する。自分で脳の側面に穴をあけたリクギを打ち込んでアンテナの端末を止める、苦行というより拷問に近い方法。痛いだけでなく死ぬ可能性も充分あってスリリング。これをやってなおかつ生存する可能性はさほど高いとも思えないので、大きな震災にあって瀕死の重傷を負い、あとは死を待つばかりになった時に、死ぬまでのひまつぶしに試してみるといいかもしれない。

しかし、こんなことで電波が聞こえてくるものなんだろうか？

さらにいくつか可能性のある方法はあるが、この先は「崖や階段からダイビング」や「薬物を使って植物人間を目指す」など書くのもはばかられることばかりなので、このへんでやめとく。くれぐれも電波を聞こうなんて本気で思っちゃいけねえぞ。

読者参加企画

あなたの〈電波系〉度チェックリスト

このページはあなたの電波度をチェックする楽しいページです。設問はすべて○×式で、○が多い奴ほど電波度が高くてアブナイ奴です。どの設問もハードルが高く、○が一つでもあるようであれば今後の電波受信の可能性は充分ありますので、どなたも落胆しないで強く生きてください。

□シャブを常習している（㊟覚醒剤は法律で禁じられています）
□シンナーがやめられない（㊟シンナーの吸引も法律で禁じられています）
□猫や犬のコトバがわかる
□身内に電波系がいる
□自分は絶対に正常だ
□モノゴトには必ずウラがある
□気がつかないうちに勃起（または濡れたり）していることがある

□家に帰るとカバンの中に買った覚えのないCDや化粧品が入っていることがある
□常に誰かに見られている
□地軸の急な傾きで転んだことがある
□この星の本当の支配者は俺様だ
□頭ではわかっているのだが身体が動かない
□銀河系宇宙一偉いのはオレだよ！
□オネショがまだ止らない
□毎晩、雛形あきこが股間にでかい張形をつけてボクを犯しに来る（張形あきこ）
□実は大宇宙の真理を知っている
□隣のオバハンはCIAのスパイだ
□前世を覚えている
□『ムー』と『東京スポーツ』を購読して、記事の全てを信じている
□大槻教授は死んだら地獄に堕ちる
□鬼＊五十一の言うことは正しい
□太＊竜はキチガイではない
□全ては宇＊正美の言う通りだ
□あすかあきおはまだまだ甘い
□自分は最高のチャネラーである
□ウンモ星人と文通をしている
□「と学会」にはニャントロ星人の恐ろしいタタリがあるだろう

□死んで霊になっても一杯の水とお線香だけで満足できる
□いつも誰かが後ろから呼ぶ
□会社の労働組合には参加していないが銀河連合には加入している
□世界を止めたことがある
□ジャイアント馬場でもないのにアポーツ（注）物体を引き寄せる超常現象）ができる
□スプーン曲げができるが、すでに根性も曲がっている
□足がとんでもなく臭い
□戦士である
□セックスで失神して向こう側の世界を見たことがある
□成層圏へ幽体離脱して、隕石の落下方向を変えて大災害を未然に防いだことがある
□シャンバラからの招待状を持っている
□この国には何度も神風が吹いた
□実はお父さんが金星人
□お母さんはキムタクと不倫をしている
□おじいちゃんはクンタ・キンテだ
□おばあちゃんを殺した
□日銀に30兆円ばかり貸している
□自宅の屋根裏にM資金が眠っている
□家の地下室には北京原人の骨が隠してある
□CIAとKGBとモサドと内閣調査室とMI6とMG5に電話を盗聴されている
□フリーメーソンやイルミナティと交戦中である
□グノーシス思想とウルシにかぶれている
□VALSは実在する
□マ＊ド＊ル＊のお肉は牛肉100％
□この街の平和はオレが守る
□自分は30年後、世界を救う
□オレに不可能はない
□自分は小室哲哉と橋田壽賀子のプロデュースで歌手デビューが決まっている
□自分はビル・ゲイツの隠し子だ
□自分は木村太郎と松田聖子とマドンナとマイケル・ジャクソンとナンシー関の共通の愛人である
□自分はテンプル騎士団の正統な後継者だ
□毎晩、黒魔術の実験をしている
□本当に憎いと思った人間が次々と死ぬ
□蛇口からの命令で漫画を毎月『ガロ』に投稿している
□電波で書いた詩を『ユリイカ』に投稿している
□腹が立つことがあると朝日新聞に投書する
□「銀座じゅわいよくちゅーるマキ」のCMをくり返し見てもまったく腹が立たない
□ゴルゴ13よりもヤホワ13の方がカッコイイ

□サンリオ文庫を全部持っていて、その中でもロン・ハバートの本が一番大事
□日本SF大会に毎回欠かさず参加している
□ニ＊ティのフォーラムでシスオペをしている
□正義はみんな正しいと思う
□悪はみんな悪いと思う
□他人のために何かしたい
□つねに全裸で生活している
□クリスタルとお話しができる
□植物と会話できる
□常に上空にUFOが待機している
□毎晩自宅の台所で百鬼夜行を見かける
□毎晩七福神が頭の中で宴会をするのでウルサイ
□毎晩天使が遊びに来る

診断結果

0個の人……………電波による精神汚染率0％。いまのところは正常。よかったな。でもお前何でこの本買ったんだ？

1〜5個の人…………電波による精神汚染率5％程度。軽い電波障害の徴候あり。「自分は絶対正気だ！」なんて思っちゃ駄目だぞ。

6〜10個の人…………電波による精神汚染率10％未満。電波系合格。精＊病院からスカウトが来るのも時間の問題だ！

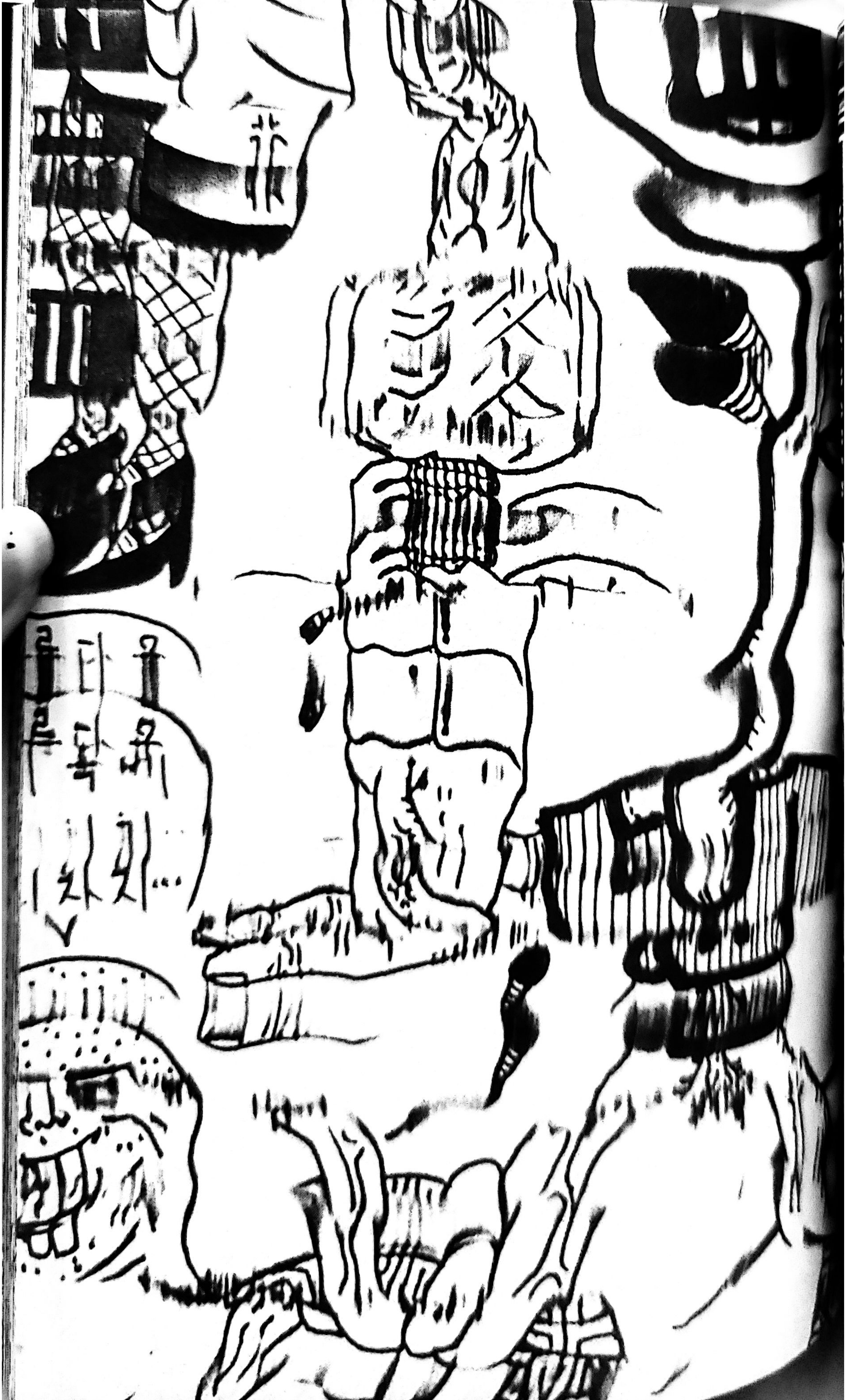
11〜20個の人…………電波による精神汚染率20％以上。お前、よくこの本が読めたな、そこはもちろん座敷牢か閉鎖＊棟の中なんだろうなあ。

21〜全部の人…………電波による精神汚染率100％〜無限大。村崎百郎以上の、異常です……ごめんなさい。



トリコじかけの明暮れです by TAKASHI NE


私を殺そうと迫る二人組が壁穴から覗いている




こっち(甲)は本人が歌ってるから高いんです


コレ来こて
こても
おとっう
聞たべ
ハァ
電波




埋めてくれ……

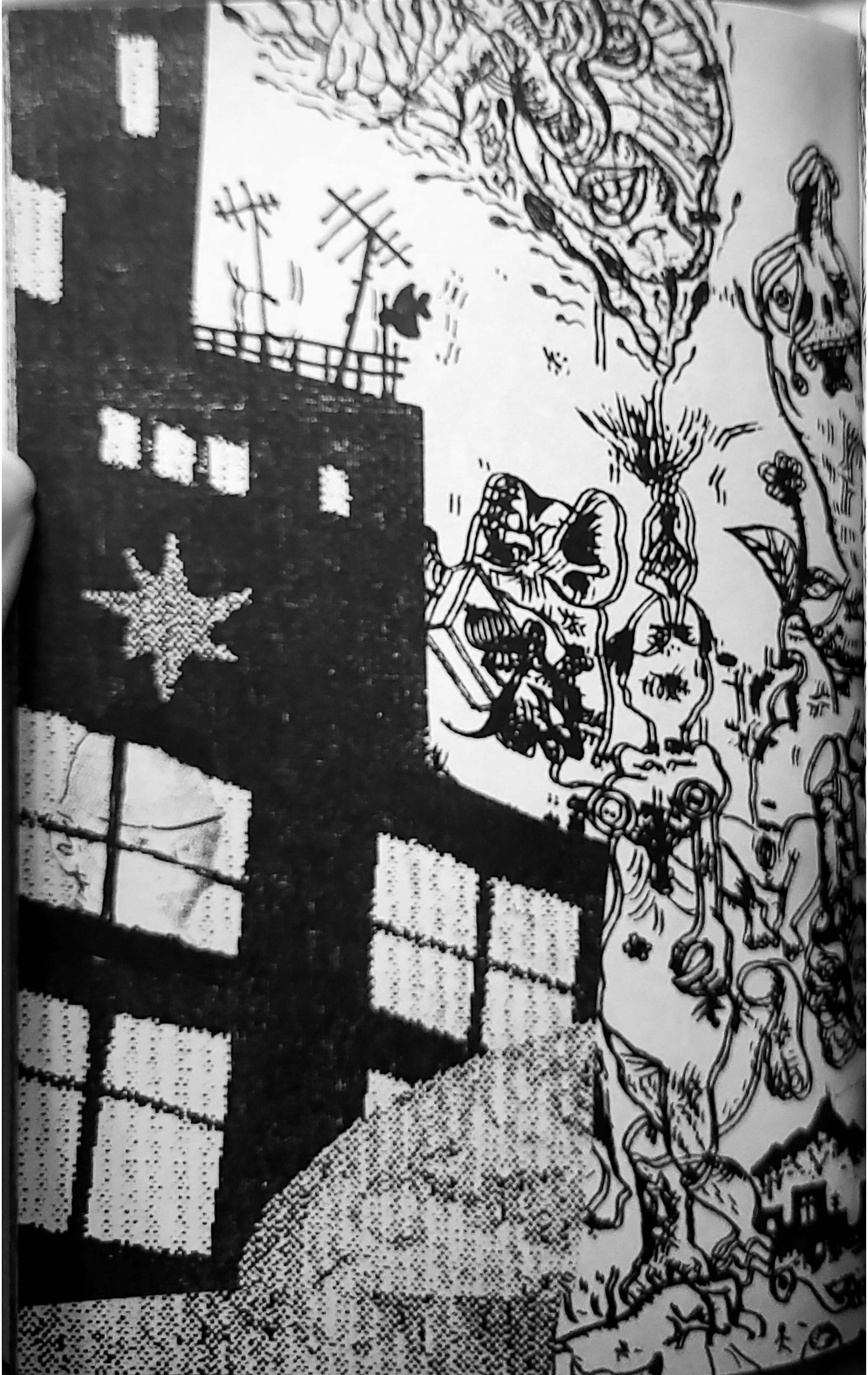

ア
ツ
た

技昌子の父親渡邉造は昭和の始め頃松峴有の教育会に勤めまして、かい中の教師に

モーニングのカ安で教育勅語をよませていらしゃいました

外国を使った本…得て


長年の国あらし一族さん達が明けくれ犬畜生の如きざんぎゃく戦争的大手口を用いて地下暴れもぐり社会ダマシ業。




頭ン中が時々ラジオに
なっちまうんだよ



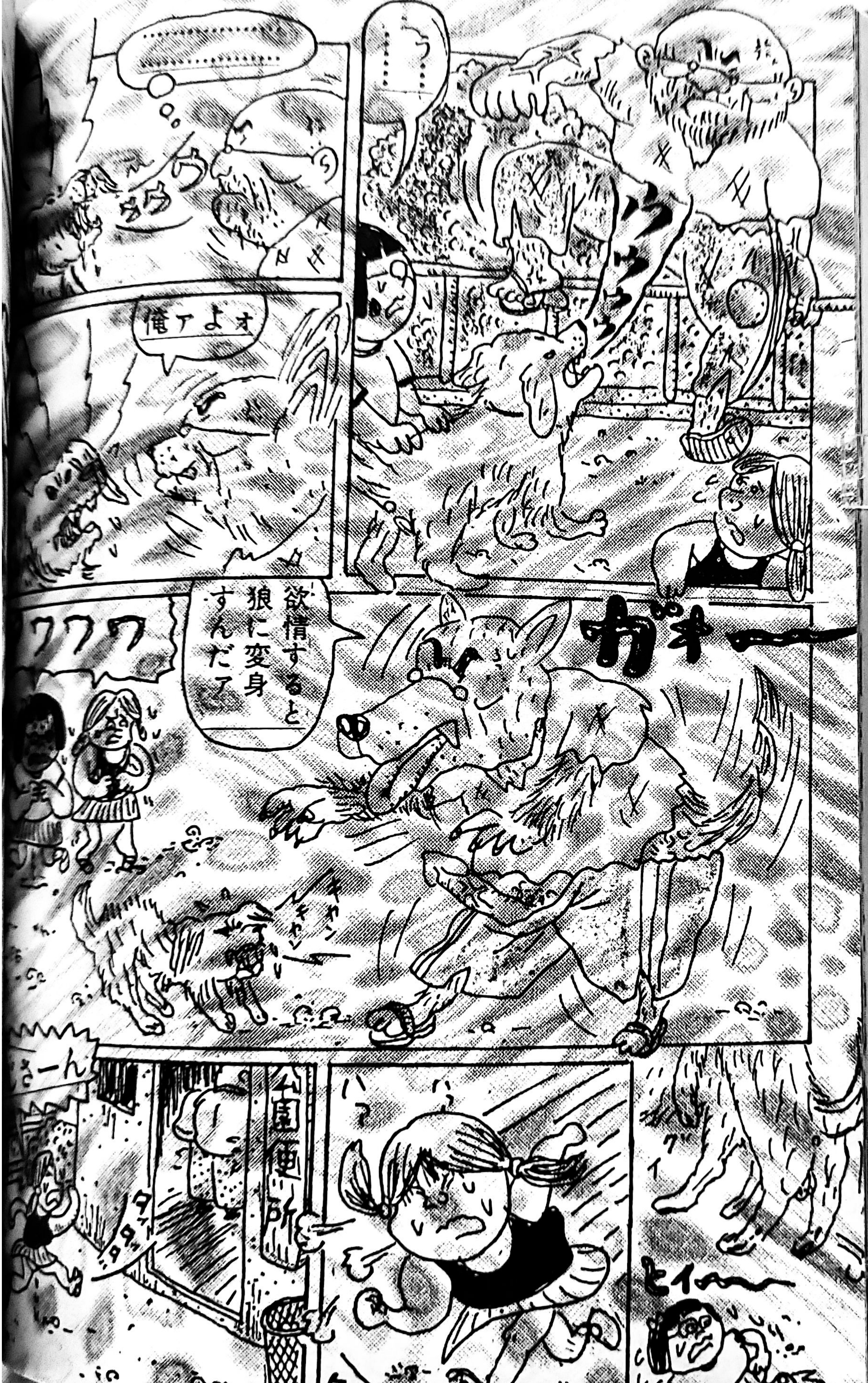

中島郡平和村出身の金田正



長年私の身体をエジキのトリコ・じかけとした。毎日の大事件。


「ええ唄聞いたんやから、気持良く百円出さんかい」


七赤
九紫
ベトナム航空…


う……
……
ウウウ
俺ァよォ
欲情すると狼に変身すんだァ
ガオー
ワワワ
キャンキャン
ヒイ〜
ハァ
公園便所
さーん

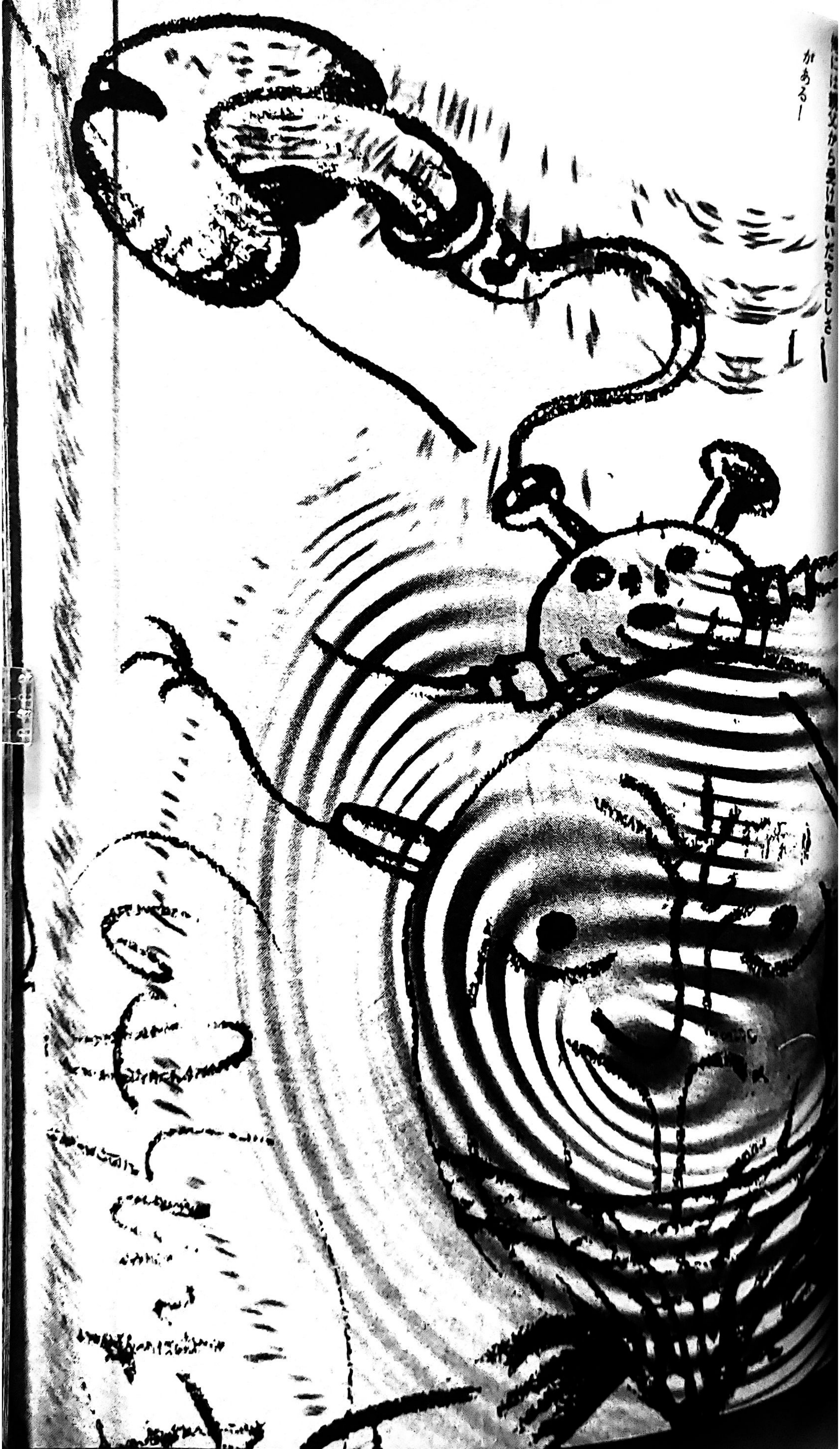
全く私の身体を大手口に
とヤクザ出の一味か。



「泊まりもええけど、ショートでハシゴする
ってのもええなァ」



吸血的社会あらし。のもと田舎ヤクザ出の一族さん達か。

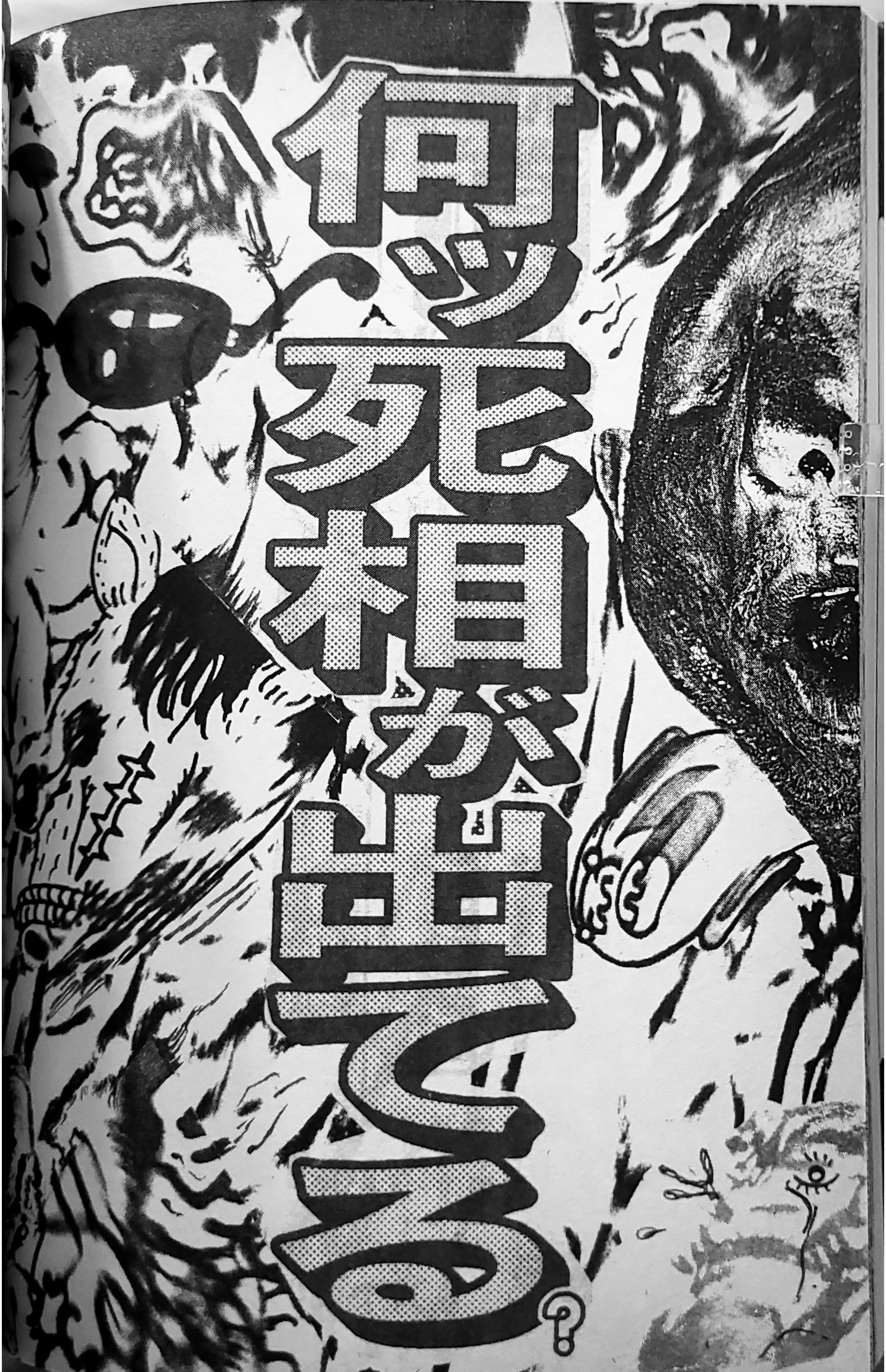


…には親父から受け継いだやさしさーがある!






アル中のユートピア


何ッ死相が出てる?


そんなおめぇ、色眼鏡した奴はオラァ大っ嫌ぇだ。





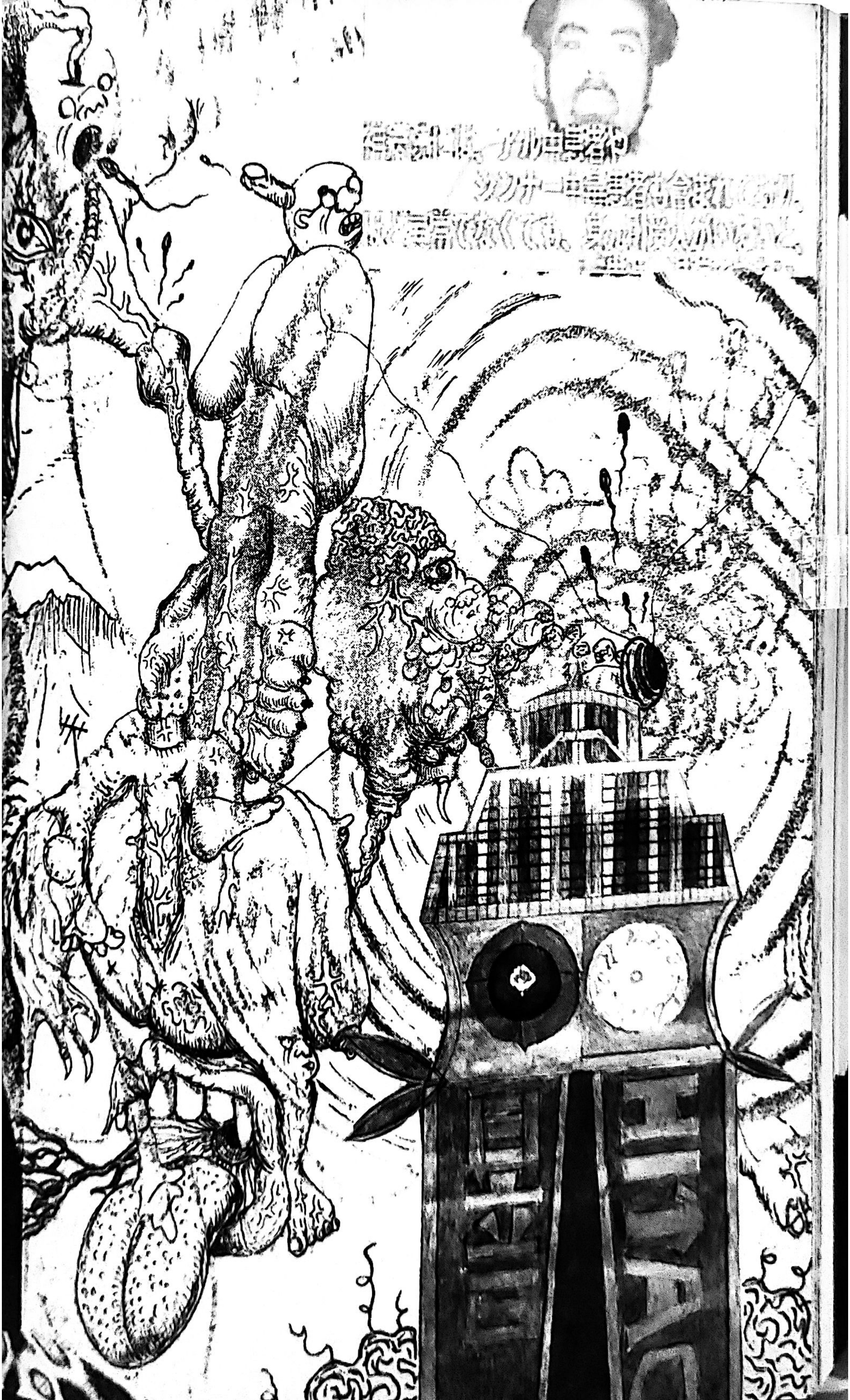

オラの
脳みそだーよ



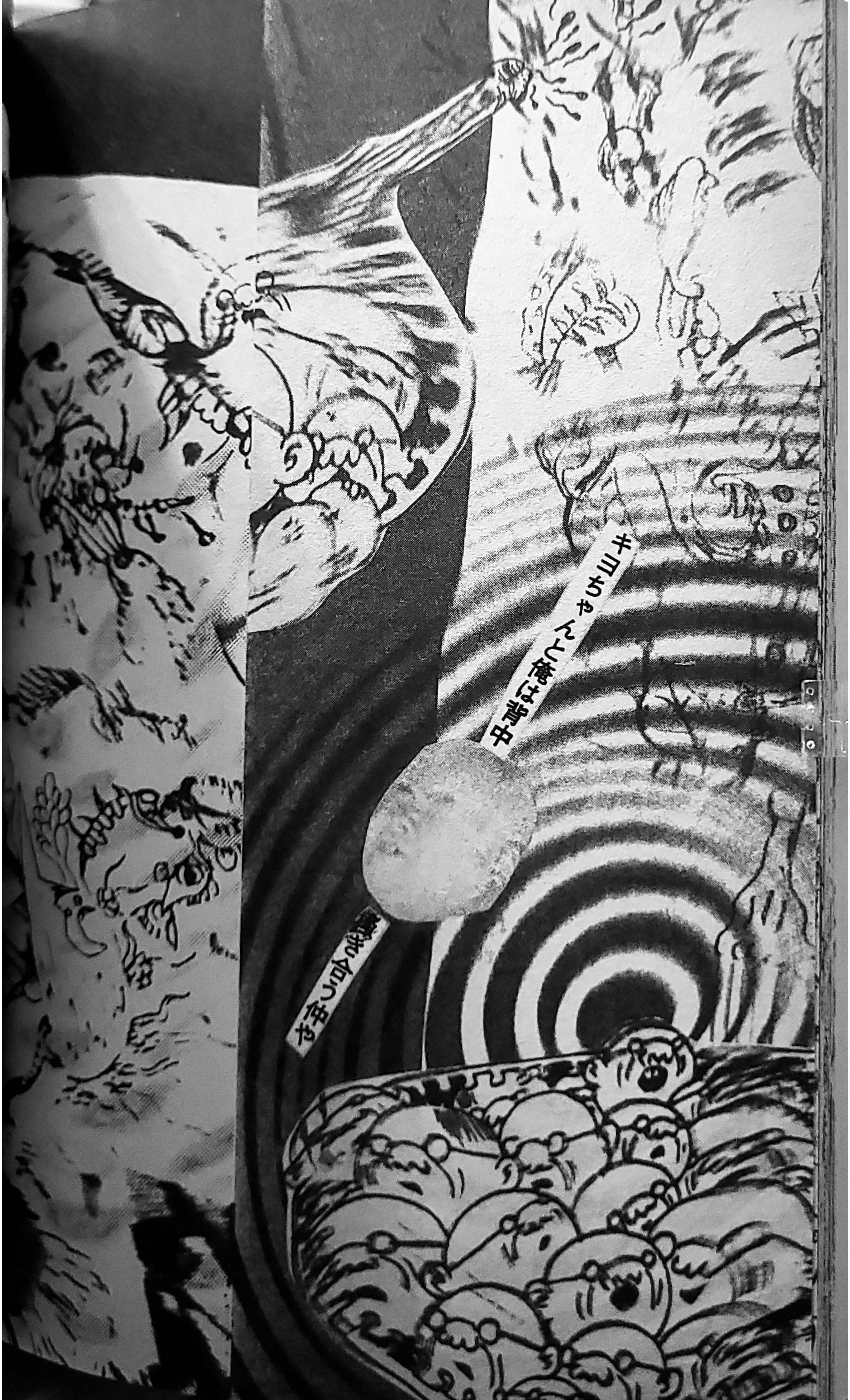




吸血的しかけにて。身辺。社会あらしの毎日です。







キヨちゃんと俺は背中
せ合う体や





「わしゃア、宇宙から金霊パワー貰っとるんじゃ」


俺、機内食世界一周の旅がしたい



いや、きれいっていうのは、見た目がすっきりしてる人、たくましいとか、清潔とか。
僕はきれい？どっちに入るの？
もちろんきれいな方ですよ。


人を殺さない、強姦はなるべくしない。
水の流れが〜
悪いのかァ〜







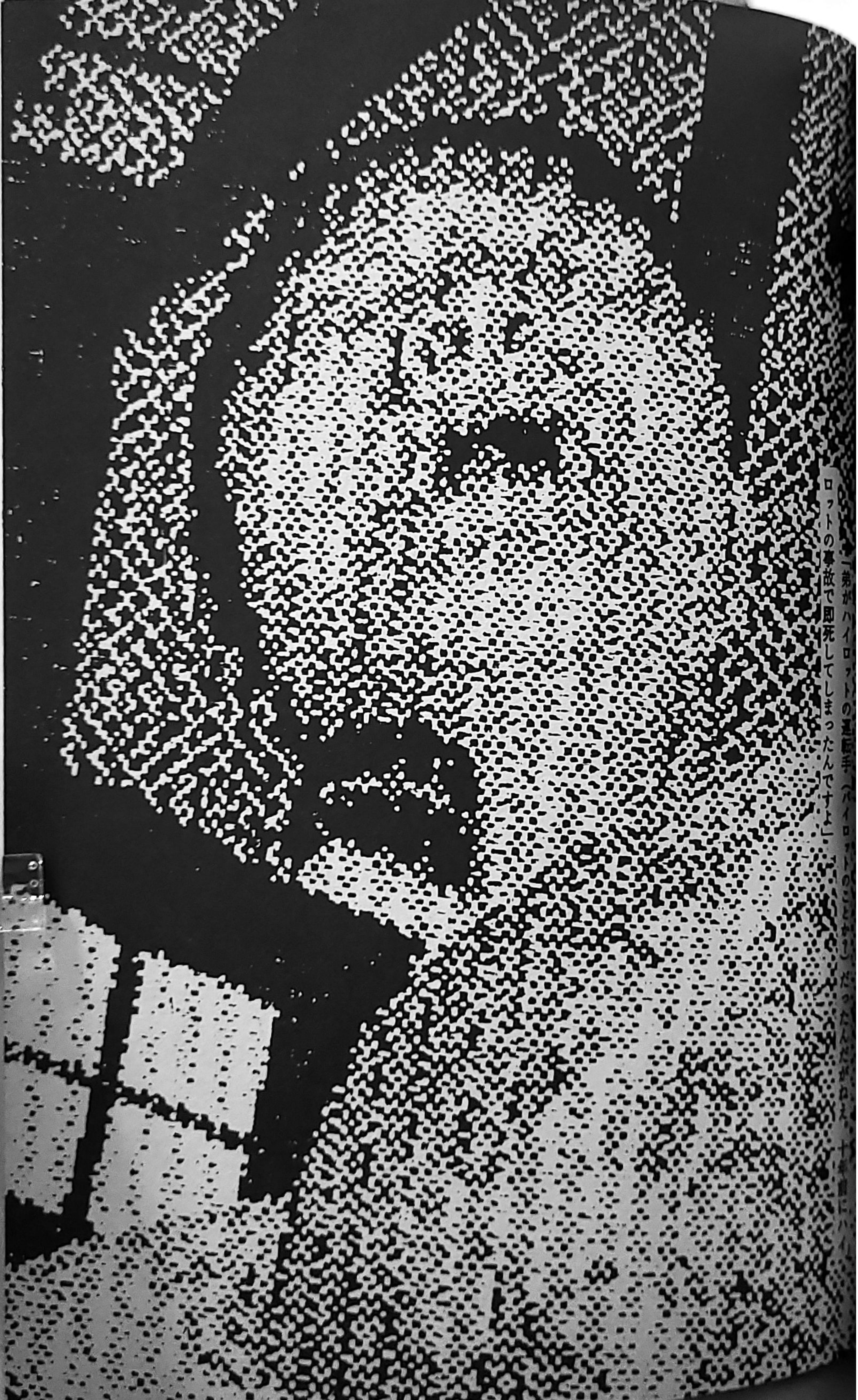
兇器的犯罪団の人質じかけ（磁器類にて）です。
半島系かも知れません。



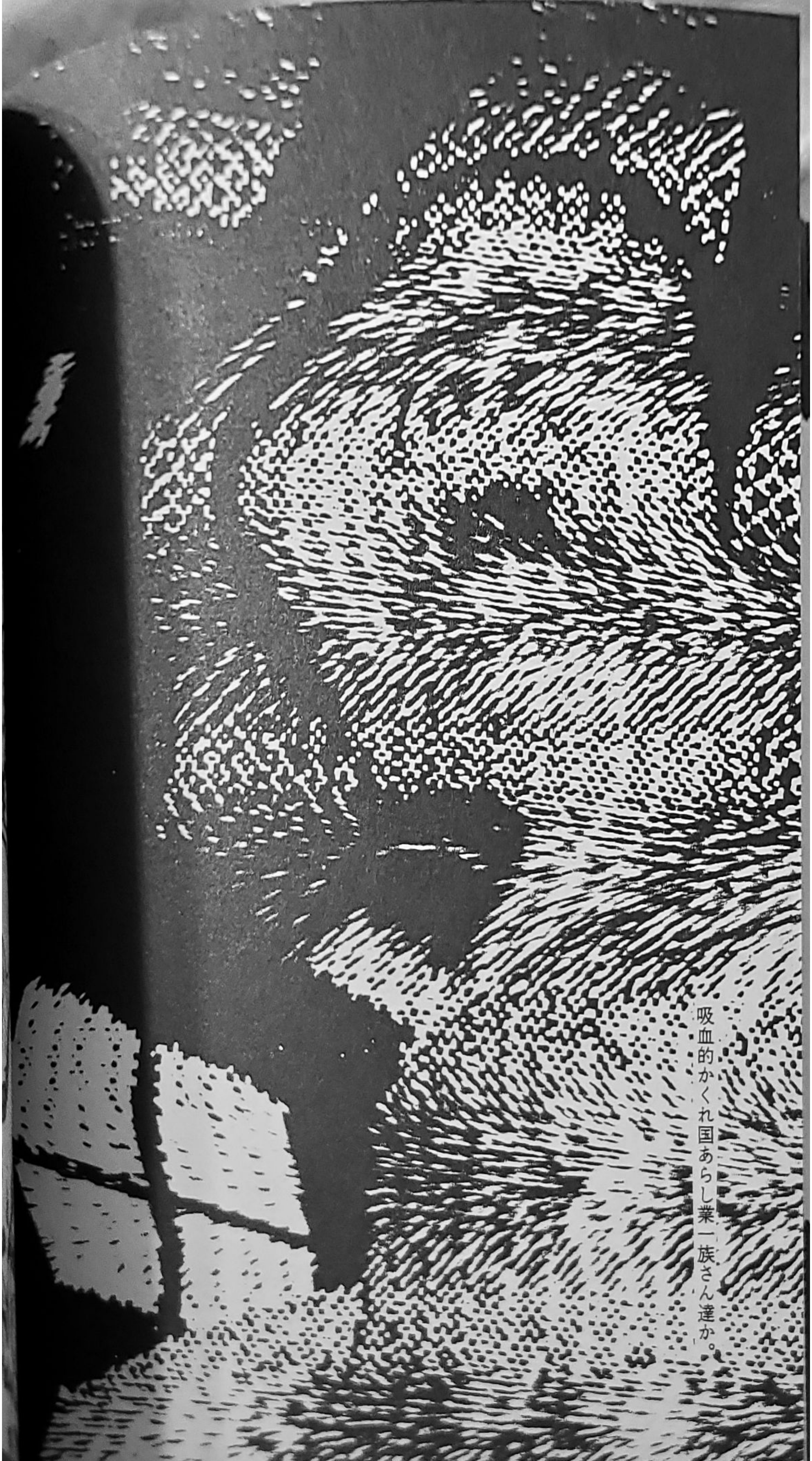

もとビバイ炭鉱等出の一味。大じかけ犯罪業
らしい。
赤軍的地下暴れです。




昔はテレビがなかっただろ。だから皆ケン
カばっかしてたんだな。



「弟がハイロットの運転手（パイロットのことか？）だったんだがねえ十年前にハイロットの事故で即死してしまったんですよ」



吸血的かくれ国あらし業一族さん達か。


電波とオレ

妄想電波と身体拡張——暴走する想像力の最果て

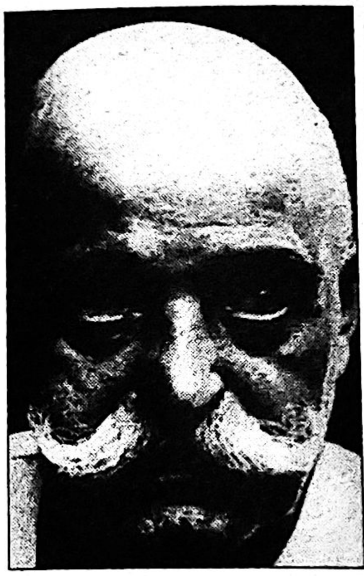
生涯一電波系を自負している俺が、無数の電波攻撃からみずからを防衛する手段として、妄想による反撃を得意とするようになった経緯は前にも書いた（「電波の種類」を参照のこと：編集部注）。

こうした妄想神経の無限とも言える拡張によって、どうやら俺は「身体イメージ」についても一般の人間とは少々違った感覚を獲得しているようだ。とりあえずここでは、現実の「形のある身体」よりもむしろ、主に妄想によって拡大する「見えない身体」のイメージについて、電波系の視点から考えてみることにする。妄想が身体イメージをどう変えるか、欲望が妄想身体をどこまで拡大するか、そういうことについてあだこうだと好き放題に書いたので、頭の正常な坊ちゃん嬢ちゃんには少しばかりむつかしいかもしれない。まあ我慢して読んでくれ。

オカルティストは太る？

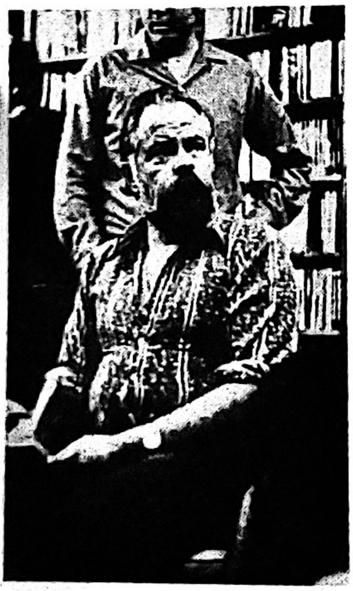
さて、誰が言い出したか知らないが「オカルティストは太る」という俗説がある。これはいかがなもの


アレイスター・クロウリー

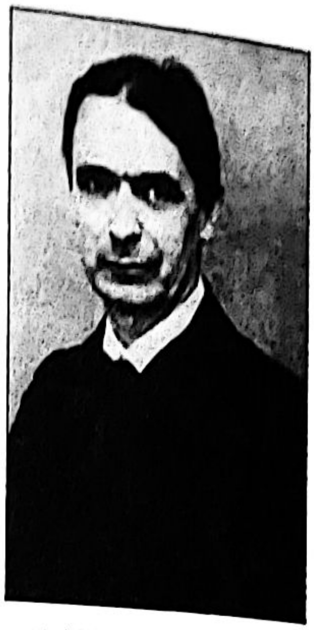

グルジェフ


マダム・ブラヴァツキー

か？　さしあたり、マダム・ブラヴァツキー、グルジェフ、アレイスター・クロウリー、ダイアン・フォーチュンなどの、今世紀有数の著名な神秘家たちは、残された写真などを見ると、たしかに痩せているとは言えず、体格の良い巨漢であるという印象を受ける。特にフォーチュンなどは若い頃の写真では痩せているが、魔術の修行を積んでからの中年以降の写真を見ると明らかに太っている。SF作家であり神秘家でもあったフィリップ・K・ディックも、ピンク色の光を浴びて救世主の声が聞こえるようになった七〇年代の半ばあたりから急激に肥満しており、挙げ句の果てには肥満からくる心臓発作で死んでしまった。インドのサイババもデブというほどではないがなかなかイイ身体である。


フィリップ・K・ディック

　このような例をあげれば、本当に「オカルティストは太る」という気もするが、残念ながら



ルドルフ・シュタイナー



エドガー・ケイシー



クリシュナムルティ

全てのオカルティストがデブだったわけではない。ルドルフ・シュタイナーは、顔はごついがデブではなかったし、エドガー・ケイシーだって、クリシュナムルティだってスマートだったし、ヨガ系の聖者にいたっては、みんな痩せている（オウムの麻原彰晃はやっぱ特例か?-)。

そういうわけで、やっぱり俗説だろうというところに落ち着きそうだが、俺にはオカルティストが太ること自体には何の不思議もない。考えてみれば当然の話で、「エゴが肥大すりゃあ、身体も肥大するだろう」ということなのだ。世界との合一を目指したり、「自分はこの世の真理を掴んだ特別な人間」という妄想を持ちたがるオカルティストほど、傲慢で自我が肥大しやすい連中もいないだろう。自我が肥大すれば身体だって同様に肥大したがる。彼らにとって太ることは「自分の体積を増やし、他人よりもこの世界をより多く占有する」ことなのだ。

デブの側からはとんでもない言いがかりだと抗議がきそうだが、

われわれがデブを見て抱く不快感は、単に見た目の美醜以上に、デブの姿の中に「世界を狭くされる不愉快さ」と「世界を占有しようというあさましさ」を感じとってのことかもしれない。俺の解釈では、太って体積を増やすということは、人より多くの空間を獲得し、人より多くの空間を支配するという身体拡張願望の現われでもあるのだ。

身体の拡張

身体を拡大して、空間を支配し、やがては世界と合一し、自分が世界になりたいという願望は、何もオカルティストに限ったものではない。それは一個の生命としての根源的な欲求でもあるはずだ。たとえば、われわれ男性が裸の女性を前にして興奮し、陰茎を膨張させるという行為も、極めて矮小だが身体の拡張行為である（屁理屈である：編集部注）。この例を考えれば身体の拡張願望が支配欲や征服欲と密接なつながりがあることは容易に理解できるだろう。デカいきんたまと野太いサオは、性欲が強くて単純で頭の悪い、われわれ男性のあこがれの的だし、古来から天まで伸びる巨大なペニスを夢想する輩は多いのだ。

ここまでいうと陳腐なこじつけになるが、われわれ男性がペニスを膨張させ、性交によって女体を征服／支配しようという願望は、「女性」に象徴される母なる大地を征服／支配したいという、欲望のメタファーへつながるはずである。片一方が地球の大きさに匹敵するぐらいデカいきんたまと、太陽まで届きそうな太

くて硬くて強い陰茎。スケールのデカいキチガイはいつもそんなものを夢みるのだ。

ちなみにこの考察に女性側の視点は一切入っていないが、これも陳腐にこじつけて考えると、女性側の巨根獲得願望にも、自分の膣穴へけたはずれに大きな男根を迎え入れて、「穴を拡大する」という、身体拡張願望が見て取れるはずだ。男根に象徴される「世界」を膣に挿入されることは、女性にとっての敗北などでは決してない。セックスの快感については、女は男の十倍気持ちがいいというが、男性に支配されることで男性を支配しようという、これまた受動的な支配欲や征服欲が女性側にもあるはずだ……などと、話がどんどん抽象的で観念的になるが、別に電波系でなくともキチガイというのは、そもそも観念的なものだからだ。がまんして読み続けてもらいたい。

身体の拡張願望についてもう少し考えよう。支配欲とのつながりは、古代の権力者たちの領地拡大のための戦争が良い例としてあげられる。戦争とは、ある意味で国家という身体を拡大するための行為なのだ。俺は、アレキサンダー大王の怒濤の進撃や、秦の始皇帝による万里の長城の造営に、人間の身体拡張の可能性と限界を同時に感じる。王にとっては「領土＝自分の身体の延長」であり、王は王である限り、領地を拡大しようと闘い続けるものだ。しかし、苦労して獲得した領地も永遠ではない。強い王が現れて領土を拡張しようとも、王の死後に国が衰え、また別の国が覇権をにぎるというのが歴史のつねである。領土はそのたびに変化するものだ。だから、王が、その身体を歴史の中にとどめようと、臣民に巨大な陵墓を作らせるのも

身体拡張願望の一つとして理解できる。王は死して墓の中に収まり、陵墓と一体化して、時間の中でその身体を伸ばすのだ。

見えない身体の拡張

話はさらに観念的で妄想的になるが、オカルティズムや私のようなキチガイの世界では、思考が物質として存在するのは極めてあたりまえの非科学的な常識である。思想は思考された瞬間、形はないがたしかに微弱な物質として存在する。したがって、哲学者や思想家が強烈な思索活動で生み出す思想や著書もまた、拡張された身体の一部として機能するのだ。たとえば生命体としての活動を一九四八年に停止したアントナン・アルトーにしても、肉体は滅び去っても、彼の思想としての身体は時間の中で拡張を続け、現在も刊行中の著書を通して多くの読者の頭の中で再生／増殖を続けているではないか。その際著書がテクストとして機能し、新たに意味や物語が生成するのは当然のことである。思考物質は歴史の中で、幾多の人々の頭の中をすりぬけ形を変え、新たな意味をまとい、時代とともに膨脹／収縮をくり返し、踊るように存在するのだ。この地上で最もその身体を拡張することに成功した思考物質は、言わずと知れた「キリスト教」である。それが正しいかどうかは、また別の話だが、聖書から放たれる強烈な思い込みと使命感は尋常なものではない。

同様に「言語」自体も、自ら拡大しようという意志を持った、我々とは形態の異なる生命体であることは「言語ウィルス論」を提唱した小説家にして元ヤク中のキチガイ、ウィリアム・バロウズの妄想からも明らかである。彼ら言語ウィルスは、われわれ人類に取り付き、多くの個体に使用されることでその命脈を保つものだ。言語にはラテン語のように日常で使用する人間が少なくなって瀕死の状態のものもあるが、大半はしぶとく強力な存在である。ついでに書くと、バロウズがしばしば指摘する「言語の不完全性」というのは、多くの言語に共通の、極めて悪意に満ちた特徴であり、これらはしばしば他言語や多民族間にコミュニケーション不全をひきおこす要因となり、争いごとの元凶になるのである。言語ウィルスはおのれの身体拡張と領土拡大をはかり、人々に戦争をけしかけるのだ。われわれの日常生活の中でも、伝えたいことが何一つ伝わらず、そのくせつまらない悪意ばかりが相手に伝わってしまい、人間関係がこじれてしまうということが良くあるだろう。それは決して、あなたのボキャブラリーが不足しているとか、言葉の使い方を間違えたとかいう理由だけではない。言語そのものが持つ闘争本能に起因しているのである。

言語には、その中に人と人の対立構造を発生させ、憎悪を増幅して関係を悪化させる欠陥と悪意がある。俺は、これに対抗する手段の一つとして、議論が言葉のあげ足取りになりかけたなら、有無を言わさず相手をイキナリ強く抱きしめ、舌まで差し入れるディープキスを行うことを無責任に薦める。もちろん、相手が同性であろうとだ。人は「言葉を失う」ほど強いショックを受けた時、ほんの一瞬ではあるが文字通り言葉

から解放されるのである。その一瞬を逃してはいけない。バロウズのカットアップ・メソッドもまた、言葉をずらすことによって言語の構造に混乱と空白を作り出し、言語の支配から逃れようとする手法なのだ。言語ウィルスに対抗して新たな言語、完璧な構造を持った言語を作り出すなどという試みは、俺には壮大すぎて、とてもついていけない。

拡張する妄想

こうして常軌を逸したわけのわからない原稿を書くという行為も、自分の思考を物質化して身体拡張をはかるという快感を伴うものだ。この俺の原稿は『電波系』という本の一部となって、その多くは、俺が生涯決して足を踏み入れることもない街へ運ばれ、生涯決して会うこともない人々の元へ届くことになる。自分の原稿が掲載された本や雑誌の発売日になると、俺は自分の身体の分身が全国へ拡散してゆくさまを想像して、ほんの少し身体を拡張した快感に浸れるのだ。作家やライターは文章を書くことで、その身体を拡張しようとする。編集者も本を編集することで自らの身体拡張をはかる。そう考えてみれば、どんな職業にもそういう疑似身体拡張の快感はあるだろう。

たとえば、たったいま俺の脳で受信したうどん職人の例をあげよう。そのうどん職人は、自分が打った手打ちうどんを多くの人々が食べて満足することに快感を覚えている。彼が丹精こめて打っためんは彼の身体

の延長だ。彼は、彼の分身ともいうべきめんが、美人OLの咽喉を通り、その可憐な胃の中に入りこみ、長く宿便のこびりついた腸をくぐり、大便となって固くすぼまったアヌスから彼女の家の便所に排泄されるプロセスを感じると、思わずいっちまいそうな快感が、股間から脳天までつき抜けるのだ。この場合、彼の身体は美人OLの身体を通して、彼女の家の便所まで伸びたことになる。彼は自分の手の一部が、美人OLの内臓をなでるようにくぐり抜けていった幻想に酔いしれるのだ。こうして彼は今日もうどんを打つことで身体を拡張する妄想を楽しんでいる。**勝手にひとの内臓や肛門を妄想するな**という意見もあるだろう。しかし、この手の妄想に限らず、他人の妄想に歯止めをかける有効かつ手軽な手段など存在しないのだ。

たとえば、これを読んでいるあなたが女性なら、あなたの身体が、これまでの人生の中で一体何人の男性にズリネタとして楽しまれたかを考えてみるがいい。他人の妄想の中で、あなたは一体何回犯され、何回アクメを迎えたことだろう。あなたの恋人以外にも、あなたに恋をし、秘かにあなたの身体をくまなく妄想し、何度となく妄想の中で愛撫をくわえたたわけ者は確実に存在するだろう。そんな奴に、妄想の中で何回イカ臭いチンポをしゃぶらされているかなんて、実際のところ、わかったものではないのだ。そう考えると感慨深いものがあるだろう。

参考までに、人の数十倍は性欲の強いこの俺の場合、中学や高校時代、自分の学校の女生徒に関しては、学年、クラスを問わず、夜となく昼となく、美人はもちろん顔を見て気分が悪くなるような致死性ブスも、

妄想の中で整形手術をしてやったり、頭から袋をかぶせたりして工夫しながら、全員きっちりちつの穴からけつの穴まで犯したものだ（とがしやすたかの『青春くん』を地で行くオナニー小僧だ。読者のみんなは真似しないように：編集部注）。このような妄想強姦も、身体拡張欲望の歪んだ例である。

まあ、俺のようなキチガイやパラノイアの妄想の基本ってのは、だいたいこんなものだ。これが暴走するととてつもなく醜悪なものになるのだ。

国粋妄想

次に、最も醜悪で鬼畜な心がわくわく踊る、身体拡張妄想の例について語ろう。

オカルティストにしても、古代の王にしても、自分が一番で、この世界を支配しようという大きな支配欲や征服欲を持つ連中は、大きな野望があって立派なものである。しかし、この世は何もそういう一番偉くなりたい連中ばかりで構成されているわけではない。一人の王がいたら、その何千何万倍の家来や兵隊が必要になってくるのだ。王を目指さない、適当に小市民な根性を持った連中がどういう身体拡張の願望を持つかというと、そういう連中はいくぶん矮小なエゴを持っていて、国家だの会社だのという大きなもののためにその身を捧げ、献身的に協力することで自己実現をはかるのだ。こういう兵隊アリのような連中は、自分が覇王として君臨できなくても、自分達の王が栄華を極めればそれで満足するという、極めてコンビニエント

て幸せな精神を持った連中である。こいつらは国家のために命を捨てることで国家と一体化し、その小さな身体を拡張しようとするのだ。何て安上がりで便利な連中だろう。考えてみれば人間というのは、そうした強力な王を中心に一枚岩のようにまとまると、山をも崩す強力な力を発揮する。

　俺はこの前、風邪で寝込んだ時に、TVの政治関係のニュースを見ながら、ますますつのる政府への不信感から**「ひょっとしてこの国は民主主義が合わないんじゃないか」**と思ったものだ。先の大戦による敗北以来、妙にこの国の連中は対外的に優等生を目指しすぎているような気がする。

　そう考えた一瞬、俺の心の隙をついて、膨大な量の国粋電波が押し寄せてしまった。国粋電波というのは国粋主義系の怨霊電波の総称である。

　俺の頭の中には、毎年夏になると**「う〜、う〜、憎い、憎い、アメリカが憎い……仇をとってくれェ〜！　日本を守ってくれェ〜！」**というたぐいの、英霊のじーちゃんたちの怨念のこもった無数の声が、ゴウゴウと南の島から俺の頭へ強力な電波となって押し寄せてくるのだ。これがすんげえ強烈でホトホト参る。

「あいつらを皆殺しにしてくれ！　俺はこんなにみじめに殺された、このままでは成仏できない」って……あのなあ、じーさん、もう戦争はとっくに終わったんだよ、俺に言われても困るんだって説

明しても聞いちゃくれない。また遺族の想念なのか、**「あの戦争は正しかった。ヒデオはお国のために命を捧げた……」**というのを延々とくり返し語る声などもやってくる。鬼畜な俺だが、さすがに国を守るために一命を捧げた人たちは無視できないので、こういう電波に対しては頭の中でお題目を唱えてたりする。おかげですいぶんと国粋主義思想に洗脳されたような気がするが、俺も、もともと国家などの大きなものにクラッときてしまう、矮小な自我の持ち主なので、それほど悪い気はしない。だから、虐殺された共産主義者の電波なんかには全く共感しない。俺は鬼畜だから正義なんかどうだっていいのだ。

しかし、たしかにこの国の若い連中は、じーさんたちがずいぶん殺されたり、原爆や水爆を落とされたというのに、不思議とアメリカに強い恨みや憎しみを持ってる奴が見当たらない。あまつさえ、街を歩いていてジーンズショップの広告を見ると**「僕らはみんな、すでに少しずつアメリカ人だ」**とかいう恥知らずなキャッチコピーが目に入る始末だ。何という破廉恥な言葉だろう！　さすがの俺も一瞬全身の血が逆流した。これでは英霊でなくとも浮かばれない。よくも**「戦争が悪かった」**とかいうわけのわからんところで妥協できるもんだ。

そういうわけで、国粋主義系の電波は夏に多いのだが、昨年は敗戦から五十年ということもあってか、沖縄の米兵による少女暴行事件なども影響してるのか、風邪で熱を出して寝込んでいた俺の頭の中に、突然多

数の国粋電波が集合し、今後の戦略についての作戦会議や、来たるべき日本による世界征服達成後の占領地の植民地化政策についての御前会議だか頂上会議だかが勝手にはじまってしまった。俺は熱で弱っているので、振り払うこともできずになんとなく聞いていたが、頭の中の電波会議では信じられないような非人道的な植民地政策が次々と決定していった。

怨念と妄想力の暴走を理解していただくためにも、ここにその恐怖の植民地政策の概要を記述しよう。

……今後何世紀かを経て、日本が再び大日本帝国として世界を征服したあかつきには、まず憎っくきアメリカ軍は、陸海空の全ての軍人を新兵に至るまで激しい拷問のうえ斬首死刑。民間人も役に立たない老人は電気イス送り。若い女や男を全員奴隷化するのは当然で、国民の数からいっても、日本兵一人につき二人はアメリカ女が奴隷としてあてがわれる勘定だ。ここまではまだ理解できる。さらに今度の電波会議で凄かったのは、二度と再びアメリカが日本に逆らえないように、妊婦に様々な毒物を投与して、何世代かをかけてアメリカ人を全員奇形児にしてしまおうという遠大な計画が発表されたことだ。中でも支持されたのは、アメリカ人を、肩の付け根から腕の全くない人種に作り変える計画である。日本人に向けて決して銃を向けられず、糞をした自分の尻も自分で拭けないような情けない民族に作り変えて辱めてしまおうというのだ。う～ん、凄い怨念だ。さすがの俺でもそこまでは妄想できない。加えて人類史の大ががりな改竄を行う計画も

あり、白人は白ブタが放射能を浴びて突然変異で発生した、「豚から退化した種族」という汚名を徹底させるつもりらしい。当然過去において日本が敗戦した歴史も書き換えられる。宣戦布告前に、卑怯にも先に東京を空襲したのはアメリカ側で、地球の裏を回って中国大陸で略奪、蛮行の限りをつくし、多くの罪もない人民を苦しめたのはみ〜んなアメリカ人、「世界史の中で悪事を働いていたのは常にアメリカ人だった」という歴史を未来永劫残すのだ……

いやあ、全く凄まじい憎悪と怨念である。この残虐な思考も微弱ながら思考物質となって未来へ伸びていくのだろうか。こんな醜悪な形の、国家の身体拡張計画も、想像力の暴走のほんの一例である。以前どこかの本で**「最も残酷な事は常に人々の心の中で行われている」**と、ある山師のおっさんが書いていたが、全くその通りである。人々の広大な想像力の海の中には、いまだかつて誰も目にしたことのない残虐な欲望や妄想もドロドロと渦巻いているし、人々を幸福に導く大いなる叡智もゆらゆらと漂ったりしているのだろう。俺はこの先、残りの人生でどれだけ、鬼畜な思想や妄想にアクセスできるのだろうか。

電波系の身体拡張術

たまに自分の発狂指数が上がったり、ある種の電波が来ると、俺は自分と他人の区別があやふやになる。

しげしげと自分の身体を眺め、どこまでが自分で、どこからが自分でなくなるのか真剣に悩みはじめるのだ。そうすると自分のまわりの空間が妙にねっとりと柔らかく粘着性を帯びてくるので水の中にいる感覚に近くなる。

　これとは別に、今まで七年間暮らしてきたロフト付きのワンルームアパートなどは、身体がすっかり部屋になじみ、どこに何があるかわかっているので、入室すると身体が部屋全体まで膨脹するという感覚がある。これがアフォーダンスというやつなんだろうか。

　人の身体感覚やイメージはどこまで延長できるのだろう。俺は十五年前に東京に住みはじめて以来、この都市に自分の身体をなじませようと、日夜努力を続けてきた。俺はいつも仕事や遊びで行った先々の場所に自分の身体の一部をばらまいてくる。それは路上に吐かれた唾やタンであり、壁やテーブルの裏にこっそりなすりつけた鼻クソであり、切り取って戸のすきまに投げ入れた爪であり、時には血や精液、小便や大便であったりする。一番熱心にばらまき続けているのは、長く伸ばした髪の毛だ。俺の身体から抜けた髪の毛の一本一本は、俺に情報を運んでくれる妄想神経細胞の端末である。通勤電車で出会う気になる女の子の紙袋の中へ、中年オヤジのコートの肩へ、新宿や池袋の雑踏の中へ、喫茶店の観用植物の鉢の中へ、本屋の棚のすきまへ、十五年間数えきれない数の髪の毛を引き抜いてはこの都市にばらまき続けた。多くの髪の毛は掃除され、ゴミとして焼却されたろう。それでもいいのだ、俺の身体の一部分が焼却され灰となってこの都市

の大気へ拡がっていく。今夜も目を閉じて、身体じゅうの毛穴から無数の妄想神経を伸ばし、都内全域や関東全土に拡がった俺の髪の毛に役に立たない無数の情報が俺の頭へ電波として届き、声や映像へと変換されるのだ。東は九十九里から西は伊豆半島まで、薄く伸びて網の目のようにこの都市に根を張った俺の妄想身体は、夜風が吹くと髪の毛がゆれて、木の葉が舞うように踊り続けるのだ。たかだかキチガイの妄想としちゃあ詩的すぎるか？　悪いが俺は真剣だ（本物のキチガイだからね）。妄想身体は想像力と妄想力の続く限り、無限に拡張することが可能なのだ。

海からの風が都市に張られた妄想神経を吹き散らかして、
雲間に輝く虚ろな夜空、鬼畜微笑。

あらかじめ壊れた人間たちにとっての電波とドラッグ

くらべるのも非常に恐れ多い話だが、詩人のアントナン・アルトーと俺の唯一の共通点は、「どちらも壊れたままこの世界に生まれてきた」ことである。以前、俺は「ユリイカ」のアルトー特集（一四年八月号）を読み、彼が幼少期に患った骨髄膜炎の後遺症で生涯頭痛に苦しんでいたことを知り、ずいぶんと親近感を覚えたものだ。もっとも、痛みを和らげる麻薬の常用なしには、激しい頭痛で正常な思考さえ困難だったというアルトーの苦しみに比べれば、俺の電波受信などは砂糖菓子みたいに甘いものだろう。

アルトーは並の麻薬常用者たちとは違って、快楽を求めたり、幻想や幻覚が見たくて麻薬を常用していたのではなかった。無限にうち続く肉体の苦痛から解放されたくて、ただ精神の平穏で平和な状態を欲して麻薬をやっていた。自堕落な快楽を貪っていたのではない。せめて人並みに、正常に思考できる状態が欲しかっただけなのだ。

俺は、麻薬撲滅キャンペーンの「覚醒剤やめますか、それとも人間やめますか」のポスターを見るたびに、いつもアルトーを思い出しては「むしろ、人間になるために麻薬を常用した奴もいたのにな」と小さく

憤慨していた。

アルトーは、しばしば麻薬取締り問題について「麻薬は社会にとって害があると言うが、そもそも麻薬常用患者は社会のことなど考えてはいないのだ」などという類の発言をくり返し、世間に悪態をつきまくっていた。しかし、本当のところ、それは逆だったろう。アルトーが求めた心の平安は、彼がこれ以上、この世界を憎まないための手段でもあったはずだ。

人間なんて情けないもので、他者に対して思いやりの心を持ったり行動したりできるのは、大抵の場合、心身共に余裕がある時に限られる。たとえば、**あんたらは重い荷物を両手に持って運んでいる時や、風邪をひいて四〇度近い熱で苦しんでいる時に他人の手助けをしようなどと思考できるだろうか?**

誰かがその昔、発言してひんしゅくを買った**「障害者や病人の考えることは不健康だから嫌いだ」**という鬼畜格言は、正常な人間が聞けば粉砕モンの台詞かもしれないが、自分の症状を考えれば「たしかにおめーの言う通りだよ」と納得できる部分もあった。俺にしても、まだ電波に対してあまり抵抗力を持っていなかった小学生の頃などは、強い電波で頭が割れるように痛み、一人で山奥や砂浜へ行ってのたうち回りながら苦しんで、全世界を呪った。平和そうに暮らしている奴ら、楽しそうな奴らがとにかく憎くてたまらなかった。「何でこの俺だけがこんなに苦しい思いを!」などと、水源地に農薬ブチ込んで家に火ィ付けて、

村ぐるみ潰したろかと幾度考えたことだろう。その憎悪を思いとどまらせたのは、ひとえに「この苦しみは、とてもこのビンボー村一つなどとの引き替えでは割が合わない。大きくなるまで生きて生きて生き抜いて、都会へ出ていつか日本全土へ憎悪と苦痛と恐怖をばらまいて奴らに地獄を見せてやる！」という、さらに大いなる憎悪と野望のおかげである。

　こんなふうに長期的な肉体的苦痛（天然の拷問）は人間の心身を荒廃させる。ならば、もうこれ以上、世界を憎悪したくないからこそ、麻薬を使ってでも精神の平穏を得るという方法は認められても良いように思える。たしかに、世界を憎悪し悪魔のような犯罪者になるぐらいなら、無気力なアヘン漬けの廃人になった方が社会のためというものだ。これを甘えと受け取ろうが、情ない奴だと思おうが、それは読者諸君の勝手だ。世の中には苦しみを精神力で克服できる意志の強い人間も大勢いることだろう。しかし以前、**善良なことで有名な、日本最大規模の宗教団体**の信者になった元知人が、俺を折伏中に言った**「障害者や不治の病人？　ああ、あの人たちのことなら同情なんかしなくていいのよ。あの人たちは前世で悪業を積んだから、あんな風に生まれて当然なの。**だからそういう施設に一時しのぎの寄付をするよりも、**うちの団体に寄進したほうが、**正しい教えが広まる役に立つから、結果的にみんな救われるし、**ご利益があるわよ」**という慈悲深い収金理論に対しては、俺は今後も誠実に暴力で応えようと思う。宗教はアヘンだとほざいた奴がいたが、この場合、宗教は明らかにアヘン以下である。俺は正義も倫理も知っ

たこっちゃないが、こんなことを目の前で言われて黙っているほどお人良しでもない。

話がややずれたが、要は、快楽や幻想を得るための麻薬以外に、人によっては憎悪や呪詛をうち消すための麻薬というのもあるということだ。それが良いのか悪いのかはわからないが、あらかじめ壊れた人間にはどっちに転んでも大した救いがないことだけは、たしかである。

かくいう俺も、幻覚剤をもって幻聴や幻覚を相殺することができるんじゃないかと、今から十五年以上前の話だが、そんな思いに取り付かれていろいろ試みたことがあった。残念ながら電波は少々のドラッグぐらいではどうにもならなかった。効いたといえば、**聞こえてくる電波の声が少し大きくなった**程度だ。それ以後俺は、自分自身の闘い――対電波について、ドラッグには何の期待もしていない。やりすごしたり、死んだふりをしたり、本当に危ないと思った時は自分で手足を縛ったりすることさえある。ドラッグだろうが宗教だろうが、それで魂が救われる奴は幸せだ。押し寄せる破壊衝動や暴力衝動、殺人衝動をやりすごしながら今日も俺はいいかげんに生きている。

こういう状態なので、俺はあえてドラッグを使って幻覚を見たいなどと思ったことはないし、同様にジャンキーたちについても特別思うことはない。対岸で釣りをしている赤の他人を眺めているような気分であ

る。実際、そんなものは散歩の途中で出会う、数多くの風景の一つに過ぎないのだ。

　そして、何も麻薬でなくとも「人の心を蝕む麻薬」という点で考えてみれば、酒やタバコ以外にも罪深いものはいくらでもある。すなわち、競馬をはじめとする公営ギャンブル、パチンコ、パチスロ、洪水の様に出版されるマンガ雑誌、新聞、たれ流しのＴＶ番組（特にワイドショー）、ファミコンやパソコンのゲーム、カラオケ、サラ金、クレジットカード、ＡＶビデオ、ソープやヘルス、イメクラなどの各種風俗店、各種宗教……人を夢中にさせ、なおかつ常習性が高くて、それにかかわった多くの人々の人生を崩壊へ導くものなどいくらでもある。現代の我々は、**何も麻薬や幻覚剤に頼らずとも、ほんのチョットの努力でいくらでもどこまでも自堕落に堕ちて人間のクズになることができる**のである。とても国家が麻薬を取り締まったところでどうなるものでもない。

　そして一九九五年十一月、現実世界へ——単調で退屈な日常へ逃げ込むために、俺は相変らず新聞を読み、ＴＶのワイドショーにチャンネルを合わせ、近所のコンビニのオヤジにくだらない愛想笑いをしながら、やってくる電波を無視して流行の雑誌やマンガを立ち読みする卑怯者だ。自分がどこまで壊れるかなんて知らない。現実がどこまであやしくなるかわからないのと同じように。

あとがき

村崎百郎

根本さんのこと

長い間自分を苦しめ、死ぬまで誰にも話すまいと心に誓っていた〈電波〉の話を、こうして人前で話したり書いたりできるようになったのは、全て根本さんとの出会いがきっかけである。誰にも話せなかった秘密も気負わずに語れてしまう——根本さんにはそんな不思議な魅力があるのだ。俺などが書くのもおこがましいが、そのへんをずいぶんとカン違いしている連中も増えているようなので、ここで根本さんや同盟（幻の名盤解放同盟）の活動について俺なりの意見を書いておこう。

たとえば、彼らが行なっている因果者&イイ顔の親爺フィールドワークをそのへんのジャーナリストやルポライターがやったとしても、同じ成果をあげることなど到底できないだろう。「オメエらみたいなクズどもの言葉でもオレみたいな一流の記者が取材して書けば、ちゃんとした記事になって新聞や雑誌に載るンだよ。ありがたく思えよな」という傲慢な態度と根性で取材されたら、少なくとも俺は目が合ったその瞬間に相手を殴り倒すと思う。俺のようなひがみ根性にあふれた因果者は侮蔑のまじった視線には特に敏感なのだ。

根本さんはいつだって対等の目線で向き合って淡々と話を聞いてくれる。俺のダラダラした長話を聞くにしても、根本さんは馬鹿にするわけでもなく、同情するわけでもなく、わざとらしく尊敬するわけでもなく、面白ければ笑うし、そうでなければ黙っているだけだ。一見何でもない普通のことのようだが、「対等に向き合って話を聞く」というこの姿勢こそが根本さんの特異な才能の一つであり、おそらくは彼の根深い人間理解の秘密なのである。それは言葉にするほど簡単に誰でもできることではない。

*

また、根本さんや同盟のフィールドワークについて「正気でない人たちをとりあげてその写真や言説を晒しものにするのは人権侵害だ」などという極めて良識的な意見をたまに聞く。本書についても同様の批判が予想されるから、このさいハッキリ言っておこう。

俺のようなキチガイが本気で殴り倒したくなるのは、実はこういう連中なのだ。俺を馬鹿にして見下す上品な奴らも、特権意識を持った偉そうな有名人も、態度のでかいマスコミの連中もそれなりに腹は立つが、「自分達が一番正しい」と信じて疑わない傲慢な態度で、安全圏の向こう岸から偉そうに（単に正しいだけの）正論をワメく、カン違いの「善良な」連中ほどタチの

悪いものではない。

実際、こういう「善良な」奴らに限って、殴られるのを覚悟で俺のような凶暴なキチガイと何時間もサシで向き合って対話する意志も根性もなく、ドヤ街に足を踏み入れることもなく、ましてやホームレスの親爺たちと夜を徹していっしょに酒を飲んだりテコビンをしたり、しょーもない夢やエロ話に花を咲かせることもないものだ。つまりは、オレたちと同じ土俵に降りてきもしないで、オレたちの体臭（**とんでもなくクセエ**）の届かないメディアの向こう側の清潔なエリアから、アタマの中だけで考えた建前の正義だの人権だのを偉そうに振りかざすってわけだ。**ヒマ潰しに趣味と自己満足で正義に燃えるような、そんな奴らには俺の人権なんて、ただの一秒でも考えて欲しくないね。**

腫れ物に触るように扱われて「人権が守られて良かったね」と満足する奴がいったいどれだけいると思う？　「バッカじゃねーの？」「だからオメエは駄目なんだ」なんて言いながら気軽にどつき合っていっしょに笑い合えるのがまっとうな「人間関係」ってモンだろうが。本音をぶつけあう生身のコミュニケーションを否定され、保護動物みたいにお前らのお情けで施設に収容されて、ただ生きながらえるだけの人生なんて俺はまっぴらごめんだ。人間の幸せってのはそんなに単純なもんじゃねえだろ。

逆に言えば、いくら社会制度や福祉がどうしようもなくて、この世が便所のクソ以下で自分がほとんどの人間から馬鹿にされたとしても、たった一人でも自分の話を真剣に聞いてくれる奴や、いっしょに酒を呑んで夜明けまでしょーもないバカ話やエロ話を語れるような奴が周囲にいたなら、ひとは救われるものなのだ。

だから、人権がどうのと正義を主張する連中は、根本さんや同盟の人たちが実に大勢の俺のようなキチガイやドヤ街に住むイイ顔や因果者たちと打ち解けて屈託なく語り合っているという事実をもう一度良く考えてみろ。根本さんたちにあってお前らにないものが見えてくるはずだ。単純に人権を侵害し面白がってるだけなら、これほど多くの因果者たちが根本さんたちに心を開くと思うか？

電波系の連中へ

読みゃあわかるだろうが、本書中の俺の発言のある部分は、いまも絶え間なく電波の干渉に苦しんでいるであろうお前ら電波系の連中へ向けたメッセージだ。言っておくが、俺はお前らが電波の思うツボにはまって死のうが苦しもうが、悲しくも何ともねえし、「死にたい」って言っても別に止めないからカン違いするんじゃねえぞ。ひとが何人死のうが鬼畜は悲しくも何ともないんだからな。

最後にもう一度言っておくけど思い上がるなよ。もう自分だけが電波を受けて苦しんでいる「悲劇の主人公」だなんて自己

[illegible]

その中の「電波」って物件が来ているだけのことなんだから、目に見えない「不幸」なんていくらでもあるし、人知れず苦しんでいる連中なんてゴマンといる。自分だけが苦しいと思ったら大間違いだ。

そしてこのことも、おぼえておけよ。俺もお前らもその他の連中も、この世界にとってはちっとも「特別」でも「重要」でもない存在なんだからな。お前が最重要なのはお前自身のリアルの中だけで、その関係を離れた別のリアルの中では、お前の重要度なんて道端の小石以下になることだってちっとも珍しくない。実際、俺やお前が死んだって、この世界は明日も明後日も変わりなく存在するし、太陽は東から昇ってくるように見えるんだよ（ホントは地球が回ってるだけなのにさ）。

だから、もう電波に対してそんなに真剣に悩まなくてもいいんだ。好きに生きろよ。

〈電波〉へ

ずいぶんと執筆の邪魔をしてくれやがったな。それでも本書は完成したぜ、ざまあみやがれチンカス野郎。この先も、いくら俺が「もういらねえよ」って言っても、お前は勝手にやって来るんだろうな。今後はお前らを逆に利用してやるぞ。俺はできるだけ長生きして、この世界の良いことも悪いことも、綺麗なものも醜悪なものも、可能な限り全身で感じて感じて感じて感じて感じまくって、意地でも人生を楽しんでやる。いくら誘っても自殺なんかしねえから、とっとと失せろよ、このバ〜〜〜〜カ！

追記・並びに謝辞

「電波系」と銘打ったものの、紙面の都合もあって本書ではほんの基礎的／入門的なことがらしか語れなかった。太田出版の承諾が得られ、出版をとりまく諸々の状況が許すならば、この続きは「電波系2／歴史編」並びに「電波系3／芸術編」で、さらに深く深く根本さんと語り合うことになるだろう。

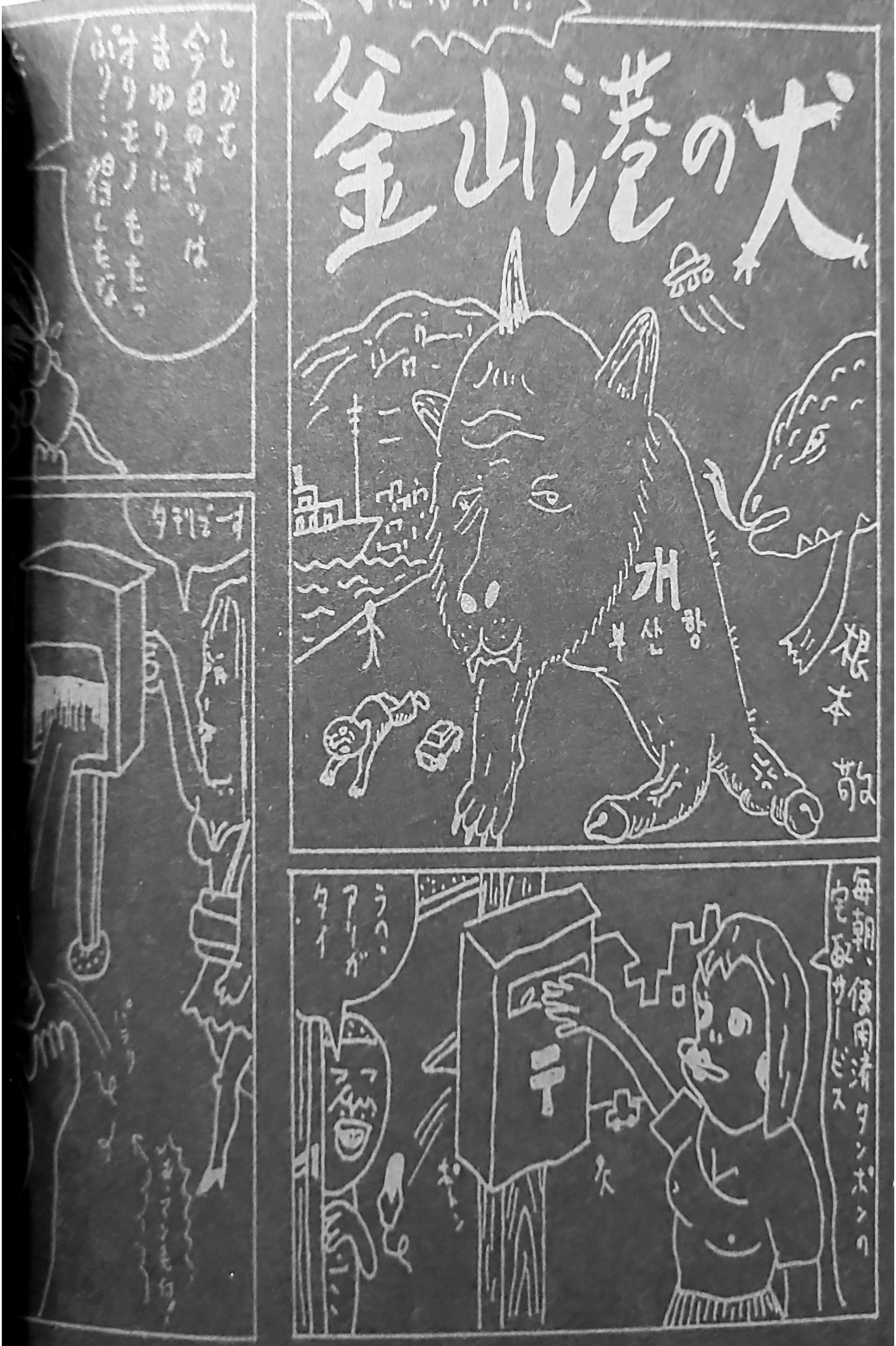
最後になるが、本書の成立はひとえに編集を担当したブランクの木村重樹氏の尽力によるところが大きい。そもそも彼は、因果者やイイ顔などのゲスカルチャーとは縁遠い、東京出身で国立大卒で（卒論では認知哲学をお勉強したという）重度のスカシ文化的障害をかかえた人種であるにもかかわらず、よくぞ我々の下品きわまりないゲス話に付き合ってくれたものだ。村崎＋根本に加え、装画の宇川直宏氏という「**揃いも揃ってスケジュールを守れない人達ばかり**」（太田出版発行人／落合さん談）の中で、ちょっと気を許すとナマケ電波のトリコじかけに明け暮れがちな我々を叱咤激励し、原稿が上がるまで辛抱してくれて、本当に感謝する。こんな狂ったテーマの書籍の刊行を快諾してくれた太田出版の落合美砂さんと併せて、このご恩はおぼえている間は絶対に忘れません！　ありがとう。



〈電波系〉

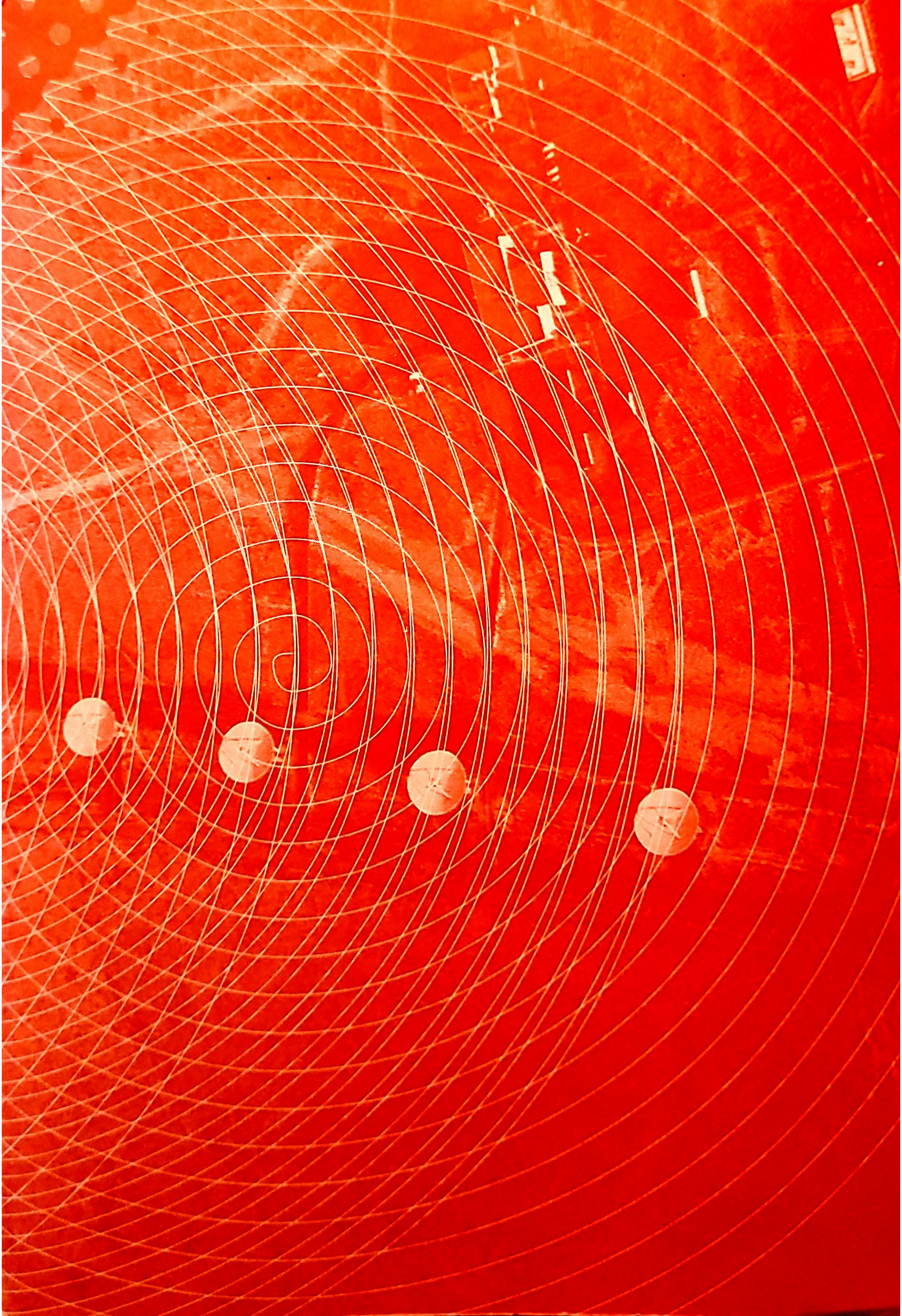
［初版発行］1996年 9 月28日
［2刷発行］1996年10月26日
［著者］根本敬・村崎百郎
［ブックデザイン］鈴木成一デザイン室
［カバービジュアル］宇川直宏
［編集］木村重樹(Plank Co.,Ltd.)
［発行者］落合美砂
［発行所］株式会社太田出版
〒160東京都新宿区荒木町22 エプコットビル1F
TEL03-3359-6262 FAX03-3359-0040
振替00120-6-162166
［印刷］中央精版印刷株式会社

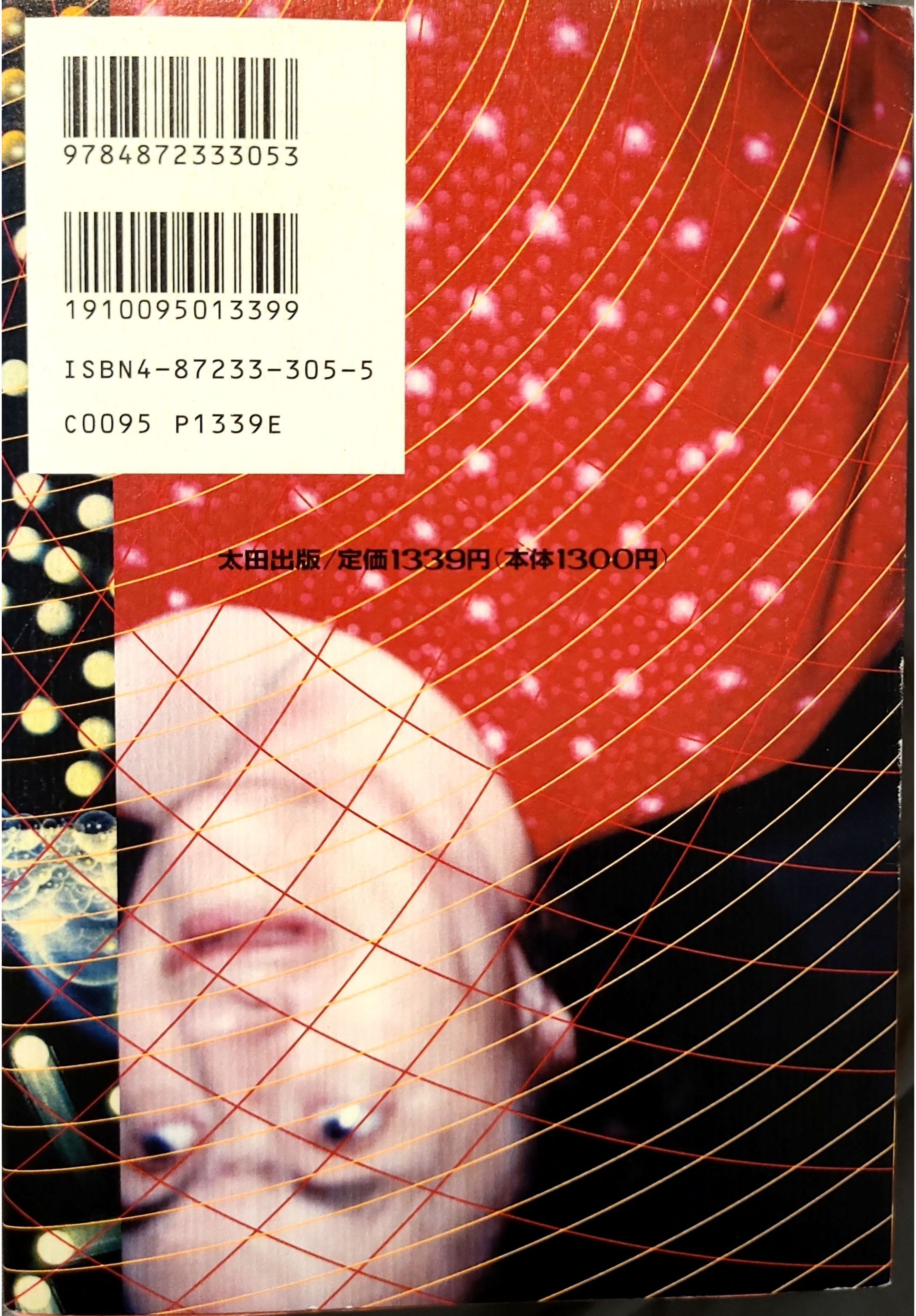
ISBN4-87233-305-5 C0095


釜山港の犬
根本敬
개
부산항
毎朝、使用済タンポンの宅配サービス
うへ、アリーがタイ
しかも今日のヤツはまゆりモノにオリモノもたっぷり…得したな



あわててトイレにかけこんだら
トイレ
便器がエロ汁をせはじめた
ヨネ子のオメクにチッポをブチ込み淫水じゅっとりスコスコ上下に
と、その時、天の啓示が…
☆
公園の便所へ行って小便をしろい！
便器のエロ汁はなおなかがゴーアンさせてくれ、ボッキしたので小便がとび散った。…起死回生ズリセンでもかくか
口元まで固くなった清のペニスをヌットリと
完





9784872333053

1910095013399

ISBN4-87233-305-5

C0095 P1339E

太田出版/定価1339円(本体1300円)